

一 條第四號、第九條第十號並左ニ掲クル事項ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ文部大臣ニ開申スヘキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一 現在生徒學年及學級別員數

二 當該學年ニ於ケル入學生徒數

三 當該年度經費豫算ノ細目

前項第一號及第二號ニ規定セル事項ハ指定ノ效力ヲ享クルモノト享ケサルモノトニ區別シテ記載スヘシ

第七條 此ノ規則ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

地方長官ニ於テ前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類及實況ヲ精査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

● 齒科醫師試驗規則

大正二年九月十九日 文部省令第二十八號

沿革 大正八年九月文部省令第三一號、一二年七月第二八號、一〇月第四三號、昭和四年三月第一四號、四月內務省令第一〇號 改正

齒科醫師試驗規則左ノ通定ム

齒科醫師試驗規則

第一條 齒科醫師試驗ハ毎年二回之ヲ行フ

試驗ヲ施行スヘキ地方及試驗期日ハ內務大臣之ヲ告ホス

第二條 試驗ヲ分テ學說試驗及實地試驗トス

學說試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

解剖學(組織學ヲ含ム)

生理學

藥物學

病理學(細菌學ヲ含ム)

口腔外科學

以上各科目ノ試驗ハ齒科醫師ニ必要ト認ムル範圍及程度ニ止ム

齒科治療學(齒科矯正學ヲ含ム)

齒科技工學

學說試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 學說試驗及實地試驗ハ分テ之ヲ受クルコトヲ得

第四條 齒科醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ修業年限三箇年以上ノ齒科醫學學校ヲ卒業シタルモノニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗ヲ受タルコトヲ得ス

一 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ復権ニ依リ醫師ノ免許ヲ受クルノ資格ヲ回復シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 瘖者、啞者及盲者

第六條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ハ試驗ヲ受タルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第七條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ毎年一月、六月中ニ試驗ヲ受クヘキ地方長官ニ提出スヘシ但シ實地試驗ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方長官ニ提出スヘシ

一 學歷書(第二號書式)

二 身分ニ關スル本籍地市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書(第三號書式)

三 第四條ノ要件ニ關スル當該學校長ノ證明書

四 寫眞(手札形(縦約四寸幅約二寸五分)トシ出願前六箇月以內ニ撮影シタルモノ)ニシテ其ノ裏面ニハ出願シタル試驗ノ種類、撮影年月日、族籍、氏名ヲ記載スヘシ

地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ二十日以内ニ之ヲ內務大臣ニ進達スヘシ

第八條 試驗出願者ニシテ第五條又ハ第六條ニ該當スルモノアルトキハ地方長官ハ之ヲ內務大臣ニ具申スヘシ

第九條 試驗ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金十五圓(學說試驗ト實地試驗トヲ分テ出願スル者ハ各金十圓)ヲ納付スヘシ

第十條 試驗ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス

第十一條 合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ合格證明書ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

第十二條 前項合格證明書ノ下付ヲ出願スル者ハ手数料トシテ金一圓ヲ納付スヘシ

第十三條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

第十四條 既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

第十五條 試驗ニ關シ不正ノ行為アリタル者ハ受験ヲ停止シ又ハ其ノ試驗ヲ無効トシ尙期間ヲ定メテ試驗ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

附則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

齒科醫師試驗ニ關シテハ本令施行ノ日ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル

第一號書式 (用紙美濃紙)

齒科醫師試驗願

收入印紙

本籍
居所
族稱

學說試驗、實地試驗

試驗ノ種類

又ハ學說
實地試驗

受験地

氏名

年月日生

私儀右齒科醫師試驗相受度履歷書、身分其ノ他ノ證明書及
寫真相添へ此段相願候也

年月日

右

氏名印

內務大臣宛

第二號様式 (用紙美濃紙)

履歷書

一何年何月何日中學校(高等女學校)ニ入學何年何月卒業

一何年何月何日齒科醫學校ニ入學何年何月卒業

一何年何月齒科醫師試驗ヲ受ケ學說試驗ニ合格

右之通相違無之候也

年月日

右

氏名印

第三號書式 (用紙美濃紙)

身分證明書

氏名

一府縣都市區町村番地華士族平民
尸主(何某何男女兄弟等)

一年月日生

一齒科醫師試驗規則第五條又ハ第六條ニ該當スルコトノ有
無(第六條ニ就テハ罪名及處罰ノ程度ヲ記載スヘシ)

一元何某年月日改氏名

右證明候也

年月日

府縣都市區町村長 氏

名印

●齒科醫師試驗及藥劑師試驗ノ件

大正二十一年十一月三十日

文部省令第四十六號

沿革 大正二十一年一月文部省令第四十五號 改正

齒科醫師試驗及藥劑師試驗ノ件左ノ通定ム

第一條 大正十四年十二月三十一日マテノ間ニ施行スル齒科

醫師試驗、藥劑師試驗ノ學說試驗及大正十七年十二月三十

日マテノ間ニ施行スル齒科醫師試驗、藥劑師試驗ノ實地

試驗ニ關シテハ特ニ本令ニ規定スルモノヲ除ク外齒科醫師

試驗規則及藥劑師試驗規則ノ規定ニ依ル

第二條 試驗ハ毎年二回之ヲ行フ但シ本文ノ外臨時ニ之ヲ行

フコトアルヘシ

受験願書提出期限、試驗ヲ施行スヘキ地方及試験期日ハ文

部大臣之ヲ告示ス

第三條 齒科醫師試驗ノ學說試驗及藥劑師試驗ノ學說試驗及

實地試驗ノ科目中左記各號ノ全科目ニ合格シタル者ニハ其

ノ合格科目ニ付キ合格證明書ヲ交付ス

齒科醫師試驗學說試驗

一解剖學(組織學ヲ含ム) 生理學 病理學(細菌學ヲ含ム)

一藥物學 口腔外科學

一齒科治療學(齒科矯正學ヲ含ム) 齒科技工學

藥劑師試驗學說試驗

一物理學 化學

一藥物植物學 生藥學 製藥化學

一衛生化學 藥局方(藥劑師ニ關スル法規ヲ含ム)

藥劑師試驗實地試驗

第一類 醫事 第二章 齒科醫師

一分析學(定性) 藥品鑑定(顯微鏡的検査ヲ含ム) 製藥化

學 調劑學

一分析學(定量) 衛生化學

前項ノ合格證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗ヲ受クルモ

ノニハ證明書ニ記載シタル科目ノ試驗ヲ省ク

第四條 合格證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ試驗ヲ出願スル

モノハ其ノ證明書ノ寫ヲ願書ニ添付スヘシ

第五條 齒科醫師試驗規則附則第三項及藥劑師試驗規則附則

第三項ニ依リ學說試驗ヲ受ケントスル者ハ其ノ願書中試驗

ノ種類ノ下ニ學說試驗受験資格登錄番號ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ大正十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●齒科醫師死亡診斷書作爲ニ關スル件

ル件

明治三十六年十月二十日

衛甲第六一號

廣島縣知事照會 明治三十六年九月二十九日

齒科醫師死亡診斷書作爲ノ件ニ付取扱上左ノ兩說コレアリ候ニ

付テハ甲說ノ通り取扱可然ト存候得共御意見如何可有之乎此

段及問合候也

甲説
 醫術開業試驗規則第七條ノ科目ニ合格シ齒科醫師ノ免狀ヲ得タル者ハ一般死者ノ死亡診斷ヲナスコトヲ得サルハ勿論ナレトモ茲ニ齒科治療中大出血等ノ爲メ死亡ニ陥リシ者アリシ場合ニ當リテハ齒科醫師雖其死亡ヲ診斷シテ診斷書ヲ作爲スルコトヲ得

乙説
 齒科治療中大出血ヲ起セシカ爲メ死亡セル者ノ如キハ間接ニ齒科治療ノ上ニ關係アルノミニシテ已ニ齒科治療ノ範圍ヲ超越シテ居ルモノタレハ齒科醫師ニ於テ死亡診斷書ヲ作爲スルコトヲ得ス

衛生局長回答 明治三十六年十月二十日
 齒醫第一六一號

客月二十九日發坤第二三二號ヲ以テ御照會相成候齒科醫師死亡診斷書作爲ノ件ハ甲説御見解ノ通御取扱相成可然ト存候此段及回答候

東京府知事照會 大正八年二月二十五日
 未發第一〇三號

齒科醫師法第五條ノ診斷書ノ意義ニ關シ別紙寫ノ通伺出有之候處右ノ伺出ノ通診斷書ニハ死亡診斷書ヲモ包含スル義ト被思料候得共爲念御意見承知致度候

(別紙)

日本齒科醫學專門學校長 大正八年二月八日
 齒科醫師カ齒科並ニ口腔疾患治療中直接若クハ間接ニ右疾患カ原因トナリテ患者ノ死亡シタル場合ニ於テハ齒科醫師法第五條ノ診斷書ハ死亡診斷書ヲモ含ムノ意義ニシテ齒科醫師ハ死亡診斷書ヲ交付シ得ルモノト心得候此段及御伺候也

衛生局長回答 大正八年三月一日
 齒東第一五九號

本月二十五日付未發第一〇三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ御意見ノ通り

●齒科醫師ノ廣告ニ關スル件

大正十三年三月二十日
 齒醫第一四〇號

(各地方長官宛)

標記ノ件ニ付別紙ノ通京都府ト照覆致候間爲參考及通牒候也

京都府知事照會 大正十三年三月一日
 齒第一一六七號

齒科醫師ニシテ其業務上左記ノ如キ廣告ヲ爲スモノ有之其第二項ハ法第七條ニ違反スルモノ其他ハ違反セサルモノト思料セラルルモ聊カ疑義相生候ニ付何分ノ御意見承知致度

右相伺候

一粗惡ナル材料藥品等ハ誓ツテ使用シマセヌ

一利益ハ充分アリマスカラ若シ治療シ又ハ義齒ヲ製ヘ具合惡シキ時ハ何時テモ具合ヨキ迄ナホシマス

一他ノ齒科醫ニカカリ製ヘシ義齒ニテ具合惡シキ方困ル方ハ是非御出テ下サイ御診察ノ上成ルヘク出來得ル限り具合ヨキ様考ヘテ見マセウ

衛生局長回答 大正十三年二月二十日
 齒醫第一四〇號

三月一日衛第一一六七號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件各項共法第七條ニ違反スルモノト存候

福岡縣知事照會 大正十三年七月十四日
 衛發第八一〇一號

齒科醫師ニシテ業務上左記ノ廣告ヲ新聞紙上ニ掲載シタルモノ有之候處右廣告中一層親切忠實ヲ以テ治療可致云々ハ齒科醫師法第七條ニ抵觸スル行爲ト思料セラルルモ聊カ疑義相生シ候條御意見承知致度右相伺候

左記
 退會廣告

今般感スル處アリ大牟田齒科醫師會ヲ脱退仕孤立ノママ從前

第一類 醫事 第二章 齒科醫師

小生儀

衛生局長回答 大正十三年九月八日
 齒醫第一〇三五號

七月二十六日衛第七六八六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件齒科醫師法第七條ニ違反スルモノト存シ候右及回答候

山口縣知事照會 大正十三年七月二十六日
 衛第七六八六號

齒科醫師ニシテ業務上左記ノ如キ廣告ヲ爲スハ法第七條ニ違反スルモノニ無之哉聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御意見承知致度

院是 完全ナル治療ト技工ノ調和的診療設備完全
 某齒科治療所

一一三

大正十四年四月十三日
衛醫第三八七號

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通北海道廳長官ニ回答候條爲御參考及通牒候也

北海道廳長官照會 大正十四年三月二日
衛醫第四二三號

齒科醫師法第七條ニハ「専門科名ヲ除ク」ト規定ナキニ付専門科名ナルト否トニ拘ラス苟モ療法ニ關スル廣告タル以上同條ニ牴觸スルモノト存セラレ候處齒科醫師ニシテ左記廣告ヲ爲ストキハ齒科醫師法第七條ニ牴觸スルモノトシテ取締ルヘキモノト思料セラレ候得共一應貴局ノ御意見承知致度及照會候也

一 齒科 レントゲン科

何々醫院

衛生局長回答 大正十四年三月三日
衛醫第三八七號

三月二日警衛第四二三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件齒科醫師法第七條ニ違反スルモノト存候此段及御回答候

大正十四年四月十四日
衛醫第五四七號

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通兵庫縣縣へ回答致候間爲御參考及通牒候

兵庫縣知事照會 大正十四年三月三十一日
發衛第一四二號

齒科醫師ニシテ左記ノ如キ廣告ヲ爲スモノ有之取締上必要ニ付法第七條違反ニアラサル哉否ヤ御意見承知致度若シ違反ニアラストセハ其ノ理由併テ御明示相成度此段及照會候也

一、豐額術科特設

追テ豐額術トハ口腔内齒牙ニ金屬ヲ以テ一定ノ裝置ヲナシ頰部ヲ豐厚ナラシムトスルモノニシテ齒牙ニ技工ヲ加ユルモノニ有之候條申添候也

衛生局長回答 大正十四年四月十三日
衛醫第五四七號

三月三十一日警衛第一四二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件法第七條ニ違反スルモノト存候右及回答候

東京府照會 大正十四年四月十三日
丑庶第一五四三號

標記ノ件ニ關スル別紙ニ通ノ伺書御送付相成候處指示上必要有之候條齒科醫師法第七條ニ違反スルヤ否ヤ御意見承知致度

候

追テ右御回報ノ際別紙ニ通ノ伺書當方ニ御返戻相成度候別紙

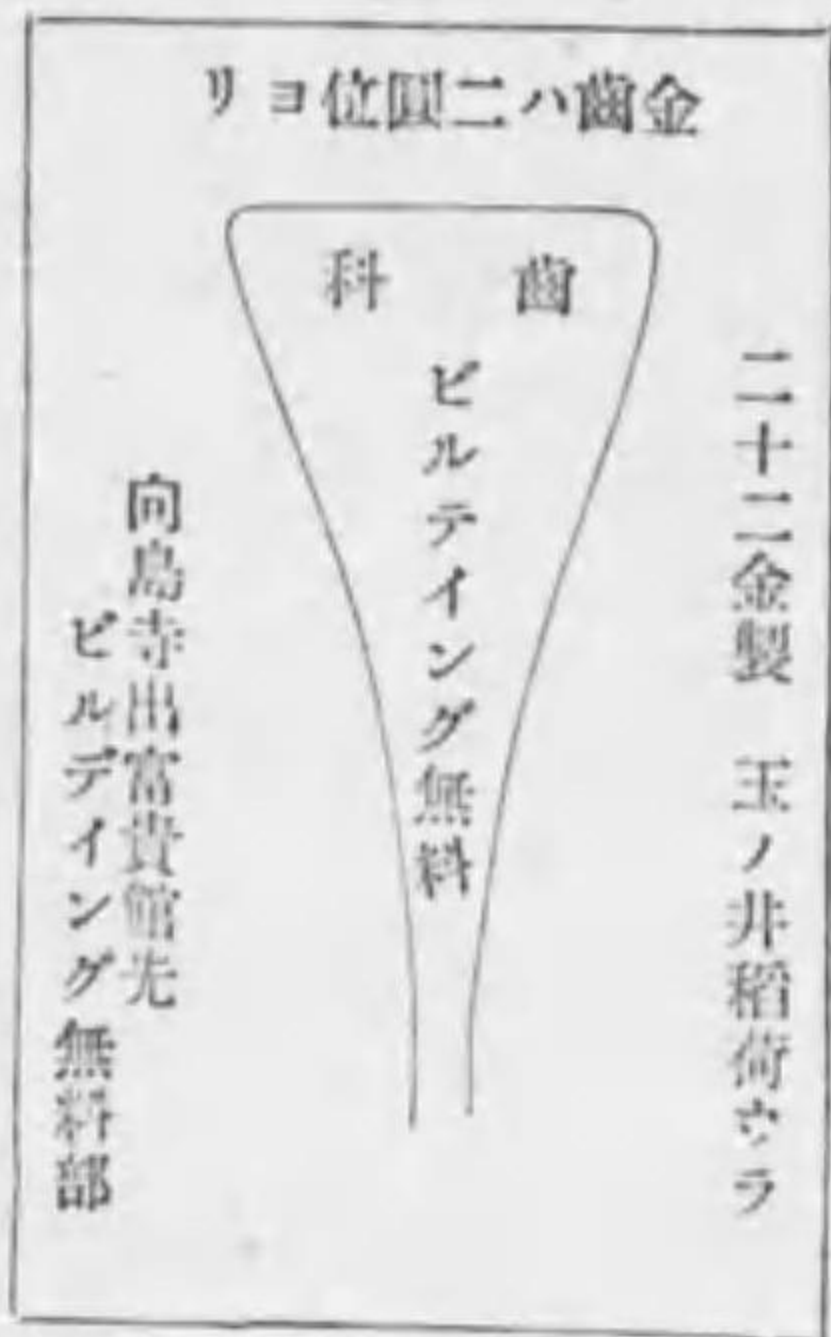
謹啓餘寒嚴敷折柄益々御盛祥奉賀候

陳ハ別記廣告ノ寫シハ齒科醫師法違反ニ該當スルモノナルヤ否ヤ御回答煩度此段懇願候

大正十四年二月二十七日

南葛飾郡齒科醫師會々長

内務省衛生局長宛



二十二金製 玉ノ井稻荷ウラ

ビルディング無料

向島寺出富貴館先
ビルディング無料部

診療所廣告記載方ニ關スル件

大正十四年三月二十九日

内務省衛生局長宛

第一類 醫事 第二章 齒科醫師

宮下東之

左記ノ件疑義有之候ニ付御手数午ラ御指示相成度願上候

左記

一、醫師(齒科)カ現在地ノ醫院ニ勤務シ傍自宅ニ於テ夜間開業ヲナスニ當リ廣告ニ其ノ勤務先及時間ヲ併記シ差支ナキヤ

例

午前中何所勤務 午後自宅診療

衛生局長回答 大正十四年四月二十五日
衛醫第五七九號

四月十四日丑庶第一五四三號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ニ通共齒科醫師法第七條ニ違反セサルモノト存候此段及御回答候

北海道廳長官照會 大正十四年四月十三日
發衛第八一三號

齒科醫學專門學校ヲ卒業シタル齒科醫師ニシテ學校名ヲ冠セス單ニ「齒科醫學士何某」ト廣告スルトキハ齒科醫師法第七條ニ牴觸スルモノニ候ヤ聊疑義相生シ候條何分ノ御指示相成度及照會候也

衛生局長回答 大正十四年五月五日
衛醫第五八八號

四月十三日警衛第八一三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件穩當ナラスト存シ候

岐阜縣知事照會 大正十四年四月二十八日
齒醫第一五九號

齒科醫師按摩術營業者(柔道整復術營業者)ニシテ左記廣告ヲナス者有之右ハ齒科醫師法第七條違反按摩術營業取締規則第五條違反ト思料セラレ候處一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

左記

一、齒科醫師

口腔外科 矯正科

何々齒科醫院

一、按摩術營業

(一)柔術教授講武館道場

(二)柔術ほねつぎ

(三)電氣理療療法科

リヨウマチ、神經痛、其他筋骨ノ痛ミ柔道整復術科
うちみ くじき 骨折 脱臼

後藤筋骨療院

衛生局長回答 大正十四年六月二十六日
齒醫第六七一號

四月二十八日衛發第一五九號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件左ノ通及回答候

一、齒科醫師カ口腔外科矯正科ノ廣告ヲ爲スハ法第七條違反

ト認メラルルモ本年法律第四十五號(齒科醫師法中改正ノ件)施行セラルルハ該法中ノ專門科名ニ該當ス
一、按摩術營業者ノ廣告中三電氣理療療法科ハ營業者ノ業務上ノ廣告ナル時ハ規則第五條ニ違反スルモノト御承知相成度其ノ他ハ差支無之ト存候

大正十四年十月二十三日
齒醫第一四〇三號

(各地方官宛
衛生局長通牒)

標記之件ニ關シ京都府知事へ別紙ノ通回答候間爲御參考及通牒候

京都府知事照會 大正十四年九月二十九日
齒醫第一四六五三號

齒科醫師ニシテ左記ノ如キ廣告ヲ爲スモノ有之候處右ハ齒科醫師法第七條經歷ニ關スル違反ト被認候モ些疑義相生シ候間一應貴局ノ御意見承知致度及照會候也

廣告 醫學博士(ベルン大學齒科)何某

衛生局長回答 大正十四年十月十四日
齒醫第一四〇三號

九月二十九日衛發第一四六五三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記之件御見込ノ通ト存候

昭和三年六月二十五日
齒醫第六四四號

(内務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

齒科醫師廣告ニ關スル件

本件ニ關シ東京府知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候條此段及通牒候

辰衛第二、七七六號

昭和三年六月十六日

内務省衛生局長宛

東京府

齒科醫師廣告ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ齒科醫師岡本時榮ヨリ別紙ノ通り伺出有之候處右ハ齒科醫師法第七條ニ牴觸セサルモノト被存候モ爲念一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

齒科醫師廣告文ニ關スル件伺

左記廣告文中本院ノ主義可啗親切患者本位ナル字句ハ齒科醫師法第七條ニ違反スルモノノ如ク解釋ヲナスモノ有之候カ果シテ同法ニ違反スルモノニ候哉何分ノ御指示相仰キ度此段奉伺候也

東京府豊多摩郡中野町中

野二千八百三十四番地

昭和三年六月九日

齒科醫師 岡本時榮

第一類 醫事 第二章 齒科醫師

東京府知事宛

左記

診察時間

自午前九時

至午後九時

日曜祭日ハ午前中

但シ急患ハ此ノ限ニアラス

市外中野町中野二、八三四番地

岡本齒科醫院

東京齒科醫學士 岡本時榮

女子齒科醫學士 岡本時榮

衛醫第六四四號

昭和三年六月二十五日

東京府知事宛

齒科醫師廣告ニ關スル件

六月十六日辰衛第二、七七六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件

右ハ齒科醫師法第七條ニ牴觸セサルモノト存候此段及回答候

昭和五年七月三日

齒醫第七〇二號

内務省衛生局長

和歌山縣知事宛

齒科醫師ノ廣告ニ關スル件

六月二十四日衛第四、九四二號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候
處右ハ齒科醫師法第七條ニ違反スルモノト存候
衛第四、九四二號

昭和五年六月二十四日

和歌山縣知事

内務省衛生局長宛

齒科醫師ノ廣告ニ關スル疑義ノ件稟伺

齒科醫師 某

右者齒科醫師ノ免許ヲ受ケ肩書地ニ於テ開業中ノモノナル
カ左記ノ如キ廣告ヲ爲スハ齒科醫師法第七條ノ所謂業務上
ノ學位稱號及専門科名以外ノ普通醫師行爲ノ廣告ナリト認
メ同條ニ違反スルモノト思考候得共聊カ疑義有之候貴局ノ
御意見承知致度此段及稟伺候也

追テ當面ノ事項ニ有之候條至急何分ノ御指示相煩度

(左記)

齒科醫師廣告文寫

齒科一般及理學治療科
口腔外科

腦神經衰弱、胃腸病、貧
血、萎黃病、皮膚病、婦人
病、神經痛、關節炎、筋
肉ノ疼痛其他一切諸症

診療時間

自午前八時
至午前九時

何々醫院

●ドクトル稱號標榜ニ關スル件

昭和五年三月十九日
四衛醫第一、四〇七號

(内務省衛生局長ヨリ
應府縣長官宛通牒)

ドクトル稱號標榜ニ關スル件

本件ニ付兵庫縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候條此段及通
牒候

(別紙)
衛發第七二〇號

昭和四年十一月二十六日

兵庫縣知事

内務省衛生局長宛

ドクトル稱號標榜ニ關スル件

神戸市下山手通二丁目四三

齒科醫師 渡邊 武文

右ハ去ル明治二十三年五月齒科醫師試驗ニ及第シ同年七月
五日齒科醫師免許證ヲ得其後西曆千九百拾年八月渡米シ市
俄古市シカゴ、カールツチヲブデタルサーゼリーニ入學シ
同千九百拾貳年六月卒業シ同時ニドクトルヲブテンタンサ
ーゼリーノ稱號ヲ得テ別紙添付書類ノ通り西曆千九百拾九

年四月歸朝シ爾來肩書地ニ在リテ開業ノ者ニ有之候處同齒
科醫師カドクトル稱號ヲ標榜スルハ何等差支ナキヤニ思料
セラルルモ事實ハ既ニ免許證ヲ得タル以後ニ於テ發生シタ
ルモノニ有之候ヘハ此場合ニ於テハ殊ニ本人ヨリ貴局ヘ對
シ一應卒業證書履歷書添付ドクトル稱號標榜ノ件ニ關シ
伺出ノ上何分ノ御指揮ヲ得テ標榜致候儀妥當ト存シ候得共
從來此等ノ場合ニ關シ何等ノ類例モ無之疑義相生シ候條至
急何分御意見承知致度此段及照會候也

四衛醫第一、四〇七號

内務省衛生局長

昭和五年三月十九日

兵庫縣知事宛

ドクトル稱號標榜ニ關スル件

客年十一月二十六日衛發第七二〇號ヲ以テ標記ノ件御照會
相成候處ドクトル・ヲブデンタルサーゼリー等外國ニ於テ
附與セラレタルモノニシテ本邦ノ學位又ハ稱號ニ相當スル
モノハ醫師法第七條ノ學位稱號ト認メ差支無之ト存候
追テ昭和三年十一月三十日衛發第五二四號御照會ニ係ル
ドクトル稱號使用ニ關スル件ハ右ニ依リ御了知相成度申
添候

●醫師ノ齒科専門標榜其ノ他許可
ニ關スル件

第一編 醫事 第二章 齒科醫師

大正五年九月九日
内務省令第十一號

醫師ノ齒科専門標榜其ノ他許可ニ關スル件左ノ通定ム

醫師ノ齒科専門標榜其ノ他ニ關スル件

第一條 醫師ニシテ齒科専門標榜ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ
修業履歷ヲ具シ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ申請
スヘシ

前項ノ申請書ニハ齒科學ノ課程ヲ設クル學校等ノ首長ノ作
成シタル專ラ齒科ヲ修業シ且相當ノ技能ヲ有スル旨ノ證明
書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 醫師ニシテ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠
續綴及架工、齒列矯正並口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行爲ヲ爲
スニ付許可ヲ受ケムトスル者亦前條ニ同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●齒科専門標榜ニ關スル疑義ノ件

大正五年十月六日
衛發第二五一號

佐賀縣知事照會 大正五年九月三十日
衛發第五二〇五號

貴ニ改正セラレタル齒科醫師法附則中「本法公布前一年以上
齒科専門ヲ標榜シ云々」ト有之ハ内外科小兒科等ニ齒科ヲ兼

専門業務ヲ爲シ來ル者ハ齒科専門ヲ標榜シタルモノト看做シ可然哉爲念御意見承リ度至急何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

衛生局長回答 大正五年十月六日 衛第第二五一號

客月三十日付衛第五二〇五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件御意見ノ通りト御承知相成度

大正五年十一月七日 分衛第一三三號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

齒科専門標榜ノ解釋ニ關シ大分縣知事ト別紙寫ノ通り照覆致候條爲參考及通牒候

大分縣知事照會 大正五年十月二十日 衛第三九二二號

齒科醫師法附則第二項ハ同法第十一條第二項ノ前段即チ醫師ニシテ齒科専門ヲ標榜シ居リタルモノノミニ適用スヘキモノニシテ假令齒科(技工)ノ事實行爲アルモ齒科専門ヲ標榜セサルモノニ對シテハ適用スヘカラサルモノト解釋可然思料候ヘ共果シテ然ルトキハ附則第二項ノ既得權保護上理論一貫セサルノ嫌アリ且ツ衆議院議事録ハ齒科専門標榜ノ有無ニ係ラス法公布前一年以上齒科醫業(技工)ヲナシ引續キ其事實行爲アルモノハ總テ附則第二項ヲ適用シ得ヘキカ如ク相見ヘ差當

リ伺出ノ向モ有之候條至急何分ノ御指示相煩シ度此段相伺候也

衛生局長回答 大正五年十一月七日 分衛第一三三號

本月二十日付衛第三九二二號ヲ以テ照會ニ係ル大正五年法律第四十四號附則第二項ノ齒科専門標榜中ニハ齒科診療ノ規定、齒科器械器具ノ設備並齒科(技工)ノ事實行爲等ニ依リ一般公衆間ニ齒科醫業者トシテ周知セラレタル者ヲモ包含スル義ト御承知相成度

長崎縣知事照會 大正五年十二月二十五日 衛第六二二二號

齒科醫師法附則第二項中齒科専門標榜ニ關シ客月七日內務省分衛第一三三號ヲ以テ御通牒相成候處從來普通醫師ニシテ醫業ノ傍ラ齒科(技工)ノ行爲アル者ニシテ器械器具ノ設備ヲ有スルモ齒科診療ノ規定ヲ設ケサルモノアリ之等兼業者ニ對シテモ附則第二項ヲ適用シ取扱差支ナキヤ又前者ニシテ別紙ノ通り附則第二項ノ有資格者トシテ證明ヲ願出ル者往々有之候ニ付テハ右申請者ニ對シテモ事實取調ノ上證明書交付可相成哉取扱上疑義有之候條至急何分ノ御意見承知致シ度此段及照會候也 (別紙略ス)

衛生局長回答 大正六年一月十五日 衛第二號

客年十二月二十五日付衛第六二二二號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處右ハ齒科診療ノ規定ヲ設ケサルモ器械器具ノ設備アリテ一年以上齒科(技工)ノ行爲ヲ爲シ一般公衆間ニ齒科醫業者トシテ周知セラレタル者ハ其事實篤ト御調査ノ上證明書交付相成可然ト存候

●醫師ニシテ官公立病院ノ齒科部ニ於テ診療治療ニ從事スル者ノ齒科専門標榜ニ關スル件

大正十二年十二月十八日 衛第五五六號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通京都府ト照覆致候間爲御參考及通牒候

京都府知事照會 大正十二年十二月四日 衛第一一九六五號

醫師ニシテ官公立病院ノ齒科部ニ勤務シ診療治療ニ從事スル者ハ大正五年九月內務省令第十一號醫師ノ齒科専門標榜其他許可ニ關スル件ニ依リ標榜ノ許可ヲ受ケシムヘキモノナルヤ至急御回答相煩シ度右照會候也

第一類 醫事 第二章 齒科醫師

衛生局長回答 大正十二年十二月十八日 衛第五五六號

十二月四日衛第一一九六五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件標榜ノ許可ヲ受ケシムヘキモノト存候

●齒科醫師ニ對スル犯罪通知ノ件

明治四十四年十二月二十日 衛第九二九八號

(衛生局長通牒)

齒科醫師ノ犯罪等通知方ノ件ニ付其筋ヘ協議ノ結果別紙ノ通訓示相成候ニ付爲御參考此段及通牒候也 (別紙)

司法大臣訓令刑事甲第二四〇號

裁判所

今般其筋ヨリ照會ノ次第モ有之候條齒科醫師ニ對スル犯罪並ニ禁止産、準禁止産ノ處分ニ付テハ爾今明治四十年四月民刑甲第二二號訓令ノ例ニ依ルヘシ (參照)

(明治四十四年十一月 司法次官ハ照會)

醫師ノ犯罪ニ對シテハ從來大臣ヨリ御協議ノ上裁判確定後本人住居地方長官ニ御通知ヲ受ケ居候處齒科醫ニ付テモ行政處分ノ參考ト致度候ニ付左ノ場合ハ醫師同様ニ御取計相成候致

度此段及照會候也

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者アルトキ
- 二 醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者アルトキ
- 三 禁治産並ニ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者又ハ其取消ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキ

第三章 產婆、看護婦

● 產婆規則

明治三十二年七月十九日
勅令第三百四十五號

沿重 明治四三年五月勅令第二一八號、大正六年七月第七二號、昭和二年三月第三九號、四年六月第一六八號 改正

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ產婆規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

產婆規則

- 第一條 產婆タラントスル者ハ二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ產婆名簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス
 - 一 產婆試験ニ合格シタル者
 - 二 内務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
 - 三 外國ノ學校若ハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ產婆免許ヲ得タル者ニシテ内務大臣ノ適當ト認メタル者

第二條 產婆試験ハ地方長官之ヲ舉行ス

第三條 一箇年以上產婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非サレハ產婆試験ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 產婆名簿ハ地方長官之ヲ管理ス
產婆名簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ產婆試験合格證書、卒業證書又ハ免許證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ
產婆名簿ノ登錄事項ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日以内ニ產婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ

第五條 產婆其ノ住所ヲ移シタル爲管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ產婆名簿ヲ登録ヲ願出ツヘシ
管轄地方廳ニ產婆名簿ヲ登録ヲ願出ツヘシ
前項ノ登録換ヲ爲ササル者ハ產婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 產婆廢業シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿ヲ登録ヲ願出ツヘシ
產婆失蹤又ハ死亡シタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ產婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第七條 產婆ハ妊娠產婦婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診察ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

第八條

產婆ハ妊娠產婦婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用キ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ醫帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第九條

產婆ハ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケサル者ニ妊娠產婦婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第九條ノ二

產婆ハ自ら檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第十條

產婆ニシテ墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ產婆ノ業務ヲ禁止シ又ハ一年以内之ヲ停止スルコトヲ得產婆名簿登錄前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條

試驗ニ關スル規程ニ違反シタル者アルトキハ其ノ試驗ヲ無効トスルコトヲ得若シ已ニ登錄ヲ受ケタルトキハ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十二條

地方長官ハ產婆ノ業務ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ依リ其ノ禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條

產婆試験ヲ受ケントスル者又ハ產婆名簿ニ登錄ヲ願出ツル者ニシテ試験又ハ登錄ノ以前墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラレヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試驗又ハ登錄ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條 產婆ニシテ三箇年間其ノ業務ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癡疾ト爲リ其ノ業務ヲ營ムニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ產婆名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第十五條 產婆名簿ノ登錄、登錄ノ取消、主要ナル登錄事項ノ訂正並產婆業務ノ禁止又ハ停止及其ノ解除ハ地方長官之ヲ告示スヘシ

第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケシテ產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 二 產婆名簿ノ登錄ヲ取消サレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 三 產婆ノ業務ヲ禁止又ハ停止セラレタル後產婆ノ業務ヲ爲シタル者
- 四 第三條ニ關シ虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者
- 五 第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條 本令ノ權太ニ於ケル適用ニ付テハ内務大臣トアルハ拓務大臣、地方長官トアルハ樺太廳長官トス

附則

第十八條 本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後六箇月以内ニ地方長官ニ願出テ産婆名簿ニ登錄ヲ受ケルコトヲ得

第十九條 地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限り當分ノ内出願者ノ履歴ニ依リ業務ノ地域及五箇年以内ノ期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス但シ産婆名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●産婆規則第一條ニ依ル指定

沿軍 大正一五年内務省告示第一五二號 改正
 大正元年八月七日
 内務省告示第一號

東京帝國大學醫科大學産婆養成科
 京都帝國大學醫學部附屬醫院看護婦産婆養成所産婆科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

大正二年四月七日
 内務省告示第十九號

九州帝國大學醫科大學産婆養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

沿軍 大正二年九月十二日
 内務省告示第五十二號

京都府立醫科大學附屬産婆教習所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此指定ハ大正三年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スルモノトス

大正三年八月一日
 内務省告示第四十六號

新潟醫學專門學校産婆養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
 前項ノ指定ハ大正三年一月以後ノ卒業生ニ對シ效力ヲ有ス

大正四年十一月一日
 内務省告示第六十九號

愛知縣立醫學專門學校附屬産婆科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此指定ハ大正五年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スルモノトス

大正四年十二月二十五日
 内務省告示第九十一號

府立大阪醫科大學附屬産婆養成所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

大正五年五月二十三日
 内務省告示第三十號

千葉縣立千葉病院産婆講習所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此指定ハ大正六年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スルモノトス

大正八年十一月十九日
 内務省告示第九十八號

東北帝國大學醫學部附屬醫院産婆養成所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

大正十年四月二十六日
 内務省告示第七十一號

縣立神戸病院産婆講習所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此規定ハ大正十二年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スルモノトス

大正十年九月二日
 内務省告示第六十三號

大阪市立産院附屬産婆養成所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

第一類 醫事 第三章 産婆、看護婦

沿軍 大正十一年五月二十九日
 内務省告示第三十三號

岡山醫科大學附屬醫院産婆看護婦養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此指定ハ大正十一年六月十三日
 内務省告示第四十二號

大正十一年六月十三日
 内務省告示第四十二號

千葉醫學專門學校附屬醫院産婆講習所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
 前項ノ指定ハ大正十一年九月十八日
 内務省告示第二百四十七號

大正十一年五月二十日
 内務省告示第二十七號

新潟醫科大學附屬醫院産婆養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此指定ハ大正十二年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スルモノトス

大正十一年十一月十日
 内務省告示第二十五號

北海道帝國大學醫學部附屬醫院産婆養成所

但此指定ハ大正十二年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スルモノトス

大正十一年十一月十日
 内務省告示第二十五號

北海道帝國大學醫學部附屬醫院産婆養成所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

大正十一年五月二十日
 内務省告示第二十七號

新潟醫科大學附屬醫院産婆養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

大正十一年五月二十九日
 内務省告示第三十三號

岡山醫科大學附屬醫院産婆看護婦養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

但此指定ハ大正十一年六月十三日
 内務省告示第四十二號

大正十一年六月十三日
 内務省告示第四十二號

千葉醫學專門學校附屬醫院産婆講習所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス

大正十一年九月十八日
 内務省告示第二百四十七號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
臺灣總督府臺北醫院助産婦講習所

大正十二年三月十一日
内務省告示第四十三號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
愛知縣醫科大學附屬産婆養成所

大正十二年八月十八日
内務省告示第二百七十三號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
市立函館病院産婆講習所

但シ此指定ハ大正十三年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スル
モノトス

大正十三年十二月十二日
内務省告示第七百七十九號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
熊本縣熊本市 熊本醫科大學醫院産婆養成所

大正十四年八月二十五日
内務省告示第四百十六號

愛媛縣松山市大字二番町
日本赤十字社愛媛支部病院附屬産婆養成所

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此指定ハ大正十五年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スル
モノトス

大正十五年七月二日
内務省告示第九十一號

青森縣青森市大字寺町
青森縣立青森病院産婆講習科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此指定ハ大正十六年以後ノ本科卒業生ニ限り效力ヲ有
スルモノトス

昭和二年一月十一日
内務省告示第三十三號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和二年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スル
モノトス
德島縣德島市堀裏町
德島市醫師會附屬産婆看護婦養成所産婆科

昭和二年八月二十五日
内務省告示第四百十八號

静岡縣静岡市傳馬町十四番地
財團法人 秋山産婆學校

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此指定ハ昭和三年以後ノ本科卒業生ニ限り效力ヲ有ス
ルモノトス

昭和四年九月三日
内務省告示第二百八十八號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
熊本縣熊本市 熊本醫科大學附屬醫院産婆養成所

昭和四年十月十八日
内務省告示第三百二十五號

京城帝國大學醫學部
附屬醫院産婆養成科

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此規定ハ昭和四年十月以後ノ本科卒業生ニ限り效力ヲ
有スルモノトス

昭和五年十二月一日
内務省告示第二百二十七號

右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和六年以後ノ卒業生ニ限り效力ヲ有スル
モノトス
福島縣福島市大字腰ノ濱字四谷地一番地
社団法人 私立福島産婆看護婦學校

●私立産婆學校産婆講習所指定規則

明治四十五年六月十八日
内務省令第九號

私立産婆學校産婆講習所指定規則左ノ通定ム

- 一 名稱、位置、設立年月日
- 二 學則
- 三 教室ノ數、其ノ坪數並生徒ノ定員
- 四 實習用ニ供スル妊婦ヲ入院セシムヘキ室數、其ノ坪數並其ノ入院定員
- 五 生徒寄宿舎ノ設備アルトキハ其ノ室數、坪數並寄宿生徒ノ定員
- 六 教授用並實習用ノ器具、器械、標本及模型ノ目錄
- 七 設立者ノ履歴並教師ノ氏名其ノ履歴、擔當科目
- 八 最近二年間ニ於ケル實習用妊婦ノ入院、往診、外來ノ別、一日平均人員
- 九 實習用ニ供スル妊婦ノ入院料ノ徴否若本人ヨリ徴收ス

ルトキハ其ノ金額

十 現在生徒ノ學期別人員

十一 卒業生ノ員數又卒業後ノ情況

十二 經費及最近二年間ノ決算

十三 維持ノ方法

十四 敷地建物ノ圖面

第二條 指定ヲ爲スヘキ學校又ハ講習所ハ左ノ各號ニ該當シ

内務大臣ニ於テ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績
佳良ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル教授用建物、器具、器械及
産婦ヲ入院セシムヘキ産室ノ設備アルコト

二 入學資格ハ高等小學校卒業若ハ高等女學校二年以上ノ
課程ヲ修業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルコト

三 修業年限ハ學說實習ヲ通シテ一箇年以上ナルコト

四 主要ナル學科ハ一箇年以上主トシテ産科診療ニ從事シ
タル醫師ヲシテ擔當セシムルコト

五 生徒一人ニ付在學中五回以上臨産實驗ヲナシシムル成
算アルコト内三回以上ハ入院産婦タルコト

六 以上ノ事項ニ適合シ一ヶ年以上經過シタルモノナルコ
ト

第三條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テハ第一條第一

號乃至第五號第七號第九號第十三號ノ事項ヲ變更シタルト
キハ遲滞ナク地方長官ニ届出ヘシ

第四條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テ別科生等ヲ入
學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トスヘシ

指定ノ效力ハ前項ノ生徒ニ及ハス

第五條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テハ學期所定ノ
授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ
進級若ハ卒業セシムルコトヲ得ス

第六條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニ於テ學期試驗若ハ
卒業試驗ヲ施行セントスルトキハ八十日前ニ地方長官ニ届出
ヘシ

第七條 地方長官ハ吏員ヲ派遣シテ試驗ニ立會ハシムルコト
アルヘシ

第八條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ハ卒業試驗合格者ノ
族籍、氏名、生年月日ヲ試驗後遲滞ナク地方長官ニ届出ヘシ

第九條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ハ毎年六月三十日ノ
調査ニ依リ翌月中ニ左ノ事項ヲ地方長官ニ届出ヘシ

一 前年度經費收支決算ノ細目

二 當該年度經費收支豫算ノ細目

三 現在生徒ノ學期別人員

四 前年中實習用ニ供シタル産婦ノ總數

同上ノ内生徒ノ臨産實驗ニ供シタル産婦ノ數(入院、
往診ノ別)

五 前年中卒業員數及卒業後ノ情況

第十條 指定ヲ受ケタル學校又ハ講習所ニシテ本令ニ違背シ
若ハ第二條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ナリト認メタ
ルトキハ内務大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ

●産婆規則並ニ私立産婆學校産婆
講習所指定規則ニ依ル指定

大正二年九月十二日
内務省告示第五十三號

京都市上京區室町通上長者町下ル清和院町

京都産婆學校

大阪市東區今橋三丁目

私立緒方産婆教育所

右産婆規則並ニ私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定
ス

但此指定ハ大正三年以後ノ本科卒業生ニ限り效力ヲ有スル
モノトス

大正二年十月二十三日
内務省告示第六十六號

岡山縣岡山市大字内山下

財團 私立岡山縣衛生會
産婆看護婦學校

右産婆規則並ニ私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定
ス但此指定ハ大正三年以後ノ本科卒業生ニ限り效力ヲ有スル
モノトス

大正三年十月十五日
内務省告示第六十二號

沿道大正五年内務省告示第七號 改正

東京市神田區駿河臺袋町十三番地濱田病院構内

私立濱田産婆學校

右産婆規則並ニ私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定
ス

但此指定ハ大正四年後期以後ノ本科卒業生ニ限り效力ヲ有
スルモノトス

大正三年十二月七日
内務省告示第七十九號

東京市麹町區麴町一丁目十九番地

私立日本産婆看護婦學校

右産婆規則並ニ私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定
ス

但此指定ハ大正五年以後ノ産婆部本科卒業生ニ限り效力ヲ
有スルモノトス

大正七年八月二十日
内務省告示第七十八號

新潟市西堀前通

私立新潟産婆學校

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但此指定ハ大正八年以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

大正十年四月十二日
内務省告示第五十八號

東京市神田區和泉町一番地

財團法人泉橋慈善病院附屬

産婆看護婦養成所産婆講習科

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十一年六月十三日
内務省告示第四十一號

大阪市南區天王寺筆ヶ崎町五、五二八番地

日本赤十字社大阪支部病院内

日本赤十字社大阪支部産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十二年五月十六日
内務省告示第五十九號

東京府豊多摩郡澁谷町

日本赤十字社産院産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校、産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十二年五月十六日
内務省告示第六十號

兵庫縣姫路市龍野町

日本赤十字社兵庫支部姫路病院産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校、産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス但シ指定ノ效力ハ大正十四年以後ノ卒業生ニ限ル

大正十二年六月二十八日
内務省告示第二十九號

和歌山市小松原通四丁目

日本赤十字社和歌山支部病院附設産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十二年六月二十九日
内務省告示第二十二號

滋賀縣大津市西町

日本赤十字社滋賀支部産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校、産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス但シ指定ノ效力ハ大正十三年三月以後ノ卒業生ニ限ル

大正十二年八月二十八日
内務省告示第二百八十號

東京市四谷區西信濃町

慶應義塾大學醫學部附屬産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十二年十一月一日
内務省告示第三百三十三號

熊本市本莊町

熊本産婆學校

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ之ノ指定ハ大正十三年以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

大正十三年七月三十一日
内務省告示第四百七十七號

神奈川縣横濱市野毛町三丁目

私立酒井助産婦學校

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此指定ハ大正十五年以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

大正十三年九月四日
内務省告示第五百三號

東京府豊多摩郡澁谷町

日本赤十字社産院産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校、産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十二年五月十六日
内務省告示第六十號

兵庫縣姫路市龍野町

日本赤十字社兵庫支部姫路病院産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校、産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス但シ指定ノ效力ハ大正十四年以後ノ卒業生ニ限ル

大正十二年六月二十八日
内務省告示第二十九號

和歌山市小松原通四丁目

日本赤十字社和歌山支部病院附設産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス

大正十二年六月二十九日
内務省告示第二十二號

滋賀縣大津市西町

日本赤十字社滋賀支部産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校、産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス但シ指定ノ效力ハ大正十三年三月以後ノ卒業生ニ限ル

香川縣高松市天神前

日本赤十字社香川支部病院産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此指定ハ大正十四年以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

大正十三年十二月十二日
内務省告示第七百八十號

兵庫縣神戸市下山手通六丁目

私立三浦産婦人科病院附屬産婆學校

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但此指定ハ大正十五年以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

大正十四年九月十日
内務省告示第五百四十四號

沿章 大正一四年内務省告示第二二三號 改正

兵庫縣姫路市本町六十七番地

小國産婦人科病院附屬産婆養成所

右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此指定ハ大正十六年以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

第一類 醫事 第三章 産婆、看護婦

大正十五年三月二十七日
内務省告示第三十九號

沿革 大正一五年内務省告示、第九九號 改正

福岡縣筑紫郡千代町字水茶屋町四十六番地
私立 福岡産婆學校
右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ大正十七年以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和三年一月二十七日
内務省告示第十四號

三重縣阿山郡上野町
私立岡波病院附設産婆養成所
右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和三年以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和三年三月八日
内務省告示第四十六號
福岡縣福岡市土居町

私立九州産婆學校
右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和四年以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和六年三月十七日
内務省告示第四十八號

私立寺田病院附設寺田助産婦教育所
右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和五年以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス
三重縣度會郡御蘭村大字高向八百十番地
日本赤十字社三重支部
山田病院産婆養成所

昭和六年三月二十三日
内務省告示第五十七號

福岡縣大牟田市寶坂町一丁目十二番地
財團法人 村尾産婆看護婦學校
右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和六年三月以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和六年三月二十六日
内務省告示第六十一號

第一類 醫事 第三章 産婆、看護婦

スルモノトス

昭和三年七月二十八日
内務省告示第九十五號
岡山縣岡山市内山下三拾番地ノ八
岡山市醫師會産婆養成所
右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和四年以後ノ本科卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和四年七月二十三日
内務省告示第二百四十三號

愛知縣名古屋市中區南久屋町一丁目十番地
名古屋市醫師會附屬 看護婦産婆學校
福島縣郡山市稻荷町三十番地
郡山産婆看護婦學校

右ハ産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和五年以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和四年十二月二十八日
内務省告示第三百八十七號
三重縣宇治山田大字一志久保町百九十四番地

富山縣富山市東田地方町

日本赤十字社富山支部病院内
大日本私立衛生會富山縣支會産婆養成所
右産婆規則並私立産婆學校産婆講習所指定規則ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和六年三月以後ノ聽講生ヲ除キタル卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

昭和六年三月二十八日
内務省告示第六十七號

金澤市金澤醫科大學附屬醫院内
金澤醫科大學附屬醫院助産婦養成所
右産婆規則第一條ニ依リ指定ス
但シ此ノ指定ハ昭和六年三月以後ノ卒業生ニ限リ效力ヲ有スルモノトス

●産婆試験規則

明治三十二年九月六日
内務省令第四十七號

沿革 昭和二年三月内務省令第一六號 改正
産婆試験規則左ノ通定ム

第一條 産婆試験願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ地方長官之

ヲ告示ス

第二條 試験科目ハ左ノ如シ

學說

- 第一 正規妊娠分娩及其ノ取扱法
- 第二 正規産褥ノ経過及褥婦生兒ノ看護法
- 第三 異常ノ妊娠分娩及其ノ取扱法
- 第四 妊婦産褥褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及産婆心得

實地

第一 實地試験若ハ模型試験

第三條 學說試験ニ合格シタル者ニ非サレハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 學說試験ニ合格シ實地試験ニ落第シタル者又ハ實地試験ヲ受ケサル者ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得

第五條 産婆試験ヲ受ケントスル者ハ産婆學校産婆養成所等ノ卒業證書若ハ修業證書又ハ産婆若ハ醫師二名ノ證明アル修業履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ヘシ但第四條ニ依リ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ學說試験合格ノ證明書ヲ添ヘ願出ヘシ

地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セス其ノ願書ヲ受理シ許可セサルトキハ之ヲ却下ス

第六條 (削除)

第七條 地方長官ハ學說試験及實地試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付シ學說試験ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付ス

第八條 地方長官ハ受験人心得其ノ他試験場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試験場ニ揭示スヘシ
當該官吏ハ受験人心得其ノ他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

●産婆試験規則第四條ノ解釋ニ關スル件

スル件

明治四十二年一月七日
四一衛甲第九〇號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

産婆試験規則ニ據ル學說、實地ノ兩試験ハ受験地方廳ヲ異ニスル能ハサル旨明治三十八年四月一日東甲第二一七號指令通牒ノ次第モ有之候處自今受験地ヲ異ニスルモ妨ケナキコトニ省議決定候條御了知相成度依命此段及通牒候也

大阪府知事照會明治四十二年四月二十八日
衛北第一四七號

産婆試験施行期日ノ異ナルヲ利用シ本年三月中ニ當府並兵庫

●産婆試験規則第五條ノ解釋ニ關スル件

スル件

大正二年七月二十二日
衛北第一〇六號

縣へ願書ヲ提出シ本月二十日兵庫縣ニ於テ學說試験ニ合格シタルニ付當府ニ於テ實地試験ノミ相受ケ度旨願出候者有之候處本年一月御省四一衛甲第九〇號御通牒ノ趣旨ハ受験期ヲ異ニシタル場合ニ關シ定メラレタルモノニシテ本件ノ如キ同時ニ二ヶ所へ願書ヲ提出シタルモノカ甲地ニ於テ學說試験ニ合格シ直チニ乙地ニ於テ實地試験ヲ受クルカ如キ場合ヲ包含セサルヤニ相解セラレ本件處理上聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相成度此段及照會候也

衛生局長回答明治四十二年五月三日
衛北第一八五號

客月二十八日衛第一四五七號ヲ以テ産婆試験ノ件御問合相成候處右ハ本年一月七日衛甲第九〇號通牒中ニ包含セルモノト御了知相成度此段及回答候也

長崎縣知事照會明治四十二年十月二十六日

産婆受験者本年十月福岡ニ於テ學說試験ニ合格シ實地試験ニ落第シタルモノ十一月本縣施行ノ試験ニ實地ノミ受ケシメ差支ナキヤ規則四條中次回以後ノ解釋ニ關シ疑義アリ至急返待ツ

衛生局長回答明治四十二年十月二十七日

御問合ノ産婆試験ノ件受験セシメ差支ナシ

●産婆受験資格ニ關スル件

七月十日附警衛第七三〇〇號ヲ以テ産婆規則第五條解釋ニ付御照會相成候處右ハ御意見ノ通ト御承知有之度

昭和五年九月二十日
衛醫第一二四號

(内務省衛生局長ヨリ
静岡縣知事宛回答)

産婆受験資格ニ關スル件

九月十五日衛第七、二七一號ノ一ヲ以テ御照會相成候標記ノ
件御意見ノ通ト存候

衛七、二七號ノ一

昭和五年九月十五日

内務省衛生局長宛

静岡縣知事

産婆受験資格ニ關スル件

縣下静岡市秋山産婆學校ヨリ別紙寫ノ伺出有之候處同校本
科ニ於テ一ケ年ヲ修業シタルモノハ産婆試験ヲ受クルコト
ヲ得ルモノト認メ候得共貴局ノ御意見御示相成度

追テ本件ハ翌月五日試験實施ノ關係上差掛リ居リ候ニ付
受験資格無之トノ御意見ニ候ハ、速ニ其ノ事由モ併テ御
指示相成度申添候

記

産婆試験規則第五條證明書ニ關シ伺

産婆試験受験出願書類ニ添付スヘキ産婆試験規則第三條ニ
依ル證明書類ニ關シテハ産婆試験規則第五條ニ依リ該當學
校、養成所、産婆、醫師ニ於テ作製スヘキコトニ規定セラ

レ居リ法規上ハ一ケ年以上修業ノ本校本科生徒ハ凡テ受
資格ヲ有スルヤニモ認メラレ候得共一方學則ニ於テハ本科
生徒ハ二ケ年ノ課程ヲ終ヘテ始メテ學實兩科ノ全部ヲ履修
スルモノニシテ其ノ半途ニ於テハ未タ完全ナル教科ヲ了セ
サル者ニ有之從テ其期間ニ於テハ缺クルモノナシト雖モ實
質上不完全ナル者ニ對シ受験ノ爲メ修業證明ヲ交付スルハ
同法ノ精神ニ照シ穩當ナラサルヤニモ感セラレ取扱上疑義
相生シ候間公務御多用中甚タ恐縮ニ候得共何分ノ御指示ヲ
賜度此段奉願候

(參照)

産婆學校規則

第四條 本科ハ之ヲ二學年ニ分チ第一學年ニ於テハ學科ヲ
主トシ實習ヲ從トシ、第二學年ニ於テハ實習ヲ主トシ學
科ヲ從トス、別科ハ之ヲ前後ノ二期ニ分チ前期ニ於テハ
主トシテ學科ヲ授ケ後期ニ於テハ學科及實習ヲ授ケ

●産婆試験許否ニ關スル件

明治四十三年十一月五日
衛東五一三號

東京府知事照會 明治四十三年十月十三日
成庶發第七〇九號

産婆試験許否ニ關シ左記事項差掛リ疑義相生シ候ニ付至急御

指示相成度此段及照會候也

記

(一)産婆試験合格者ニシテ地方廳ヲ異ニシ更ニ試験ヲ出願シ
タル場合ニハ受験許可シ差支ナキヤ

(二)右合格者ニシテ實地試験ノミヲ出願シタル場合ニハ從前
ノ試験合格證ヲ以テ産婆試験規則第五條但書ニ依ル學說
合格證明書ト看做シ差支ナキヤ

(三)産婆試験規則第五條第一項中證明書又ハ履歷書等ヲ添へ
地方長官ニ出願スヘシトアルハ管内居住ノモノニ限リタ
ルモノナリヤ

衛生局長回答 明治四十三年十一月五日
衛東第五一三號

客月十三日付成庶發第七〇九號ヲ以テ産婆試験許否ニ關スル
疑義ニ就キ御照會相成候處其試験合格者ニ就テハ受験ヲ許可
セラルヘキモノニ無之ト存シ候條第一項及第二項ノ御問合ニ
就テハ右ニテ御承知相成度又第三項ハ管内居住ノ者ニ限ラサ
ル義ニ有之候此段及回答候也

●産婆受験人病氣其他ニ依リ延期
出願ノ場合許可セサル件

明治三十四年
衛生局長回答

第一類 醫事 第三章 産婆、看護婦

宮崎縣知事照會 明治三十四年三月
衛第一六八五號

産婆受験者ニシテ試験出願中自己ノ病氣ニ依リ受験シ能ハサ
ルモノ醫師ノ診断書ヲ添付シ次回ニ於テ受験シタキ旨申出タ
ルモノハ願許可差支ナキヤ將ク一旦差出シタル願書ハ當時
限りニシテ次回引續キ效力ヲ有スヘキモノニ無之候哉差掛
居候條何分ノ御意見承知致度此段及問合候也
(衛生局長回答)

右ハ不問屆事ニ御取計相成可然義ト存候此段御回答候也

●産婆試験細則發令ニ關スル件

明治三十二年十月三十日
發第四一九號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

當省令第四十七號ヲ以テ産婆試験規則發令相成候處同則第八
條ニ依リ受験人心得及試験場ノ整理ニ關スル規程ハ御廳府縣
ニ於テ御定メ可相成ニ就テハ産婆規則第十一條ノ規定有之候
ニ付該規程中ニ不正ノ行爲アルヘカラストノ一項ハ必要ト被
存候間爲念此段申進候也

●産婆試験合格證書及學說合格證
明書署名ニ關スル件

第一類 醫事 第三章 產婆、看護婦

明治三十四年六月二十四日
衛生局回答

福井縣知事照會 明治三十四年五月三日
衛丙第九九號

產婆試驗規則第七條ニ依ル產婆試驗合格證書及產婆學說試驗合格證明書ハ府縣知事ノ名ヲ以テ交付スヘキモノニ候哉又ハ府縣產婆試驗委員長ノ名ヲ以テ交付スヘキモノニ候哉各府縣區々ニ相成居候様思料致シ候現ニ京都府ハ知事ノ名ヲ以テ大阪府ハ試驗委員長ノ名ヲ以テ交付シ居リ候而シテ他一般ノ試驗證書ニ付キ考フルトキハ試驗委員長及試驗官ノ名ヲ以テスルモノノ如ク被見受候現モ角各府縣區々ノ取扱ハ其宜シキヲ得タルモノトモ認メ兼候就テハ右様式如何規定シ可然一應御意見承度至急何分ノ御回答相成度此段及御問合候也

衛生局長回答 明治三十四年六月二十四日
無號

產婆試驗規則第七條ニ據ル產婆試驗合格證書及學說合格證明書署名ノ義ニ付衛丙第九九號ヲ以テ云々御問合ノ趣了承右ハ地方長官署名交付スヘキモノト被存候此段及御回答候也

東京府知事照會 明治三十九年十一月十四日
午一甲第六〇七九號ノ二

產婆試驗合格證書ノ署名並產婆名簿登錄ニ關スル左記ノ事項ニ就キ何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

一 產婆試驗ハ地方長官之ヲ舉行スヘキ規定ナルヲ以テ合格證書ノ署名ノ如キモ地方長官ノ名ヲ以テスルニ非サレハ不適法ノモノニ可有之哉
二 果シテ前項ノ通りトスレハ試驗委員長タル警務長ノ名ヲ以テ授與シタル合格證書ニ依リテ產婆名簿ノ登錄出願アリタル場合ハ願人ヲシテ更ニ適法ノ合格證書ヲ受ケシメ然ル後登錄スヘキモノニ候哉
衛生局長回答 明治三十九年十一月二十六日
衛東第四四一號ノ内
本月十四日午一甲第六〇七九號ノ二ヲ以テ御照會ノ產婆合格證書署名者等ニ關スル件ハ委員長名ニテ妨ケ無之候條右様御了知相成度此段及回答候也

●產婆試驗合格證明書下付願ノ件

大正十二年十月二十二日
衛醫第三號

岐阜縣照會 大正十二年九月十三日
衛第三五二〇號

岐阜縣惠那郡坂下町

右者別紙ノ通產婆試驗合格證明書再下付願出ニ付調査候處本人ハ明治二十六年十月御書ニ於テ御執行ノ試驗ニ合格シ以來家事ニ從事中ノ處今回產婆開業ニ際シ登錄ノ申請ニ關シ該產婆試

驗合格證明書ニ依リ願出タルモノニ有之候條此段書類及進達候也(別紙願書略)

衛生局長回答 大正十二年十月二十二日
衛醫第三號

九月十三日衛第三五二〇號ヲ以テ長瀬かね提出標記ノ件御進達相成候處當時ノ書類ハ關係府縣ヘ引續キ當省ニハ殘存セス又當時ノ產婆合格證明書有スルモ產婆規則第十八條ニ依リ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ非サレハ產婆タル資格ハ無之モノト存候間右ノ旨本人ニ御指示相成度候

●產婆名簿登錄規則

明治三十二年九月六日
內務省令第四十八號

沿革 明治四三年五月內務省令第一六號、昭和二年三月第一七號 改正

產婆名簿登錄規則左ノ通定ム

產婆名簿登錄規則

- 第一條 產婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ
一 登錄番號、登錄年月日
二 族籍(外國人ナレト)、氏名、年齢、住所
三 產婆規則第一條ノ規定資格及資格ヲ取得シタル年月日
並同條第一號ノ資格ニ付テハ試驗ヲ受ケタル地方廳名

第一類 醫事 第三章 產婆、看護婦

- 四 開業地(住所以外ノ地ニ於テ開業スルモノ又ハ出張所ヲ設ケタルモノハ之ヲ記載ス)
- 五 業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪(其ノ事由)
- 六 產婆業ノ禁止、停止、解除(其ノ年月)
- 七 名簿取消ノ年月日、事由

第二條 產婆名簿ハ別記様式ニ依リ調製スヘシ

第三條 產婆ノ業ヲ營マントスル者ハ本令第一條第二號第三號第四號ノ事項ヲ明記シテ其ノ住所地方管轄スル地方廳ニ願出テ產婆名簿ニ登錄ヲ受ケヘシ

第四條 產婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ產婆名簿ノ取消ノ登錄ヲ爲シ其ノ登錄事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第五條 產婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登錄ヲ爲ストキハ其ノ部分ニ朱線ヲ畫シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スヘシ

第六條 產婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ハ名簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

(別記)
産婆名簿様式 用紙美濃紙

種	登録番号	第	別	記	何 議 「何」年「何」月生	
	登録年月日	明治「何」年「何」月「何」日				
住	所	籍	族	「何」 道 府 縣 士 族 平民		
開	産婆名簿					

業	地	資格、資格取得年月日、 受験地方廳名	分處政行及罪犯	年 月 日 名簿 取 消 ノ

●産婆名簿登録ニ關スル件

明治四十年五月十六日
衛地甲第二八號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

明治三十二年勅令第三百四十五號産婆規則第四條所定産婆名簿ニ登録願出ノ際添付スル産婆試験合格證書ハ申請者ヲシテ所轄市長又ハ町村長ニ本證書並其寫書ヲ提出セシメ市町村長ニ於テ該書對照ノ上相違ナキコトヲ認メタルトキハ其寫書ニ

第一類 醫事 第三章 産婆、看護婦

本書點檢濟ノ旨ヲ記載シ且捺印ノ上進達セシメ可然ト存候條
依命此段及通牒候也

●産婆名簿登録後所在不明ト爲リ
タル者登録取扱ニ關スル件

大正四年八月四日
衛佐第一〇三號

佐賀縣知事照會大正四年七月十四日
衛第二二一四號
産婆名簿登録ヲ受ケタルモノニシテ所在不明トナリ異動手續

ノ願書難微者有之產婆規則第六條及同十四條ニ該當セサル様被認整理上差支居候右ハ如何取計可然哉何分ノ御指示相成度此段及照會候也

衛生局長回答 大正四年八月四日
衛佐第一〇三號

七月十四日衛第二二一四號ヲ以テ產婆所在不明ニ關スル件御照會相成候處右ハ御意見ノ通ニ解セラレ候得共尙其所在御取調相成候上三ヶ年以上所在不明ト御認相成候ハハ規則第十四條前段ニ依リ御整理相成可然ト存候

●產婆名簿登錄者(男子)ニ關スル疑義ノ件

大正十一年六月十五日
內務省靜衛第八四號

靜岡縣知事照會 大正十一年七月十八日
衛第四六二〇號

產婆規則第一條及ヒ明治十一年秋田縣照會ニ對スル貴局回答ニ依レハ產婆ハ從來ヨリ女子ニ限ルトアリ故ニ現行產婆規則附則第十八條ニ依リ手續履行シタル產婆名簿登錄者ト雖モ男子タルモノニ對シテハ名簿ノ取消ヲ爲スヘキモノト解シタル處今回管下榛原郡吉田村男子タル名簿登錄者福田周藏代理人宮内勝力本月五日貴局醫務課ニ出頭御課員弘中義助氏ト會見候際同氏ハ附則第十八條ノ手續履行セル從來開業ノ男子產

婆ハ當然開業ヲ權利アリト答ヘタル趣キニテ右附則第十八條ノ手續履行セシ男子タル產婆名簿登錄者取扱ヒニ付キ疑義有之候條至急何分ノ御指示相煩ハシ度此段及照會候也
(別紙)
一、四年前廢業セシ漢法產科醫ヨリ今回產婆開業致度旨顯出候處右手術ノ儀ハ男女ヲ不問差許不苦候哉(秋田縣照會)
了承產婆ハ終始產婦ニ付添分娩前後ノ介抱汚穢物取扱並生兒取扱等ヲ專務ト致候ハハ男子ニテ實際爲シ得ヘキモノニアラス且各國類例モ無之難開屆儀ニ候云々(明治十一年六月) 衛生局長回答(大正十一年九月十五日)
內務省靜衛第八四號
七月十八日衛第四六二〇號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承產婆規則施行以前地方廳ヨリ鑑札ヲ受ケ同則第十八條ニ依リ產婆名簿ニ登錄セラレタル者ハ男子タルノ理由ヲ以テ取消スヘキモノニ非スト思考致候右及御回答候也

●產婆出張所設置ニ關スル件

大正十四年十二月十八日
衛第七七九號

本件ニ付奈良縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答致候間此段及通牒候也
(廳府縣長官宛)
衛生局長通牒

奈良縣知事照會 大正十四年二月十一日
衛第一〇五〇一號

首題ノ件ニ關シ取扱上疑義生シ候條左記事項ニ付御意見承知致度此段及照會候也

記

一、奈良縣内ニ於テ住所及開業地ヲ有スル產婆カ他府縣ニ出張所設置ノ場合何レノ府縣ニ於テ事項ノ登錄ヲ爲スヘキ哉

衛生局長回答 大正十四年十二月十七日
衛第一七九七號

十二月十一日衛第一〇五〇一號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ住所地ヲ管轄スル府縣ニ於テ產婆名簿ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨出張所ノ所在地ノ府縣ニ通知スルコトニ御取扱相成度

●朝鮮ニテ產婆開業ヲ爲ス者ノ名簿登錄方ノ件

明治十四年九月七日
衛第七〇五一號

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

產婆名簿登錄ニ關シ明治三十三年三月衛第二六一八號ヲ以テ及通牒置候處今般岡山縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答致候ニ付此段及通牒候也

岡山縣知事照會 明治十四年八月七日
衛第五一六六號ノ一

本縣ニ本籍ヲ有シ明治三十六年十月本縣產婆試驗及第者ニシテ今回朝鮮京城ニ於テ產婆開業致度旨出願來候明治三十三年三月衛第二六一八號ヲ以テ貴局ヨリ山口縣知事へ御回答ノ次第有之右ハ朝鮮ノ未タ我版圖ニ屬セサル以前ノ事實ニ係ルモノニ候へ共猶此御回答ノ趣旨ヲ準用シ本縣ニテ登錄シ可然哉御意見承知度此段及照會候也

衛生局長回答 明治十四年九月七日
衛第七〇五一號

客月七日衛第五一六六號ノ一ヲ以テ產婆名簿登錄ニ關シ御照會相成候處朝鮮ニ於テ產婆開業ヲ爲スモノハ本籍地ニ於テ登錄スヘキモノニ無之候條右御了知相成度依命此段回答候也

●朝鮮總督府道長官ノ行ヒタル產婆及看護婦試驗合格書ヲ有スル者ニ關スル件

大正六年八月二十三日
衛和第三三五號

和歌山縣知事照會 大正六年六月二十日
衛第六三三三號

近時朝鮮總督府道長官ノ行ヒタル看護婦試驗合格證ヲ以テ縣地ニ於テ免許出願スル者往々有之候處右ハ看護婦規則第二條

第一號ニ依ル有資格者ト認メ免許差支無之候哉將又同規則外トシテ免許ヲ與ヘサル權取計可然哉爲念御意見承知致度候也
 追テ產婆ニ對シテモ同様御回答仰度申添候
 衛生局長回答 大正六年八月二十三日
 衛和第一三五號
 本月二十日付衛第六三三三號ヲ以テ御照會ニ係ル朝鮮總督府道長官ノ行ヒタル產婆試驗並看護婦試驗ニ合格シタル者ハ後段御意見ノ通

●臺北廳令ニ依リ免許ヲ受ケシ產婆内地ニ於テ開業セントスル者ノ登録ニ關スル件

大正六年三月二十三日
 衛和第六六號
 岡山縣知事照會 大正六年三月二十日
 衛和第一二〇二號
 明治三十五年八月臺北廳令第十六號產婆取締規則ニ據リ免許證ヲ受ケ該地ニ於テ開業中ノ者今般内地ニ歸來シ開業致度旨ヲ以テ登録出願候處右ハ產婆規則第一條ニ該當ノモノニアラス隨テ當縣ニ於テ名簿ニ登録スヘキ者ニ無之ト存候得共聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御回答相成度候也
 衛生局長回答 大正六年三月二十三日
 衛和第六六號

本月二十日付衛第二二〇二號御照會ニ係ル標記ノ件ハ御意見ノ通ト御承知相成度

●樺太廳ニ於テ施行セル產婆試驗合格者登録ノ件

大正六年一月十日
 東樺第一八號
 東京府知事照會 大正五年六月二十六日
 辰原發第四六一號
 大正二年六月樺太廳ニ於テ施行ノ產婆試驗合格者ニシテ產婆名簿ノ登録出願ノ者有之右ハ產婆規則第一條第一項第一號ノ資格ヲ有スル者ト認メ登録差支無之候哉御意見承知致度此段及照會候也
 衛生局長回答 大正六年一月十日
 東樺第一八號

●關東廳長官ノ施行シタル產婆試驗合格證書ヲ有スル者ノ登録ニ關スル件

大正十四年三月二十八日
 衛醫第一五一號

福島縣知事照會 大正十四年三月二十日
 近時關東廳長官ノ施行シタル產婆試驗合格證書ヲ添付シテ内地ニ於テ產婆名簿ノ登録申請ヲナス者有之候處右ハ產婆規則第一條第一項第一號ニ依ル有資格者ト認メテ登録免許差支無之候哉差シ懸リタル儀有之候條至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也
 衛生局長回答 大正十四年三月二十八日
 衛醫第一五一號
 三月二十日付衛醫第一四四號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處右ハ產婆規則第一條第一項第一號ノ資格ヲ有セサル者ト認メ候右及回答候

●產婆名簿取消ニ關スル疑義ノ件

明治四十四年四月十八日
 衛佐第四二號
 佐賀縣知事照會 明治四十四年三月二十一日
 發第第七五號
 海外在留ノ本邦產婆名簿登録取扱方ノ件ニ付去ル三十三年三月衛第二六一八號ノ内ヲ以テ御通牒並三十六年六月衛第五一六四號御回答ノ次第モ有之候處今般本縣產婆名簿登録中ノ產婆ニシテ朝鮮京城へ移轉ノ故ヲ以テ產婆名簿取消出願ノ者有之右ハ業ニ御通牒並ニ御回答ノ趣旨ニ依レハ本縣ニ於ケル產婆名簿ハ取消スヘキモノニアラスト思考候得共朝鮮併合ノ今

日ニ付聊疑義相生シ候條至急何分ノ御回答相煩度此段及照會候也
 衛生局長回答 明治四十四年四月十八日
 衛佐第四二號
 客月二十一日付發警第七五號ヲ以テ產婆名簿取消ノ義ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ出願ノ通り取消シ可然ト被存候條御承知相成度此段及回答候也

●外國ニ渡航スル產婆ヨリ產婆名簿取消ヲ出願スル場合ノ取扱方ニ關スル件

明治三十八年八月二十六日
 衛第一五六號
 福岡縣知事照會 明治三十八年八月八日
 衛發第四五二號
 產婆ニシテ營業ノ爲メ外國へ渡航ノ趣ヲ以テ名簿取消出願セシモノ有之右ハ當然之カ取消ヲ了スヘキモノト思料セラレ候處若シ三年ヲ經過歸朝ノ上再登録ヲ出願スル場合アランニ外國ニ於ケル營業ノ證明ヲ得ルニ困難ナルヲ以テ調査上確實ノ認證アラサル場合ハ已ムナク其業ヲ營マサルモノト見做シ相當處置スルノ外致方無之様思考セラレ取扱上聊カ疑義ヲ生シ候條何分ノ御意見承知致度此段及御問合候也

衛生局長回答明治三十八年八月二十六日

本月八日付衛務第四五二號ヲ以テ御照會相成候件了承産婆カ
外國ニ渡航スルトキハ必ス名簿ノ取消ヲ要スルモノニハ有之
間敷モ名簿取消ヲ願出テ候ニ於テハ之カ取消ノ手續ニ及ヒ可
然而シテ歸朝ノ上更ニ登録ヲ願出テ候トキハ營業ノ證明アル
ト否トヲ問ハス登録シテ差支無之ト存候條右ニ御了知相成度
此段及回答候也

●産婆再登録ニ關スル件

明治三十六年七月四日
衛甲第四四號

東京府知事照會明治三十五年六月十一日
産婆規則第十八條ニ依リ産婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者廢業シ
後子再ヒ登録ヲ願出セルモノアリ右ハ一旦廢業シタリト雖規
則ニ依リ取得シタル資格ハ爲ニ消滅スヘキモノニアラスト思
料スルヲ以テ規則第十八條ヲ準用シ名簿登録手續ヲ爲シ可然
哉ト存候得共本則中據ルヘキノ明文無之ニ付御省議承知致度
候條何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

衛生局長回答明治三十六年七月四日
衛甲第四四號

本月十一日一發第九三二號ヲ以テ御照會之趣了承産婆規則施
行以前ノ産婆ニシテ同令第十八條ニ依リ登録ヲ爲シタル時ハ

産婆タルノ資格ヲ認メタルモノナルヲ以テ一旦廢業スルモ再
登録ヲ受ケ復業スルハ差支ナキ義ト存候右及回答候也

●登録漏ニ係ル在外産婆ノ登録ニ
關スル件

明治三十八年八月五日
衛東甲第四七四號

東京府知事照會明治三十八年六月十日
内務省産婆免狀ヲ有シ現行産婆規則發布前朝鮮國居留地ニ移
住シ該地ニ於テ引續キ産婆ノ業ヲ營ミ居リタル者現行規則ノ
發布アリタルコトヲ知ラス且ツ居留地ニ於テハ産婆名簿登録
ノ規定モ無之爲從前ノ儘開業シ來リタル處今般歸國ニ由リ始
メテ産婆名簿ニ登録ヲ要スルコトヲ知リ之カ出願ヲ爲シタル
者有之右ハ居留地領事ノ證明書等ニ依リ産婆ヲ營ミ居リタル
コト明白ナル場合ハ領事カ其開業ヲ公認シ居リタリトノ事實
ヲ以テ名簿登録ト同一ノ效力アルモノト看做シ之カ登録ヲ爲
スモ不苦哉至急何分ノ御指示相成度此段相伺候也

衛生局長回答明治三十八年八月五日
衛東甲第四七四號

本年六月十日付一發第三〇三號ヲ以テ登録漏ニ係ル在外産婆
群馬縣平民堀越ナヲニ關シ御照會ノ處右ハ伺出ノ通り名簿登
録ヲ爲スモ不苦候條候伺ノ上此段及回答候也

●外國ニ於テ卒業又ハ開業ノ者産
婆免許出願ニ關シ取扱方

明治三十二年七月
衛甲第五一號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

外國ニ於テ産婆學ヲ卒ヘタルモノ産婆開業ノ免許ヲ得タルモ
ノ及ヒ之レニ準スヘキ學術技能アルモノニシテ其卒業證書又ハ
開業證書ニヨリ産婆開業免狀下付願出ツルモノアルニ於テハ
之レヲ勘査シ本邦産婆試験ノ程度以上ニ位スルモノト認ムル
トキハ試験ヲ要セス聽許相成ヘクニ付從來産婆業ヲ營ミアル
外國人ニシテ右等證書ヲ有スルモノハ此際出願セシメラレ度
候命ニ依リ此段申進候也

●從來産婆限地開業者ニハ規則第
十九條ニ依リ更ニ免許ヲ與フル
ノ件

明治三十二年九月
衛甲第六八號

大阪府知事照會明治三十二年
從來府縣ニ於テ下付シタル産婆免狀ハ將來ニ於テ效力ヲ有ス
ルコトハ産婆規則第十八條ニ明文有之候處當府ニ於テハ
産婆ニ乏シキ地ニアリテハ區域ヲ限リ無期營業ヲ免許シタル

第一類 醫事 第三章 產婆、看護婦

モノ有之右ハ該規則ニ明文無之候條第十八條ニ準シ地域ヲ限
リタル儘免許ヲ與フヘキヤ將タ第十九條ニ依リ更ニ處分スヘ
キ義ニ候哉聊カ疑義ヲ生シ候條至急何分ノ御指示相成度此段
及御問合候也

●産婆會設立認可ニ關スル訴願裁
決

昭和五年九月十八日
内務省衛務第一號

衛生局長回答明治三十二年九月
右ハ今日ニ於ケル將來産婆ヲ得難キ地方ニ在テ猶規則ニ適合
スヘキ資格ナキモノヲシテ地域ヲ限リ營業セシメサルニ於テ
ハ其他出産者取扱ノ道ヲ缺クノ虞レアル上ハ從來限地免許者
ヲシテ規則第十九條ノ旨ニ遵ヒ改メテ免許ヲ與フヘキ義ト存
候此段及回答候也

衛生局長回答明治三十二年九月
衛甲第六八號

本件訴願ノ要旨ハ訴願人ハ昭和四年十一月六日附ヲ以テ長崎
縣産婆會設立認可ノ申請ヲ爲シタルトコロ昭和四年十一月二
十日附ヲ以テ長崎縣知事ニ於テ不認可ノ處分ヲ爲シタルハ不

長崎市袋町三十九番地
訴願人 若林ハズエ

服ニ付之ヲ取消シ訴願人ノ出願ヲ認可スヘシトノ裁決ヲ求ムト謂フニ在リ其ノ理由トスル所ハ一、長崎縣產婆會設立ノ趣旨ハ長崎縣所在ノ產婆營業者ノ知識ノ向上、學術ノ研究ニ在リテ一面相互ノ親睦ヲ圖リ營業上ノ競争ヨリ生ズル危險ヲ防止スルヲ目的トスルモノナリ縣下大多數ノ產婆營業者ノ贊成ヲ得長崎縣產婆會設立ノ認可ヲ申請シタルトコロ長崎縣知事ハ之ニ對シ何等ノ調査ヲ爲サス而カモ何等ノ理由ヲ明示セズシテ不認可ノ處分ヲ爲セリ全國各地ニ郡市產婆會ハ勿論府縣產婆會ノ設立サレタルモノ多數アリテ之カ設立タルヤ白覺シタル產婆營業者竝ニ一般民衆ノ叫ビナル今日長崎縣知事カ訴願人ノ長崎縣產婆會設立ノ申請ヲ不認可トナシタル理由奈邊ニ在ルヤヲ知ルコトヲ得ス 二、長崎縣知事ノ本件不認可處分ハ訴願人カ其ノ會員募集ニ當リ強制的ニ勸誘シタル事實且規約ニ不適當ナル規定アルニ基クモノト推定セラルトコロ訴願人ハ強制的ニ會員ヲ募集シタル事實ナク不適當ナル規約ハ之カ改正ヲ命スレハ足ルモノニシテ之ヲ以テ不認可處分ヲ爲シタルハ不當ナリ 三、長崎縣衛生課長ハ長崎市產婆會ノ顧問ニシテ該會トノ關係密接ナルニ依リ情實關係ヨリシテ市產婆會ヲ庇護セントシ訴願人ノ出願ニ對シ壓迫ヲ加ヘ且之カ認可ヲ妨害シタルコトト思科ト謂フニアリ

(一)、長崎縣ヲ一圓トス

ル產婆會設立ノ要旨ハ別ニ支障アリト認メサルモ長崎縣ニ於テハ產婆會ノ設立ハ產婆規則產婆試驗規則產婆名簿登錄規則施行細則第六條ノ規定ニ依リ一警察署管轄區域ヲ單位トシテ組織セシムルヲ原則トシ來レリ縣下ヲ通シテ產婆會ノ設立ハ長崎市產婆會ト山口警察管下ノ北松浦郡南部產婆會ノ二個所ニ過キスシテ其他佐世保市西彼杵郡東彼杵郡等一市八郡ニハ未タ郡市內產婆會ノ設立ナキ現狀ニ在リ加之訴願人カ組織セントスル產婆會ニ加入申込ヲナシタルモノ僅ニ百七十三名ニシテ全縣下ノ開業產婆數七百三十七名ニ對比スルトキハ約二割三分ノ少數ニ過キサルノ狀況ニ鑑ミルニ縣產婆會ノ組織ハ其ノ機運ナキニ之ヲ設立セントシ一ニ順序ヲ誤リ信賴ヲ欠クモノト認メラル 二、訴願人ハ縣產婆會ノ設立ヲ以テ產婆營業者ノ親睦ヲ圖リ營業上ノ競争ヨリ生ズル危險ヲ防止スルヲ目的トスルト謂フモ訴願人ハ現ニ長崎市產婆會ニ加入會セサルノミナラス會外ニ在リテ會ノ內部ノ攪亂ヲ事トシ居リ本件設立ニ際シテモ既設團體ト何等ノ交渉ヲモナササルモノニシテカカル訴願人ニ於テ縣產婆會ノ設立ヲ申請スルニ於テハ縣產婆會ヲ以テ市產婆會ト對抗シ將來ニ背景トシテ自己ノ營ミ居ル產物取扱業上有利ノ立場ヲ得ントスルモノニシテ其ノ設立ノ動機不純ナルモノアリ且既設產婆會トノ軋轢ヲ生スルハ明カニシテ本件縣產婆會ノ設立ハ認可スヘキニアラサル

モノト認ム 三、訴願人申請ノ縣產婆會規約ハ其ノ第六條第二項ニ本項ニ入會セサル產婆ハ本縣内ニ於テ開業ヲ爲スコトヲ得サル旨ノ條規アリテ之ヲ縣下一部開業產婆ニ配布シタリ訴願人カ斯如キ規約ヲ配布會員ヲ募集スルニ於テハ其ノ結果ニ於テ加入ノ強要トナリシハ之ヲ認メ得ヘク其ノ他ノ規約第五十二條ノ如キ千戸以内ノ村ニ於テ二名以上ノ產婆アルトキハ新規開業ノ產婆ノ入會ニ制限ヲ加フルカ如キ其ノ報酬規定ニ於テ現時ノ社會狀態ニ徴シ高額ナルカ如キ本件產婆會ノ設立ハ不適當ナルモノト謂ハサルヲ得ス 四、訴願人ハ縣衛生課長カ長崎市產婆會ノ顧問タルノ故ヲ以テ情實關係ニ依リ不認可ノ手續ヲナシタリト揣摩憶懼ヲナスモ衛生課長ノ顧問ハ單ナル名義ニ止マリ本件ノ處理ニ就キ何等不公平ナル措置ヲトリシコトナシ以上訴願人ノ主張ハ採用スルニ足ラスト謂フニ在リ

ヲ至當ナリト謂ハサルヘカラス又縣衛生課長ニ對スル訴願人ノ主張ハ長崎縣知事ノ辯明ニ依リ理由ナキモノナルヲ以テ長崎縣知事ノ訴願人ニ對スル縣產婆會設立ノ不認可處分ハ適當ナリトス

以上ノ理由ニ依リ裁決ヲナスコト左ノ如シ
昭和四年十一月二十日長崎縣知事カ訴願人ニ對シ爲シタル長崎縣產婆會設立不認可處分ハ取消スヘキ限ニ在ラス

●警察犯處罰令(抄錄)
明治四十一年九月二十九日
內務省令第十六號

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十回未滿ノ科料ニ處ス
七 開業ノ產婆故ナク妊娠、產婦ノ招キニ應セサル者

●看護婦規則
大正四年六月三十日
內務省令第九號
大正一年九月內務省令第二三、號一四年九月第一四號
改正

看護婦規則左ノ通定ム

看護婦規則
第一條 本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ公衆ノ需ニ應シ傷病者又ハ褥瘡看護ノ業務ヲ爲ス女子ヲ謂フ

第二條 看護婦タラムトスル者ハ十八年以上ニシテ左ノ資格ヲ有シ地方長官(縣廳以下之ニ依リ)ノ免許ヲ受クルコトヲ

要ス

- 一 看護婦試験ニ合格シタル者
 - 二 地方長官ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
 - 三 大正五年四月關東都督府令第十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者
 - 四 大正十一年五月朝鮮總督府令第七十六號看護婦規則第一條第一項第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者
 - 五 大正十二年十二月樺太廳令第五十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者
 - 六 大正十三年二月臺灣總督府令第十八號看護婦規則第二條第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者
- 地方長官免許ヲ與フルトキハ看護婦免狀ヲ下付ス
- 第三條** 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認めル者ニハ免許ヲ與ヘサルモノトス
- 第四條** 看護婦試験ハ地方長官之ヲ施行ス
- 試驗科目ハ左ノ如シ
- 一 人體ノ構造及主要器官ノ機能
 - 二 看護方法
 - 三 衛生及傳染病大意
 - 四 消毒方法
 - 五 繃帶術及治療器械取扱法大意

六 救急處置

- 第五條** 一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニアラサレハ看護婦試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六條** 看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ著ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
- 第七條** 看護婦其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日內ニ免狀ノ寫ヲ添へ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ
- 第八條** 看護婦免狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日內ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ願出ツヘシ但毀損ノ場合ニハ毀損シタル免狀ヲ添附スヘシ
- 族籍氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日內ニ免狀ヲ添へ地方長官ニ書換ヲ願出ツヘシ
- 亡失シタル免狀ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ
- 第九條** 看護婦廢業シタルトキハ二十日內ニ免狀ヲ住所地ノ地方長官ニ返納スヘシ
- 看護婦三年以上其ノ業務ヲ營マサルトキハ廢業シタルモノトス

ト看做ス

- 看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日內ニ免狀ヲ返納スヘシ
- 第一項及第三項ノ場合ニ於テ免狀ヲ返納スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ
- 第十條** 看護婦第三條ニ該當シ又ハ業務ニ關シ犯罪者ハ不正ノ行爲アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ
- 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖モ疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトヲ得
- 第十一條** 免許ヲ受ケケスシテ看護ノ業務ヲ爲シ若ハ停止申其ノ業務ヲ爲シタル者又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條** 第七條第一項第八條又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス
- 附則**
- 本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 本令施行前地方長官ニ於テ與ヘタル免狀、免許狀、免許證ハ本令ニ依リ下付シタル看護婦免狀ト看做ス
- 本令施行ノ際現ニ地方長官ノ看護婦名簿ニ登錄ヲ受ケ居ル者ハ

本令ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做シ看護婦免狀ヲ下付ス

本令發布ノ際現ニ看護ノ業務ヲ爲ス者ニシテ本令施行後三月內ニ願出ツルトキハ地方長官ハ履歷ヲ審査シ試験ヲ要セス免許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ免許ハ本令第二條ニ依ル免許ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

地方長官ハ第二條ノ資格ヲ有セサル者ニ對シ當分ノ内其ノ履歷ヲ審査シ看護ノ業務ヲ免許シ准看護婦免狀ヲ下付スルコトヲ得

准看護婦及男子タル看護人ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

●看護婦規則第二條第一項第二號ノ講習所指定ノ件

- 一 東京帝國大學醫學科大學附屬醫院
- 二 傳染病研究所
- 三 醫術開業試驗附屬病院
- 四 東京府巢鴨病院
- 五 東京市駒込病院
- 六 東京市施療病院
- 七 東京市養育院

●私立看護婦學校、看護婦講習所
指定標準ノ件

大正四年八月二十八日
内務省訓第四六二號

廳府縣(東京ハ警視廳)

- 第一條 看護婦規則第二條第二號ノ指定ヲ爲スヘキ私立看護婦學校又ハ同講習所ハ左ノ各號ニ該當シ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績良好ト認ムルモノニ限ル
- 一 生徒ノ定員ニ對シ實習ニ必要ナル病院並相當ナル校舍、器具、器械等ノ設備アルコト
- 二 寄宿生ニ對シ相當寄宿舎ノ設ケアルコト
- 三 必修學科目トシテ少クトモ修身、人體ノ構造及主要器官ノ機能、看護法、衛生及傳染病大意、消毒方法、繻帶術及治療器械取扱法大意、救急處置ヲ教授スルコト
- 四 生徒ノ入學資格ハ高等小學校卒業若ハ高等女學校二年以上ノ課程ヲ修業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルコト
- 五 修業年限ハ學說、實習ヲ通シテ二年以上ナルコト
- 六 主要ナル學科ハ適當ト認ムル醫師ヲシテ擔當セシムルコト

- 七 學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシメサルコト
- 第二條 指定學校又ハ指定講習所ニ於テ別科生ヲ入學セシムルトキハ其ノ學籍簿ヲ別冊トナサシムヘシ但指定ノ效力ハ同生徒ニ及ハサルモノトス
- 第三條 必要ト認ムルトキハ指定學校又ハ指定講習所ノ試験ニ吏員ヲ派遣シテ立會ハシムヘシ
- 第四條 指定學校又ハ指定講習所ニシテ第一條ノ要件ヲ失ヒ其ノ他成績不良ト認メタルトキハ其ノ指定ヲ取消スヘシ
- 第五條 學校又ハ講習所ノ指定ヲ爲シ若ハ指定ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ公告シ内務大臣ニ報告スヘシ

●私立看護婦學校、看護婦講習所
指定標準ニ關シ通牒ノ件

大正四年九月一日
發第第一三二號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

今般内務省令第九號ヲ以テ看護婦規則ヲ發布相成尙訓令第四六二號ヲ以テ私立看護婦學校、看護婦講習所指定標準被相定候ニ就テハ左記各號ニ依リ御取扱相成度

- 一、病院ニ於テ醫師監督ノ下ニ入院患者等ノ附添看護ニ従事スル者ハ之ヲ看護婦規則ニ依リ看護婦ト認メサルモ病院勤務ノ傍外部ヨリノ需ニ應シ出張看護ヲ爲ス者ニハ看護婦規則ヲ適用スルコト
- 二、看護婦ニ關シ從來取締ノ規定ナキ道府縣ニ於テ看護婦規則附則第四項ニ依リ免許ヲ與フヘキモノハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルコト
- 一 官立、府縣立又ハ日本赤十字社若ハ同社支部ノ學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
- 二 修業年限二年以上ニシテ實習ノ設備ヲ有スル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
- 三 他府縣ニ於テ看護婦試験ニ合格シ又ハ看護婦ノ免狀、免許狀、免許證ヲ得若ハ看護婦名簿ニ登錄セラレタル者
- 三、從來ノ規定ニ依リ認定若ハ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シ若ハ看護婦試験ニ合格シタル年齢十八年未滿ノ者ニ對シテハ看護婦規則附則第四項ニ依リ免許ヲ與ヘ得ルコト
- 四、指定シタル私立看護婦學校、看護婦講習所ニ對シ學期又ハ卒業試験ノ問題若ハ其ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更ヲ命シ又指定ヲ得タル要件ニ違背シ若ハ成

- 五 積不良ト認メタルトキハ指定ヲ取消スコトアルヘキ旨ヲ示達スルコト
- 五 私立看護婦學校、看護婦講習所指定標準ハ之ヲ官立又ハ公立ノ學校又ハ講習所ノ指定ニ準用スルコト

●指定看護婦講習所等ニ於テ指定
前ヨリ養成シ來リタル卒業生ニ
對スル免狀授與方ニ關スル件

大正五年七月二十一日
衛新第一八一號

新潟縣知事照會 大正五年七月十四日
衛發第一八五號

大正四年内務省令第九號看護婦規則第二條第二號ニ依リ指定シタル看護婦講習所(養成科)卒業生ニ對シテハ指定後學則所定ノ期間ヲ經過セサレハ無試験免狀ヲ授與スル能ハサルモノト思考致候ヘ共指定前ヨリ養成シ來リタル生徒ニシテ指定後其期間ヲ經過セサルモ其效力ヲ及ホサシメ差支無之哉聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御意見相伺度此段及照會候也

衛生局長回答 大正五年七月二十一日
衛新第一八一號ノ内

本月十四日衛發第一八五號ヲ以テ指定看護婦講習所卒業生ニ對シ看護婦免狀授與ニ關スル件ニ付御照會相成候處條件附指定ノ場合ノ外ハ指定ノ效力ハ指定ト同時ニ發生スルモノニ有

之從テ指定當時看護講習所ニ於ケル現在生徒ハ當然指定ノ
恩典ニ浴スルモノト存候

●朝鮮ニ於テ資格ヲ得タル看護婦
内地ニ於ケル免許々否ノ件

大正六年六月十四日
衛醫第八五號

滋賀縣知事照會 大正六年六月六日
衛醫第六六三三號

朝鮮總督府ノ指定シタル看護婦養成所卒業證書(朝鮮龍山鐵
道病院)ヲ以テ看護婦免狀下付申請候者有之候處右朝鮮ニ於
テ取得シタル資格ハ内地ニ於テ之ヲ認認シ免許ヲ與フヘキモ
ノニ無之ト被存候ヘ共爲念御意見承知致度及照會候也

衛生局長回答 大正六年六月十四日
衛醫第八五號

本月六日衛第六六三五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ御意
見ノ通

●朝鮮及關東州ニ於テ免許ヲ得タ
ル看護婦ノ資格ニ關スル件

大正十三年三月十一日
衛醫第六三四號

樺太廳照會 大正十二年十二月十日
衛醫第三一三八號

首題ニ關シ左記事項御回報相煩ハシ度此段及照會候也

一 關東都督府令看護婦規則第二十條ノ規定ニ依ル看護婦又
ハ朝鮮總督府令看護婦規則附則第二項第四項若ハ第五項
ノ規定ニ依ル看護婦ハ內務省令看護婦規則第二條第一項
第二號又ハ第四號ノ資格ヲ有スルヤ其ノ理由

二 內務省令看護婦規則附則第一項乃至第三項ノ規定ニ依ル
看護婦ハ關東都督府令看護婦規則第二條第一號若ハ朝鮮
總督府令看護婦規則第一條第四號ノ資格ヲ有スルヤ其
ノ理由

衛生局長回答 大正十三年三月十一日
衛醫第六三四號

客年十二月二十日警第三一三八號ヲ以テ御照會ニ係ル標記
ノ件左記及回答候

追テ第二項ニ付テハ關東廳及朝鮮總督府ヘ御照會相成様致
度

一 關東都督府令第十六號看護婦規則第二十條ノ規定ニ依ル
看護婦ハ內務省令第九號看護婦規則第二條第一項第三號
ノ資格ヲ有セス

朝鮮總督府令第七十六號看護婦規則附則第二項ノ規定ニ
依ル看護婦及第四項第五項(府令施行前卒)ノ資格ニ依リ
免許ヲ受ケタル看護婦ハ內務省令第九號看護婦規則第二
條第一項第四號ノ資格ヲ有セス

●朝鮮ニ於テ看護婦ノ業ヲ營マン
トスル者ニ免狀下付ニ關スル件

大正十二年六月十九日
衛醫第八五九號

岐阜縣知事照會 大正十二年六月十一日
衛醫第三三六一號

本縣ニ本籍ヲ有シ大正十二年三月二十四日三重縣ニ於テ看護
婦規則第二條ニ依ル指定講習所卒業業者ニシテ今同朝鮮半壤ニ
於テ看護婦致度旨出願來リ候處本縣ニ於テ免狀下付シ可然哉
御意見承り度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十二年六月十九日
衛醫第八五九號

六月十一日衛第三三六一號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ貴
縣ニ於テ免狀下付相成候トモ朝鮮ニ於テ看護婦ヲ爲スニハ更
ニ道知事ノ免許ヲ受ケルコトヲ要シ候間右了知相成度尙大正
十一年五月朝鮮總督府令第七六號(大正十一年七月朝鮮總督
府令第一〇二號一部改正)御參照相成度

●看護婦免許資格ニ關スル件

大正十五年八月十九日
衛醫第一九一七號

警視總監照會 大正十五年八月八日
衛醫第一七一號

第一類 醫事 第三章 看護婦

客年六月內務省令第九號看護婦規則附則第二項ニハ規則施行
前地方長官ノ與ヘタル免狀免許狀等ノ效力ヲ認メラレ又同第
三項ニ於テハ地方廳ノ看護婦名簿ニ登錄ヲ受ケタルモノニ關
シ規定シアルモ地方長官ノ與ヘタル試驗及第又ハ合格證書ハ
指定學校講習所ノ卒業證書ノ效力ニ關シテハ何等規定セラレタ
ルモノナキヲ以テ規則ノ解釋上其效力ヲ失ヒタルモノト思料
被致候モ如此解釋スルトキハ一旦地方長官ノ付與シタル資格
ヲ理由ナク撤奪スルノ結果ト爲リ一面免狀免許狀ノ效力ヲ認
メラレタル主旨ト被是權衡ヲ失スルモノト思惟被致候ニ就テ
ハ上記附則第二項ノ主旨ヨリ類推シテ規則第二條各號ノ規定
ハ規則施行前ノモノト雖モ尙其適用ヲ受ケ得ルモノトシテ措
置致シ支障無之候哉何分ノ回答相煩度

衛生局長回答 大正十五年八月十九日
衛醫第一九一七號

本月八日付衛第一七一號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ニ付テ
ハ看護婦規則第二條各號ノ適用範圍ヲ擴張シ之ヲ規則施行前
ノ試驗及第者又ハ指定學校、講習所卒業業者ニ及ホス可キモノ
ニアラスト存候條左様御承知相成度

大正十五年二月二十二日
衛醫第九九號

(廳府縣長官宛)
衛生局長回答

看護婦免許資格ニ關スル件

本件ニ關シ大阪府知事へ別紙ノ通回答候間爲御參考及通牒候
大阪府知事照會 大正十五年一月二十六日
衛醫第九三號

看護婦免許資格ニ關スル件照會

大正十年三月朝鮮總督府全羅南道光州慈惠院看護科ヲ卒業シ
タルモノヨリ看護婦免狀下付申請シ來リタル者有之候處右ハ
大正十一年九月看護婦規則改正以前ノ卒業者ナルヲ以テ免許
資格ナキヤニ被相認候へ共聊カ疑義ヲ生シ候ニ付貴局ノ御意
見御回示相煩度

衛生局長回答 大正十五年二月十九日
衛醫第九九號

看護婦免許資格ニ關スル件回答

一月二十六日衛醫第四九三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件御見
込ノ通免許資格ナキモノト御取扱相成度

看護婦再免許證下付ニ關スル件

大正十五年六月二十七日
阪衛第一九〇號

(各地方長官宛)
衛生局長回答

標記ノ件ニ關シ左記ノ通り照覆致候條爲御參考及通牒候也
大阪府知事照會 大正十五年六月十六日
衛中第四七七一四號

看護婦規則附則第二項乃至第四項ニ該當セル看護婦カ其ノ業
ヲ廢シ免狀ヲ返納シタル後再ヒ免許ヲ受クルコトヲ得ルヤ否
伺出ノモノ有之右ハ一旦廢業シタリト雖已ニ取得シタル資格
ノ消滅スヘキモノニアラスト思料セラレ候ニ付更ニ免許シ支
障ナキヤニ被認候得共規則中右ニ關スル適條無之取扱上疑義
相生シ候條貴局ノ御意見御回示相煩度候

衛生局長回答 大正十五年六月二十七日
阪衛第一〇九號

本月十六日付衛甲第四七一四號ヲ以テ看護婦規則附則第二項
乃至第四項ニ該當スル看護婦カ其業ヲ廢シタル後再ヒ免許ヲ
受クルコトヲ得ルヤ否ニ付御照會ノ處右ハ無試驗免許相成差
支ナキモノト御承相成度

看護婦免許ニ關スル件

大正十三年六月十四日
衛醫第七五二號

臺灣總督府警務局長照會 大正十三年五月二十日
警衛第一〇一八號
看護婦免許方ニ關シ參考ニ供シ度候ニ付テハ乍御手数左記事
項ニ對スル貴省ノ御取扱振承知致度

一、大正四年內務省令第九號看護婦規則ニ依リ日本赤十字社
(各支部ヲ含ム)勤務ノ救護看護婦ニ對シテハ公衆ノ需ニ應

スルト否トヲ問ハス各府縣ニ於テハ凡テ免許ヲ與ヘ居ルヤ
否

二、若シ免許ヲ與ヘ居ルトセハ非常時又ハ平時ニ於テ傷病者
救護ノ爲外部ニ派遣スル場合アルヲ公衆ノ需ニ應スルモノ
ト看做サレタル結果ナルヤ否ヤ

衛生局長回答 大正十三年六月十四日
衛醫第七五二號

五月二十日警衛第一〇一八號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件日
本赤十字社勤務ノ救護看護婦ハ看護婦規則ニ依リ看護婦ノ免
許ヲ受クルコトヲ要セサル管ニ付右ニ御了知相煩度

臺灣總督府指定ノ看護婦養成所

ノ卒業證ヲ有スル者ハ内地ニ於

テ免許ヲ與ヘサル件

大正十一年十一月七日
衛醫第一七六一號

宮城縣知事照會 大正十一年十月二十七日
衛教發第八七〇〇號

臺灣總督府ノ指定シタル看護婦養成所卒業證書(臺灣總督府
阿猴醫院)ヲ以テ看護婦免狀下付申請者有之候處右ハ臺灣ニ
於テ取得資格ハ内地ニ於テ之ヲ締認シ免許ヲ與フ可キ者ニ無
之ト被存候得共爲念御意見承知致度及照會候也
衛生局長回答 大正十一年十一月七日
衛醫第一七六一號

十月二十七日衛收發第八七〇〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ
件御意見ノ通ト存候

准看護婦ノ資格ニ關スル件

大正五年六月十六日
衛醫第二一二號

靜岡縣知事照會 大正五年六月十四日
衛第三四一四號

准看護婦ノ資格ニ關スル看護婦規則附則第六項ニ第二條ノ資
格トアルハ第二條第一項ニ規定スル十八年以上トアル年齢ノ
制限ヲ包含スル義ト心得可然哉御意見承知致度此段及照會候
也

衛生局長回答 大正五年六月十六日
衛醫第二一二號ノ内

本月十四日付衛第三四一四號御照會ノ年齢ノ制限ハ資格中ニ
包含セサルモ准看護婦ニ準用スヘキ要件ト御承相成度

准看護婦ノ免許ニ關スル件

大正十四年八月七日
衛醫第一〇九二號

本件ニ付大阪府知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候間爲御參考
及通牒候也

(各地方長官宛)
衛生局長回答

大阪府知事照會 大正十四年七月十七日
衛第七六九一號

看護婦試験合格又ハ指定看護婦養成所卒業生ニシテ看護婦規則第二條規定ノ年齢ニ達セザルモノニ對シ同期附則第六項ニヨリ准看護婦ノ免許ヲ與フルハ支障ナキ義ト思料候處聊カ疑義相生シ候ニ付貴局ノ御意見御回示相煩度候
追而兵庫、和歌山、香川ノ各縣ニ於テ之レカ免許ヲ與ヘ居ル例モ有之此段申添候

衛生局長回答 大正十四年八月四日
衛第一〇九二號

七月十七日衛第七六九二號ヲ以テ御照會ノ件第二條規定ノ年齢ニ關スル制限ハ附則第七項ノ規定ニ依リ准看護婦ニ對シ之レヲ準用スヘキ義ニ有之從テ十八年未滿ノ者ニハ准看護婦免狀ヲ下附スヘカラサルモノト存候

●看護婦料金の制限ヲ設ケル可否
ニ關スル件

大正九年八月二十日
衛第一九一號

山口縣知事照會 大正九年七月二十六日
衛第四五三五號
看護婦ノ看護料金額ハ各地區々ニ涉リ或地方ニ於テハ看護婦會ノ設立ヲ命シ入會ノ義務ヲ負ハシメ共會則中ニ料額ヲ定メシメ認可ヲ與フル制ヲ設ケタル向モ有之趣ニ候處本縣ニ於テ

處右ハ縣令ヲ以テ料金ノ制限ヲ爲スハ穩當ナラスト被認候條左様御了知相成度

●產婆、看護婦、鍼術又ハ灸術營業者按摩術營業者等ノ行政處分
ニ關スル件

昭和四年二月八日
內務省發衛第六號

(內務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

產婆、看護婦、鍼術又ハ灸術營業者按摩術營業者等ノ行政處分ニ關スル件
客年御大禮ヲ行ハセラレタルヲ機トシ醫師免許ノ取消處分ヲ受ケタル者ニ付夫々調査ヲ遂ケタル結果改悛ノ情ヲ認ムヘキ者六名ノ再免許ニ關シ今回中央衛生會ノ審議ヲ經候ニ付不日再免許ノ證議可相成見込ニ有之候處此ノ際產婆、看護婦、鍼術灸術營業者、按摩術營業者柔道整復術業者等ニシテ免許ノ取消又ハ業務禁止處分ヲ受ケタル者ニ付テモ改悛ノ情アル者ニ對シテハ夫々再免許又ハ業務禁止解除ヲ爲スヲ適當ト被認候條貴管下該當者ニ付可然御措置相成様致度依命此段及通牒候也

●看護婦組合設立不認可處分ノ取

第一類 醫事 第三章 產婆、看護婦

ハ下關市其ノ他ニ於テ看護婦會ヲ組織セルモノ十數名有之是等ニ對シテハ會則又ハ規約中ニ其ノ料金額ヲ定メシメ認可ヲ與ヘ來リ候處會主ニ於テハ會員タル看護婦ノ得タル料金ノ内ヨリ二割ヲ所得トシ一面ニ於テハ寄宿料ノ收入等ヲ得各自己ノ收入増加ヲ圖ル上ヨリ互ニ看護婦ノ爭奪ニ努メ吸收策トシテ料金引上ケヲ申出ツルコト不少候ヘ共其ノ不當ナルモノニ對シテハ認可ヲ與ヘス取締ヲ勵行致居候然ルニ一面會ニ加入セザルモノニ在リテハ各其ノ欲スル處ヲ要求シ過般惡性感冒流行ノ場合ノ如キハ看護婦ノ不足ヲ告ケ此ノ機ニ乘シ彼等ハ多大ノ料金ヲ請求シ患家亦不得止之レニ應シタル事例有之斯ル實情ナルヲ以テ富豪若ハ相當資産階級ニ在ルモノノ外カ標準ヲ規定セラレ地方ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ適當ナル範圍ヲ定ムルニ於テハ會ニ在ルモノト然ラサルモノトニ拘ハラス同一ノ制限ノ許ニ就務スヘキコトトナリ他面ニ於テハ爭奪ノ弊ヲ避ケシメ汎ク患家ノ需ニ應セシムルコトヲ得ヘク今次ノ虎列流行ノ場合ニ於テモ普ク豫防救治ノ目的ヲ達スル様相認候ニ付縣令ヲ以テ制限致度右ニ對スル御意見御回示煩度此段得貴意候也

衛生局長回答 大正九年八月二十日
衛第一九一號

客月二十六日付衛第四五三五號ヲ以テ標記ノ件御照會有之候

消テ求ムル訴願裁決

昭和五年二月十四日
地發乙第二八號

看護婦組合設立不認可處分ノ取消ヲ求ムルノ訴願裁決
裁決書

東京府豊多摩郡杉並町高圓寺千二
十七番地原惣一方
東京看護婦組合出願代表者

訴願人 館 きん

右訴願ノ要旨ハ訴願人カ警視廳令看護婦規則施行細則第十條ニ依リ看護婦組合設立認可願ヲ京橋築地警察署ヘ提出シタルトコロ同署長カ該出願ニ對シ昭和四年三月二十日不認可處分ヲ爲シタルハ錯誤ニ基クモノナルヲ以テ之ヲ取消シ認可ノ指令ヲ與フヘントノ裁決ヲ求ムル旨警視廳令ニ訴願シタル處警視廳監ハ昭和四年六月五日付裁第一號ヲ以テ訴願法第一條第一項第三號並ニ第六號ニ該當セス且ツ本件ハ他ノ法律勅令中訴願ノ提起ヲ認メタルモノナキノ故ヲ以テ訴願法第九條第一項ニ依リ該訴願ヲ却下セリ然レトモ警視廳監ノ裁決又不當ナルヲ以テ之ニ對シ相當ノ處置アラムコトヲ求ムト謂フニアリ

右ニ對スル警視廳監聲明ノ要旨ハ訴願人ノ組織セムトスル看

護婦組合ナルモノハ大正四年九月警視廳令第二十號看護婦規則施行細則第十條「看護ノ業務ニ關シ團體又ハ組合ヲ組織セムトスル者ハ代表者ヲ定メ左ノ事項ヲ具シ事務所ニ在地所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ」トアル規定ニ據リタルモノニシテ各個獨自ニ看護ノ業務ヲ爲シ得ル者カ業務遂行上ノ一手段トシテ多數集團結合セムトスルモノニシテ需用者ニ對シテハ團體員又ハ組合員タル個人カ業務上責任ヲ負フヘク團體又ハ組合ハ業務ノ主體ニ非サルモノト謂フノ外ナシ又假ニ看護ノ業務ニ關シ組織シタル團體又ハ組合ヲ業務主體ト看ルモ看護ノ業務ハ所謂營業ニ該當セサルモノト解ス又看護婦組合ノ組織ハ明治三十五年三月警保局長通牒ノ趣旨ニ依リ訴願法第一條第一項第六號ニ所謂地方警察ニ關スル事項ニ該當セサルモノナリト謂フニ在リ

案スルニ本件組合ハ看護ノ業務ニ從事スル者カ業務遂行上ノ便ト互惠共濟ノ目的ヲ以テ組織セムトスルモノニシテ看護ノ業務ニ關スル營業ノ主體ト認ムルコトヲ得サルノミナラス所謂看護ノ業務ハ營業ニ非スト解スルヲ相當トスルカ故ニ訴願法第一條第一項第三號ニ所謂營業免許ノ拒否ニ關スル事項ニ該當セサルモノナリト雖モ本件ノ如キハ地方警察ニ關スル事項ニ屬スト解スヘキヲ以テ警察總監カ訴願法第九條ニ依リ訴願法第一條第一項第六號ニ該當セストナシ該訴願ヲ却下シタ

ルハ不當ナリ依テ訴願法第一條第一項第六號ニ依リ之ヲ受理シ審査ヲ遂クルニ本件看護婦組合ノ設立ノ出願アルヤ其ノ許否ニ關シ京橋築地警察署長カ爲シタル役員ノ身元調査ニ依リハ役員中ニハ看護婦會ノ經營ニ不適當ト認ムヘキ者アルヲ以テ京橋築地警察署長カ爲シタル本件不認可處分ハ何等不當ト謂フコトヲ得ス

以上ノ理由ニ依リ裁決ヲ爲スコト左ノ如シ

警視總監カ昭和四年六月五日裁第一號ヲ以テ館きんニ對シ爲シタル裁決ハ之ヲ取消ス

京橋築地警察署長カ昭和四年三月二十日館きんニ對シ爲シタル看護婦組合不認可處分ハ之ヲ取消スヘキ限ニ在ラス

第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒

拔及柔道整復術

●按摩術營業取締規則

明治四十四年八月十四日
內務省令第十號

沿革 大正九年四月內務省令第九號 改正

按摩術營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

按摩術營業取締規則

第一條 按摩術「マツサージ」術ヲ含ム以下之ニ做フ」營業ヲ爲サムトスル者ハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル

學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘ住所地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ做フ）ニ願出テ免許證札ヲ受クヘシ

第二條 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認ムル者ニハ免許證札ヲ交付セサルモノトス

第三條 按摩術ノ試驗ハ地方長官之ヲ舉行ス

試驗ヲ分テ甲種及乙種トス其ノ試驗科目ハ左ノ如シ

- 甲種
- 一 人體ノ構造及主要器官ノ機能
 - 二 按摩方式及身體各部ノ按摩術
 - 三 消毒法大意
 - 四 按摩術ノ實地
- 乙種

乙種ハ按摩術ノ實地ヲ行フノ外甲種試驗ノ各科目ニ付簡易試驗ヲ行フモノトス

第四條 甲種試驗ハ四箇年以上按摩術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

乙種試驗ハ盲人ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス但シ二箇年以上ノ修業履歴アルコトヲ要ス

第五條 營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス流派名又ハ卒業シタル學校講習所ノ名稱若ハ修業ノ證明ヲ與ヘタル教師ノ氏名ヲ除ク外業務上其ノ技能、施術方法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第五條ノ二 營業者ハ脱臼又ハ骨折ノ患部ニ施術ヲ爲スコトヲ得ス但シ醫師ノ同意ヲ得タル病者ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ三 地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ニ於テ「マツサージ」術ヲ修業シ又ハ「マツサージ」術ノ試驗ニ合格シ免許證札ヲ受ケタル者ニ非サレハ「マツサージ」術ヲ標榜スルコトヲ得ス

第六條 營業者其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ添ヘ後ノ住所地方長官ニ届出ヘシ

第七條 營業者免許證札ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ住所地方長官ニ再下付ヲ願出ヘシ

ヲ願出ヘシ
亡失シタル免許鑑札ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第八條 營業者廢業シタルトキハ二十日以内ニ免許鑑札ヲ住所ノ地方長官ニ返納スヘシ若シ若シ鑑札ヲ返納スルコト能ハサル事由アルトキハ其ノ事由ヲ届出ヘシ

營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ戸籍法ニ依ル届出義務者ヨリ二十日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第九條 營業者第二條ニ該當シ又ハ業務上犯罪者ハ不正ノ行為アリタルトキハ住所ノ地方長官ハ期日ヲ定メテ其ノ營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免許鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

第十條 免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第五條ノ二、第五條ノ三ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第六條第一項第七條又ハ第八條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地方長官ニ於テ交付シタル免許鑑札ハ本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

本令發布ノ際現ニ按摩術(按摩、揉療治ノ類ヲ含ム)又ハ「マツサージ」術營業ヲ爲ス者本令施行後三箇月以内ニ願出ツルトキハ地方長官ハ其ノ履歴ヲ審査シ試験ヲ要セス免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

地方ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ地方長官ハ盲人ニ限リ當分ノ内其ノ履歴ヲ審査シ試験ヲ要セス免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免許鑑札ヲ得タル者其ノ住所ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ後ノ住所ノ地方長官ニ願出テ更ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス

●按摩術、鍼灸術又ハ鍼灸學校若ハ同講習所ノ指定標準ノ件

明治四十四年十二月十四日
內務省訓第六三一號

沿革 大正八年一月內務省訓第七八二號 改正

應府縣

按摩術、鍼灸術又ハ鍼灸學校若ハ同講習所ノ指定標準左ノ通相定

ム

第一條 按摩術營業取締規則及鍼灸術營業取締規則第一條ニ依リ指定ヲ爲スヘキ學校若ハ講習所ハ左ノ各號ニ該當シ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ其ノ成績ノ良好ト認ムルモノニ限ル

一 生徒ノ定員ニ對シ相當ナル校舍、校具、器械其ノ他ノ設備アルコト

二 必習科目トシテ少クトモ按摩術ニ在リテハ人體ノ構造及主要器管ノ機能、按摩方式及身體各部ノ按摩術、消毒法大意、按摩術ノ實地、鍼術又ハ灸術ニ在リテハ人體ノ構造及主要器管ノ機能並ニ筋ト神經脈管ノ關係、身體各部ノ刺鍼法又ハ灸術法並ニ經穴及禁穴、消毒法大意鍼術又ハ灸術ノ實地ヲ教授スルコト

三 修業年限四箇年以上ナルコト、按摩術鍼術又ハ灸術ノ二以上ヲ教授スルモ亦同シ但シ盲人生徒ニ限リ按摩術乙種試験科目ノミヲ教授スルモノニ在リテハ二ヶ年以上ナルコト

四 第二號教科目ノ教員ニハ適當ト認ムル醫師及各術ノ實地専門家ヲ採用スルコト

五 學則所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及フ生徒ハ進級若ハ卒業セシメサルコト

第一編 附事

第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒技及柔道整復術

第二條 指定學校若ハ指定講習所ノ卒業試験ニハ吏員ヲ立會ハシメ試験問題若ハ試験ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムヘシ

第三條 指定學校若ハ指定講習所ニシテ第一條ノ要件ノ一ヲ失ヒ其ノ他成績不良ト認メタルトキハ其ノ指定ヲ取消スヘシ

第四條 學校若ハ講習所ノ指定ヲ爲シ若ハ指定ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ公告シ內務大臣ニ報告スヘシ

右訓令ス

●按摩術、鍼術又ハ灸術及看護婦學校等指定ノ際稟議ヲ要セサル件

大正七年十二月三日
發給第二二一號

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

明治四十四年十二月第一〇二四九號及大正四年九月衛發第一三二號ヲ以テ按摩術、鍼術又ハ灸術及看護婦學校若ハ同講習所指定ノ際稟議ニ關スル件及通牒置候右ハ自今稟議ヲ要セス候條貴官限リ指定相成度

●指定學校生徒編入ニ關スル件

大正十四年十月八日
編第第一四一三號

明治四十四年十二月八日
衛第九七九一號

北海道廳長官照會 大正十四年九月二十八日
警衛第二二五五號

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

按摩術及鍼灸術營業取締規則第一條ニ依リ指定シタル當廳管内ノ學校ニ於テハ地方長官ノ指定セシ學校ヨリ轉學スル場合ノ外中途入學ヲ許ササルハ素ヨリ其ノ轉學ヲ出願スル者アルニ當テハ前學校長ノ證明書ヲ徵シテ當該學年ニ編入セシモ二學年以上ニハ編入ヲ許ササルコトニ學則ヲ定メ來リ候處今同指定ヲ受ケサル學校ヨリモ轉學ヲ許スコトトシ其出願者アリタルトキハ試驗ノ上相當學年ニ入學ヲ許ス様學則變更方文部大臣ニ出願致趣ヲ以テ伺出有之候カ右ハ差支無之様思慮スルモ貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ官立東京盲學校ニ於テハ指定ヲ受ケサル他ノ學校ヨリモ轉學ヲ許スニ付キ之等ト同様ノ取扱ヲ受ケ度趣ヲ以テ學校長ヨリ伺出テタルモノニ候條申添候

衛生局長回答 大正十四年十月八日
編第第一四一三號
九月二十八日警衛第二二五五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件差支無之ト存候

●按摩術、鍼灸術試驗施行其他ニ關スル取締方

- 一、各術試驗委員ニハ醫師及各術實地專門家ヲ任命シ各術ノ專門ニ關スル試驗ハ同專門家ヲシテ之ヲ行ハシムルコト
- 二、各術共ニ流派等ニ依リ學說又ハ施術方式ニ異動アルヲ免レサルヲ以テ各術ノ專門ニ關スル試驗ニハ醫師タル試驗委員又ハ吏員ヲ立會セシムルコト
- 三、受験者ノ修業履歴並各規則第二條ニ關スル事項ヲ調査スルコト
- 四、按摩術營業取締規則中盲人ニ關スル規定ヲ適用スヘキ者ハ三尺ノ距離ニ於テ手指ヲ算シ得サルモノ並ニ視力ノ耗弱ニ依リ他ニ適當ノ生業ヲ得ルコト能ハサルモノヲ謂フコト
- 五、各術ノ試驗ハ各試驗科目ニ就テ各二問以上ヲ課スルコト但シ乙種試驗ハ實地試驗ヲ主トシ學術試驗ハ簡易ナル試問ニ止ムルコト

試問ノ要點左ノ如シ

按摩術試問

- 一 (人體ノ構造及主要器管ノ機能) 人體ノ骨格、筋、臟器ノ構造概要及筋、臟器ニ於ケル血管、神經ノ分布並神經ノ中樞、腦脊髓神經ノ機能及血行、呼吸、營養排泄、五官、生殖妊娠等ノ生理
- 二 (按摩方式及身體各部ノ按摩術) 按摩方式(マツサージ術ハ其ノ方式)各方式ノ應用概則及頭首、咽喉、胸背、腹部、腰部、四肢等ノ按摩術要項並按摩術ノ效用、適應症、禁忌症其他施術上ノ注意
- 三 (消毒法大意) 消毒ノ意義、消毒藥ノ種類、消毒ノ方法
- 四 (按摩術ノ實地) 頭首、咽喉、胸背、腹部、腰部、四肢等身體各部ノ按摩術ノ實地鍼灸術試問
- 一 (人體ノ構造及主要器管ノ機能並筋ト神經脈管ノ關係) 按摩術試問第一科目ノ外、身體各部ノ筋、臟器ト神經脈管ノ關係
- 二 (身體各部ノ刺鍼法又ハ灸點法並經穴及禁穴) 鍼灸ニ在リテハ身體各部ノ刺方、灸術ニ在リテハ身體各部ノ灸點法並經穴禁穴ノ位置、名稱及筋、神經脈管、臟器等トノ關係、鍼術、灸術ノ適應症、禁忌其他施術上ノ注意

- 三 (消毒法大意) 消毒ノ意義、消毒藥ノ種類、鍼手指及手術局部ノ消毒ノ方法順序
- 四 (鍼術又ハ灸術ノ實地) 身體各部ノ刺鍼又ハ灸點施術ノ實地
- 六、按摩術營業取締規則第四項ニ依リ盲人ニ限リ履歴ヲ審査シ試驗ヲ要セス免許ヲ與フル場合ハ一箇年以上ノ修業履歴アルコトヲ要スルコト

●按摩術等試驗ノ分割ニ關スル許否ノ件

大正六年十月二十九日
和歌山縣知事照會 大正六年十月二十四日
衛和第九二六四號
衛和第八〇九六號

明治四十四年八月内務省令第一〇號按摩術營業取締規則第三條ニ依リ舉行スヘキ試驗ハ學說、實地ノ二者ニ分割ヲ認メサル御趣旨ノ様相見ヘ候ヘ共或縣ノ如キハ學說ニ合格セシモノニ對シ共ノ承認書ヲ與ヘ居リ其ノ證書ヲ添ヘ本縣ヘ實地ノミヲ試驗ヲ出願シ來リタルモノ有之右者產婆試驗ト同様受験セシメ差支ナキ義ニ候哉疑義相生シ候間爲念貴局ノ御意見承知致度候也

追テ鍼術、灸術試驗ニ關シテモ同様承知致度申添候也

衛生局長回答 大正九年十月二十一日
衛和第一二六四號
本月二十四日衛第八〇九八號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處試驗
分劃ハ省令ノ精神ニ反シ候條實地試驗ノミノ出願者ニ對シテ
モ更ニ學說試驗ヲ受ケシメラレ度
追テ鍼術灸術試驗ニ關シテモ同様ト御承知相成度

●按摩術營業取締規則中改正ニ關シ
依命通牒ノ件

大正九年四月二十一日
內務省發衛第二四號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

今般省令第九號ヲ以テ明治四十四年內務省令第十號按摩術營業
取締規則中改正相成候處其ノ改正ノ要旨ハ從來ノ接骨營業
以外ニ柔道整復術營業ヲ公認シタルト「マツサージ」術標榜ニ
制限ヲ加ヘタルトノ二點ニシテ右柔道整復術即チ從來柔道家
ニ於テ打撲、捻挫、脱臼及骨折ニ對シ慣行シタル應急處置ニ
關シテハ其ノ熟達シタル施術家ニ在リテハ成績ノ見ルヘキモ
ノアルノミナラス事件ノ性質上急遽處置ヲ要スル場合モ頗ル
多キヲ以テ旁一定制限ノ下ニ之カ營業ヲ許可スルハ現下ノ事
情ニ照シ機宜ニ適スルモノト認メ又「マツサージ」術ニ關シテ
ハ其ノ技能ナキ按摩業者ニシテ濫ニ之ヲ標榜スルモノ尠カラ

サルニ付之カ弊ヲ矯正スルノ必要ヲ認メタル次第ニ有之候條
御了知相成度尙右改正事項ノ施行ニ關シテハ左記各號ニ御注
意相成度
一、柔道整復術ノ試驗ハ受験希望者ノ情況ニ依リ豫メ期日ヲ
公示シテ之ヲ施行スルコト
一、柔道整復術試驗ノ受験資格ハ現ニ一定ノ道場ニ於テ柔道
ノ教授ヲ爲ス者ニシテ四ヶ年以上柔道整復術ヲ修業シタ
ル者ナルコト
一、柔道整復術ノ試驗科目ハ規則第三條第二項申稱試驗科目
ヲ準用シ左記各號ニ依ルコト
一、人體ノ構造及主要器管ノ機能
二、柔道整復術ノ方式及身體各部ノ柔道整復術
三、消毒大意
四、柔道整復術ノ實地
一、柔道整復術ノ專門ニ關スル試驗ハ免許ヲ得タル接骨業者
中可成斯道ノ専門家ヲ選ミ又ハ相當ノ技能アリト認ムル
者ノ中ニ付試驗委員ヲ命ジテ之ヲ行ハシムルコト
一、規則第五條ノ二但書ノ醫師ノ同意ハ必スシモ書面ニ依ル
ヲ要セサルコト
一、按摩術營業取締規則施行細則中ニ柔道整復術ニ準用スル
規定ヲ設クルコト

一、按摩術試驗合格證書ニハ甲種試驗、乙種試驗又ハ「マツ
サージ」術試驗ノ區別ヲ記載スルコト

●「マツサージ」術試驗資格整復術
試驗委員資格ニ關スル疑義ノ件

大正九年九月二十二日
衛秋第九六號

秋田縣知事照會 大正九年九月十六日
秋發衛第二七二八號

按摩術營業取締規則第五條ノ三ニ依ル「マツサージ」術試驗
資格及同則附則第六項ニ依ル柔道整復術試驗委員ノ資格ニ關
シ左記之通疑義相生シ差迫リタル事情有之候條至急何分ノ御
回示相煩度此段及照會候也

一、按摩術營業取締規則第四條第一項ニ依レハ「甲種試驗ハ
四箇年以上按摩術ヲ修業シタル者ニ非サレハ之ヲ受ク
ルコトヲ得ス」ト規定セラル故ニ「マツサージ」術ノ受
驗資格ハ第四條第一項ニ依リ四箇年以上タルヲ要スヘシ
此四箇年ハ按摩術ヲ修業シタル年數ト「マツサージ」術ヲ
修業シタル年數ト合算シテ四箇年以上ニ達スルトキハ試
驗資格ヲ有スルモノト思惟シ可然ヤ
二、同則附則第六項ノ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ打撲、捻挫、

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒技及柔道整復術

脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術試驗委員ハ柔道ノ教
授ヲ爲ス者ニ適任者ト認ムヘキモノナキトキハ醫師ヲ試
驗委員トスルモ差支無之モノト思惟シ可然哉
衛生局長回答 大正九年九月二十二日
衛秋第九六號
六月十六日秋發衛第二七二八號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候
處右ハ御意見ノ通

●鍼術其他受験資格中通信講義錄
ニヨリタル期間ヲ修業年限中ニ
算入シ得ルヤ否ヤニ關スル件

大正十一年九月二十二日
衛第一二九一號

大阪府知事照會 大正十一年九月十一日
衛第九五〇五號
鍼術其他受験資格中修業年限ニ就テハ夫々規則ニ明文有之候
處近來各方面ニ流行シツツアル講義錄等ニ依ル所謂通信教授
ヲ受ケタル場合其期間ヲ修業年限ニ計上シ得ルヤ否ヤニ關シ
テハ素ヨリ通信教授ハ修業年限中ニ加フヘキモノニ非スト思
料セラルルモ亦一面ニ於テハ「鍼術」一科ノ受験ト雖モ四ヶ年
ノ修業ヲ要スルハ勿論ナルモ鍼灸二科乃至鍼灸按摩マツサー
ジ術等ヲ通シテ四ヶ年ノ修業ニテ可ナリトスル」現在ノ取
扱振ヨリ親テ通信教授モ相當發達セル今日或期間通信教授ヲ

受ケ其殘期間師ニ就キ實地ニ修業シタル場合ニ於テ通信教授
期間ト實地修業期間ト大差ナキニ於テハ之ヲ認ムルモ無試験
ニテ免許ヲ與フルモノニ非サレハ別ニ不都合モ無之カトモ被
存候尤モ本件ニ關シテハ差當處置ヲ要スヘキ儀モ有之候條至
急貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十一年九月二十二日
衛醫第一二九一號

衛第九五〇五號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處通信教授ノ講
義録ニ依リ獨習シタル期間ハ修業年限中ニ算入スヘカラサル
義ト御了知相成度

追テ産婆試験規則第五條ノ解釋ニ關シ大正七年七月北海道
廳長官ノ照會ニ對スル衛北第一〇六號衛生局長回答御參照
相成度此旨申添候

●按摩術營業取締規則中改正ニ係
ル「マツサージ」術標榜制限ニ關
スル疑義ノ件

大正九年七月二十七日
衛愛第三〇七號

愛知縣知事照會 大正九年六月十二日
衛發第一六七號

大正九年四月二十一日按摩術營業取締規則中改正ニ係ル第五
條ノ三ニ依レハ明治四十四年内務省令第十號按摩術營業取締

有スル學校ニ於テ正式ノマツサージ術ヲ修得セル堪能者輩出
シ醫療補助機關トシテノ需要漸次多キヲ加フル將來ニ於テハ
之カ標榜ニ關シ斯術ノ試験ヲ科シ以テ能否ヲ判定スルノ外適
當ナル對策無之ト存候尤モ改正省令第五條ノ三ノ規定ハ按摩
術營業ノ下ニ被術者ノ需ニ應シマツサージ術ヲ施行スルハ妨
ナキ義ト御了知相成度

大阪府警察部長照會 大正九年八月六日
衛第八〇七一號

本年四月内務省令第九號ヲ以テ標記ノ件御發布相成候處其ノ
第五條ノ三ニ關シテハ各方面ニ種々ノ意見又ハ議論有之哉ノ
趣ニシテ其ノ要旨ハ從來ノ當業者ニマツサージ術ヲ標榜セシ
ムル否ヤニ存スルモノノ如ク此ノ點ニ關シテハ本年六月内務
省發衛第一二八號御通牒ノ次第モ有之候ヘ共ソハ規則制定ノ
結果試験ヲ經テ免狀ヲ得タルモノニ對スル除外例ニシテ附則
第二項第三項ニ依リ履歷免許ヲ得タルモノハ今日ト雖尙ホマ
ツサージ術標榜ヲナシ得ルモノト解スルコト妥當ナルヘク被
存候何トナレハ今日ノ改正省令ハ何等此點ニ言及セサルカ故
ニ如斯解スルハ所謂法ノ不週及ノ原則ニモ副フ義ト被存候ノ
ミナラス近ク他府縣殊ニ警視廳及神奈川縣等ニ於テハ紋上ノ
意味ニ於テ施行細則ヲ發布シタルヤノ説モ有之旁右ノ如ク解
釋シ可然哉御意見承知致度此段及照會候也

規則附則第三項ニ該當スルモノハ絕對ニマツサージ術ヲ標榜
スルヲ得サルモノノ如ク解釋セラレ候モ本縣ニ於テハ明治四
十五年一月一日附則施行當時從來ノマツサージ術營業者ニ對
シテハ附則第三項ニ依リ按摩術免許鑑札ヲ下附シ該營業者ハ
其當時ヨリマツサージ術ヲ標榜致居候然ルニ今回ノ改正ニ依
リ之カ標榜ヲ取消サルルニ於テハ今後は等ハ按摩術營業ノ下
ニ私ニマツサージ術ヲ營業スルカ如キ事ト相成實際如斯モノ
ニ對シテモ全然取消ヲ命スヘキヤ否ヤ疑義相生シ候條折返シ
貴局ノ御意見承知致度此段及照會候

衛生局長回答 大正九年七月二十七日
衛愛第三〇七號

本月十二日衛發第二六七號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處
ニ按摩術營業取締規則ノ一部ヲ改正シマツサージ術ノ標榜ニ
付制限ヲ加ヘタル理由ハ何等マツサージ術ノ技能ナキニ拘ラ
ス之ヲ標榜スル者愈々多キヲ加ヘ其ノ弊害益々甚敷到底此儘
放任シ置キ難キ爲ニ有之明治四十四年規則公布ノ當時附則第
三項ニ依リマツサージ術ノ履歷ヲ審査シ按摩術免許鑑札ヲ交付
シタル者ニ對シテモ一般的ニマツサージ術ノ標榜ニ制限ヲ加
フルカ如キハ同情スヘキ點ナキニ非スト雖此等ノ者ノ多クノ
實際ニ於テ現代ノ正式ノマツサージ術ヲ施シ得ルヤ否疑ナキ
能ハス殊ニ近年斯術ノ進歩著シク今ヤ四年乃至六年ノ課程ヲ

衛生局長回答 大正九年八月二十日
衛發第五三一號

本月六日衛第八〇七一號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處省令改正
ノ主旨ハ「マツサージ」術ノ技能ナキ按摩術營業者ニシテ濫ニ
斯術ヲ標榜スル者尠カラス爲ニ公衆ノ醫療ヲ誤ラシムルノ弊
アリト認候ニ付之カ標榜ニ關シテ制限ヲ加ヘタル次第ニ有之
候就テハ一般ノ營業者ニ於テ按摩術營業ノ鑑札ノ下ニ「マツ
サージ」術ヲ施行スルハ何等差支無之候モ之ヲ標榜セムトス
ル場合ハ右改正規定ニ該當セサル營業者ニ在リテハ更ニ「マ
ツサージ」術試験ヲ要スル義ト御承知相成度

●「マツサージ」術標榜制限其他ノ
疑義ニ關スル件

大正九年五月十九日
衛發第二五三號

神奈川縣知事照會 大正九年五月五日
申發衛發第七四八一號

客月二十一日内務省令第九號ヲ以テ按摩術營業取締規則中改
正ノ件發令相成候處左記ノ通疑義ヲ生シ施行上差支ヘ候ニ付
至急何分ノ御回報相煩度候

一、按摩術營業取締規則第一條ニハ按摩術（マツサージ術ヲ
含ム云々）ト規定シアリテ按摩術ト「マツサージ」術トハ

共通ノ試験ヲ行ヒ共通ノ免許鑑札ヲ交付シツ、アリテ取締上何等區別スル所ナシ然ルニ今回ノ改正ニ依リ「マツサー」術ノ標榜ヲ制限スルトキハ從來免許ヲ受ケタル按摩術業者ニシテ現ニ「マツサー」術ヲ標榜スル者ハ其ノ既得權ヲ侵害セラルヘク之レニ對スル救済並取締方法ヲ如何ニスヘキヤ御意見承知致度

二、將來「マツサー」術ノ試験合格證書ヲ按摩術（甲種、乙種）ト區別シテ交付セムトスルトキハ規則第三條ノ試験規定中ニモ其ノ區別ヲ示サ、レハ施行シ難シ右ニ對スル御意見承知致度

三、附則ニ追加セラレタル一項中柔道整復術ナル字句アルモ其ノ範圍限界ハ醫師及接骨業者又ハ按摩術業者カ脫臼骨折捻挫打撲等ニ對スル治療方法ト如何ナル點ニ於テ區別アリヤ其ノ詳細ヲ御明示相成度

衛生局長回答 大正九年五月十九日
衛神第二五三號

本月五日付中警衛第七四八一號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ハ左記ノ通御承知相成度

一、本件ハ先般技術官會議ノ節質問アリ他ノ事項ト共ニ不日通牒相成管

二、「マツサー」術ノ試験ノ場合ニ於テハ規則第三條第二項甲種試験科目ハ

- 一 人體ノ構造及主要器管ノ機能
- 二 「マツサー」方式及身體各部ノ「マツサー」術
- 三 消毒法大意
- 四 「マツサー」術ノ實地

トナルモノト解釋致居別ニ改正ノ意向ナク又施行上何等支障ナシト認ム

三、柔道整復術ノ業務ノ範圍限界ハ省令附則第二項列記ノ通ニシテ醫師又ハ按摩業者カ打撲捻挫脫臼及骨折ニ對シテ行フ施術方法ト何等區別ナク又按摩業者ハ脫臼又ハ骨折ノ治療ヲ爲ス資格ナキハ勿論第五條ノ二ノ適用ニ關シテハ醫師ノ同意ヲ得ルニ非レハ其ノ局部ニ按摩術ヲ行ヒ得サル義ト御承知相成度

●「マツサー」術免許ニ關スル件

大正九年十一月十一日
衛神第一八一號

栃木縣知事照會 大正九年十月二十七日
衛收第九〇三六號

按摩術營業取締規則改正ニ伴ヒ「マツサー」術免許ニ關シ大正元年八月十四日文部省ニ於テ交付シタル師範學校中學校高等女學校教育、盲教育講習會修了證書ヲ添付シ免許出願スル者

右之右ハ免許スヘカラサルモノト思料候モ一應及照會候也
衛生局長回答 大正九年十一月十一日
衛神第一八一號
客月二十七日衛收第九〇三六號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候處本件講習修了ノ資格ノミニテハ規則第一條ニ該當セサルヲ以テ結局貴見ノ通御取計相成可然存候

●「マツサー」術者ニ免許鑑札下付方ニ關スル件

大正九年十月二十九日
衛神第三二四號

靜岡縣知事照會 大正九年十月二十五日
衛第五四九八號

本年四月二十一日内務省發衛第二四號ヲ以テ按摩術取締規則中改正ニ關スル件通牒有之其ノ末號ニ按摩術試驗合格證書ニハ甲種乙種又ハ「マツサー」術試驗ノ區別ヲ記載スル様御注意有之候ニ付テハ「マツサー」術ノ免許ハ之ヲ按摩術ト區別シテ鑑札ヲ下付シ可然裁將又按摩術免許狀ニ「マツサー」術標榜免許者ト裏書下付可然裁勸カ疑義相生シ候條何分ノ御回答相煩度及照會

衛生局長回答 大正九年十月二十九日
衛神第三二四號

本月二十五日衛第五四九八號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒拔及柔道整復術

試驗合格證書ハ本年四月二十一日發衛第二四號通牒ノ通甲種試驗、乙種試驗又ハ「マツサー」術試驗ニ依リ區別スヘキ義ニ候得共右免許鑑札ノ形式ニ付テハ法令上何等ノ改正無之從テ其ノ試驗ノ如何ニ依リ鑑札ヲ區別スヘキモノニ無之依然按摩術營業免許鑑札トシテ下付スヘキ義ト御了知相成度

●按摩術學校指定當時「マツサー」術ヲ併科シタルモノモ更ニ指定ヲ要スルヤ否ヤノ件

大正十年五月六日
衛神第五二二號

大阪府知事照會 大正十年四月二十一日
衛第二六九五號

本年三月四日付衛第二六九五號ヲ以テ按摩術指定學校タル大阪市盲啞學校ニ關スル件照會致候處同月十七日付内務省發衛第一九六號御回報ニ接シ候處ニ依レハ同校ヲ卒業シ按摩術免許鑑札ヲ受ケタル者ニシテ在學中事實上「マツサー」術ヲ併セテ修業シタル者ハ之ヲ標榜スルモ支障ナキ趣ナルモ規則改正後ニ於テハ省令第五條ノ三ニ依リ按摩術ト「マツサー」術トハ判然區別セラレタルヲ以テ新ニ「マツサー」術ノ指定ヲ必要トスルカ或ハ規則第一條括弧内ノ如ク按摩術ノ指定當時既ニ「マツサー」術モ包含シテ指定シタルモノト解シテ

東京盲學校

更ニ指定ヲ必要トセサルヤ否ニ付疑義相生條至急何分ノ御
回示相成度此段及照會候也
衛生局長回答 大正十五年五月六日
衛醫第五二二號
客月二十一日衛第二六九五號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承
右ハ大阪市立盲啞學校ニ於テ指定當時以來按摩術ト併テ「マ
ツサージ」術ヲ教授致居ル義ニ候得ハ更ニ指定スルノ必要無
之存候
追テ鍼按科ノ學科目又ハ教授要項中ニ「マツサージ」術ノ
表示無之候得ハ機ヲ見テ之ヲ加ヘシムル方可然存候ニ付爲
念申添候

●東京盲學校指定ニ關スル疑義ノ件

大正十五年三月十一日
衛醫第一五六號

(廳府縣長官宛
衛生局長通牒)

本件ニ付警視總監ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候條爲御參考及
通牒候

警視總監照會 大正十五年二月十二日
甲衛第四三號ノ二

東京盲學校指定ニ關スル疑義ノ件

東京市小石川區雜司ヶ谷町廿番地

右東京盲學校ハ其ノ前身タル東京盲啞學校時代即チ明治十八

年十一月ヨリ文部省直轄ニシテ明治四十二年四月六日勅令第
八十六號ヲ以テ東京盲學校及東京聖啞學校ノ二校ニ分離シ共
ノ後引續キ文部省ニテ直轄シ居ルモノナリ而シテ同校ニ對シ
テハ當廳ニ於テ按摩術及鍼灸術各取縮規則ニ依リ明治四十
五年四月一日指定セシモノニシテ同校ハ從來ヨリ組織内容共
ニ充實シ居ル官立學校ナルヲ以テ同校並其ノ前身タル東京盲
啞學校ニ於テ各術ヲ修得シタル當廳指定前ノ兩校卒業者ニ對
シ指定ノ效力ヲ週及セシメ無試驗ニテ各術ノ免許ヲ爲スモ實
質上現行規則ノ精神ニ悖ルモノニ非ラサルモノト思惟セラレ
候モ一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ本件ニ關シテハ曩ニ貴局ヨリ通牒有之タルヤニ及聞居
候モ大正十二年大震災ノ際關係記録全部焼失シ且又當時
ノ事務取扱者更迭ノ爲メ過去ノ經過確然セサルモノニ有之
候

衛生局長回答 大正十五年二月二十六日
衛醫第一五六號

東京盲學校指定ニ關スル疑義ノ件

二月十二日甲衛第四三號ノ二ヲ以テ御照會相成候標記ノ件指
定ノ效力ヲ週及シ差支無之ト存候

廣島縣知事照會 明治四十五年三月二十六日
衛第二七七六號

明治四十四年八月十四日內務省令第十號按摩術營業取締規則
附則第四項地方ノ狀況ニ依リ其履歷ヲ審査シ無試驗ニテ免許
鑑札ヲ交付シタル者試驗ヲ要スヘキ地ニ轉住營業セントスル
場合ニ於テハ前ニ下付シタル鑑札ハ無効ノモノニシテ更ニ試
驗ノ上鑑札ヲ下付スヘキ義ナルヤ聊カ疑義相生シ候ニ付何分
ノ御回報相煩度此段及照會候

衛生局長回答 明治四十五年四月八日
衛廣第六三號

三月二十六日衛第二七七六號ヲ以テ按摩術營業免許ニ關シ御
照會相成候處附則第四項ニ依リ免許ヲ得タル者ハ試驗ヲ要ス
ヘキ地ニ轉住營業ヲ爲シ能ハサル義ニ有之隨テ其地ニ於テ營
業セントセハ更ニ試驗ヲ要スル義ト存候尤モ轉住ノ爲メ直ニ
業ノ免許ノ效力消滅スヘキモノニハ無之候條右御了知相成度
此段及回答候也

●按摩術營業者再免許ニ關スル件

大正四年六月二十九日
衛第一一六號

(各地方長官(東京府)宛
衛生局長通牒)

按摩術營業取締規則附則第三項ニ依リ免許鑑札ヲ得タル營業

●按摩術營業者ニシテ「マツサージ」術營業ヲ爲ス者ハ更ニ免許ヲ受クヘキヤ否ノ件

明治四十五年七月十日
衛廣第一一九號

廣島縣知事照會 明治四十五年六月二十二日
衛第四九九號

客年八月十四日內務省令第十號按摩術營業取締規則第一條中
マツサージ術ヲ含ムトアルハ「マツサージ」術營業ヲ爲スモノ
ハ按摩術營業ト同様ノ取締ヲ受クヘキモノナル事ヲ示シタル
ニ不過シテ單ニ按摩術營業ノ免許ヲ受ケタルモノ「マツサー
ジ」術營業ヲ爲サントスルトキハ別ニ免許ヲ要スヘキ義ナル
ヤ聊カ疑義相生シ候ニ付何分ノ御回報相煩度此段及照會候也
衛生局長回答 明治四十五年七月十日
衛廣第一一九號

六月二十三日附衛第四九九號ヲ以テ御照會ノ趣了承省令ハ
按摩術中ニ「マツサージ」術ヲ含ム趣旨ニ有之從テ按摩術營業者
カ「マツサージ」術ヲ施術セントスル場合ニハ新ニ免許ヲ受ク
ル要無之候條右了知相成度及回答候也

●按摩術營業免許ニ關スル件

明治四十五年四月八日
衛廣第六三號

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒技及柔道整復術

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入商齒技及柔道整復術

者ニシテ一旦該鑑札ヲ返納シタル者ニ對シ試驗ヲ要セス再ヒ
免許鑑札ヲ交付シ得ルヤ否ヤニ付伺出ノ向モ有之候處右ハ無
試驗交付相成差支無之候條念爲

●「トラホーム」ニ羅レル者ハ按摩
鍼灸術看護婦免許スヘカラサル
件

大正六年五月十一日
衛甲第一一四二號
大阪府知事照會大正六年五月四日
衛甲第二九五八號

按摩術營業取締規則第二條鍼灸術營業取締規則第二條及看護
婦規則第二條ニ於テ各傳染性ノ疾患アル者ニ對シテハ免許不
相成旨ノ規定有之候處該疾患中「慢性トラホーム」等ニシテ
他ニ傳染ノ虞ナキ程度ノ者ニハ特ニ免許シ可然哉一應貴局ノ
御意見承知致度此段及照會候
衛生局長回答大正六年五月十一日
衛甲第一一四二號

●鍼灸術按摩術營業免許鑑札ニ關
スル件

大正五年六月十四日
衛甲第一二〇九號
大阪府知事照會大正五年六月七日
衛甲第四四一六號

當府ニ於テ從來鍼灸及按摩術營業者ニ對シ交付スル免許鑑札
ハ別添様式ニ相依リ居候處當該取締規則第八、九條(鍼灸)ノ
精神解釋上該鑑札ハ各府縣共通ノモノタルヘキモノナラムト
被察候而已ナラス事務處理上大ニ簡捷ヲ期シ得ヘキ義ニ有之
候ニ付テハ向後該鑑札而ニ住所ヲ省キ族籍ヲ記スコトニ相改
ムヘキ考ニ有之候得共豫メ一應御意見承知致度此段及照會候
也
追テ他各府縣ニ於ケル當該様式ハ區々(住所ヲ記スルモノ)ニ
相成居候ニ付テハ規則ニ於テ前般共通主義ヲ採用セラレタ
ルモノニ有之候ヘハ其ノ取扱ヲ統一セラレ候様御取計相成
度此旨申添候也
(別紙略ス)

●按摩術營業免許鑑札並ニ手数料
徴收ニ關スル件

昭和三年十月三十二日
衛乙發第一四號
(内務省衛生局長ヨリ
應府縣長官宛通牒)

本月七日衛甲第四四一六號照會鍼灸及按摩術營業免許鑑札ニ
住所ノ記載ヲ省略スルノ件御意見ノ通り
按摩術營業免許鑑札並ニ手数料徴收ニ關スル件
按摩術及ヒ「マツサー」ジ「術」ノ營業免許鑑札ノ下付並ニ之レカ
免許手数料ノ徴收ニ關シテハ從來各府縣ノ取扱區々ニ互リ居
候處按摩術「マツサー」ジ「術」ノ免許鑑札ハ自今別個ニ交付シ
手数料ハ各別ニ徴收相成度尙從前同一ノ鑑札ヲ下付セラレタ
ル向モ少クトモ本人ノ申出ル場合ハ別個ノ鑑札下付スル様御
取計相成度候
追テ木文ト紙觸スル從前ノ通牒ハ消滅シタル義ト御了知相
成度

●按摩徒弟取締ニ關スル件

大正五年一月十一日
四、東衛第一一七〇號
(警視總監宛
衛生局長通牒)

標記ノ件ニ付別紙ノ通り照覆致條候爲參考及通牒候也
警視總監照會大正五年一月二十一日
衛第二六號ノ二
本月十一日內務省四東衛第一一七〇號通牒申師ノ監督ノ下ニ
施術ヲ行フハ認可可然ト有之候處右ハ徒弟力師ノ指揮ニ依リ
施術ニ從事スル場合ヲ指稱セラレタルモノト思料致候得共當
管内ニハ按摩術營業者ノ徒弟ハ俗ニ流シト稱シ道路ヲ徘徊シテ
師ノ指揮ヲ待タス單獨ニ客ノ需ニ應スル者多數ヲ占ムルノ實
況ニテ從來無鑑札ノ故ヲ以テ告發セラレタル者ハ概シテ此ノ種
ノ者ニ有之候本件通牒ハ是等ヲモ包含シテ從業ヲ認ムルノ主旨
ニ有之候取扱上疑義相生シ候ニ付折返シ何分ノ回答相煩度
衛生局長回答大正五年二月三日
四、東衛第一一七〇號ノ内

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入商齒技及柔道整復術

本月二十二日付衛第二一六號ノ二ヲ以テ御照會ニ係ル按摩徒弟ニ關スル内務省四衛第一一七〇號通牒ノ趣旨ハ學校生徒又ハ當業者ノ徒弟カ師ノ監督ノ下ニ其ノ指定シタル被術者ニ對シテ施術ヲ爲ス場合ハ勿論然ラサルモ生徒又ハ徒弟タル證明書ヲ携帶シ技術練習ノ爲メ客ノ需ニ應スル場合モ亦師ノ監督ノ下ニアルモノトシテ容認相成可然但シ其ノ施術ノ範圍ハ健康者又ハ輕病者ノ慰安的按摩ニ限ラシメ候様教師又ハ當業者ニ嚴達相成度此段及回答候也

●按摩術營業取締規則中疑義ニ關スル件

大正十三年八月二十九日 衛醫第一〇七四號

長野縣知事照會 大正十三年八月七日 收第八一八二號

按摩術營業取締規則中左記ノ點ニ關シ取締上疑義相生シ候條至急御意見御示相成度此段及照會候也

一「按摩術營業取締規則第五條ノ二ノ營業者ハ脫臼又ハ骨折ノ患部ニ施術ヲ爲スコトヲ得ス但シ醫師ノ同意ヲ得タル病者ニ就テハ此限リニアラス」トノ規定ハ按摩術營業者ニ適用スヘキハ勿論ナルモ同法ニ依リ取締ヲナスヘキ柔道整復術營業者ニモ適用サルル義ナルヤ

●按摩術及鍼灸術營業取締ニ關スル件

大正十四年六月十九日 衛醫第八三九號

本件ニ付別紙ノ通山口縣へ回答候條爲御參考及通牒候 山口縣知事照會 大正十四年六月二日 衛醫第三四六〇號

標記營業者ニシテ鍼灸療院又ハ按摩療院ノ文字ヲ用ヒ標札或ハ旗類ヲ掲ケ居ルモノ有之候處右營業者ニシテ療院等ノ文字ヲ使用スルハ穩當ナラスト被認候へ共取締上聊カ疑義相生シ候條何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十四年六月十八日 衛醫第八三九號

六月二日衛第三四六〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件差支無之ト存候

宮城縣知事照會 大正十四年七月八日 衛醫第七六二六號

標記營業者ニシテ鍼灸療院等ノ文字ヲ用ヒ標札ヲ掲ケ居ルモノノ取締方ニ關シ山口縣知事ノ伺ニ對スル客月十九日付貴局衛醫第八三九號ヲ以テ差支無之旨回答シタル趣通牒有之候處管内ノ同業者ニシテ今回右ニ類似セル鍼灸科醫院ノ標札ヲ掲ケ居ルモノ有之本件モ略同様ニ付差支ナキ様ニモ解セラレ候モ一面ヨリ考フルトキハ恰モ醫師ノ開業場所ヲ表示セルモノニ紛ハシキモノニシテ本文字ヲ使用スルハ穩當ナラストモ被認取締上聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十四年七月二十四日 衛醫第二〇四四號

七月八日衛發第七六二六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件山口

縣知事へ回答候通御取扱相成度

●按摩術「マツサージ」術灸術營業取締ニ關スル件

大正十四年九月二十二日 衛醫第一〇九三號

標記ノ件ニ關シ宮城縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候條爲御參考及通牒候 宮城縣知事照會 大正十四年七月十七日 衛醫第七三一三號

管下ニ於テ標記營業ノ免許鑑札ヲ受ケス左ノ行爲ヲ爲ス者有之第二ノ行爲ハ明カニ單ナル按摩術「マツサージ」ト認メラレ第一ノ行爲モ亦一種ノ灸術無癩痕灸ト認メ得ラルルモ右ハ大正五年一月十三日付衛發第六號兵庫縣警察部長照會ニ對シ同十七日付衛生局醫務課長ノ回答ニ依レハ是等ノ施術モ灸術ト認ムヘキモノニ非スト思慮セラレ取締上聊カ疑義相生候條至急貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ第一ノ行爲ヲ灸術ト認メ難キモノナルトキハ灸治學等ニ於テ通常類別スル他ノ無癩痕灸ニ屬スルモノニ亦同一視シ（鍼灸術營業取締規則ニ於ケル灸術ト認ム）可ナルヤ併セテ御意見承知致度中添候

一、被術者タル患者ニ對シ著衣一枚ト爲サシメ更ニ患部ノ上ニ白紙ヲ敷キ其ノ白紙上ニ艾ヲ以テ製シタル太サ二分位ノモノニ火ヲ點シ患部ヲ轉々數十回打付クル方法即チ布片等ヲ隔テテ間接ニ温熱ヲ皮膚ニ與フル行爲

二、右行爲ニヨリ治療ノ効果ヲアラシムル爲メ其ノ施術前患部ニ電氣「マツサージ」ヲ施行スル行爲

衛生局長回答 大正十四年九月二十二日
衛醫第一〇九三號

七月十七日衛發第七三一三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件申第一八鍼術灸術營業取締規則ニ依リ取締ルヘク第二八同規則第七條ニ違反スルモノト存候

●按摩術營業者ハ電氣及吸引器乾角ノ類ヲ使用シ得ルヤ否ノ件

大正元年九月二十四日
衛英第一四號

茨城縣知事照會 大正元年九月六日
衛發第三〇號

鍼術灸術營業取締規則第七條ニ依レハ同營業者ニシテ電氣其他ノ外科手術等爲シ能ハサル規定有之候ハ按摩術營業取締規則ニハ同營業者ニ對シ右ニ關スル何等ノ規定無之是カ取締上聊カ疑義相生シ候條左記各項一應貴局ノ御意見承知致度此段及照會候

●按摩術營業ノ範圍ニ關スル件

大正八年十一月十四日
衛井第一五一號

福井縣知事照會 大正八年十一月五日
衛丙第二六五號

按摩術ヲ治療ニ應用スル場合ハ其ノ適應症ハ自ラ一定シ居ルヲ以テ醫學ニ關シ充分ノ智識ヲ有スルコトナキ同營業者ハ自己ノ獨斷ヲ以テ其ノ效果ニ付疑問アル或種ノ疾病ニ對シ施術スルカ如キハ場合ニ依リテ危險ヲ生スルモノナレハ固ヨリ相當ナラサル義ト存候ハ按摩術營業ニ對シテハ鍼術灸術營業取締規則第七條產婆規則第七條第八條看護規則第六條ノ規定ノ如ク業務ノ範圍ヲ制限シタル如何ナル疾病ニ對シテモ按摩術ヲ施行シ得ルモノト認メ差支ナキヤ現ニ左記ノ行爲モ按摩術ノ範圍ニ屬スルモノナリヤ聊カ疑義相生候ニ付一應貴局ノ御意見承知致度候條折返シ御回示相煩度此段問合候也

左記

一按摩術營業者カ免許アル產婆ト共ニ出産ノ場合ニ立會シ「マツサージ」ヲ爲シ胎兒ノ模様ヲ知ル爲陰部ニ指頭ヲ挿入シ又ハ胎兒カ母體ノ尿道口ヲ壓搾シタルトキハ之ヲ防止スル爲陰部ノ方ヨリ子宮ヲ押上ケ或ハ胎兒ノ位置ヲ誤レルモノヲ整正スル爲「マツサージ」ヲ施スコト

衛生局長回答 大正八年十一月十四日
衛井第一五一號

第一類 醫事 第四章 按摩術 鍼灸術、入齒齒技及柔道整復術

左記

一、按摩術營業者ニシテ電氣ヲ使用シ得ヘキヤ

二、同營業者ニシテ吸引器乾角ノ類ヲ使用シ得ヘキヤ

衛生局長回答 大正元年九月二十四日
衛英第一四號

本月六日付衛發第三〇號ヲ以テ按摩術營業者取締ニ關シ御照會相成候處右ハ貴縣ニ取締規則存在スルカ又ハ其行爲カ私爲營業ト認ムヘキ程度ニ達シタル場合ハ特別然ラサル場合ハ差支無之ト存候此段及回答候也

按摩及「マツサージ」術專業者ノ電氣使用ニ關スル件

大正十三年八月十日
衛醫第九三八號

香川縣知事照會 大正十三年七月一日
衛丙第二二六號

按摩者ハ「マツサージ」術專業者ニ對シテハ電氣使用ニ關シ何等ノ明文無之ヲ以テ電氣使用支障ナキモノナルヤ否疑義ヲ生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候

衛生局長回答 大正十三年八月十日
衛丙第九三八號

七月一日一三發衛第二二六號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件支障無之ト存候右及回答候

本月五日付衛丙第二六五號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會ノ處按摩術（マツサージ術ヲ含ム）營業者ハ一定方式ノ下ニ慰安又ハ醫療補助等ノ目的ヲ以テ身體ノ各部ニ按摩、按摩器等器械ノ施術ヲ行フモノニシテ其業務ノ範圍ハ一般ニ諒解セラレ居候ニ付鍼術灸術營業者、產婆又ハ看護婦ノ如ク往々其業務ノ範圍ヲ超越スルノ弊ナキモノト認メ該營業取締規則ニ於テハ特ニ其業務ノ範圍ヲ制限スルノ規定ヲ設ケサリシ次第ニ有之候就テハ現行規定ノ下ニ於テハ健者タルト病者タルトヲ問ハス一定ノ按摩方式ニ依リテ施術スルハ之ヲ妨ケサルモ御例示ノ如キ產婦ニ對シ胎兒ノ模様ヲ知ル爲陰部ニ指頭ヲ挿入シ又ハ胎兒ノ位置ヲ整正スル等ノ行爲ハ按摩術ノ範圍ニハ屬セサルモノト御承知相成度

●鍼術、灸術營業取締規則

明治四十四年八月十四日
內務省令第十一號

鍼術、灸術營業取締規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 鍼術又ハ灸術營業ヲ爲サムトスル者ハ試驗合格證書又ハ地方長官ノ指定シタル學校若ハ講習所ノ卒業證書ヲ添ヘ住所地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ倣フ）ニ願出テ免許證札ヲ受クヘシ

第二條 精神病者、傳染性ノ疾患アル者又ハ素行不良ト認めル者ニハ免許鑑札ヲ交付セサルモノトス
禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ免許鑑札ヲ交付セサルコトアルヘシ

第三條 鍼術又ハ灸術ノ試験ハ地方長官之ヲ舉行ス

試驗科目ハ左ノ如シ

一 人體ノ構造及主要器官ノ機能「竝筋ト神經脈管ノ關係」

二 身體各部ノ「刺鍼法又ハ灸點法並經穴及禁穴」

三 消毒法大意

四 「鍼術又ハ灸術」ノ實地

第四條 四箇年以上鍼術又ハ灸術ヲ修業シタル者ニ非サレハ試験ヲ受タルコトヲ得ス

第五條 鍼術ヲ施サムトスルトキハ鍼、手指及手術ノ局部ヲ消毒スヘシ

第六條 營業者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス流派名又ハ卒業シタル學校、講習所ノ名稱若ハ修業ノ證明ヲ與ヘタル教師ノ氏名ヲ除ク外業務上其ノ技能、施術方法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 鍼術又ハ灸術營業ハ瀉血、切開其ノ他外科手術ヲ行ヒ若ハ電氣、烙鐵ノ類ヲ用キ又ハ藥品ヲ投與シ若ハ之カ指

示ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 營業者其ノ住所地ヲ他ノ道府縣ニ移シタルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ添へ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ
前項ノ場合ニ於テ後ノ住所地ノ地方長官ハ其ノ旨ヲ前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第九條 營業者免許鑑札ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ住所地ノ地方長官ニ再下付ヲ願出ヘシ
族籍、氏名ニ變更ヲ生シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ事由ヲ記シ二十日以内ニ鑑札ヲ添へ地方長官ニ書換ヲ願出ヘシ

亡失シタル免許鑑札ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十條 營業者廢業シタルトキハ二十日以内ニ免許鑑札ヲ返納スヘシ若シ鑑札ヲ返納スルコト能ハサル事由アルトキハ其ノ事由ヲ届出ヘシ

第十一條 營業者第二條ニ該當シ又ハ業務上犯罪若ハ不正ノ行為アリタルトキハ住所地ノ地方長官ハ期日ヲ定メテ其ノ營業ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シ免許鑑札ヲ返納セシムルコトアルヘシ

本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖疾病治癒シ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許鑑札ヲ交付スルコトヲ得

第十二條 免許鑑札ヲ受ケスシテ營業ヲ爲シ若ハ停止中營業ヲ爲シタル者又ハ第六條第七條ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第八條第一項第九條又ハ第十條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前行政廳ニ於テ交付シタル免許鑑札其ノ他免許ノ證ハ本令ニ依リ交付シタル免許鑑札ト看做ス

●鍼灸術營業免許ニ關シ疑義ノ件

明治四十五年二月二十七日
衛生局長 衛井第一四號

福井縣知事照會 明治四十五年一月三十一日
鍼灸術營業取締規則第八條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ更ニ免許鑑札ヲ交付スヘキモノニ候哉若シ交付スヘキモノトセハ明治四十三年內務省令第十九號第一條ニ依リ免許手数料ヲ徵收シ得ヘキ哉又同則第九條第二項ニ依リ鑑札ヲ書換交付スル場合ハ再渡手数料ヲ徵收スルコトヲ得ヘキモノト思料候得共聊疑義相生シ候條至急何分ノ御回報相成度此段及照會候

●鍼灸術營業取締規則施行後廢業シタル者再免許ノ件

大正七年六月十七日
衛生局長 衛井第一七五號

受知縣知事照會 大正七年六月十一日
鍼灸術營業取締規則第二項ニ該當スル營業者ニシテ規則施行後一旦廢業シ再ヒ免許鑑札ヲ下附申請ヲ爲シタル者有之右ハ試験ヲ爲サス免許鑑札交付可然哉聊疑義有之候ニ付貴局ノ御意見至急御回答相煩ハシ度此段及照會候也

衛生局長 衛井第一七五號
本月十一日付衛取第三二五六號ヲ以テ御照會ニ係ル鍼灸術

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入商商技及柔道整復術

一九一

營業取締規則附則第二項該當ノ營業者ニシテ規則施行後一旦
廢業シ再ヒ免許證札ノ下付申請ヲ爲ス者ニ對シテハ試驗ヲ爲
サス免許證札ヲ御交付相成度

●灸術營業取締ニ關スル件

昭和三年八月二十四日
衛醫第九一八號

(內務省衛生局長ヨリ
各地方長官宛通牒)

灸術營業取締ニ關スル件
本件ニ關シ兵庫縣知事ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候條此段及
通牒候

(別紙)
衛發第三六九號

昭和三年八月九日

內務省衛生局長宛

兵庫縣知事

灸術營業取締ニ關スル件

管下ニ於テ標記營業免許ヲ受ケス部民ノ信仰心ヲ利用シ左ノ
行爲ヲ爲スモノ有之右類似行爲ニ付テハ大正五年一月十三日
付衛發第六號本縣警察部長照會ニ對シ同月十七日付衛生局醫
務課長ノ回答モ有之候得共取締上聊カ疑義相生シ候條至急貴
局ノ御意見承知致度關係書類及現品添付此段及照會候也

記

昭和五年六月二十一日

內務省衛生局長宛

靜岡縣知事

無料鍼灸施術ニ關スル件

右者ヨリ別紙添付寫ノ通上申書ヲ提出シ當管内ニ於テ施術
ヲナサントスルモノ有之候右行爲ハ當該取締規則ニ抵觸
セサルモノト思料スルモ未熟者カ受驗準備ノ目的ヲ以テス
ル施術ハ稍モスレハ危險ヲ伴ヒ易ク之レカ取締ニ關シ疑義
有之何分ノ御指示相仰度此段及照會候也

上申書

○鍼灸專門學院實習部

某警察署長宛

貴署管轄内某ハ本院經營ニ係ル鍼灸術教習所タル私設○
鍼灸專門學院ニ修學セシモノニシテ目下鍼灸、マツサージ
術ニ關スル學術研究中ノモノニ有之候
サレハ内規ニ依リ實地技術ヲ研修スル目的ニ於テ別添第一
號ノ施術證明書ニ關スル特別規定ニ準據シ無償ニテ研究施
術ヲナサシムルコトハ受驗準備ノ爲ナレハ何等鍼術マツサ
ージ術營業取締規則ニ抵觸スヘキモノニ非サルコトト考ヘ
ラレ申候御手數ヲ慮リ爲念此段上申候也

(別添略)

第二類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入商齒技及柔道整理術

一弘法大師御夢相傳藥草灸無料施術ヲナスノ名目ノ下ニ單ナ
ル紙片ヲ以テ製シタル藥草一本ヲ代八十錢ニテ賣付ケ別紙
廣告ノ通被施術者ノ着衣上ヨリ患部ニ紙折ヲ充テ藥草ニ火
ヲ點シ患部ヲ轉々數十回打付ケ紙布片ヲ隔テテ間接ニ溫熱
ヲ皮膚ニ與フル行爲
追テ別紙ハ御回答ノ節御返戻相成度申添候也「別紙省略」
衛醫第九一八號
昭和三年八月二十四日
兵庫縣知事宛
灸術營業取締ニ關スル件
八月九日衛發第三六九號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ省令
ニ所謂灸術ト認ムヘキモノニ無之ト存候

●無料鍼灸施術ニ關スル件

昭和五年八月十一日
衛醫第六八七號

(內務省衛生局長ヨリ
靜岡縣知事宛回答)

無料鍼灸施術ニ關スル件
六月二十一日衛發第五、六〇七號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候
處右ハ鍼灸術營業取締規則ノ趣旨ニ抵觸スルモノト存候
衛第五、六〇七號

●樺太廳ニ於テ交付セル鍼灸術
按摩術免許證札ニ關スル件

大正十二年十一月五日
衛醫第一九六號

北海道廳長官照會大正十二年十月十三日
樺太廳ニ於テ施行シタル產婆試驗合格者ハ產婆規則第一條第
一號ノ資格ヲ有スルヲ以テ產婆名簿登錄差支ナキ旨大正六年
一月十日東衛第一八號ヲ以テ東京府知事ニ對シ回答ノ次第モ
有之候處樺太ニ於テ交付シタル鍼灸術按摩術營業免許證ハ
明治四十四年八月內務省令第十一號鍼灸術營業取締規則第
一條又八同年同月內務省令第十號按摩術營業取締規則第一條
ニ所謂地方長官ノ免許證札ヲ受ケタル者トシテ取扱可然哉御
意見承知致度此段及照會候也
追テ樺太廳施行ノ鍼灸術又ハ按摩術試驗ニ合格シタル者
ハ地方長官ノ施行シタル試驗ニ合格シタル者トシテ免許證
札下付差支無之候條件ヲ御指示相成度
衛生局長回答大正十二年十一月五日
衛醫第一九六號
樺太廳ニ於テ交付シタル鍼灸術按摩術營業免許證ハ明治四
十四年內務省令第十一號鍼灸術營業取締規則第一條又八同
年內務省令第十號按摩術營業取締規則第一條ニ依リ受ケタル

免許鑑札トハ認メ難ク候條右御了知相成度

追テ禱太應施行ノ鍼灸術又ハ按摩術試驗ニ合格シタル者ニ付テモ本文ト同趣旨ニ御取扱相成度

●朝鮮ニ於ケル灸術營業免許ハ内務省令ニ依ル免許ト見做サ、ル件

大正五年九月八日 衛井第一三四號

福井縣知事照會 大正五年八月二十九日 衛甲第五二七號

朝鮮平安北道警察部長ヨリ交付セル灸術營業免許 (大正四年二月三日付)ヲ添付シ本縣内へ住所ヲ移轉營業致度旨届出タル者有之右ハ明治四十四年八月内務省令第十一號鍼灸術營業取締規則第一條ニ依リ免許シタルモノト見做シ同第八條ニ則リ其手續ヲ了シ差支無キモノナル哉疑義ヲ生シ候ニ付至急何分ノ御回報相煩度此段及照會候也

衛生局長回答 大正五年九月八日 衛井第一三四號

客月二十九日付衛甲第五二七號ヲ以テ御照會相成候朝鮮ニ於ケル灸術營業免許ハ明治四十四年八月内務省令第十一號鍼灸術營業取締規則第一條ニ依ル免許ト見做シ難ク候條左様御承知相成度

●鍼灸術營業者力電氣應用及「マツサージ」術等ノ施行ニ關スル件

明治四十四年九月二十六日 衛形第七二號

山形縣知事照會 明治四十四年七月十二日 衛形第七二號

鍼灸術營業者ニシテ病症ニ應シ患者ノ求メアルトキハ電氣ヲ應用シ「マツサージ」術ヲ施行スルハ非醫師ノ行爲トシテ醫師法第十一條ニ該當スル違犯行爲ニアラサルヤ又東京盲啞學校ニ於テハ本法使用ノ方法ヲ教授致シ居ル趣相聞ヘ就テハ此等卒業者ニ於テ右施行ヲ行フハ差支ナキ趣意ナルヤ差懸リタル件有之候條御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答 明治四十四年九月二十六日 衛形第七二號

七月十二日附收衛形第一七六四號ノ一ヲ以テ鍼灸術營業者ニシテ電氣應用マツサージ術施行其他ノ件ニ付御照會ノ趣了承鍼灸術營業者ニ關シテハ明治四十四年八月十四日發布内務省令第十一號鍼灸術營業取締規則第七條ニ禁止規定有之候條右御参照ノ上相當御取締相成度尙按摩業者力按摩術(マツサージ術ヲ含ム)ニ電氣ヲ應用スルハ差支無之候條右御了知相成度此段及回答候也

●鍼灸術營業者ハ營業上電氣ヲ使用スヘカラサル件

大正九年三月十日 衛香第四六號

香川縣知事照會 大正九年三月五日 衛香第一一四號

鍼灸術營業取締規則第七條中ニ營業者ハ營業上電氣又ハ烙鐵ノ類ヲ用ユ可ラサル旨ノ規定アリテ取締上一見明瞭ナルカ如キモ別紙日本鍼灸術雜誌掲載ニ係ル抜萃ノ如キ鍼灸術營業上ト雖方法ノ如何ニ依リテハ敢テ電氣ヲ使用スルモ同營業取締規則ニ抵觸スルモノニアラスト意外ノ見解ヲ試ミルモノアリテ取締上ノ統一ヲ缺ク虞アリ候條何分ノ御回答相成度(別紙日本鍼灸雜誌抜萃略)

衛生局長回答 大正九年三月十日 衛香第四六號

本月五日付衛第一一四號ヲ以テ標記ノ御照會ノ處鍼灸術營業者ハ營業上電氣ヲ使用シ得サルハ規則第七條規定ノ通ニシテ日本鍼灸雜誌記載ノ如キ回答ヲ爲シタル事無之候條御了知相成度

●鍼灸術營業者ノ電氣使用上ニ關スル疑義ノ件

第一類 醫事 第四章

按摩術、鍼灸術、入歯齒技及柔道整復術

大正十一年二月十四日 衛醫第一六一號

福岡縣知事照會 大正十一年一月三十一日 衛發第一一六二號

鍼灸術營業取締規則第七條ニ於テ該營業者力電氣使用ヲ禁止シタルヲ以テ警察官署ニ於テ之カ違反者ヲ檢舉シ檢事ニ送致セシニ被告人ハ電氣ヲ使用シタルハ事實ナルモ鍼灸ニ併用シタルニアラスシテ鍼灸術營業ヲ離レテ電氣治療ヲ施シタルニ過キスト答辯シ別冊電氣療法開業心得書ナルモノヲ提出セリ同書中ニ東京盲啞學校長町田則文カ内務當局ニ問合せタル回答ナルモノハ刺鍼中之ニ導線ヲ接觸通電スルニアラサレハ差支ナシトノ意見ナリシ旨記載アリ之カ處分上疑義相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十一年二月十四日 衛醫第一六一號

衛發第一一六二號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處右ハ曾テ盲啞學校長ノ問答ニ對シ按摩術ニ付テハ取締規則中何等ノ禁止規定ナキヲ以テ電氣ヲ應用スルモ妨ケサル旨申述ヘタルコトアルモ鍼灸ニ付テハ取締規則第七條ニ禁止規定アルヲ以テ「刺鍼中之ニ導線ヲ接觸通電スルニ非サレハ差支ナキ旨」回答シタルコト無之候

追テ電氣療法其ノ他醫療類似業者ニ對スル取締ニ付テハ目

下審議中ニ有之候得共公衆衛生上果シテ危害ヲ及スカ如キ事實アラハ爲參考御報告相煩度

愛媛縣知事照會 大正十一年三月八日 衛第六四六號

鍼灸術營業者ニ對シテハ同取締規則第七條ニ依リ電氣ノ使用ヲ禁セラレ居候處東京育學校長町田則文ハ内務省ハ伺出ノ結果同條ニ於テ電氣ノ使用ヲ禁セラレタルハ絕對的ノモノニ非ス施灸若クハ刺鍼中同時ニ電氣ヲ身體ニ通スル事ヲ禁セラレタルニ過キサルヲ以テ施術以外ノ場合ニ於テ單ニ電氣ノミヲ使用スルハ差支ナシトノ回答ヲ得東京電氣療法研究所ニ於テ内務省ヘ届出ノ上地方鍼灸術營業者ニ對シテ之カ技術ノ教授ヲ爲シ電氣療法兼業ヲ勸誘シツツアル趣ニ有之且ツ同所ニ於テハ電氣治療ヲ會員組織トシ入會金費電氣消耗料、器械損料ヲ徴シテ會員ヲ募集施術ヲ行ヒツツアリテ實際ニ於テハ一般ニ鍼灸術營業者カ電氣治療ヲ施シツツアル趣ニ有之取締規則ノ精神ニ反スルモノト思料候處本縣ニ於テモ鍼灸術營業者カ前記會員組織ノ方法ヲ以テ電氣療法兼業ノ希望ヲ有スルモノ有之候條貴官ノ御意見承知致度此段及照會候也
衛生局長回答 大正十一年三月十五日 衛第三三三號
衛第六四六號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處右ハ曾テ東京育學校長ノ問合ニ對シ按摩術ニ付テハ取締規則中何等ノ禁止規

定ナキヲ以テ乾電氣ヲ應用スルモ妨ケサル旨申述ヘタルコトアルモ鍼灸ニ付テハ取締規則第七條ニ禁止規定アルヲ以テ之ヲ行フモ差支ナキ旨回答シタルコト無之又東京電氣療法研究所ニ於テ當省ヘ届出ノ上……電氣療法ヲ勸誘シツツアル趣云々トアルモ右ハ惟フニ出版法ノ規定ニ依ル單ニ出版ノ届出ナルヘク當局ニ於テ之カ行爲ヲ是認シタル次第ニハ無之候果シテ御照會ノ通名ヲ會員組織ニ藉リ事實上公衆ニ對シ電氣治療ヲ施スカ如キハ明カニ規則第七條ノ違反ト被認候條相當御取締相成度

大正十三年七月五日 衛第五八四號

(各地方長官宛) 衛生局長通牒

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通廣島縣ト照覆致候條爲御參考及通牒候
廣島縣知事照會 大正十三年四月十八日 衛第三三九〇號
鍼灸術營業者ハ按摩術ヲ兼業セル以上如何ナル場合ニ於テモ電氣ヲ使用スルコトヲ得サルモノト解セラレサルニアラサルモ斯クテハ大正元年九月茨城縣知事照會ニ對スル貴局ノ回答ニ依リ按摩術營業者ハ其縣ニ取締規則存在スルカ又ハ其ノ行爲カ私爲醫業ト認ムヘキ程度ニ達セサル場合ニハ電氣ヲ使用スルモ差支ナキコトナリ居リ其ノ結果按摩術ノミノ營業者ハ或程度迄電氣ヲ使用シ得ルモ鍼灸術ヲ兼業スルカ爲ニ如何ナル場合ト雖モ電氣ヲ使用シ得サルモノトセハ該營業者ノ蒙ル打撃抄ナカラサルモノ、如ク被認且ツ現在ニ於テハ三營業又ハ二營業ヲ兼業スル者大部分ナリ依テ兼業者カ單ニ按摩行爲ヲナス場合ニアリテハ差支ナシト認メテ可ナルヤ
衛生局長回答 大正十三年十二月九日 衛第五八四號

一 鍼灸術營業者ニシテ按摩術ヲ兼業セル者
二 電氣浴室ヲ使用スル者
三 鍼灸術ノ施術ニ關セシテ電氣ヲ使用スルモノ
衛生局長回答 大正十三年五月二十一日 衛第五八四號
四月十八日衛第三三九〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件鍼灸術營業者ハ何レノ場合ニ於テモ(按摩術ヲ兼業スル場合モ)電氣ヲ用キルコトヲ得サル義ト存候右及回答候

大正十三年十二月十二日 衛第五八四號

(各地方長官宛) 衛生局長通牒

標記ノ件ニ關シ兵庫縣ト別紙ノ通照覆致候條爲御參考及通牒候也

兵庫縣知事照會 大正十三年七月五日 衛第六〇〇號

標記ノ件ニ關シ大正十三年四月十八日廣島縣知事ノ伺ニ對シ同年五月二十一日衛第五八四號御回答ノ趣旨中左記ノ點疑義生シ候條貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

記

一 鍼灸術營業者ニシテ按摩術ヲ兼業セル場合ニ於テ其ノ營業者カ按摩術ノミノ單獨營業ヲナス場合モ尙ホ電氣ヲ使用スルコトヲ得サルモノナリヤ御回答ノ趣旨ニ依レハ鍼灸術

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入商術及柔道整復術

衛生局長回答 大正十三年十二月九日 衛第五八四號
本件ニ付七月五日衛發第二六〇號ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ鍼灸術ニ關スルモノニ限り候間此段御了知相成度
追テ鍼灸術ニ關シ電氣ヲ使用スル場合トハ必スシモ施灸又ハ刺鍼中同時ニ電氣ヲ身體ニ通スル場合ニ限ラス荷モ治療上施灸又ハ刺鍼ト關聯シテ電氣ヲ使用スル場合ハ、之ヲ包含スル義ニシテ大正十三年五月二十一日付衛發第五八四號ヲ以テ廣島縣知事ニ回答シタルモノモ右趣旨ニ外ナラ

サル次第ニ候條按摩術營業ヲ兼スル鍼灸術營業業者等ニシテ電氣ヲ使用スル者ニ對シテハ其ノ施術ノ實狀ニ依リ充分御取締相成度

●電氣治療取締ニ關スル疑義ノ件

大正十一年四月二十八日
衛醫第五六三號

兵庫縣知事照會 大正十一年四月十七日
衛發第一一八號

近時管下神戸市内理髮營業業者等ニ於テ大阪市東區高麗橋東詰東田商會ノ發賣ニ係ル電氣器具「リードビー」ト命名セル一種ノ電氣應用機械(詳細ハ別紙添付ノ紫光線新報記載ノ通り)ヲ購入シテ店頭ニ据置キ自家用電燈ノ電流ヲ機械ニ接続シ一般公衆ノ需ニ應シ一回金拾五錢乃至貳拾錢ノ料金ヲ得テ疾病ノ治療類似行爲ヲナスモノアルモ醫師ノ如ク被治療者ヲ診斷シテ治療スルモノニアラス唯單ニ治療者ハ被治療者ノ指示スル患部ニ前記ノ機械ヲ接觸セシムルニ過キササルヲ以テ純然タル醫療行爲トモ認メラレス而シテ斯ノ種ノ機械ハ被治療者ノ體質ニ適合スル電流ヲ調節スルノ裝置アルカ故ニ其ノ使用方法ヲ誤リ又ハ機械ノ破損セサル限リハ危險ノ虞ナキモノト思ハルモ前記ノ如ク公衆ノ需ニ應シ一定ノ料金ヲ得ル治療行爲ハ種々ノ弊害ヲ醸成シツ、アル關係上之ヲ等閑ニ附スル能ハス又

同種類ノ機械ニシテ浴場ニ使用スル目的ヲ以テ巷間ニ販賣スルモノアリ該機ハ前記同様電燈々用ノ電流ヲ利用シ其電流ヲ機械ノ作用ニ依リ百「ボルト」ノモノヲ初メ二十「ボルト」ニ落シ以テ一「ボルト」乃至一〇「ボルト」ニ變化セシムルノ裝置アリ其變化セシメタル電流ヲ金網線ニテ適宜浴槽ニ透導シ諸種ノ疾病治療ニ用ヒントスルモノナルカスノ如キ電氣治療ノ件ニ關シテハ明治三十六年九月十五日岐阜縣ノ質疑ニ對スル貴局ノ回答ニ電氣治療ノ如キハ未タ醫業ノ體ヲ爲サ、ルヲ以テ之ヲ行フモ直チニ醫師法違反トハ難認候ヘ共之等醫業類似者ノ取締ニ關シテハ目下論議中ニ付キ左様御承知相成度トアルモ之ヲ取締ルヘキ何等ノ規則ナク之カ弊害ノ豫防却ニ關シ甚敷支障ヲ感スルノミナラス現ニ前記電氣風呂ノ如キハ湯屋營業者カ之ヲ營業ニ使用セントテ認可ヲ願出ツル向アルモ之カ許否ヲ決スル標準無之候ニ付テハ以上ニ關スル取締上ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十一年四月二十八日
衛發第一一八號

衛發第一一八號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處電氣治療ノ如キハ未タ醫業ノ體ヲ爲ササルヲ以テ之ヲ行フモ直チニ醫師法違反トハ難認候得共此等業者ノ取締ニ關シテハ其ノ必要ヲ認メ目下論議中ニ有之候條右御了知相成度

●透熱酸素灸療器使用ニ關スル件

大正十四年四月二十五日
衛醫第四八九號

熊本縣知事照會 大正十四年三月十二日
衛發第二〇九二號

管下鍼灸術營業業者ニシテ添付説明書記載ノ標記灸療器使用伺出ノ者有之候處右ハ鍼灸術營業取締規則第七條中烙鐵ノ類ニ包含セラル、カ又ハ醫術ノ範圍ニ屬スヘキモノニハアラサルカト存セラレ取締上聊カ疑義相生シ候條至急貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

(追書略)

別紙

透熱酸素灸療器説明書

透熱酸素灸療器

今回東京彌生商會理學療法研究所ニ於テ新ニ發見サレタル透熱酸素灸療器ハ日本人ノ體質ニ最モ適合スル灸療器デアリマズ大正九年六月八日畏レ多クモ日本赤十字社總裁閣院宮殿下ヨリ本器ニ對シ名譽ノ大杯ヲ下賜セラレタルモノニシテ人體ニ最モ必要トスル攝氏七十度強ノ蒸氣熱ヲ肉體ト血管ニ送り其ノ美妙ナル作用ト反應ニ依リテ諸病ヲ根本的治療ノ目的ヲ達セシム、事ヲ得是迄醫師ヤ藥ヲ施ラナカツタ難病モ本器ノ確實ナル靈效ニ依リテ根治スル事カ出來マスカラ各専門家ノ

好評噴々タルモノデアリマス

透熱酸素灸療器ノ真髓

灸療ハ昔ヨリ行ハレテアル透熱療法テ有リマスカ苦痛ノ大ナル事ト火傷痕ノ殘ル事ハ所謂現代人ノ享樂主義トハ相容レナイノテ有リマス然ルニ「オーエツチヘーラー」ハ灸ノ缺點ヲ捨テ去ツテ其ノ中ノ最モ粹トスル透熱作用ノ有效部分ノミヲ採擇シ之レニ酸素灸療法ヲ加味シテ最モ理想的灸療器デアリマス

透熱酸素灸療器ハ使用携帯共ニ便利ニシテ一般灸治家ノ治療器トシテハ如何ナル灸療器ト雖匹敵スル事カ出來スト云フ誇ヲ持テ居リマス

理論カラ言フテモ高熱ヲ體內ニ浸透セシメテ血行ヲ促セハ白血球ノ噬菌作用ヲ助長シ病毒驅除ノ排泄作用ヲ旺盛ナラシムル者デアリマス

又透熱ノ結果體溫ヲ上昇セシムルコトハ溫泉浴ヲ凌駕スル位デアリマシテ透熱酸素灸療器ノ特色トスル所デアリマス實驗上普通二十分位ノ治療ニテ體溫七八分乃至一度位上騰シマス夫レタケ體內ノ噬菌作用ト新陳代謝機能ヲ増大ナラシムル事トナルノデアリマス

攝氏五十度位ノ溫度ヲ與ヘルト淋毒菌ノ如キハ直ニ死滅スルモノテ他ノ強力ナル菌モ血液内ニ七十度内外ノ熱ヲ受タレハ

白血球ノ力ニ依リテ死滅スルモノテアリマス

本灸療器ノ治療ノ特徴

一、患者ノ任意ニ透熱ヲ加減シテ而モ透熱療法中最モ高熱ナル灸ノ如キ高熱ヲ與ヘル事カ出來ル從ツテ白血球ヲ増殖、殺菌作用、新陳代謝ノ完全ヲ期スル事カ他ノ療器ヨリモ優レテ居リマス

二、適宜刺戟ヲ大ナラシメル事ヲ得ルカ故ニ神經ノ反射運動ヲ利用シテ治療スル事カ出來マス例ヘバ面疔ナドニハ現代醫術デハ切開シテ傷跡ヲ顔ニ殘スヨリ他ニ方法ガナイガ手ノ合谷ニ灸シテ面疔ガ治リ足ノ三里ニ灸シテ脚氣ガ治ルガ如キハ凡テ神經ノ反射作用ニ依リ治療スルモノニシテ眼ノ瞼ハントスル危險ガ有レバ腦ノ指揮ヲ受ケズシテマブタガ直ニ閉テ目ヲ保護スル神經反射作用ト同ジ

三、他ノ療器ニ比シテ充血部ヲ大ニシテ多量ノ血液ニ透熱シ得且ツ高熱ヲ與フル事ガ出來マス

四、バイ菌性皮膚病ナドニハ高熱ナル透熱ヲ爲メ直ニ治療スルモノニシテ他器ヲ凌駕スル所以デアリマス

五、施術後三四時間位ハ身體ニ温サヲ感ズル程透熱作用ノ強大ナル事ガ特徴デアツテ治療ノ效果モ抑シテ知ルベシデアリマス

タガ透熱灸療器理想ニ近イモノハ無イト云フノ意々當商會デ發賣致シタノデアリマス何卒本器ノ趣旨ヲ御高覽ノ上御試用御高評ヲ賜ラン事ヲ乞フ

透熱灸療器使用法

蒸氣ガ出始メレバ治療器ハ何時モ七十度強ノ溫度ヲ保チ是レヲ治療點ニ當テル時ハ皮膚ハ愉快ナル熱ヲ感ジツツ漸次身體ノ内部ニ透テ行キマス

而シテ三十秒位當テ居ル時ハ皮膚ニ強度ノ熱ヲ感ジ耐テ居ラザル迄ニ至ルベシ其ノ時ハ一寸治療器ヲ離シテ再度御當テ下サイ如是シテ五六回位反覆シ居ル中ニ身體ハ次第ニ爽快ノ氣持トナリ諸病ヲ根本的治療スル事ガ出來マス尙治療法ニ就キテ簡單ニ申シマスレバ一日ニ二回又ハ三回加療致シマス時間ハ一回二十分以内デ充分デス而シテ同所ニ一回五度乃至八度位治療器ノ突起部ヲ經穴ニ接觸反覆シテ熱サヲ感ズルヲ以テ程度ト致シマス

炎症又ハ充血ニハ治療器ヲ患部ノ周圍ニ當テナサイ、サスレバ其ノ患部ノ血管ヲ擴張シテ血液ヲ誘導シマスカラ炎症ハ消失シテ了ヒ充血ハ血路ヲ開カレタ理屈デ散失シテ了フノデアリマス

本器ニテ全快スル諸病

口腔病、呼吸器病、腫病、小兒病、眼病、婦人病、皮膚病、

消化器病、新陳代謝器、花柳病、全身病、美容其他諸病

衛生局長回答 大正十四年四月二十五日

衛醫第四八九號

三月十二日衛第二〇九二號ヲ以テ照會ニ係ル標記ノ件使用差支無之ト存候

●湯屋營業ニ於テ電氣治療ヲ爲ス者ノ取締方

大正十三年六月三十日

衛醫第八九六號

新潟縣知事照會 大正十三年二月二十八日

衛醫第一二四一號

管下新潟市内湯屋營業者ニ於テ大阪市兒玉電氣工業製作所發賣ノ電氣治療器「ハイフレクナー」ト稱スル(別紙明細書添付)電氣應用機械ヲ白湯浴槽ニ設置シ浴客ノ求メニ應ジ自在ニ調節加減送電シ得ルモノヲ使用方許可願出有之候處之レカ許否ヲ決スル標準無之ニ付テハ取締上ノ御意見承知致度此段及照會候也

追テ別紙添付書類御用濟ノ上ハ至急御返送相成度申添候

(添付書類等略ス)

衛生局長回答 大正十三年三月三十日

衛醫第八九六號

二月二十八日衛第一二四一號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ニ就テハ別段取締規定無之候條若シ放任シ弊害有之見込ニ候ヘ

ハ貴縣ニ於テ可然御取締相成度

●灸術ニ關スル件

大正二年七月二十一日

衛三第八三號

三重縣知事照會 大正二年七月十六日

衛醫第四四七九號ノ二

本縣灸術營業者ニシテ左記方法ニ依リ施術致度旨申出候者有之候ニ付テハ元來灸術トハ局部ニ對テ艾ニ火ヲ點シ施術スルモノニテ左記方法ノ如キハ灸術ト認ムヘキモノニ無之ト存候得共聊カ疑義ヲ生シ候條至急何分ノ御意見承り度相伺候也

記

一 京都市(町名不詳)灸術營業者加藤茂太郎ナル者ノ發明ニ係ル別紙略圖ノ如キ器具ヲ以テ施術スルモノ

一 水灸

一 劑ノ量

樟 精 三十瓦 芥子油 十瓦

メントール 一瓦

以上三味調合シ硝子器ニ容レ平素ハ密封シ揮發ヲ防ク

從來ノ有癩灸術即チ艾葉ヲ利用シ火ヲ點スル方法ノ如ク本液ヲ筆ニ浸シ灸穴ニ點スルモノニテ直接皮膚ニ接觸セシメ

強度又ハ適度ノ刺激ヲ與ヘ以テ灸術ニ於ケル特異ノ作用ヲ發セシムルニアリ

(別紙略ス)

衛生局長回答 大正二年七月二十二日 衛醫第三八三號

七月十六日附衛收第四四七九號ヲ以テ灸術ニ關シ御照會相成候處右ハ御意見ノ通ト御承知相成度

●灸術營業者取締ニ關スル件

大正十年十月二十八日 衛醫第七八九號

京都府知事照會 大正十年六月十七日 衛第六三八四號

京都市上京區川端通二條南入孫橋三〇番地加藤幾太郎發明ニ係ル左記特許器ヲ使用シ施スル行爲ハ機械的療法ニ屬スルヲ以テ灸術トシテ之ヲ認メ難ク從テ此種行爲ハ醫師法違反ニハアラサルヲ將又灸術トシテ認メ取締上差支ナキヤ尙左記「無痕灸治器」ニアリテハ鍼灸術營業取締規則第七條ニ所謂烙鐵類似ノモノニハ無之哉取締上彼此疑義相生候條何分ノ御意見承り度此段相伺候也

左記

一 加藤式溫性電法器(明治四十四年七月十五日特許第二〇三四八號)

二 加藤式無痕灸治器(大正二年十一月十八日特許第二〇九六四號)

衛生局長回答 大正十年十月二十八日 衛醫第七八九號

標記ノ件ニ關シ大正十年六月十七日衛第六三八四號ヲ以テ御照會ノ趣了承明治四十四年內務省令第四十四號鍼灸術營業取締規則ニ所謂灸術トハ病狀ニ應シ一定ノ經穴又ハ皮膚ノ一定點ニ灼灸スヘキ部位ヲ指示シ又ハ其ノ部位ニ艾ヲ點シテ焦灼スル施術ヲ謂フモノニ有之從テ加藤幾太郎ノ發明ニ係ル溫性電法器ハ勿論無痕灸治器ヲ使用スル施術モ之ヲ右省令ノ灸術トシテ難認候ヘ共法令ノ規定ニ抵觸セサル限リ灸術營業者ニ於テ該特許器ヲ使用スルハ放任相成可然ト存候
追テ無痕灸治器ハ省令第七條ニ所謂烙鐵ノ類ニモ該當セス又單ニ兩種特許器ヲ局部ニ使用スルニ止ル行爲ハ直ニ醫業トモ難認ト存候條此段申添候

●無痕灸ノ水灸ハ灸術ト認ムルヤ否ニ關スル件

大正五年一月十七日 衛生局長回答

兵庫縣警察部長照會 大正五年一月十三日 衛第六號
明治四十四年內務省令第十一號鍼灸術、灸術營業取締規則ニ於

ケル灸術中ニハ灸治學ニ於テ種別セル灸ノ種類中ノ無痕灸ニ屬スル水灸墨灸漆灸等ノ類ヲ包含シ居ルモノト解釋シ差支無之候哉右ハ目下神戸地方裁判所ニ於テ審理中ニ係ル該取締規則違反事件有之右灸術ノ範圍ニ付決定ヲ要スル儀有之候ヘ共聊カ疑義相生シ候ニ付貴局ノ御意見至急承知致度此段及照會候也

追テ御回答ハ電報相成度申添候

衛生局醫務課長回答 大正五年一月十日

無痕灸ニ屬スル水灸等ノ類ハ灸術ト認メ難シ

●按摩術及鍼灸術營業者ノ廣告

二 關スル件

大正十三年二月一日 一二衛醫第六五七號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

標記ノ件ニ付別紙ノ通島根縣ト照覆致候間爲參考及通牒候鳥根縣知事照會 大正十二年十二月二十二日 衛第六四九五號

無痕灸ノ水灸並加藤式溫性電法器等ノ施灸其ノ他ノ件ニ關シテハ大正五年一月十三日衛發第六號及大正十年十月二十八日衛醫第七八九號ヲ以テ兵庫京都兩府縣知事ノ照會ニ對シ御回答ノ次第有之候處今回警視廳免許灸術營業者大谷國藏ハ管

下松江市寺町龍昌寺内ニ出張所ヲ設置シ延命大師堂灸點部ノ廣告ノ如ク左記要領ノ廣告物中病名列記ノ點ハ鍼灸術營業取締規則第六條ノ技能ト認メ取締ルヘキモノト思料セラレ候得共聊カ疑義相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

(廣告文略)

衛生局長回答 大正十三年二月一日 一二衛醫第六五七號

十二月二十二日衛第六四九五號ヲ以テ御照會ニ係ハル標記ノ件ハ技能ニ關スル廣告ト認メ難候條右御了知相成度

大正十三年五月五日 衛醫第五三二號

(各地方長官宛 衛生局長通牒)

標記ノ件ニ關シ大阪府ト照覆致候條此段及通牒候也

大阪府知事照會 大正十三年四月十二日 衛第三七六七號

今般管下九條警察署長ヨリ按摩術及鍼灸術營業者ノ業務上ナシタル左記ノ廣告ニ關シ各取締規則第五條又ハ第六條ニ該當スヘキモノナルヤ否ニ關シ解釋上疑義有之趣ヲ以テ指揮相受ケタキ旨稟議越候處該廣告中第一項ニ付キテハ糞ニ衛醫第六五七號貴局御通牒ノ灸術營業者ノ廣告ノ場合ト同シク單ニ病名ヲ列舉シタルニ過キサルヲ以テ通牒ノ御趣旨ニ依リ支障ナキモノト認メラルルモ第二項ノ(治る病あらし)等ノ文言

ノ如キハ特定ノ疾病ニ對シテハ自己ノ得意トスル疾病ヲ表示スルハ明ニ技能ニ關スル廣告ヲナスモノト謂ヒ得ヘク當然取締ヲナスヘキモノト解セラルルモ翻テ義ニ支障ナシトセラレタル病名列舉ノ廣告ニ付兩者ヲ比較考察スルニ病名ノ列舉モ亦營業者カ自己ノ専門トスル特定ノ疾病ヲ表示シタルモノナルカ故ニ廣告揭示ノ主旨ニ於テ兩者選ム處ナク又其效果影響ニ於テ異ナル所ナシ然モ病名列舉ニ關シテハ支障ナキモノトシテ取扱ヘルニ反シ後者ニ對シ該規定ヲ適用スルハ如何ト思料セラルルモ若シ如斯ニシテ漸次如此廣告ヲ看過スルニ於テハ規則存在ノ主旨ヲ没却スルニ到ルヘク取締上疑義不尠又第三項ノ理學的療治法或ハ理學的應用等ノ文言ハ之レ亦施術ノ手段方法ニ關スルモノニシテ明ニ取締規則ニ所謂施術ノ方法ニ該當スルモノト解セラレ當然取締ヲナスモノト被認ルルモ聊カ疑義相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

第一 廣告ノ要領

- 第一 イ、脚氣子宮病胃病神經痛
- ロ、かんのぼせ肺病子宮かつけ
- 第二 イ、治る病のあらまし(鍼灸)
- かんむしよなき

第三

イ、理學的療治法 はり専門
 ロ、理學的應用 あんま、あんふく

衛生局長回答 大正十三年五月五日
 醫務第五三三號

四月十二日衛第三七六七號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件第一及第二ハ規則ニ抵觸セス第三ハ施術方法ニ關スル廣告ト存候右及御回答候

福島縣知事照會 大正十三年九月八日
 衛收第一〇〇一二號

鍼灸術營業者ニシテ左記ノ如キ表示ヲ爲シタル者アリ單ニ名稱トノミ見レハ差支ナキカ如クナルモ理學療治ノ名稱ハ施術方法ヲ表ハシタルモノト被考取締上聊カ疑義相生シ候條何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

記

一、達南理學院
 衛生局長回答 大正十三年十月一日
 衛醫第一二〇八號

九月八日衛收第一〇〇一二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件名ハ第六條ニ違反スルモノト被存候

長崎縣知事照會 大正十四年六月二十九日
 衛第二五四七號

管下南高來郡愛野村鍼灸術營業者宇和川義瑞ナルモノ中風豫防灸ナルモノヲ施術シ別紙添付ノ保險契約證ヲ交付シ居ルモノナルカ同人カ配付シタル鍼灸適應症ニ就テノ末尾朱線ヲ引キタル點ハ鍼灸術營業者取締規則第六條ノ技能ト認メ取締ルヘキモノト思料セラレ候得共聊カ疑義相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

(別紙保險契約證略)

鍼灸適應症 (朱線ノ點)

中略……………兎に角一應診せて貰ひますれば一言も聞きませずして病名を付けます……………
 自分ノ手に及ばざる病には手を下しません
 尙中風素質即ち肥滿大酒家血統の人には豫防灸と申して一代保險契約の上施灸致します
 一度灸を終れば其人一代中風ノ發らぬ事確實であります
 衛生局長回答 大正十四年七月六日
 衛醫第九八三號

六月二十九日衛第二五四七號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件規則第六條ニ違反スルモノト存候

大正十五年二月十九日
 一四衛醫第一七四〇號

(廳府縣長官宛)
 衛生局長通牒

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒拔及柔道整復術

鍼灸術營業者ノ廣告ニ關スル件

本件ニ付北海道廳長官ノ照會ニ對シ別紙ノ通回答候間爲御參考及通牒候

北海道廳長官照會 大正十五年二月十九日
 衛醫第二八〇八號

鍼灸術營業者ノ廣告ニ關スル件

鍼灸術營業者ニシテ左記廣告ヲ爲スハ穩當ナラスト思料セラレ候得共一應貴局ノ御意見承知致度及照會候也

記

一、鍼灸科醫院

衛生局長回答 大正十五年二月十九日
 衛醫第一七四〇號

鍼灸術營業者ノ廣告ニ關スル件

客年十二月七日警衛第二八〇號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ穩當ナラサルモ規則違反トハ認メラレス
 右及御回答候

●入齒齒拔口中療治接骨營業者取締方

明治十八年三月二十三日
 內務省警甲第七號

府縣

入齒齒拔口中療治接骨等之營業者ハ明治十六年十月第三十四

號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此ノ際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相違候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文之手續ヲ爲スニ及ハス

●入齒、齒抜ノ免許ニ關スル件

明治四十三年七月二十二日
衛生局長官宛
衛生第一四四號

(各地方長官宛)

入齒、齒抜免許ニ關スル件ニ付左記ノ通神奈川縣知事照會ニ對シ回答候條爲御参考此段及通知候也

神奈川縣知事照會 明治四十三年七月一日
中丙檢收第七六二九號ノ内

明治十八年三月内務省達甲第七號ニ依リ爾後醫術開業試驗ヲ經ルニアラサレハ新規免許スヘカラサル義ニ有之候處明治三十年韓國ニ渡航シ平壤又ハ京城ニ於テ該營業ニ從事シ明治四十一年中歸朝シ警視廳ノ免許ヲ得テ該營業ヲ營ミ今般本縣内ニ轉住シ免許出願セル者有之調査スルニ本人ハ明治三十三年十月生ノ婦人ニシテ明治十九年中新潟縣ノ許可ヲ得テ同縣ニ於テ該營業ヲ開始シタルノ履歷書添付アルヲ以テ同縣ニ對シ免許ノ事實取調方照會セルニ然ル事實ナキ旨回答有之尙警視廳ニ於テハ韓國京城理事廳ノ免許證ヲ謄認シテ免許ヲ與ヘタル趣ニ有

之右ハ假令韓國ニ於テ免許シタル事實アルモ本邦内地ニ於テ之ヲ謄認シテ免許スヘキモノニ無之ト被存ル貴局ノ御意見承知致度此段及照會候也

道テ明治十九年即チ前記貴省達以後ニシテ本人年齡十六歳ノ年少時ニ該營業ヲ開始云々トアルヲ以テ尠シク疑ハシキ點アリ依テ其旨併テ新潟縣ヘ照會シタル義ニ付申添候
衛生局長官宛 明治四十三年七月二十二日
衛生第一四四號

本月一日附申丙衛收第七六二九號ノ内ヲ以テ入齒、齒抜免許ニ關シ照會相成候處右ハ御意見ノ通免許ヲ與フヘキモノニ無之ト被存候條御承知相成度此段及回答候也

●整骨科醫師ノ治療範圍ニ關スル件

明治三十五年十月九日
衛生第一〇五九六號

大津區裁判所檢事局照會 明治三十五年十月三日
日記第二三七七號

明治十七年内務卿ヨリ接骨科醫術開業免狀ヲ授與セラレ其營業ニ從事スルモノハ普通醫師ノ如ク諸病ヲ診察シ治療スルコトヲ得ルモノナルヤ又ハ入齒、齒抜、接骨等ノ營業者ノ如ク普通醫師ト區別スヘキモノナルヤ果タ全ク接骨營業者ト同一ニ見做シ同一ノ營業ヲナスヘキモノト見做シテ差支ナキヤ右

ハ犯罪檢舉上必要ニ付御取調ノ上何分ノ御回答有之度及照會候也

衛生局長官宛 明治三十五年十月九日
衛生第一〇五九六號

明治三十五年十月三日日記第二三七七號ヲ以テ御照會ノ趣了承整骨科免狀ヲ有スルモノハ内科又ハ外科免狀ノ醫師ト異リ其科目外ノ諸病ヲ診察治療不相成義ニ候條右ニ御了知有之度此段及回答候也

●接骨術營業者ニ關スル件

大正二年十月十日
衛生第二三四號

横濱區裁判所檢事照會 大正二年十月六日
檢收第一四九一號

明治十八年三月二十三日内務省達甲第七號入齒、齒抜口中療治接骨營業者ノ儀ノ規定中接骨ノ意義ニ關シ左記ノ諸點ニ疑義相生シ候條至急貴廳ノ御意見拜承仕度及伺候也

一、接骨トハ折骨脱臼等ノ如ク分離シタル骨ト骨トヲ接合スル場合ノミナラス打撲挫傷等ノ箇所ヲ治療スルコトヲモ包含スルヤ尙治療ト同時ニ賣藥等ヲ塗布スルト否トニ依リ御意見ヲ異ニスルヤ

一、包含スル者トスレハ接骨鑑札ヲ有セサル按摩術者又ハ柔術家カ之ヲ爲スモ尙取縮ラレ、御意見ナルヤ

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入齒齒技及柔道整復術

二〇七

衛生局長官宛 大正二年十月十日
衛生第二三四號

本月六日檢發第一四九一號ヲ以テ接骨ノ意義ニ關シ御照會相成候處左ノ通御了知相成度候

一、接骨營業者ハ整骨術ノ總テヲ行ヒ必要ニ應シ治療ヲ爲シ藥品(賣藥ヲ含ム)ヲ塗布スルハ差支ナシ
一、按摩術營業者ハ本能トシテ治療ヲ爲シ得ルハ勿論ナルモ藥品(賣藥ヲ含ム)ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス
柔術家ハ營業トシテ前二項ノ行爲ヲ爲シ得サルモノトス

●柔道整復術ニ關スル件

大正十一年二月二十七日
衛生第二一三號

北海道廳長官照會 大正十一年二月十日
衛生第二四七號

按摩術營業取締規則附則第六項ニ於テ「本令ノ規定ハ柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テハ打撲挫傷脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス」ト規定セラレ候處柔道整復術營業者柔道教授ヲ廢止シタルトキハ爾後營業ヲナスコトヲ得サルモノナルヤ疑義相生候條何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

衛生局長官宛 大正十一年二月二十七日
衛生第二一三號

警衛第三七四號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承既ニ柔道整復

術營業者トシテ免許セラレタル以上ハ他日柔道ノ教授ヲ廢止スルモ之カ爲當然失格スヘキモノト認難候

石川縣知事照會 大正十一年十一月十七日 發第第一〇六一號

柔道整復術免許並ニ取締ニ關シ左記ノ點聊カ疑義生シ候條貴局ノ御意見承知致度至急何分ノ御回示相煩シ度及照會候也

記

一 甲縣ニ於テ柔道整復術ノ試験ニ合格シタルモノ乙縣ニテ免許鑑札下付ヲ出願シタル場合ニ於テ附則ニ「柔道ノ教授ヲ爲ス者ニ於テ」ト有之乙縣ニ於テモ柔道ノ教授ヲ爲スニアラサレハ免許鑑札下附然ル可ラサルモノト解シ取扱差支無哉

二 前項ノ通トセハ柔道整復術ノ免許ヲ得タル後ニ於テ柔道ノ教授ヲ止メタル場合ハ免許ノ効力ヲ失フ様解セラルカ如何ニ候哉若シ効力ヲ失フモノトセハ免許ヲ取消シ又ハ停止ス可キヤ果シテ然トセハ規則第何條ニ依リ處分シ可然哉

衛生局長回答 大正十一年十二月六日 衛第第一九七六號

十一月十七日發第第一〇六一號ヲ以テ御照會ニ係ル柔道整復術ニ關スル件左記及御回答候也

記

一 御意見ノ通
二 柔道整復術ノ免許鑑札ヲ受ケタル後柔道ノ教授ヲ止ムルモ其ノ爲免許ノ効力ヲ失ハサルモノトス

長野縣知事照會 大正十三年十一月五日 發第二七號

柔道整復術營業者カ電氣ヲ應用スルハ禁止ノ規定ナキニヨリ按摩術取締規則ニ抵觸セサル旨本年八月衛醫第一〇七四號ヲ以テ御通牒有之從テ其ノ職業上レントゲンヲ使用スルモ何等差支無之義ト被存候得共縣醫師會ヨリ伺出ノ次第モ有之候ニ付否ヤ御回示相成度此段照會候也

衛生局長回答 大正十四年六月二十二日 衛第第一四八一號

標記ノ件ニ關シ客年十一月五日發第二七號ヲ以テ御照會ノ趣了承柔道整復術營業者カ電氣ヲ應用スルモ按摩術營業取締規則ニハ抵觸セサルモレントゲンヲ使用シ診察治療ヲ爲スカ如キハ柔道整復術ノ範圍ヲ超エ醫師法第十一條ニ該當スルモノト存候間相富御取締相成度

●柔道整復術免許ニ關シ疑義ノ件

大正十二年四月二十八日 衛第第四九一號

栃木縣知事照會 大正十二年三月二十八日 衛發第二三二五號

關スル件

大正十三年八月八日 衛第第九〇二號

福井縣知事照會 大正十三年六月二十三日 衛甲第七九五號

首題ノ件ニ關シテハ柔道整復術ノ準用規則タル按摩術營業取締規則ニ依ルモ之カ所記シアルヲ視スト雖モ整復術營業者ハ外用藥(賣藥ヲ含ム)ヲ投用スルコトハ支障無之モノトハ思料セラレ候モ一應貴局ノ御意見承知致度何分ノ御回答至急相煩度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十三年八月八日 衛第第九〇二號

六月二十三日衛甲第七九五號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件柔道整復術營業者ハ藥品又ハ賣藥ヲ投用スルコトヲ得サル義ト存候但シ消毒ノ爲メ使用スル場合ハ此限ニ在ラス右及回答候

福島縣知事照會 大正十四年六月二十二日 衛發第四八四號

柔道整復術營業者カ藥品(賣藥ヲ含ム)ヲ使用シ得サルコトハ大正十三年六月福井縣ヨリ伺ニ對スル衛生局長回答(衛醫第九〇二號)ニヨリ明瞭ナルモ最近東京柔道整復術營業者會アリ其際代表者トシテ接骨散(多クハ賣藥トシテ許可シアルモノ)ノ使用ニ關シ貴局ノ御意見ヲ徵シタルニ支障ナキヤノ明言有之趣右ハ事實ニ候哉差掛リタル義有之候條折返シ御回示相成

柔道整復術取締ニ關シ聊カ疑義ノ點有之候條左ノ二項ニ關シ貴官ノ御意見承知致度此段及伺出候也

一、柔道整復術ハ按摩營業取締規則ニ「柔道教授ヲナス者ニ於テ打撲、捻挫、脱臼及骨折ニ對シテ行フ柔道整復術ニ之ヲ準用ス」トアルヲ以テ本令ニ依リ柔道整復術ヲ行ヒ得ルモノハ現ニ柔道教授ヲナス者ニ限ラレ現ニ柔道ノ教授ヲナサ、ル者ハ之ヲ行ヒ得サルモノト思料セラル

二、柔道整復術施設ヲ免許サレタル者ハ普通醫師同様診療所ヲ設ケ又ハ骨折又ハ捻挫等ノ患者ヲ收容シ持續治療ヲ施スモ差支ナキモノナルヤ思フニ柔道整復術ハ應急措置ニ備フル爲メ柔道教授ヲナス者ニ之ヲ認メタルモノト思料セラル

衛生局長回答 大正十二年四月二十八日 衛第第四九一號

三月二十八日衛發第二三二五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件左記及回答候

一、柔道整復術ノ免許ハ現ニ柔道ノ教授ヲ爲ス者タルコトヲ要スルモ免許後柔道ノ教授ヲ止ムルモ其爲免許ノ効力ハ失ハサルモノト承知相成度
二、柔道整復術營業免許ヲ受ケタル者ハ治療所ヲ設ケ繼續治療ヲ爲シ差支ナシ

●柔道整復術營業者ノ藥品使用ニ

第一類 醫事 第四章 按摩術、鍼灸術、入商賣技及柔道整復術

度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十四年七月十一日
衛醫第九四九號

六月二十二日丑衛發第四八四號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件
ハ大正十三年八月八日衛醫第九〇二號ヲ以テ福井縣知事ニ回
答候通御取扱相成可然

第五章 死體保存、解剖

●骨格ノ保存ハ官公立醫學病院ニ 限ルノ件

明治二十二年五月
內務大臣指令甲一八號

新潟縣知事伺 明治二十二年一月
第四八號

死者生前ノ情願若クハ其遺族者ノ承諾ヲ得タル上ハ良民囚人
ノ別ナク學術研究ノ爲メ全體解剖不苦旨他府縣伺ニ對シ御指
令ノ趣モ候得共尙又骨格保存ノ儀モ差許シ苦シカラス哉相伺
候條至急御指揮相成度候也

內務大臣指令 明治二十二年五月
甲第一八號

右本年一月二十四日第四十八號伺骨格保存ノ件ハ親屬故舊其
遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキ刑死者及獄死者ニシテ生前其承諾ヲ

得タルモノニ限り官公立醫學病院ニ於テ保存スル儀ハ苦シ
カラス

●骨格保存ニ關スル件

明治三十九年五月八日
阪第三二七號

大阪府知事照會 明治三十九年四月二十八日
衛第一二二二號

骨格保存ノ件ニ關スル新潟縣ノ伺ニ對シ明治二十二年五月御
省ヨリ親族故舊遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキ死刑者及獄死者ニシ
テ生前其ノ承諾ヲ得タル者ニ限り官公立醫學病院ニ於テ保
存スル儀ハ差支サル旨御指令ノ次第モ有之候處右ト異リ生前
ニ承諾ヲ得タル通常人ノ骨格ヲ學術研究ノ爲メ公立醫學病院
ニ於テ保存セントスル願出アリ調査スルニ本件ハ許可差支ナ
キモノト思料候得共聊カ疑義ノ廉アリ一應及御問合候條何分
ノ御回報相煩度此段及照會候也

衛生局長回答 明治三十九年五月八日
阪第三二七號

本年四月二十八日付衛第一二二二號ヲ以テ骨格保存ノ件ニ關
シ御照會之趣了承右ハ新潟縣伺ニ對スル指令ノ通り御心得相
成度此段及回答候也

骨格及胎兒ノ死體保存ノ件

明治三十八年四月十日
德第九號

德島縣知事照會 明治三十八年二月四日
德第九四五號ノ一

左記ノ事項ニ關シ取撰上疑義ヲ生シ候ニ付貴官ノ御意見承知
致度候條至急何分ノ御回報相煩シ度此旨及御問合候也

一 骨格保存ハ官公立醫學病院ナラハ差支ナキ旨二十二年
八月新潟縣伺ニ對シ御指令相成候處茲ニ死者生前ニ於テ
自己ノ治療ヲ受ケタル普通開業醫ニ對シ死後死體ノ解剖
ハ素ヨリ骨格ヲモ保存シ廣ク醫學研究ノ資料ニ供サレ度
旨而モ公證人迄ヲモ立會セシメ遺言シタル者アルヲ以テ
該骨格ヲ保存シタキ旨願出ル者アリ右ハ多少普通ノ遺言
トモ異ナル點アリ且其目的醫學研究ノ資料ニ供セントス
ルモノナルヲ以テ特ニ之ヲ許可スルモ差支無之哉將タ遺
言及目的ノ如何ニ拘ハラズ醫學病院ノ外ハ保存ヲ許サ
レサル義ナルヤ

追テ本縣死體解剖規則ニ依レハ臟器ノ外ハ保存ヲ許可
セサル規定ナルモ若シ醫學研究ノ爲メ一般ニ保存ヲ許
サル、義ナラハ該規定ニ改正ヲ加フルノ考ニ有之候條
爲念申添候也

一 胎兒死體ハ四ヶ月以上ハ醫學研究ノ爲メ保存スルモ差支
ナキ旨明治九年東京府伺ニ對シ御指令相成居候處其後二

第一類 醫事 第五章 死體保存、解剖

十一年三月群馬縣伺ノ要旨ニ依レハ四ヶ月以上ノ死體ハ
埋葬ノ制裁アルモ四ヶ月未滿ハ埋葬ノ制ナキヲ以テ父兄
ト醫師トノ間ニ熟議ヲ遂ケタルトキハ之ヲ自由ニスルモ
差支ナキ旨御指令有之木伺ニ依ルトキハ四ヶ月未滿ノ死
兒ハ保存差支ナキモ四ヶ月以上ナルトキハ保存ヲ許サレ
サルモノ、如ク相見候右ハ胎兒ノ死體ニシテ醫學研究ノ
目的ニ供スルモノナルトキハ四ヶ月以上ノモノト雖モ保
存ヲ許シ差支無之義ナルヤ

衛生局長回答 明治三十八年四月十日
德第九號

本年二月四日付警乙第九四五號ノ一御照會ニ係ル骨格及胎兒
之死體保存ノ件ハ左記ノ通御取扱相成可然ト存候此段及回答
候也

記

第一 新潟縣伺ニ對スル指令之通
第二 四ヶ月以上ノ場合ニ於テハ醫師並胎兒父兄ノ連署ヲ以
テ出願セシメ保存ヲ許可スルモ差支ナク四ヶ月未滿ノ

第一類 醫事 第五章 死體保存、解剖

場合ニ於テハ許可ヲ要セス醫師並父兄ノ熟議ヲ以テ處分シ差支ナシ

第三 保存主並胎兒ノ父兄ヲシテ連署出願セシメ若シ連署ヲ得ル能ハサル場合ニ於テハ其理由ヲ記セシム

●骨格及胎兒ノ保存並死體解剖ニ關スル件

大正六年十一月九日
衛滋第一五九號

滋賀縣知事照會 大正六年十月八日
衛滋第二八九號

從來骨格及胎兒ノ保存並死體解剖ニ關シテハ警察犯處罰令ノ外別ニ取締規定無之候處近時醫學ノ進歩ニ伴ヒ之カ出願ヲ爲ス者漸ク多ク就テハ之カ取締規則ノ制定ニ關シ目下審議中ニ有之候ニ付テハ骨格保存ニ關シテハ明治二十二年五月新潟縣伺ニ對シ刑死者及獄死者ニシテ親族故舊等其ノ遺骸ノ下付ヲ乞フ者ナク生前其ノ承諾ヲ得タル者ニ限り官公立醫學校病院ニ於テ保存スル義ハ苦シカラサル旨御指令有之尙胎兒ノ保存ニ關シテハ明治三十一年三月四月未滿ノ胎兒ハ特ニ出願許可スルニ及ハス其ノ父母ト醫師ト協議ニ任カス旨御通知有之候處前者ニ就テハ單ニ刑死者又ハ獄死者ニ限ラス死者生前ニ遺言アリタル場合ニシテ其ノ遺族ノ承諾アリタル場合ハ之カ

患部ノ臟器保存之義ニ付坤衛第一一號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ本人ノ請願書及遺族親族二名以上ノ證明書ヲ以テ出願致シ候節ハ御開届相成不苦義ト被存候此段及御回答候也

●醫師學術研究ノ爲父母ノ承諾ヲ得流産死體保存方許否ノ件

明治三十一年十二月一日
衛第五〇六號

神奈川縣知事照會 明治三十一年十一月二十六日
警三受第三四一八號

開業醫ニシテ妊娠六ヶ月ニテ流産セル死體ヲ其父母ノ承諾ヲ得テ醫學研究ノ爲メ貯藏セント願出候者有之候處明治十七年十一月御省達乙第四十號墓地取締細則標準第十一條ハ妊娠四ヶ月以上ノ死體ハ成人ノ死體同様埋葬ス可キ精神ニ被考且ツ斯ル死體ヲ一個ノ開業醫ニ於テ貯藏スルハ穩當ヲ缺クノ嫌ナキニアラスト被存候ニ付一應貴省ノ御意見承知致度此段及御照會候也

衛生局長回答 明治三十一年十二月一日
衛第五〇六號

警三受第三四一八號ヲ以テ醫師學術研究ノ爲メ父母ノ承諾ヲ得流産死體保存方願出之者有之レカ許否如何ニ付意見御問合之趣了承右ハ其父母醫師トノ間ノ熟議ヲ得候上ハ認許シ可然義ト被存候此段及御回答候也

第一類 醫事 第五章 死體保存、解剖

二二二

保存ヲ認メ又後者ニ就テハ假令四ヶ月未滿ト雖モ公安風俗並衛生上出願許可ヲ受ケシムル方妥當カト思料セラレ候ニ付テハ目下差迫リ必要ノ義有之候條至急何分ノ御回示相煩シ度此段及照會候也

衛生局長回答 大正六年十一月九日
衛滋第一五九號

客月八日衛發第二八九號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處骨格保存ニ就テハ明治二十二年五月新潟縣伺ニ對スル指令之通り四ヶ月未滿ノ胎兒保存ニ就テハ明治二十一年三月東京府外一府三縣ニ對スル通牒ノ通りト御承相成度
追テ御照會書ニハ胎兒ノ保存ニ關シテハ明治三十一年三月云々ト有之候へ共右ハ明治二十一年三月ノ誤記ト被認候條爲念申添候

●患部ノ臟器保存ニ關スル件

明治二十二年四月八日
衛第七八四號

奈良縣知事照會 明治二十二年二月二十三日
坤衛第一一號
病體解剖ノ後醫師ニ於テ死者遺族ト熟議ノ上其患部ノ臟器ヲ乞受ケ保存候儀ハ無論差支無之儀トハ存候得共御意見承知致度候條至急御回答相成度此段及御照會候也
衛生局長回答 明治二十二年四月八日
衛第七八四號

●産婆ニ於テ業務上必要トシテ六ヶ月未滿ノ死胎保存ニ關スル件

大正三年四月二日
衛岐第三六號

岐阜縣知事伺 大正三年三月三十日
衛第二五一五號
縣下産婆營業者ニシテ業務上必要トシテ六ヶ月未滿ナル嬰兒死體保存ノ件許可願出候處之ニ適合スヘキ令達無之ニ付許可ニ關シ聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度此段相伺候也

衛生局長回答 大正三年四月二日
衛岐第三六號

客月三十日付衛發第二五一五號伺産婆營業者ニ於テ業務上必要トシテ六ヶ月未滿ノ死胎兒保存方ノ件ハ警察權ニ屬スルヲ以テ貴官限許否相成可然ト存候條此段及御回答候也

●小兒死屍保存ニ關スル件

大正三年十一月三日
三衛第九四號

三重縣知事照會 大正三年九月二十九日
衛收第七一九四號ノ三
醫學研究ノ爲メ早生兒(妊娠八箇月ニテ分娩シ生後三十餘日ヲ經過シ死亡シタルモノ)ニテ體量一千六百瓦身長四十三仙(迷)ノ死體ヲ防腐劑ニテ埋詰トシ保存致度旨主治醫ヨリ其父

二二三

母ノ運署ヲ以テ願出候處明治十九年七月死胎兒ノ保存ニ關シテハ東京府知事ノ伺ニ對シ差支ナキ旨御回答ノ次第モ有之候ヘ共本件ハ稍其趣ヲ異ニスルヲ以テ許否上聊カ疑義ヲ生シ候條至急何分ノ御回答相成度候

衛生局長回答 大正三年十一月三日
三衛第九四號

九月二十九日衛收第七一九四號ノ三ヲ以テ小兒死體保存ノ件御照會相成候處右ハ貴官限リ許可相成可然

●生後五日ノ死體保存ノ件

大正七年三月
衛生局回答

秋田縣警察部長伺 大正七年三月

生後五日ノ死體ヲ保存許可差支ナキヤ
衛生局長回答 大正七年三月

警察部長伺出ノ件熟産兒ノ死體保存ハ許可スヘカラス

●生後三日ノ半頭兒死體保存ノ件

大正十年七月四日
衛醫第七五四號

神奈川縣知事照會 大正十年六月八日
西衛衛收第七五〇三號

母體內ニテ普通妊娠期間ヲ經過シ出産後三日ニシテ死亡セシ

半頭兒死體ヲ醫師ニ於テ醫學研究ノ爲兩親ノ承諾ヲ得保存セント願出タル者有之右ハ胎兒ノ死體ニ非サルモ生後短時日ニ死亡シタル倚形兒ニシテ醫學上有益ナル參考資料ト認メラレ候ニ付保存方許可シ差支ヘ無之候哉至急何分ノ御指揮相仰度候

衛生局長回答 大正十年七月四日
衛醫第七五四號

西警衛收第七五〇三號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處本件ハ許可スヘカラサル義ト御了知相成度

●病死體解剖ノ件

明治九年七月
內務省達

病死體解剖ノ儀ハ醫術進歩ノ爲メ緊要ナル事柄ニ付雙方熟談ノ上ハ區戸長或ハ醫務取締ヘ届置患部ノ剖觀不苦候條此旨相達候事

●所患局部解剖願出取扱方ノ件

明治十六年十一月
內務省指令

本人ノ遺書又ハ至親ノ承諾ヲ得タル死體ヲ醫學研究ノ爲メ所患局部ノ解剖ヲ行フトキハ其醫員並ニ死者ノ親戚等運署爲屆

出候ノミニテ可然哉

內務省指令 明治十六年十一月

右運署爲願出候儀ト可心得事

●病死體解剖ハ雙方熟談ノ上タリトモ官許ヲ得ヘキノ件

明治十八年十二月
內務省指令

(山形縣伺)

病死體解剖ノ儀ハ醫術進歩ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付雙方熟談ノ上郡役所ヘ届置候ハ、患部ノ剖觀不苦哉ノ旨伺出候モノ有之右ハ明治九年七月三府ヘ御達ノ類例モ有之同様心得可然哉

內務省指令 明治十八年十二月
右ハ雙方熟談ノ上タリトモ官ノ許可ヲ可得義ト可心得事

●脚氣病理療法死體解剖等ノ新説

明治十年十二月八日
內務省達乙第百〇號

脚氣病取調ニ付入用候條左之廉々各管下公立病院之口込經驗等取調來ル十一年一月中差出候様可取計尤此節ノミニ不限今

第一類 醫事 第五卷 死體保存、解剖

後病理療法及病死體解剖等新タニ口込之論説有之候ハ、其時々可申出旨豫テ相達置可申此旨相達候事

脚氣病取調之目

- 一病性
- 一病因
- 一療法
- 一經驗之レナキモノハ此一項ヲ除ク
- 一病體解剖說 同斷

●死體兒保存並屍體解剖願許可ニ關スル件

大正十三年十月二十八日
衛醫第一一六六號

愛知縣知事照會 大正十三年九月三日
衛政第七四二六號

醫學研究ニ資スル爲メ本人又ハ親族ヨリ死胎兒保存並屍體解剖願出タルトキハ明治二十一年文部省告示第十號(文部大臣內務大臣連署)及明治三十二年五月內務省告示第六〇號ヲ以テ帝國大學醫學大學並文部省直轄高等中學校醫學部及傳染病研究所水樂病院等ニ於テハ學校病院限リ届出ヲ許可シ得ル旨ノ御訓令相成居候處公立醫科大學ニ在リテハ之等準據スヘキ明文無之ニ依リ現在ニ於テハ標記願出アル毎ニ一々出願者ヲ

シテ官ノ許可ヲ受ケシメタル上ニアラサレハ何等ノ處置モナ
スヲ得ス爲メニ其手續ヲ了スル迄ニハ幾多ノ日時ヲ空費セサ
ルヲ得ス殊ニ暑氣ニ向ヘル季節ノ如キ日時経過ノ爲メ腐敗等
變化ヲ來シ研究上ノ價值ヲ失スル場合不尠實驗上遺骸ノ趣ニ
付テハ公立醫科大學等ニ於テモ直轄學校ニ於ケルト同様其學
校限リ開届ケ得ルコトニ取計ヒ支障無之哉此段及稟請候也
衛生局長回答 大正十三年十月二十八日
醫部第一一六六號
九月三日衛收第七四二六號ヲ以テ稟請相成候標記ノ件貴廳限
リ適宜御取計相成度

●刑死者及病死者遺骸解剖ノ件

明治十八年七月
内務省達甲第二十五號

〔監獄則〕ニ掲クル所ノ刑死者及病死者ニシテ親屬故舊其遺骸
ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該
遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事
但屍體剖觀ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ハ
シムヘシ

●私立醫學校及病院又ハ開業醫ニ
於テ刑死者ノ解剖ニ關スル件

明治十八年九月
内務省指令

(靜岡縣伺)

本年七月御省甲第二十五號御達監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及
死者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立
醫學校若クハ病院云々ト有之就テハ私立醫學校及病院又ハ開業
醫ニシテ該遺骸ヲ解剖スルハ不相成儀ニ候哉果シテ然ラハ假
令死者生前ニ解剖ヲ承諾シタル者モ右同様ノ儀ト心得可然哉
内務省指令 明治十八年
右官公立醫學校若クハ病院ニ限ル儀ト心得事
但死者生前ニ於テ其私立醫學校及病院又ハ開業醫ニ對シ
承諾セシ者ハ此限ニアラス

●刑死者ノ遺骸解剖ハ其遺骸ノ下
附ヲ請願セルモノニ限ルノ件

明治十八年十月
内務省指令

(栃木縣伺)

第一條 本年七月御省甲第二十五號御達ニ刑死者及病死者ニ
シテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學
校若クハ病院ニ於テ解剖實驗ノ用ニ供スルコトヲ得ト有之候
處右ハ〔監獄則第七十九條第一項〕ニ依リ其死亡シタル時限
ヨリ二十四時以内ニ遺骸ノ下付ヲ請フ者ナケレハ直ニ解剖

スルトセハ親屬故舊遠地ニアル者ハ或ハ失望ノ掛念アルニ
付時限ニ關セス全ク遺骸ノ下付ヲ出願セサル者ニ限り解剖
差許シ可然哉

第二條 前條遺骸解剖ノ儀ハ義ニ刑死者遺骸ノ下付ヲ請フ者
ナキモノ、外何人ニ不拘本人ノ請願ニ非サルモノト其遺族
者ノ承諾ヲ得サル者トハ解剖不相成旨神奈川縣へ御指令ノ
趣モ有之候處甲第二十五號御達ニ依レハ死者ノ請願或ニ遺
族者ノ承諾ヲ要セサル儀ト心得可然哉

内務省指令 明治十八年
十月二日

右伺ノ趣左ノ通可心得事

第一條 伺ノ通り

但既ニ二十四時間ヲ過キ假埋葬セシ者ハ解剖ヲ許スヘカラ
サルモノトス

第二條 伺ノ通り

●刑死者及病死者ノ遺骸解剖後ニ
於ケル取扱方ノ件

明治十八年十二月
内務省指令

(岡山縣伺)
本年御省甲第二十五號ヲ以テ監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死
亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フモノナキ時ハ官公立

第一類 醫事 第五章 死體保存、解剖

(靜岡縣伺)

本年七月御省甲第二十五號御達監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及
死者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立
醫學校若クハ病院云々ト有之就テハ私立醫學校及病院又ハ開業
醫ニシテ該遺骸ヲ解剖スルハ不相成儀ニ候哉果シテ然ラハ假
令死者生前ニ解剖ヲ承諾シタル者モ右同様ノ儀ト心得可然哉
内務省指令 明治十八年
右官公立醫學校若クハ病院ニ限ル儀ト心得事
但死者生前ニ於テ其私立醫學校及病院又ハ開業醫ニ對シ
承諾セシ者ハ此限ニアラス

●刑死者ノ遺骸解剖ハ其遺骸ノ下
附ヲ請願セルモノニ限ルノ件

明治十八年十月
内務省指令

(栃木縣伺)

第一條 本年七月御省甲第二十五號御達ニ刑死者及病死者ニ
シテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學
校若クハ病院ニ於テ解剖實驗ノ用ニ供スルコトヲ得ト有之候
處右ハ〔監獄則第七十九條第一項〕ニ依リ其死亡シタル時限
ヨリ二十四時以内ニ遺骸ノ下付ヲ請フ者ナケレハ直ニ解剖

醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルコトヲ
得ルノ義御達相成候ニ付テハ右刑死者等解剖施行ノ節ハ同達
但書ノ通り死體剖觀後縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様可致
ハ勿論ノ義ニ有之候得共縫理シテ原體ニ復セシ上ハ適宜埋葬
若ハ火葬ニ取計可然哉

内務省指令 明治十八年
十月二日

右原體ニ縫復セシ上ハ典獄ニ於テ〔監獄則第七十九條第二項〕
ニ從ヒ埋葬スヘキ義ト心得事

●死體解剖出願方

明治二十一年九月二十四日
文部省告示第十號

從來死體解剖ノ儀帝國大學醫科大學へ願出ル者アルトキハ該
學ニ於テ開届來候處自今文部省直轄(高等中學校醫學部)ニ於
テモ同様可開届ニ付右望ノ者ハ該(醫學部)へ願出ヘシ

明治三十三年五月二十二日
内務省告示第六十號

死體解剖ハ自今傳染病研究所及永樂病院ニ於テモ可開届ニ付
右望ノ者ハ兩所ノ中へ願出ヘシ

●變死體解剖ノ場合ハ檢事ノ許可
ヲ受ケルノ件

明治十年二月二十一日
太政官布告第二十二號

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏検査スルトキニ於テ解剖ヲ行ハサレ
ハ其致命ノ原因ヲ確知シ難キ旨醫師申立ルトキハ検査ニ檢事
派出ナキ地方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖検査
セシムルコトヲ得

●監獄法施行細則第七十九條ニ

依ル病院及學校指定

昭和二年四月十五日
司法省告示第十五號

沿革 昭和五年一月司法省告示第四號 改正

大正十一年六月司法省告示第二十五號ヲ左ノ通改正シ昭和二
年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

- 東京帝國大學醫學部及附屬醫院
- 京都帝國大學醫學部及附屬醫院
- 東北帝國大學醫學部及附屬醫院
- 九州帝國大學醫學部及附屬醫院
- 北海道帝國大學醫學部及附屬醫院
- 新潟醫科大學及附屬醫院
- 岡山醫科大學及附屬醫院
- 千葉醫科大學及附屬醫院
- 金澤醫科大學及附屬醫院

- 長崎醫科大學及附屬醫院
- 京都醫科大學及附屬醫院
- 府立醫科大學及附屬醫院
- 大阪醫科大學及附屬醫院
- 愛知醫科大學及附屬醫院
- 熊本醫科大學及附屬醫院
- 私立慶應義塾大學醫學部及附屬病院
- 私立東京慈惠會大學
- 私立日本醫科大學
- 私立日本大學醫學科
- 私立帝國女子醫學專門學校
- 私立東京女子醫學專門學校
- 私立九州醫學專門學校

●警察犯處罰令(抄録)

明治四十一年九月二十九日
内務省令第十六號

- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓未満ノ科料ニ處ス
- 一 許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲ爲シタル者

第六章 藥品巡視

●藥品巡視規則

明治二十二年三月二十七日
内務省令第四號

沿革 大正五年三月内務省令第九號 改正

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

- 第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ
- 第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ
 - 一 藥品
 - 二 藥品營業並藥品取扱規則第二十八條ニ第二十九條第三十六條第三十七條及藥劑師法施行規則第十條乃至第十條ノ事項
 - 三 調劑錄
- 第三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ
 - 一 藥品

二 藥品營業並藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ

第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第六條 巡視ハ日出前日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業時間中ハ此限ニ在ラス

第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ検査スルコトアルヘシ

第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

●藥品監視員施行及費用等支辨方

並ニ證票雛形

明治二十二年九月二十六日
内務省令第三十八號

明治二十二年三月法律第十號監視員ノ巡視ハ同年同月當省令

第四號ニ依リ其應ニ於テ施行シ且右ニ係ル費用 監視員ノ俸給

及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其應經費定額内ヲ以テ支辨スル

儀ト心得ヘシ

應府縣

二一九

第一類 醫事 第六章 藥品巡視

但監視員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ雛形ニ準シ其應ニ於テ交附シ尙ホ之ヲ管内ニ告示スヘシ
(雛形)

紙製

曲尺二寸二分

表

藥品監視員之證

シテナク

裏

應府
縣名
印

警察醫ニ藥品巡視員ヲ命シ得ル
ヤ否ノ件

アリヤ否ノ件

明治三十五年四月十五日
衛生局回答

茨城縣警察部照會 明治三十五年
四月十五日

藥品巡視規則ニ依リ巡視員トナリタル警察官ハ證票携帶ニ及ハサルモノノ如シ御意見如何

衛生局回答 明治三十五年
四月十五日

警察部照會ノ藥品巡視ノ件ハ警察官モ證票ヲ携帶スヘキ義ト存ス

●藥品巡視ノ監視員ニ關スル件

昭和三年八月三十日
衛發第二七五號

(内務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

藥品巡視ノ監視員ニ關スル件

藥品巡視ノ監視員ニ關シテハ靜岡縣知事照會ニ對シ明治三十六年二月六日衛甲第五號ヲ以テ衛生官吏ノミヲ以テ監視員トシ巡視セシムルコトヲ得ザル趣回答致置候處爾今衛生官吏タル監視員ノミニテ藥品巡視ヲ爲サシメ差支無之必要ニ應シ警察官吏タル監視員ヲ帶同セシメ可然ト存候

第一類 醫事 第七章 精神病

明治三十六年二月六日
衛甲第五號

靜岡縣知事照會 明治三十五年十二月五日
衛甲第八四八二號

本縣ニ於テハ明治三十三年度ヨリ各警察署、〔分署〕ニ警察醫ヲ配置シ醫務ノ外一般衛生事務ヲ兼掌セシメ居リ候ニ付之レニ藥品巡視員ヲ命シ候ハハ平素實地監督ノ責ニ當リ居ルヲ以テ極メテ便利ト認メラレ候ニ依リ是非之レ等ノ警察醫ニモ巡視員ヲ命シ嚴重取締致度候ヘ共藥品巡視規則ニ依レハ衛生官吏トアリテ少シク疑ヒノ廉アルモ素ヨリ地方官々制ニ據リ命シタルモノニシテ其部内ノ一般衛生事務ヲ兼掌セシメアル次第ニ付差支無之乎ト認メラレ候右一應御意見承知致度此段及御問合候也

衛生局長回答 明治三十六年二月六日
衛甲第五號

客年十二月五日衛甲第八四八二號ヲ以テ御照會相成候警察醫ヲ以テ藥品監視員ト爲スノ件ハ御見解ノ通り衛生官吏トシテ監視員ヲ命シ差支無之義ト存候仍テ此段及回答候也

追テ衛生官吏ノミヲ以テ監視員トシ巡視セシムルコトハ得サル義ニ候條御了知相成度爲念申添候

●藥品巡視規則ニ依リ監視員トナリタル警察官ハ證票携帶ノ必要

第七章 精神病

●精神病患者監護法

明治三十三年三月十日
法律第三十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル精神病患者監護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

精神病患者監護法

第一條 精神病患者ハ其ノ後見人配偶者四親等内ノ親族又ハ戶主ニ於テ之ヲ監護スルノ義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ左ノ如シ

但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得

第一 後見人

第二 配偶者

第三 親權ヲ行フ父又ハ母

第四 戶主

第五 前各號ニ掲ケタル者ニ非サル四親等内ノ親族中ヨリ

親族會ノ選任シタル者

第二條 監護義務者ニ非サレハ精神病者ヲ監督スルコトヲ得

第三條 精神病者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヘシ

第四條 精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ヘシ

第五條 監置シタル精神病者治癒シ死亡シ若ハ行方不明ト爲リタルトキ又ハ其ノ監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ヘシ

第六條 精神病者ヲ監置スルノ必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精神病者ノ住所、住所ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監置スヘシ

第七條 行政廳ハ精神病者ノ監護ニ關シ必要ト認ムルトキハ監置ノ許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條 精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ之ヲ監置ヲ命スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九條 私宅監置室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病

室ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條 監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

第十一條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者在ル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第十二條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師

第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師

第十六條 左ニ掲タル者ハ一年以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔百圓以下ノ罰金ヲ附加〕ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虛偽ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者

二 醫師精神病者ノ診斷書ニ虛偽ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら診斷セシメテ診斷書ヲ授與シタル者

第十七條 左ニ掲タル者ハ二月以下ノ〔重禁錮〕ニ處シ〔二十圓以下ノ罰金ヲ附加〕シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

一 許可ヲ受ケス又ハ届出ヲ爲サス若ハ命ヲ受ケスシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタル者

二 禁治産ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消サレ又ハ監置ノ廢止ヲ命セラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者

エテ精神病者ヲ拘束シタル者

第十八條 左ニ掲タル者ハ一月以下ノ(重禁錮)ニ處シ(十四以下ノ罰金ヲ附加)シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 精神病者ノ監置ニ關シ虚偽ノ事實ヲ記載シタル願届其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者

二 監護義務ヲ履行スヘキ願位ニ在ラサル者ニシテ許可ヲ受ケス又ハ命ニ依ルニ非スシテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者

三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若ハ檢診ヲ拒ミ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者

第十九條 左ニ掲タル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 監置ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者

二 監護義務者精神病者ノ監置ヲ命セラレ其ノ命ヲ履行セサル者

三 第八條第四項及第九條第一項ニ違背シタル者

第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ仍之ヲ繼續セムトルストキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スヘシ

第三條ノ許可ヲ受ケス届出ヲ爲サスシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セサル者ハ第十七條ノ例ニ照シテ處斷ス

本法中市區町村長ニ屬スル職務ハ市制區制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第二十二條 外國人タル精神病者ノ監護ニ關シ別段ノ規定ヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 人事訴訟手續法第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ精神病者ノ監護ニ付必要ナル處分ヲ命シタル場合ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス

●精神病者監護法施行規則

明治三十三年六月二十八日
内務省令第三十五號

精神病者監護法施行規則左ノ通定ム

精神病者監護法施行規則

第一條 精神病者監護法第一條第二項但書ニ依リ監護義務者ノ願位ヲ變更シタルトキハ關係者ハ七日内ニ運署ヲ以テ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出ヘシ

第二條 精神病者監護法第一條第二項第五號ニ依リ監護義務者ヲ選任シタルトキハ親族會ハ七日内ニ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出スヘシ

第三條 精神病者監護法第三條ニ依リ精神病者ヲ私宅病院其ノ他ノ場所ニ監置セムトスルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ届出又ハ届出ヘシ

第三條第一項但書ニ依リ精神病者ヲ監置シタルトキハ監護義務者ハ警察官署ニ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要セス

第四條 精神病者ヲ監置セムトスル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受クルノ暇ナシト認ムルトキハ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ警察官署ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監護義務者ハ三十日内ニ前條ニ依リ更ニ地方長官ニ届出ヘシ

第五條 前二項ノ願出又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ監置ノ方法及場所ヲ記シ若シ私宅監置室ヲ設クルトキハ其ノ構造設備ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第六條 本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シ三十日内ニ地方長官ニ監置ノ願出ヲ爲ササルトキ又ハ地方長官ニ於テ願出ニ對シ不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ警察官署ノ與ヘタル許可ハ取消サレタルモノトス

第七條 精神病者監護法第四條又ハ第五條ノ届出ハ監護義務者ニ於テ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添ヘ警察官署ヲ經テ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ行方不明ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書ヲ添フルコトヲ要セス

本則第四條第一項ニ依リ監置シタル精神病者ニ關シテハ前項ノ届出ハ警察官署ニ之ヲ爲スヘシ

第八條 私宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ應シ相當ノ構造設備ヲ爲シ及之ヲ管理スルコトヲ要ス

第九條 府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ設置セムトスルトキハ其ノ構造及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十條 精神病者監護法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十一條 精神病者監護法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ

第十二條 精神病者監護法第十一條行政廳ノ職權ハ内務大臣地方長官又ハ警察官署之ヲ行フ

- 第十三條 本則第九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 本則第一條及第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

●精神病者監護ニ關スル件

明治三十三年六月三十日 勅令第二百八十二號

- 朕精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ依レル監護ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 精神病者監護法第六條ニ依リ市區町村長ニ於テ精神病者ヲ監置スヘキ場合ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 前項地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ市區町村長ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日內精神病者ヲ監置スルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ經サルモ七日內假ニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ警察官署ニ通知スヘシ
- 第二條 精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ該當スル精神病者アルトキハ地方長官ハ警察官署ヲシテ之ヲ市區町村

長ニ引渡サシムヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ハ假ニ之ヲ市區町村長ニ引渡シ直ニ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

- 第三條 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキハ第一條第一項及第二條ニ依リテ監置シタルモノニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者及第二條但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知スヘシ
- 市區町村長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法ヲ變更セムトスルトキハ第一條第一項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ニ報告シ第一條第二項ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ警察官署ニ通知シ第二條ニ依リテ監置シタル者ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケ共ノ但書ニ依リテ假ニ監置シタル者ニ付テハ警察官署ノ同意ヲ經ヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假ニ之ヲ變更シ直ニ認可ヲ受ケ又ハ同意ヲ經ヘシ
- 第四條 市區町村長ハ其ノ監護スル精神病者ノ監置ヲ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得
- 第五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●精神病院法

大正八年三月二十七日 法律第二十五號

- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル精神病院法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 精神病院法
- 第一條 主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命スルコトヲ得
- 第二條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル精神病者ヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得
 - 一 精神病者監護法ニ依リ市區町村長ノ監護スヘキ者
 - 二 罪犯ヲシタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモノ
 - 三 療養ノ途ナキ者
 - 四 前各號ニ掲クル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者
- 前項ノ規定ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫師ノ診断アルコトヲ要ス
- 第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設

置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

- 第四條 第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上必要ナル處置ヲ行フコトヲ得
- 第五條 地方長官ハ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得地方長官入院者ヨリ徵收スルコトヲ得スト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 前項ノ費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス
- 第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ因リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

●精神病院法ノ一部施行期日ノ件

大正八年八月二日
勅令第三百六十五號

朕精神病院法ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
精神病院法第七條ノ規定ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行シ
同法第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ同法第七條ノ規定ノ
施行ニ必要ナル範圍内ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年十月二十二日
勅令第四百九十號

朕精神病院法ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
精神病院法第六條ノ規定ハ大正九年十月二十五日ヨリ之ヲ施
行シ同法第一條乃至第五條及第八條ノ規定ハ同法第六條ノ規
定ノ施行ニ必要ナル範圍内ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年六月三十日
勅令第三百二十四號

朕精神病院法ノ一部施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
精神病院法中未タ施行セラレサル部分ハ大正十二年七月一日

ヨリ之ヲ施行ス

●精神病院法施行令

大正十二年六月三十日
勅令第三百二十五號

朕大正八年勅令第三百六十六號精神病院法ニ依ル代用精神病
院ノ國庫補助及入院費ノ徵收方法ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム

精神病院法施行令

第一條 國庫ハ精神病院法第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神
病院ノ經費ニ對シ左ノ區別ニ依リ補助ス

一 創設費及擴張費並之ニ伴フ初度調辦費

支出額二分の一

二 其ノ他諸費

支出額ノ六分の一

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シ
タル支出精算額ヲ謂フ

第二條 國庫ハ北海道地方費又ハ府縣カ精神病院法第七條ノ
規定ニ依ル代用精神病院ニ對シ支出シタル入院費ノ精算額
ノ六分の一ヲ北海道地方費又ハ府縣ニ補助ス

前項ノ精算額トハ北海道地方費又ハ府縣ノ受クル入院費又
ハ之ニ充ツヘキ寄附金ノ額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第三條 精神病院法第五條第一項又ハ第七條ノ規定ニ依リ徵

收スル入院費ニシテ指定期間内ニ納付ナキモノニ付テハ國
稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四條 入院費ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地
又ハ財産所在地ノ地方長官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第五條 精神病者入院中死亡シタルトキハ其ノ遺留財産ヲ以
テ入院費ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得

附則

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●精神病院法施行規則

大正十二年六月三十日
內務省令第十七號

大正八年內務省第七號精神病院法第七條ノ規定ニ依ル代用精
神病院ニ關スル件及大正九年內務省令第三十三號精神病院法
第六條ノ規定ニ依ル精神病院ニ關スル件左ノ通改正ス

精神病院法施行規則

第一條 精神病院法第一條ノ規定ニ依リ精神病院ノ設置ヲ命
セラレタル北海道又ハ府縣ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ精神病
院ノ位置設計及其ノ收容人員ヲ定ムヘシ其ノ變更ニ付亦同
シ

第二條 市町村長又ハ町村制ヲ施行セサル地ニアリテハ町村
長ニ準スヘキ者ハ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監護スヘキ

精神病者ノ入院ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得

第三條 精神病者ノ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ精神病
者ノ入院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得

第四條 精神病院法第二條第二項ノ規定ニ依リ診斷ハ地方長
官ノ指定シタル醫師ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第五條 地方長官ハ入院者ノ必要ナシト認ムルトキハ速
ニ退院セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ當該精神病院ノ長
ノ意見ヲ徵ルスコトヲ得

第六條 入院者ノ監護義務者ハ入院者ノ退院ヲ地方長官ニ出
願スルコトヲ得

第七條 精神病院法第四條ノ規定ニ依リ精神病院ノ長ノ入院
者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ニ付テハ內務大臣
ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第八條 精神病院法第二條及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職
務ハ東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監之ヲ行フ

第九條 本令第二條乃至第八條ノ規定ハ精神病院法第七條ノ
規定ニ依ル代用精神病院ニ關シ之ヲ準用ス

附則
本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●精神病院施行ニ關シ注意事項ノ

第一類 醫事 第七章 精神病

件

大正八年八月十三日
內務省發給第一七九號

(各地方官官宛)
(內務次官通牒)

精神病院法制定ノ趣旨ハ別冊精神病院法制定理由ニ記述スル如ク精神病者ノ悲慘ナル實情ニ鑑ミ公共團體ノ施設ニ依リテ患者ノ保護治療ヲ施スト共ニ公安ノ保持ニ任セシメントスル義ニ付宜ク其ノ意ノ在ル所ヲ諒シ遺憾ナキヲ期セラレ度尙ホ今般同法ノ一部施行相成候ニ付テハ之カ實施ニ當リ特ニ左記ノ事項御留意相成度依命此段通牒候也

左記

- 一、精神病者ノ入院及退院ハ自由並公安ノ保持ニ至大ノ關係アルヲ以テ周到ノ注意ヲ拂ヒ若シ其ノ入院退院ニ付醫師ノ診斷意見一致セサルカ如キ場合ニ於テハ更ニ専門醫ノ診斷ヲ待ツ等慎重且ツ迅速ニ處理スヘキコト
- 二、患者ヲ入院セシムルニ付テハ症狀ノ輕重疾病ノ性質扶養關係ノ完否其他各種ノ狀況ヲ斟酌シテ保護治療ノ急ヲ要スルモノヨリ之ヲ撰定スル様留意スルコト
- 三、精神病院法第二條第三項ノ規定ニ依ル診斷ニ從事セシム可キ醫師ハ左ノ資格ヲ有スルモノノ中ヨリ指定スルコト

- (イ)警察醫其他道府縣ノ職員ニシテ精神病ニ關スル學識經驗アルモノ
- (ロ)代用精神病院ノ長及醫員
- (ハ)其他精神病ニ關スル學識經驗アルモノ
- (ニ)同法第四條ノ規定ニ基キ精神病院ノ長ノ入院者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ハ醫療ノ範圍ヲ超ヘ患者ノ身體ニ拘束ヲ加フル方法ナルヲ以テ之ヲ施行スルニ付テハ左ノ諸點ニ留意スルコト
- (イ)放火、逃走、煽動其他公安上危害ヲ生スル虞アル患者ニ限ルコト
- (ロ)社會又ハ患者ニ對シ不快ナル印象ヲ與フヘキ用語例ヘハ監置又ハ監置室若クハ躁狂室等ノ用語ハ之ヲ避クルコト
- (ハ)監護ノ爲メ患者ヲ七日以上保護室(從來ノ躁狂室)ニ入室セシムルニハ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト
- 保護室ノ入室ハ總テ速ニ地方長官ニ報告セシメ當ニ其狀態ヲ明瞭ナラシムルコト
- (ニ)患者ニ對シ強制具又ハ繩紐ノ類ハ萬止ヲ得サル場合ノ外其使用ヲ避クルコト
- 五、看護人ノ良否ハ精神病者ノ取扱上最モ重要ノ關係ヲ有

シ從來精神病院ニ關スル社會ノ批難ハ看護人ノ患者取扱ニ關連スルモノ多キノ實情ナルニ依リ代用精神病院ノ經營ニ付テハ常ニ看護人ノ品性及技術ノ發成向上ニ留意シ殊ニ保護室ノ看護ニ從事セシム可キ看護人ニ付テハ一層ノ注意ヲ拂フコト

- 六、精神病院法制定ノ理由ハ可憐ナル精神病者ニ對シ保護治療ヲ行フコトヲ主タル目的トスル義ニツキ道府縣ニ於テハ宜ク此趣旨ヲ體シ患者ノ看護ニ任スルト共ニ入院費徵收ノ如キニ付テモ此趣旨ニ則リ可成無料トシ之ヲ徵收スル場合ニ於テモ其取扱ヲ寬大ニシ苛酷ニ互ラサル様留意スルコト
- 七、代用精神病院患者ノ入院決定入院費ノ徵收其他諸般ノ法律關係ハ代用ノ範圍ニ於テハ地方長官ニ於テ之ヲ行フヘキモノナルヲ以テ其經費モ府縣ノ負擔ナルコト但シ經理ノ方法トシテ代用セシメタル精神病院ノ經營者ト協議シ患者一人當リノ經費ヲ定メ之ヲ交付スルカ如キハ素ヨリ差支ナキコト
- 八、大正八年內務省令第七號第七條ノ規定ニ基キ東京府知事及警視總監ニ於テ行フヘキ職務ノ執行方法ニ付テハ處理規定ヲ定メテ內務大臣ノ承認ヲ受クヘキコト之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

(別冊) 制定理由

我が國ニ於ケル精神病者ノ數ハ明治四十四年二萬五千七百九十三人ナリシカ其ノ後年々増加シ大正五年末ニ於テハ四萬四千二百二十五人ニ達シ著シキ増加ノ傾向アリ昨年保健衛生調査會ニ於テ全國ニ對シ一定ノ標準ヲ示シ警察調査ヲ行ヒタル結果ニ依ルニ六萬四千九百三十四人ニ及ヘリ、歐米諸國ニ於テハ調査精確ナル爲精神病者ノ數ハ國民三百人乃至五百人ニ一人ノ割合ニシテ之ニ依リ我國ヲ視スルトキハ我國人口六千萬中十二萬人乃至廿萬人ニ達スル割合ナリ而シテ社會ノ複雜ヲ加フルニ從ヒ益々精神病者増加ノ傾向アルコト疑ヲ容レサル所ナルヲ以テ歐米諸國ニ於テハ之カ保護取締ニ關スル施設ノ設備ニ努メ英佛諸國ニ於テハ精神病者ノ三分ノ一ハ官公立精神病院ニ收容シ北米合衆國ニ於テハ悉ク精神病院ニ收容スルノ狀況ナルト共ニ病院ノ設備內容亦頗ル見ルヘキモノナルニモ抑ラス我國ニ於テハ國家及公共團體共ニ保護治療ニ關スル何等ノ設備ナキ狀況ナリ、而シテ精神病者ニ對スル唯一ノ法制タル精神病者監護法ハ單ニ公安上ヨリ監置患者ノ取締ヲ主トシ不法ノ監置ヲ排除スルト共ニ監護義務者及市區町村長等ニ對シ精神病者ヲ監置スルノ權能ヲ能フト雖之ヲ監護スヘキ場所ノ設備等

ニ就テハ何等ノ規定ナク從テ今ヤ精神病者監護法制定以來二十年ヲ經過セムトスルニ係ラス東京東洋病院ヲ除クノ外多クハ私立病院ニシテ從テ六萬有餘ノ精神病者中精神病院其ノ他ノ設備ニ收容セラルル患者ノ數ハ僅々四千名餘ノ少數ニ過キス故ニ監置ヲ要スル患者ト雖約四千五百名ハ最モ不完全ナル私宅監置ニ附セラレ而モ其ノ多クハ中産階級以下ニ屬スルカ故ニ慘狀往々見ルニ忍ビサルモノアリ

又監置ヲ要セサル患者ニ付テモ其ノ多クハ適當ナル保護治療ヲ受クル能ハサルヲ以テ時ニ恐ルヘキ犯罪ヲ犯シ年々百五十名ヲ下ラサル殺人放火等ノ危險ナル精神病者ハ多ク此等處置ヲ受ケサル者ノ内ヨリ生ス、而モ刑法ハ不論罪トシテ處罰セラルヲ以テ此等危險ナル患者ト雖凡テ不完全ナル監護ニ附セララルルノ狀況ナリ

斯クノ如キハ精神病者ノ保護治療ハ勿論公安上ニ備勢カラサル所ニシテ畢竟ニ力收容ノ場所ヲ私人ノ經營ニ委シテ顧ミサル結果ニシテ決シテ適當ノ處置ト謂フヘカラス、故ニ國家ト地方ト相協力シテ之カ施設ヲ爲スノ必要ナルハ今ヤ多言ヲ要セサル所ナリトス、故ニ保護治療上ヨリ療養ノ途ナキ精神病者其ノ他監護上必要ナル精神病者ヲ收容セシムル爲道府縣ニ對シ精神病院設置ノ義務ヲ命シ國家ハ之ニ補助ヲ與ヘ其ノ負擔ヲ輕カラシムルト共ニ一面危險性甚シキ

犯罪性精神病者其ノ他地方立精神病院ニ於テ監護困難ナル精神病者等ヲ收容セシムル爲國立精神病院ヲ設置シ之カ監護ヲナスノ必要アリ然リト雖國家及地方財政ノ關係ハ俄ニ國立及道府縣立精神病院ノ普及完備ヲ期スル能ハサルノ事情アルヲ以テ道府縣立精神病院ノ設置ヲ見ルニ至ラサル府縣ニ於テハ既存ノ公私立精神病院ヲ利用シ之ヲ保護獎勵セシムルコト必要ナリトス依テ精神病院ノ設置、維持、管理等ニ關シ之カ諸般ノ關係ヲ統一シタル立法ノ必要ヲ認ムル所以ナリ

第一條 道府縣立精神病院ノ設置

本條精神病者監護ノ實況ニ鑑ミ道府縣立精神病院ノ設立ヲ必要トスルヲ以テ主務大臣ニ於テ北海道及府縣ニ對シ之カ設置ヲ命シ得ルコトヲ規定シタルモノナリ而シテ府縣ニ於テ設置シタル精神病院ノ維持管理ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔ニ屬スルコトヲ言フ俟タス

第二條 道府縣立精神病院ニ入院セシムヘキ者ノ範圍及入院セシムヘキ條件

一、本件ハ精神病者監護法ニ對シ特別規定タルノ關係ヲ有シ地方長官ハ本條ノ規定ニ依リ其ノ職權ヲ以テ精神病者ヲ入院セシムルヲ得ルモノトス而シテ入院後ノ監護關係モ亦全然精神病者監護法ノ規定ニ依ラスシテ本法

ノ規定ニ依ルヘキモノトス

一、本條第一項ニヨリ入院セシムヘキ者ノ範圍

1、精神病者監護法第六條ニ基キ監護スルノ必要アル精神病者監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキニ於テ市區町村長ノ監護スヘキ者並同法第八條第三項ニ基キ精神病者ノ監置ヲ命セラレタル監護義務者其ノ命令ヲ履行セサルトキニ於テ市區町村長ノ監護スヘキ精神病者之レナリ、而シテ本條ニ所謂市區町村長トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市區町村長ニ準スヘキモノトス

2、罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムル者

第一、罪ヲ犯シタルモ精神病者ノ故ヲ以テ刑法第三十九條ニヨリ處罰スヘカラサル者

第二、罪ヲ犯シタル後ニ於テ精神病者トナリタル者ノ内司法官廳ニ於テ特ニ危險ノ虞アリト認メタル者之ナリ

勿論司法官廳ニ於テ危險ト認ムルモ地方長官ニ於テ設備ノ收容力其ノ他ノ關係上入院セシメザ

ルモ可ナルナリ但シ此ノ場合ニ於テ監置ノ必要アル者ハ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監置スヘキモノトス

3、療養ノ途ナキ者

監置ヲ要セサル患者ニシテ療養ノ途ナキ者ヲ謂フ

4、前各號ニ掲タル者ノ外地方長官特ニ必要ト認ムル者

精神病者監護法ノ規定ニ依リ私宅ニ於テ監置スル患者ニシテ監護上精神病院ニ入院セシムルヲ適當トスル者若ハ關係人ヨリ特ニ入院ヲ希望シ地方長官ニ於テ特ニ入院ノ必要ヲ認メタル者等ヲ主ナルモノトス

三、本條第二項ハ精神病者ヲ強制入院セシムルハ個人ノ身體自由權ニ至大ノ關係アル故ニ醫學上果シテ精神病者

タリヤ否ヤヲ決定スルノ要アルヘク醫師ノ診斷アルニヨリ初メテ入院ヲ強制シ得ヘキモノトナシタルナリ而シテ診斷ヲナスヘキ醫師ノ範圍ハ命令ニ依リ之ヲ定ム

第三條 道府縣立精神病院ニ對スル國庫ノ補助補助方法及歩合ハ勅令ノ規定スル所ニ依リ第一條ノ規定ニ

依り設置スル精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス而シテ勅令ノ規定ハ大體次ノ標準ニヨルノ見込ナリ即チ國庫ハ道府縣ノ支出精算額ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

- 1、精神病院創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費二分ノ一
- 2、其ノ他ノ諸費 六分ノ一
- 3、代用精神病院ノ患者入院費ニ對シ道府縣ノ支出シタル 六分ノ一

第四條 道府縣立精神病院長ノ權限

精神病院ノ長ハ精神病院內ニ於ケル患者ノ保護治療ニ關スル責任ヲ有スルモノトス而シテ精神病者ノ醫藥上必要ナル行爲ハ精神病院ノ長ハ當然行ヒ得ヘキモノナリト雖監護其ノ他監護上必要ナル處置ハ純粹ノ醫藥行爲ト認ムルヲ得サル場合アルヲ以テ本條ニ依リ之カ處置ノ權限ヲ與ヘントスルモノナリ、而シテ監護其ノ他監護上必要ナル處置ハ大體ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケシメ緊急ノ場合ニ於テハ機宜ノ處置ヲ誤ラサル様事後ニ於テ許可ヲ受ケシムル方針ナリ

第五條 道府縣立精神病院入院費

本法ハ救濟ヲ主眼トスルカ故ニ入院費ハ主トシテ道府縣ニ於テ負擔セシムルヲ目的トスト雖負擔力アル者ニ對シテハ

入院費ヲ徵收シ救濟ノ度ヲ超ヘサラシメンカ爲本條ノ規定アル所以ナリ、而シテ負擔力アリヤ否ヤハ地方長官ノ認定ニ委シ厚毛ノ徵ニ至ル迄之ヲ追徵スルノ趣旨ニアラス從テ大體ニ於テ負擔力ナシト認ムルトキハ之ヲ免除スルヲ趣旨トス而シテ扶養義務者負擔ノ範圍ハ民法ノ規定ニ依リ扶養スヘキ義務ノ程度トス

第六條 任意道府縣立精神病院

本法施行前ヨリ道府縣ニ於テ設置シタル精神病院又ハ本法施行後道府縣ニ於テ本法ノ規定ニ依ラス任意ニ設置シタル精神病院ニハ地方長官ハ本法第二條ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルコト能ハス主トシテ精神病者監護法ノ規定ニ依リ監護義務者ニ於テ入院セシムヘキモノトス而シテ道府縣ニ於テ此ノ種ノ精神病院ヲ設置スルハ何等差支ナシト雖當該地方長官ニ於テ更ニ本法ニ依ル精神病院ヲラシムルノ意思アリ且設備其ノ他ノ點ニ於テ主務大臣ノ適當ト認ムルモノナルニ於テハ本法ニ依リ設置シタルモノト同一ニ取扱フハ何等差支ナク又實際ニ適スル場合アルヘシ故ニ此ノ場合ニ處スルタメニ本條ノ規定アル所以ナリ

第七條 代用精神病院

●代用精神病院ノ長ノ入院患者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置規定認可申請ノ件

大正九年六月四日
視衛第一四〇號
警視總監申請大正九年三月十三日
衛第五一號

精神病院法第十條ノ規定ニ依ル代用精神病院ニ關スル件第六條ノ規定ニ依リ代用精神病院ノ長ノ入院患者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ニ關スル規定別紙ノ通相定メ之ヲ施行細則中ニ追加致度候條認可相成度此段及稟申候也

別紙

代用精神病院ノ長ノ入院患者ニ對スル處置ニ關スル規定
代用精神病院ノ長ハ殺傷、放火、逃走、煽動其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル入院患者ニ對シテハ左ノ制限ニ依リ之ヲ保護室

(從來ノ躁狂室)ニ入室セシムコトヲ得

一、監護上高止ムヲ得サル場合ニ非サレハ患者ヲ保護室ニ入室セシムルコトヲ得ス

二、七月以上保護室ニ入室セシメントスル時ハ患者ノ氏名、病名及收容ノ事由ヲ具シ警視總監ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 訴願及訴訟

精神病者ニ對スル處置取扱ハ其ノ人身體ヲ侵害スルコト大ナルカ故ニ行政官廳ノ處分ニ對シテハ一定ノ救濟方法ヲ設クルヲ至當トスヘク是レ本條ヲ規定スル所以ニシテ又他面ニハ精神病者監護法ノ規定ト照應セシメタリ

附則

施行ニ關スル件

本法ハ國家財政ノ都合ニヨリ本年度豫算ニ於テ道府縣ニ設置セシムル爲ニ必要ナル經費ヲ得難キ事情アリタルカ故ニ本年度ニ於テハ代用精神病院ニ關スル規定及之カ施行ニ必要ナル範圍ノ規定ヲ施行スルノ見込ナリ

但シ急迫ヲ要スルトキハ假ニ之ヲ處置シ二十四時間内ニ
本文ノ手續ヲ爲スヘシ

三、保護室ニ入室セシメタル患者ニシテ其ノ必要ナキニ至リ
タルトキハ速ニ退室セシムヘシ

但シ警視總監ヨリ特ニ保護室ニ收容ヲ命シタル患者ニ
付テハ豫メ警視總監ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ退
室セシムルコトヲ得ス

四、保護室ノ入室ハ其ノ都度二十四時間内ニ其ノ年月日時
患者ノ氏名、病名及症狀ヲ具シ警視總監ニ届出ツヘシ
代用精神病院ノ長ハ自殺又ハ自傷ノ虞アル患者ニ對シテ危險
防止ノ爲必要ナル處置ヲ施シタルトキハ患者ノ氏名及方法ヲ
具シ二十四時間内ニ警視總監ニ届出ツヘシ之ヲ廢止シタルト
キ亦同シ

認可大正九年六月四日
警視第一四〇號

警視總監

大正九年三月十三日附衛第五一號申請代用精神病院ノ長ノ入
院患者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ニ關スル件認可
ス

●代用精神病院費ニ關スル件

昭和四年七月十一日
衛第五八一號

代用精神病院費ニ關スル件

標記ノ件今般香川縣知事ニ對シ別紙ノ通回答致候條爲參考及
通牒候

(別紙)

四發衛第三八八號

昭和四年六月二十六日

內務省衛生局長宛

香川縣知事

代用精神病者費用支出ニ關スル件

代用精神病院ニ入院中患者ノ死亡後ニ於ケル費用ハ代用精
神病院救療費中ヨリ支拂フヘキモノナルヤ精神病者監護法
ニ依リ監護費中ヨリ支拂フヘキモノナルヤ聊カ疑義有之候
條貴局ノ御意見承知致度及照會候也

衛第五八一號

昭和四年七月十一日

香川縣知事宛

內務省衛生局長

代用精神病院費ニ關スル件

六月二十六日附四發衛第三八八號ヲ以テ御照會相成候標記
ノ件前段御意見ノ通ト存候
追テ精神病者經費所屬ニ關スル疑義ノ件通牒(大正十五年
日衛第五八一號)爲御參考添付致候

●精神病者監護法適用上疑義ニ關スル件

大正六年三月九日
衛新第三三三號

新瀉縣知事照會大正六年二月十六日
保發第三八號

精神病者監護法適用上左記ノ事項ニ關シ疑義相生シ候條何分
ノ御回示相成度及伺候也

記

一 精神病者監護法施行規則第九條中「公私立」トアルハ
官立(例ヘハ醫學專門學校附屬精神神經科病室ノ如キ)
ヲ包含スル義ニ候哉

一 精神病者ヲ官立(前項例示ノ如キ)病院ニ收容スル場
合ト雖荷クモ監置ヲ要スルモノナランニハ其ノ監護義
務者ニ於テ監置ニ關スル警察許可ヲ受クルヲ要スル義
ト解シ可然哉

衛生局長回答大正六年三月九日
衛新第三三三號

本件ニ關シ客月十六日付保發第三八號ヲ以テ御問合ノ趣了承
第一項「公私立」ノ中ニ官立ハ包含セス第二項ハ御意見ノ通
ト存候

●精神病者ノ監置及移轉ニ關スル

第一類 廢事 第七章 精神病

(內務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

取扱方ノ件

明治三十三年七月六日
衛申第九七號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

今般省令第三十五號ヲ以テ精神病者監護法施行規則發布相成
候處同則第三條ニ依リ精神病者ヲ監置スル場合ニ於テ地方長
官ニ願出テ又ハ届出ルトアルハ監置スヘキ場所ノ地方長官ニ
爲スヘキ儀ト御承知相成度將又監置ノ場所ヲ他管内ニ移轉ス
ルトキハ從來監置ノ場所及移轉地ノ地方長官ヘモ届出テシ
メ候様御取扱相成度又精神病者監護法第八條ニ依リ監置シタ
ル精神病者ニ關シテハ監置ノ場所ヲ他管内ニ移轉スルトキハ
同條第四項ニ依リ從來監置セシ場所ノ地方長官ノ許可ヲ受ケ
且移轉先ノ地方長官ニ届出シムル儀ニ有之候條此段及御通牒
候也

●精神病者ヲ其住所外地ニ送りテ

監置スル場合取締ニ關スル件

明治三十九年十月二十一日
秘丙第一四八號

(滋賀縣知事照會ニ
對シ衛生局長回答)

糞ニ及御照會置候精神病者監護ノ件ニ付六月七日付ヲ以テ御

回答之趣了承文中某ヲ精神病者トシテ精神病院ニ入院セシメタル前後三回ナリシカ其ノ都度京都市ニ監置シタルヲ以テ其手續カ適法ナリシヤ否ヤハ明ナラス云々ト有之候モ本件事實ノ如ク精神病者ヲ其住所外府縣へ送りテ監置スル場合ニ關シテハ別ニ法ノ明文ナキモ法第三條、第四條及第五條等ニ規定スル許可申請又ハ届出ノ如キハ勿論住所府縣(本件ナレハ貴縣)ニ對シテ之レヲ爲サシムヘク其之レカ監置ヲ許可シタル住所府縣ハ更ニ精神病者監置ノ場所ヲ支配スル府縣(本件ナレハ京都府)ニ照會シテ其病院ニ於ケル病者ノ取扱振等ヲ監視スルコトヲ協定シ置キ若シ其取扱振即チ監置方法等ノ不都合ナル等ノ通知ヲ受ケタルトキハ監護義務者ニ對シ監置ノ方法若クハ場所(本件ナレハ其病院)ノ變更ヲ命スル等法ノ規定ニ依リ相當取締ヲ爲スヘキ義ト御承知相成度趣伺ノ上此段及通牒候也

●精神病者監護管轄ニ關スル件

大正元年十二月 衛第三八三三號

大阪府知事照會大正元年十二月

精神病者監護法第六條ニ該當スル精神病者ニシテ住所アルトキハ其住所市町村長ニ於テ監護スヘキコトニ規定セラレ居候處之カ監護中ノ前記住所ヲ他ヘ移轉シタル場合ハ之ト同

時ニ義ノ市町村長ノ監護ヲ離レ移轉地ノ市町村長ニ於テ監護スヘキコトニ可相成儀ニ候哉、果シテ市町村長ノ管轄ニ異動ヲ來スモノトセハ他府縣へ住所ヲ移轉シタル場合ニカ引渡上不勘手數ヲ要スル次第ニ有之候付テハ同條中ノ住所地云々トアルハ假令住所ヲ移轉アルモ最初ノ市町村長ニ於テ本件ノ事故止ム迄監護ヲ繼續スヘキ義ニ候哉、若シ前段ノ如ク解スルニ於テハ各府縣之カ取扱上軌一ニスルノ必要有之候様被存差懸リ疑義相生シ候條至急何分ノ御同示相煩度此段及照會候也

●精神病者監護義務者ニ關スル件

昭和三年十月十日 衛第七六五號

衛生局長回答大正元年十二月 衛第三八三三號

精神病者監護管轄ニ關スル件右ハ後段御意見ノ通ト被存候條御承知有之度趣伺之上此段及回答候也

精神病者監護義務者ニ關スル件

(内務省衛生局長ヨリ 廳府廳長官宛通牒)

標記ノ件ニ關シ奈良縣知事ニ對シ別紙ノ通回答致置候條爲參考及送付候也

奈良縣知事照會

(昭和三年九月五日保第一一、〇六二號)

精神病者監護義務者ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ取扱上左記疑義相生シ候條何分ノ御回報相煩度及照會候也

- 一、精神病者監護法第三條ニ依リ監置許可ヲ受ケタル監護義務者死亡シタル場合同法第一條第二項ノ順位ニ相當スル者ヨリ更ニ出願許可ヲ受ケシムヘキヤ或ハ届出ヲ以テ足ルモノナルヤ
 - 二、精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三年内ニ更ニ監置セントスル時ハ行政廳ニ届出ヘキハ監護法第三條ニ規定セラル、處ナルモ該届出者ハ前ニ監置許可ヲ受ケタル者ヲ指スヤ或ハ再監置シ取扱當時ノ監護義務者ヲ指スモノナルヤ
 - 三、精神病者監護法第八條ニ依リ監置ヲ命セシ病者ニシテ監置廢止後三ケ年内ニ更ニ監置セントスル時ハ同法ニ依リ監護義務者ヲ指定スヘキヤ否ヤ
- 内務省衛生局長回答

(昭和三年九月二十日衛豫第七六五號)

精神病者監護義務者ニ關スル件

九月五日附保第一一、〇六二號ヲ以テ御照會相成候標記ノ

件第一號第二號ハ後段御意見ノ通第三號ハ監護義務者ニ於テ監置セムトスルトキハ第三條第二項ニ準シ行政廳ニ届出シメ行政廳ニ於テ監置セムトスルトキ又ハ前段監護義務者ニシテ監置不適當ト認ムルトキハ同法ニ依リ監置義務者ヲ指定スヘキモノト存候

●精神病者看護人ニ對スル免許規則制定ニ關スル件

昭和三年九月十二日 衛第六五九號

(内務省衛生局長ヨリ 廳府廳長官宛通牒)

精神病者看護人ニ對スル免許規則制定ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般警視總監ニ對シ別紙ノ通回答致置候條爲參考及送付候也

昭和三年七月三十日

警視總監

内務省衛生局長宛

精神病者看護人ニ對スル免許規則制定ニ關スル件照會

管内ニ於ケル公私立精神病院ニ於テハ男子患者ノ監視看護ニ從事セシムル爲男子ヲ雇備シ看護人ト稱シ居ルモ之ニ對

スル取締法令ナク大正四年六月内務省令第九號看護婦規則ハ男子タル看護人ニ之ヲ準用スル旨規定セラルルモ該令ハ公衆ノ需ニ應ジ看護ノ義務ヲ爲ス者ニ對スル規定ニシテ精神病院ノ使用人トシテ雇傭サルル者ニ對シテハ準用無キモノト認メラルルノミナラズ業務ノ實際狀態モ一般傷病者ノ看護トハ全然其ノ趣ヲ異ニシ之ガ準用ハ實狀ニ適セザル點尠ナカラザルヲ以テ是等ニ對シ業務上必要ナリト認ムル學術試驗ヲ施行シ合格者ニ對シテ免許證ヲ交付スルコトトシ之ニ依リテ看護人ノ業務上ニ關スル技能學識ノ啓發向上ヲ計ル目的ヲ以テ精神病者看護人免許ニ關スル應令制定ノ必要有リト認メ候ヘ共看護婦規則附則第七條第七項ノ解釋上疑義有之候ニ就テハ本件應令制定ノ件支障ノ有無ニ關シ御意見承り度此段及照會候也

衛豫第六九五號

昭和三年八月二十四日

内務省衛生局長

警視總監宛

精神病者看護人ニ對スル免許規則制定ニ關スル件
標記ノ件ニ關シ七月三十日付衛豫第二五〇號ヲ以テ御照會相成候處内務省令第九號看護婦規則ニ所謂看護婦ハ官公私立病院醫院等診察所ニ於テ看護婦トシテ看護ニ從事スル者ヲ包含スル趣旨ニ有之從テ附添人ニ非ザル男子タル看護人ガ

傷病者看護ノ業務ニ從事スル場合ハ看護婦規則附則第七項ノ規定ニ依リ同規則ノ準用ヲ受クベキモノニシテ之ニ基キ男子タル看護人ノ免許ニ關スル應令ヲ制定セラルルモ支障無之候

●精神病者監護義務者指定ニ關スル件

大正十四年六月十一日
内務省高衛第二六號

標記ノ件ニ關シ高知縣知事ヘ別紙ノ通回答候條爲念及通牒候

(別紙ハ高知ヘ回答文添付)

高知縣知事照會大正十四年五月十五日
保發第一三八號

精神病者ヲ監護セントスルモ精神病者監護法第一條第二項ニ列舉セル後見人、配偶者、親戚ヲ行フ父又ハ母若クハ戸主共ニ在ラサルトキハ同項第五號ニヨリ四親等内ノ親族中ヨリ親族會ノ選任シタル者ニ於テ監護セサルヘカラス從ツテ斯ル場合未タ親族會ノ選任ナキ間ハ所謂監護義務者監護ノ義務ヲ履行スル能ハサル事由アルトキニシテ法第六條ニ基キ一先ツ市町村長ヲシテ之カ監護ヲ爲サシムヘキモノト存候

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

(各地方長官宛)
衛生局長通牒

精神病者監護法第九條第二項ニ關スル規定ノ義ニ付往往問答ノ向モ有之候處右ハ省令第三十五條ニ規定セラレタル外差當リ別段標準等設ケラレサル等ニ有之就テハ貴廳ニ於テ其必要有之候ヘハ廳府縣令又ハ内規等ヲ設ケラレ便宜御措置相成可然此段及通牒候也

●精神病者監置室寫眞ニ關スル件

昭和五年五月二十九日
衛豫發第二〇號

(内務省衛生局長ヨリ)
廳府縣長官宛通牒

精神病者監置室寫眞ニ關スル件
最近ニ於ケル精神病者監置室ノ狀況承知致度ニ付テハ貴管下公私立監置室中公立ノモノ(病院以外ノモノ)ニ付テハ一個私宅監置室ニ付テハ「佳良ナルモノ」「普通ナルモノ」「不良ナルモノ」代表的監置室一個宛ヲ選ミ左記ニ依リ寫眞ヲ撮影シ御回付相煩度

記

- 一、寫眞ハ一監置室一枚トシ臺紙ニ貼付セサルコト
 - 二、寫眞ニハ附箋ヲ附ケ左記事項ヲ記載スルコト
- (但シ、リ號ル號ニ付テハ簡單ニ記載スルコト)

一方法第八條ニハ行政廳カ法第一條第二項ノ順位ニ拘ラス監護義務者ヲ指定シ得ヘキ場合ヲ規定シアリ而シテ其ノ第一條第二項ノ順位トハ同項第五號ニ在リテハ親族會ノ選任ヲ得テ現實ニ監護ノ義務ヲ盡シ得ヘキ地位ニアルモノニシテ四親等内ノ親族一般ヲ指スモノニハ非サル如ク思料スルモ斯ノ如キ解釋ヲ採ルニ於テハ親族會ヲ召集スル事困難ナル場合等ニ於テ監護ニ最モ適當ナル者例之兄弟姉妹等ノ在ルニ拘ラス法第六條ニ依リ市町村長ニ監護セシムルハ徒ニ多クノ手數ヲ要シ不便亦不尠此場合若シ第八條ニ所謂第一條第二項ノ順位中第號ヲ四親等内ノ家族一般ヲ指スモノト解シ法第八條ニヨリ行政廳ノ指定ヲ爲スニ於テハ多クノ不便ヲ免レ得テ而モ實情ニ適セシメ得ル様被存候ニ付テハ右ニ取扱差支無之哉至急何分ノ御指揮相仰度此段及照會候也

●精神病者監護法ニ關スル精神病院及病室ノ構造設備標準ニ關スル件

明治三十三年七月二十四日
衛甲第九九號

第一類 醫事 第七章 精神病

イ、「佳良ナルモノ」「普通ナルモノ」「不良ナルモノ」ノ表
示

- ロ、監置室所在地
- ハ、患者氏名
- ニ、患者年齢
- ホ、患者職業
- ヘ、監護義務者氏名
- ト、監護義務者ノ資産及生活程度
- チ、監護ノ年月
- リ、監護ノ理由
- ヌ、監護室ノ位置
- ル、家人ノ待遇(公立ノ場合ハ管理者等ノ待遇)
- ヲ、警察官ノ視察回数

●精神病者監置室ニ關スル件

大正五年八月四日
衛北第一三七號

北海道廳長官照會 大正五年七月二十四日
衛衛第九六四六號
左記性質ノ精神病者監置室ニ對スル許可ハ私宅監置室ト見做
スキヤ或ハ精神病者監護法施行規則第九條ニ準シ地方長官ニ
於テ爲スヘキモノナリヤ取扱上疑義有之候條何分ノ御回報相

煩度候也

記

一 市町村長ノ監置スヘキ精神病者ノ監置ヲ私人ニ委託シ
タル場合ニ其ノ被託者タル私人ニ於テ建設スル監置室
ニシテ一時的使用即チ病者轉歸後ハ之ヲ廢スルモノ並
ニ一時的使用ニアラスシテ反覆繼續スルモノ即チ常ニ
監置室ヲ設備シ置キ(公私病院ニアラス)テ市町村長
ノ委託ニ應ジテ監置セルモノニ對スル許可

衛生局長回答 大正五年八月四日
衛北第一三七號

本件ニ關シ客月二十四日警衛第九六四六號ヲ以テ照會ノ趣了
承右ハ前段御意見ノ通ト被存候

●市町村立精神病者監護施設ニ關
スル件

大正十四年十月二十三日
衛衛第六四二號

標記ノ件北海道廳長官ニ對シ別紙ノ通回答致置候條爲念及通
牒候也
北海道廳長官照會 大正十四年九月十九日
衛衛第二一八四號

左記精神病者監置室ハ病院組織ニハ非ラサルモ精神病者監護
法第九條ノ公立精神病院ト看做スヘキモノナリヤ若シ然ラス
トセハ之ヲ取扱ニ該當スヘキ條項無キカ如ク取扱上疑義有之
候條何分ノ御回報相煩度候也

記

一、市町村ニ於テ永久的ニ精神病者監置室ノミヲ數室建設
シ診察ハ市町村醫者クハ開業醫ニ囑託シ病者ニ對スル
給養其他一切ノ監護ハ特定ノ私人ニ請負ハシムルモノ
ナリ

衛生局長回答 大正十四年十月十五日
衛衛第六四二號

標記ノ件ニ關シ九月十九日付警衛第二一八四號ヲ以テ御照會
相成候處右ハ精神病者監護法第九條精神病院トシテ御取扱相
成可然ト存候

●精神病者兩足連鎖ノ件

明治三十四年七月十五日
衛衛第四八七四號

精神病者監置方法トシテ兩足連鎖ノ義埼玉縣知事照會ニ對ス
ル回答之件左記御參考迄此段及御通牒候也
埼玉縣知事照會 明治三十四年六月十八日
保收第一五四四號ノ一

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

精神病者ニ對シ危險豫防ノ爲メ徐步運動ヲ妨ケサル程度ニ於
テ兩足ヲ連鎖看護致度旨出願ノ者ハ之右ハ精神病者ニ對スル
一種ノ監護方法トシテ同監護法ニヨリ許可スヘキ者ニ候哉御
意見承知致度此段及問合候也

衛生局長回答 明治三十四年七月十五日
衛衛第六四二號

保收第一五四四號ノ一ヲ以テ精神病者危險豫防ノ爲メ兩足連
鎖ノ御問合相成候處右之方法ハ現時治療上殆ント施用セサル
ニ付萬已ムヲ得サル事由アル場合ニ限り醫師ノ鑑定書ヲ徵シ
審査ノ上許可相成可然最速連鎖ノ器具方法等ハ不都合ナキ様十
分御注意相成度此段及御回答候也

●癲癩養所へ收容中ノ癲癩者ニシ
テ精神病ニ罹リタルモノ監置方
ノ件

明治四十二年九月十七日
衛衛第六一號

熊本縣知事照會 明治四十二年九月四日
衛衛第九四六號
癲癩養所へ收容中ノ癲癩者ニシテ精神病ニ罹リ監置ノ必要ア
リテ療養所内ニ監置ヲ爲ス時ハ別段ノ手續ヲ經スシテ癲癩養
所管理者タル地方長官ノ資格ニ於テ職權ヲ以テ監置可然候ト
解セラレ候モ精神病者監護法並ニ癲癩豫防ニ關スル法律中右ニ

該當スル規定無之聊カ疑義ヲ生シ候然ルニ目下當區療養所收容中ノ患者一人精神病ニ罹リ將來或ハ監置ノ必要ヲ生スルヤモ難計候ニ付豫メ御意見承知致度此段及御問合候也

衛生局長回答 明治三十四年七月十二日
衛甲第三九號

本月四日付衛第九四六號ヲ以テ癩療養所へ收容中ノ癩患者ニシテ精神病ニ罹リタル場合ノ監置方ノ件御照會ノ處右ハ精神病者監護法ニ依ルヘキ筋ト存候此段及回答候也

大正六年九月二十日
衛阪第二四八三號

(東京府、青森縣、香川縣、熊本縣長官宛衛生局長通牒)

本件ニ關シ別紙寫ノ通大阪府知事ト照覆候條御了知相成度大阪府知事照會 大正六年九月十六日

療養所ニ收容中ノ原籍不明ノ癩患者ニシテ精神病ニ罹リタル時療養所長ヲ看護義務者ト看做シ院內ニ監置セシメ差支ナキ

衛生局長回答 大正六年九月二十日
衛阪第二四八三號

本件ニ關シ本月十六日電報ヲ以テ御照會ノ趣了承監置ノ必要アル者ハ精神病者監護法第六條ニ依リ所在地市區町村長ニ於テ監置スヘキモノニ有之候得共此ノ場合ニ於テハ市區町村長

ヲシテ療養所ニ對シ監置ノ委託ヲ爲サシムルヲ便宜ト存候又監置ノ必要ナキ者ニ就テハ當該療養所長ニ於テ適宜處置スルコトヲ得ル儀ニ候條右ニ御了知相成度

●精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續

明治三十四年六月三日
內務省訓令第七號

監置ノ必要アル精神病者タル在監人ニ關シテハ監獄ノ首長ハ其放免前相當ノ時期ニ於テ監護義務者ニ通知シ監護義務者ナキカ又ハ監護義務者其義務ヲ履行スルコト能ハサル事由アルトキハ精神病者住所(住所不明ナルトキハ監獄所在地)ノ市區町村長ニ通知シ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スモ放免ノ際現ニ之ヲ引取ル者ナキ場合ニ於テハ監獄ノ首長ハ其所在ノ警察官署ニ通知シ之ヲ引渡シ警察官署ハ監護義務者又ハ市區町村長等ニ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ

監獄ノ首長前各項ノ通知ヲ爲ストキハ醫師ノ診斷書其他必要ナル書類ヲ添付スヘシ

●精神病者タル在監人放免ノ際監獄首長ヨリ引取先ノ警察官署へ

通知方ノ件

明治三十四年七月十二日
衛甲第三九號

(各地方長官宛衛生局長通牒)

精神病者タル在監人放免ノ際監獄首長ヨリ警察官署へ通知方ノ件別紙甲號寫ノ通千葉縣知事ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通回答候條監置ヲ要スヘキ精神病者タル在監人ヲ監護義務者市區町村長等ニ引渡シタル場合ニハ監獄首長ヨリ引取先ノ警察官署へ通知セシメラレ候様御取計相成度此段及通牒候也

明治三十四年七月十二日
衛甲第三九號

(集治監典獄宛衛生局長通牒)

精神病者タル在監人放免ノ際監獄首長ヨリ警察官署へ放免通知方ノ件別紙甲號寫ノ通千葉縣知事ヨリ照會有之候ニ付乙號ノ通及回答候條監置ニ於テモ同様御取計相成度此段及通牒候也

(甲號)

千葉縣知事照會 明治三十四年六月十五日
保發第七一號

明治三十四年六月三日內務省令第七號ヲ以テ精神病者タル在監人ノ放免ニ關スル取扱手續發布相成候處監獄ノ首長ニ於テ

精神病者タル在監人放免前監護義務者若ハ市區町村長ニ對シ通知ノ上引渡シタルトキ監護義務者市區町村長ハ法律ノ規定ニ遵ヒ相當ノ手續ヲ盡スハ當然ノ義ニ可有之候得共往々其手續ノ遅緩ニ流ルルノ懸念有之警察取締上支障カラス就テハ監獄ノ首長ヨリ監護義務者又ハ市區町村長ニ引取ラシムル場合ニ於テハ其ノ所轄地ノ警察官署へ其旨通知ヲ發スヘキ様御取計相成度此段及照會候也

(乙號)

衛生監獄兩局長回答 明治三十四年七月十二日
衛甲第三九號

保發第七一號ヲ以テ精神病者タル在監人放免ノ際監獄首長ヨリ警察官署へ通知ノ件御照會有之候處右ハ別紙寫ノ通廳府縣長官へ及通牒尙集治監典獄へモ同様ノ旨趣及通牒候間貴縣ニ於テモ同様御取計相成度此段及回答候也

(別紙前掲)

●精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續疑義ノ件

明治三十四年六月二十五日
神甲第五〇號

(各地方長官、各典獄宛衛生局長通牒)

明治三十四年六月內務省訓令第七號精神病者タル在監人放免

ニ關スル取扱手續中疑義ノ點ニ付左記神奈川縣知事ト照覆ノ次第御參考迄此段及通牒候也

神奈川縣知事照會 明治三十六年三月十七日
警衛受第九八一號

明治三十四年内務省訓令第七號精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續第二項中「監獄ノ首長ハ其所在ノ警察官署ニ通知シ之ヲ引渡シ」トアルハ監獄署ヨリ當該警察官署ニ送致シ來リ引渡スヘキ旨ヲ示サレタルモノニシテ其通知ヲ受ケタル警察官署ハ引取人ヲ差出シ引渡ヲ受ケヘキモノニ非スト考量セラレ候得共御意見反對ノ向モ有之將來心得ノ爲メ御意見承知致度此段及御照會候也

衛生監獄局長回答 明治三十六年四月二十五日
衛甲第五〇號

三月十七日付警衛受第九八一號精神病者タル在監人放免ニ關スル取扱手續中疑義ノ點ニ付御照會ノ趣了承右監獄首長ヨリ通知ノ上ハ警察官署ニ於テ引取ノ手續ヲナスヘキ義ト御承知相成度依命此段及回答候也

● 行旅中精神病ニ罹リタル者ノ監護方ニ關スル件

明治三十四年九月五日
衛甲第五三號

埼玉縣知事照會 明治三十四年八月八日
保發第二〇號

行旅中精神病ニ罹リタル者監護ノ必要アルモ本人又ハ監護義務者ノ住所遠隔ナルトキハ精神病者監護法第六條ニ依ラス行旅病人及死亡人取扱法ニ依リ所在地市町村長ヲシテ監護セシムルコトヲ得ヘキ哉差掛リタル事件有之候ニ付至急御回答相成度此段及照會也

衛生局長回答 明治三十四年九月五日
衛甲第五三號

本月八日付保發第二〇號ヲ以テ行旅中精神病ニ罹リタル者ノ監護方ニ付御照會ノ趣了承右ハ精神病者監護法第六條ノ規定ニ準シ差向キ所在地市町村長ヲシテ監護セシメ住所所地ノ監護義務者ニ若又監護義務者ナキカ又ハ監護義務者其義務ヲ履行スル能ハサル場合ニハ住所所地ノ市町村長ニ引渡候様便宜御取計相成候外有之間敷ト存候經伺ノ上此段及回答候也

● 精神病院愛知縣ニ設置ノ件

昭和五年五月三十日
内務省告示第百二十三號

愛知縣ニ對シ昭和九年三月三十一日迄ニ精神病院ヲ設置スルコトヲ命セリ

● 私立精神病院燒失ニ關スル件

昭和四年七月一日
衛甲第二〇五號

(内務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

私立精神病院燒失ニ關スル件

曩ニ燒失シタル東京市牛込區所在戸山腦病院ノ出火原因等ニ關シ警視總監ヨリ報告ノ概要左記ノ通ニ有之候條爲參考及通牒候

追テ精神病者收容施設ニ於テハ常ニ防火及避難ニ關スル注意ヲ怠ラス且可成地方廳指導ノ下ニ時々右ニ關スル演習ヲ行ハシメラルル様致度申添候

記

- 一、出火 昭和四年二月十五日午後十一時二十分頃出火シ同病院ノ大部分及隣接セル陸軍砲工學校校舍ノ一部ヲ燒毀シタリ
- 二、出火原因 同病院入院中ノ躁鬱病ノ一男患者右時間頃擔當看護人ノ不在ニ乘シ廊下ニ備ヘアル看護人採暖用火鉢ノ炭火ヲ以テ自己病室廊下ノ羽目板ニ放火シタルニ因ル
- 三、病者ノ措置 燒失當時收容中ノ患者七十七名ニシテ出火ト同時ニ所轄署員及病院、職員協力シ病院前廣場ニ極力避難セシメタルモ大造家屋ノ爲火足極メテ早ク燒死者十二名ヲ出タセリ右ノ避難病者ハ其ノ後東京府下四精神病院ニ配分入院セシメタリ猶出火ノ際逃走等一時行衛不明

第一類 醫事 第八章 醫事ニ關スル司法判例

者十三名アリタルモ其ノ後附近警察署ニ於テ發見シタリ四、事件ニ對スル措置 放火被疑者タル患者及私用ノ爲看護ヲ怠リタル右看護人二名ニ對シテハ早稻田警察署ヨリ事件ヲ三月二十七日東京地方裁判所檢事局ニ送致セリ猶出火當日ノ午前中昂奮セル一患者ヲ不法ニ同病院監置室ニ監置シ遂ニ之ヲ燒死スルニ至ラシメタリ看護人三名ニ對シテモ亦四月十五日右同様ノ措置ヲ採レリ

第八章 醫事ニ關スル司法判例

決例

● 醫師法

明治四〇年
大審院判決

醫師法第十一條ハ營業ノ目的ヲ以テ免許ヲ受ケス擅ニ醫術ヲ行ヒタル者ヲ處罰スルノ法意ナリ

明治四二年
大審院判決

醫師ニシテ自己ノ業務上其經歷ヲ叙述シタル廣告ヲ爲ストキハ醫師法第七號ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其廣告ノ目的如何ハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

明治四三年
大審院判決

醫業トハ疾病ヲ診察シ之ニ依リテ生活資料ヲ得ル行爲ヲ反覆スルノ謂ナリトス故ニ其業務ニ對シテ現置ニ報酬ヲ受ケ又ハ之ヲ約セサルモ醫業ヲ爲シタリト云フヲ妨ケス

明治四四年
大審院判決

苟モ自己ノ常業ト爲スノ目的ヲ以テ免許ヲ受ケスシテ醫タル行爲ヲ爲シタルトキハ醫師法第十一條ノ犯罪ハ直ニ成立シ必スシモ其行爲ヲ反覆スルヲ要セス又必スシモ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ爲スヲ要セサルモノトス

(同主旨)

醫業ヲ常業トスルノ決意アルトキハ必スシモ數人ニ對シテ醫術ヲ行ヒ又ハ一人ニ對シテ數回醫術ヲ行フコトヲ要セス單ニ一人ニ對シ一回之ヲ行ヒタル場合ニ於テモ尙ホ醫業ヲ爲シタルモノトス(明治四十年大審院判決)

明治四四年
大審院判決

鍼灸術ハ醫師ト同シク疾病治療ヲ目的トスルモノナリト雖モ其術タル鍼灸又ハ灼灸ノ方法以外ニ出ツヘカラス故ニ外科的手術ヲ施シ若クハ藥劑ヲ用ウルカ如キハ醫術ノ範圍ヲ犯シ純

然タル醫師ノ行爲ニ外ナラス

明治四五年
大審院判決

醫師法第七條ニハ醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス其技能療法又ハ經驗ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ストアルヲ以テ苟モ新聞社員ヲシテ右所定ノ事項ヲ新聞紙上ニ告白セシメタル以上ハ其告白自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スト否ト又其掲載ノ費用ヲ負擔スルト否トヲ問ハス醫師法第十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

大正二年
大審院判決

醫師法第七條ニ於ケル醫師ノ廣告禁止事項中療法ニ付キ更ニ制限スル所ナキヲ以テ之ヲ詳密ニ示スト否トヲ問ハス又特殊ノモノタルト否トヲ論セス苟モ療法ニ付テ廣告ヲ爲シタル醫師ハ同第十一條ノ制裁ヲ免ルルヲ得ス

大正二年
大審院判決

醫師カ自ら治療行爲ヲ爲スニ當リ醫師ノ免許ヲ有セサル者ヲ使役シ其指揮監督ノ下ニ治療行爲ヲ補助セシムルモ補助者ハ單ニ醫師ノ手足トシテ行動スルニ止マリ毫モ危險ノ處ナキヲ以テ其治療行爲ハ醫師ノ行爲ニシテ醫師ノ治療行爲以外ニ無

免許醫業ノ行爲アルモノト云フヲ得ス

大正三年
大審院判決

接骨行爲ハ人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナレハ常業トシテ之ヲ爲スコトハ醫業ノ範圍ナリトス

大正三年
大審院判決

醫師法第五條ニ依レハ醫師ハ自ら診察セスシテ治療ヲ爲スコトヲ得サルモノナレトモ治療前既ニ診察ヲ爲シ之ニ因リテ將來ノ病狀ヲ判斷シ一定ノ期間内連續シテ數次ニ一定ノ藥劑ヲ授與シ治療ヲ爲スコトノ計畫ヲ定メタル場合ノ如キハ前回ノ診察ニ基キ治療ヲ爲スコトヲ指シテ診察ヲ爲サスシテ治療ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

大正三年
大審院判決

醫業ハ疾病ヲ診察治療スル醫ノ行爲ヲ常業ト爲スノ謂ナリト雖モ診察セスシテ爲ス治療ハ醫ノ行爲ニ非スト云フヲ得ス故ニ醫師ハ勿論非醫師カ診察セスシテ治療ヲ爲シタル場合ニ於テ診察セサリシ理由ヲ以テ醫ノ行爲ニ非スト主張シ醫師法ノ制裁ヲ免ルルヲ得ス

(同主旨)

第一類 醫事 第八章 醫事ニ關スル司法判決例

然タル醫師ノ行爲ニ外ナラス

明治四五年
大審院判決

醫師法第七條ニハ醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス其技能療法又ハ經驗ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ストアルヲ以テ苟モ新聞社員ヲシテ右所定ノ事項ヲ新聞紙上ニ告白セシメタル以上ハ其告白自己ノ名義ヲ以テ之ヲ爲スト否ト又其掲載ノ費用ヲ負擔スルト否トヲ問ハス醫師法第十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

大正二年
大審院判決

醫師法第七條ニ於ケル醫師ノ廣告禁止事項中療法ニ付キ更ニ制限スル所ナキヲ以テ之ヲ詳密ニ示スト否トヲ問ハス又特殊ノモノタルト否トヲ論セス苟モ療法ニ付テ廣告ヲ爲シタル醫師ハ同第十一條ノ制裁ヲ免ルルヲ得ス

大正二年
大審院判決

醫師カ自ら治療行爲ヲ爲スニ當リ醫師ノ免許ヲ有セサル者ヲ使役シ其指揮監督ノ下ニ治療行爲ヲ補助セシムルモ補助者ハ單ニ醫師ノ手足トシテ行動スルニ止マリ毫モ危險ノ處ナキヲ以テ其治療行爲ハ醫師ノ行爲ニシテ醫師ノ治療行爲以外ニ無

人ノ疾病ヲ治療スルハ醫ノ行爲ニシテ之ヲ常業トスルハ醫業ナリ故ニ人ヲ診察シテ治療スルハ勿論診察セスシテ治療スルモ亦醫ノ行爲ニ非スト云フヲ得ス(大正二年大審院判決)

大正三年
大審院判決

醫ノ行爲ハ疾病ノ治療ヲ目的トスルモノナルヲ以テ苟モ學理ニ背反セル絶對不能ノ方法ニ非スシテ治療ノ目的ヲ達スル可能性ヲ有スル限ハ縱令現今醫學界ニ於テ一般ニ承認應用セラレサル新療法ト雖モ醫ノ治療方法トシテ之ヲ採用スルニ妨ナシ

大正三年
大審院判決

醫師ハ其診察シタル患者ニ對シテ投藥スルニハ必スシモ自己ノ處方ニ依ルコトヲ要セス診察ニ適應セル他ノ醫師ノ處方ニ依リ若クハ賣藥ヲ用フルモ投藥タルニ妨ナシ從テ非醫師カ他人ノ疾患ヲ診察シ賣藥ヲ施用シタルノ故ヲ以テ投藥ノ事實ナシト云フヲ得ス

大正三年
大審院判決

藥品ヲ塗付又ハ貼付シタル患部ノ上ニ繃帶ヲ施スハ廣義ニ於ケル投藥行爲ニ外ナラス

大正三年
大審院判決
保險診査醫ノ作成セル診査報告書ノ如キハ醫師法第五條ニ所謂檢案書ニ非シテ寧ロ同條ノ診斷書ニ屬スヘキモノトス

大正三年
大審院判決
醫師ノ免許ヲ受ケ居ル者ニ於テ他人カ無免許醫業ノ行爲ヲ爲スノ情ヲ知テ其者ノ住所ニ自己ノ出張所ノ看板ヲ掲ケシムル行爲ハ無免許醫業ノ犯罪行爲ヲ幫助スルモノニ外ナラス

大正三年
大審院判決
醫師カ胎兒ノ疾患ヲ診察シ之ヲ治療中死産シタル場合ニハ醫師法第五條但書ニ依リ檢案セスシテ死産證書ヲ作成シ得ルモノトス

大正五年
大審院判決
醫師法第五條ハ診斷ノ内容ニ關スル虚偽ノ記載ヲ爲シタルト否トヲ問ハス單ニ自ラ診察セスシテ診斷書ヲ交付スル行爲自體ヲ處罰スルノ規定ナリトス

大正五年
大審院判決
醫師カ自ラ診察セサルニ拘ハラズ診斷書ヲ作成シ診斷ノ内容ニ關スル虚偽ノ記載ヲ爲シテ之レヲ交付シタルトキハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシ刑法第五十四條第一項前段ニ依リ處斷スヘキモノトス

大正五年
大審院判決
醫業トハ反覆繼續ノ意志ヲ以テ醫行爲ニ從事スルノ謂ニシテ生活上ノ資料ヲ得ル目的ノ有無ハ其意義ヲ定ムル標準ト爲ルモノニ非ス故ニ被告カ私ニ醫業ヲ行ヒタルハ生活上ノ資料ヲ得ル目的ニ出テタル事情ヲ判示セザリシトテ理由不備ノ違法アリト爲スヲ得ス

大正五年
大審院判決
醫師法第七條ノ規定ハ醫師カ療法ニ關スル廣告ヲ爲ス行爲ニ付テハ其療法カ特定ノ疾病ニ對シテ特效アルコトノ疑ハシキ場合ナルト否トヲ論セス汎ク之ヲ禁止スルノ旨趣ナリトス

大正六年
大審院判決
患者ノ病名若クハ其容態ヲ聽キ病狀ヲ判斷シ之ニ適應スル藥品ヲ調合供與スルハ醫ノ行爲ニ外ナラス從テ意思繼續シテ爲シタルトキハ之ヲ以テ醫業ヲ爲シタルモノト認ムヘキモノト

ス

大正六年
大審院判決

肺病科設立趣意書ニ被告自身カ肺病療法ノ研究ヲ爲シ其研究カ著大ノ效驗ヲ奏シタル爲メ被告經營ノ病院内ニ肺病科ヲ設置シ且肺病混合「ワクチン」製造所ヲ創立スルニ至リタル經過ヲ記載スルカ如キハ被告ノ經歷ヲ表示シタルモノナルコト論ヲ俟タス

大正七年
大審院判決

醫師ニ非サル灸術營業者カ他人ノ疾患ヲ診斷シタル上免許ヲ受ケタル施術ニ關係ナク別途ニ藥品ヲ授與指示スルコトヲ業ト爲ストキハ其藥品カ膏藥ナルト否トヲ問ハス醫業ニ外ナラサルヲ以テ醫師法第十一條ニ該當スルモノトス

大正七年
大審院判決

幼女ニ對シ投藥スルカ爲メ醫師カ自己ノ處方ニ因リタル調劑ヲ其幼女ノ父ニシテ即チ親權ニ因リ監視ヲ爲スモノト解スヘキ者ニ交付シタル所爲ハ醫師法第五條ニ所謂治療ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス

大正七年
大審院判決

醫師法第五條ハ醫師カ自ラ診察セスシテ診斷書ヲ作成交付スルコトハ獨リ本人ニ限ラス第三者ニ對シテモ亦之ヲ禁止スル旨趣ト解スヘキモノトス

(參照)

醫師法第五條ハ醫師自ラ治療セル患者タリシト否トヲ問ハス其死體ヲ檢案セスシテ檢案書ヲ交付スルコトヲ禁シタルモノトス(明治四十二年大審院判例)

●醫師法施行規則

大正五年
大審院判決

醫師カ補助者ヲ使用シ之ニ診療簿ノ記載ヲ爲サシムル場合ニ於テハ補助者ハ醫師ノ爲メ代書ヲ爲スニ過キスシテ固ヨリ獨立ノ責任ヲ負フヘキモノニ非サレハ苟モ其記載ヲ怠リタル以上ハ責任者タル醫師ニ於テ醫師法施行規則第九條ノ四ニ違背セルモノト謂ハサルヲ得ス

大正七年
大審院判決

醫師法施行規則第九條ニ所謂屍體等ニ異常アリトハ純然タル病死ニ非スト認ムヘキ狀況カ屍體ニ存スル一切ノ場合ヲ指稱

スルモノニシテ醫師力死因ニ犯罪ノ嫌疑ナシト認ムル場合ト雖モ其除外例ヲ爲スヘキモノニ非スト解スルヲ相當トス

●齒科醫師法

明治四〇年
大審院判決

齒科ハ醫學上口腔外科ノ一部分ニシテ眼科耳鼻咽喉科ト同シク醫科ノ範圍ニ屬スルモノトス

明治四〇年
大審院判決

齒科醫師ノ免許ヲ受ケタル者ハ唯齒科醫タルニ止マリ普通ノ醫業ヲ爲スコトヲ得サルモノニ反シテ普通醫師ノ免許ヲ有スル者ハ當然齒科醫業ヲ爲スコトヲ得

明治四一年
大審院判決

人ノ依頼ニ應シ護謄ヲ以テ齒牙脫落部ノ型ヲ造リ之ニ義齒ヲ嵌込ミ入齒ヲ爲スカ如キハ其性質上醫師ノ免許ヲ受ケタル者ニ限り爲シ得ヘキ醫術上ノ行爲ナルヲ以テ醫師ニ非サル以上ハ縱令入齒細工職ノ許可ヲ受ケタル者ト雖モ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

大正三年
大審院判決

齒科醫業ノ觀念ニハ營利ノ目的アルコトヲ必要トセス唯常業トシテ齒科ニ關スル醫ノ行爲ヲ爲スヲ以テ足ル又常業タルニハ屢大反覆シテ行フノ意思ヲ以テ之ヲ爲セハ足ルモノトス

大正四年
大審院判決

醫師ノ免許ヲ有スル者カ無免許齒科醫業行爲ヲ爲ス者ニ對シテ自己ノ名義ヲ以テ齒科醫業ヲ爲スコトヲ許容シ且其者ノ爲メニ患者ノ氏名ヲ自宅備付ノ診療簿ニ記入シ以テ無免許齒科醫業ノ犯行ヲ幫助スルニ於テハ被幫助者カ幫助者ノ名義ヲ使用シタルト否トニ拘ハラズ該犯罪ノ從犯ヲ構成スルモノトス

大正四年
大審院判決

無免許齒科醫業行爲ヲ處罰スルハ其免許ヲ有セスシテ業務トシテ齒科ニ屬スル治療行爲ヲ爲スヲ禁止スルノ旨趣ニ出ツルモノニシテ患者ヨリ料金ヲ受クルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナキモノトス

大正四年
大審院判決

苟モ他人カ齒科醫ノ免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲スノ情ヲ知り之ヲ幫助スルニ於テハ其者カ有免許者タルト否トニ拘ハラズ齒科醫師法違反罪ノ從犯ヲ構成スルモノトス

大正五年
大審院判決

齒牙ニ疾患ナキニ拘ハラズ單ニ裝飾ノ目的ヲ以テ金冠ヲ施シ若クハ金隙齒ヲ嵌入スルカ如キ行爲ト雖モ其施術方法ノ當ヲ得ルト否トニ依リ齒牙ノ健全ニ影響ヲ及ホスヘキハ當然ナルヲ以テ此等ノ行爲モ亦齒科醫術ノ範圍ニ屬スルモノトス

大正五年
大審院判決

齒科醫師法第七條ノ規定ハ汎ク齒科醫カ自己ノ經歷ニ關スル業務上ノ廣告ヲ爲スコトヲ禁止シタルモノナルカ故ニ苟モ其經歷ニ屬スルモノタル以上ハ必スシモ虛偽又ハ誇張ノモノタルニ限ラス又學歷タルト實驗上ノ經歷タルトヲ問ハス一切廣告ヲ許ササル旨趣ナリトス

●鍼灸術營業取締規則

大正五年
大審院判決

鍼灸術營業取締規則ニ所謂灸術トハ皮膚ニ艾ヲ貼シ之ヲ灼キ病ヲ治スルノ術ヲ指稱スルモノニシテ身體ノ灸所ニ玻璃棒ヲ以テ硝酸ヲ點滴スルカ如キハ灸術ノ範圍内ニ屬スルモノト云フコトヲ得ス

艾ヲ附著セシムヘキ部位ヲ示スコトハ灸術ノ主要行爲ニ屬スルモノトス

大正七年
大審院判決

艾ヲ販賣スル者カ特ニ該艾ヲ購求スル者ノ需ニ應シ灸術ヲ施シタル以上其施術ハ之ニ因リ艾ノ販賣高ヲ増加シ以テ利益ヲ得ントスルノ目的ニ出テタルモノナレハ之ヲ以テ灸術營業ヲ爲シタルモノト認メタル判決ハ正當ナリ

大正七年
大審院判決

行政官廳ヨリ漆灸ナル施術ヲ營業トスルコトヲ許可セラレ鍼灸術營業取締規則發布以後ニ於テモ其效力ヲ保有スル場合ニ於テハ其免許カ灸術ノ名ノ下ニ與ヘラレタリトスルモ漆灸ノ營業ハ正當ノ行爲ニシテ其實行ハ何等犯罪ヲ構成スルモノニ非ス

大正七年
大審院判決

灸術營業者カ其施術ヲ補フ手段トシテ藥品ヲ投與指示シタルトキハ鍼灸術營業取締規則第七條ニ該當スルモノトス

第二類 防 疫

傳染病豫防

結核豫防

癩 豫 防

トラホーム 豫防

花柳病豫防

檢 査

流行性感冒

防疫ニ關スル司法判決例

第二類 防疫

第一章 傳染病豫防

第一節 通規

●傳染病豫防法

明治三十年四月一日
法律第三十六號

沿革 明三十八年三月法律第五六號、大一一一年四月第二二號 改

正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル傳染病豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

傳染病豫防法

第一條 此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハコレラ、赤痢（痢疾ヲ含ム）、腸チフス（ム）、「バラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「デフテリア」、流行性腦脊髄膜炎及「ベスト」ヲ謂フ前項ニ掲クル十病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス
主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ニ依リ指定スル傳染病ニ對シ命令ヲ以テ此ノ法律ノ一部ヲ限リ適用シ又

第二類 防疫 第一章 傳染病 第一節 通規

ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得
第二條 此ノ法律ハ「コレラ」及「ベスト」ノ疑似症ニ對シ之ヲ適用ス

「コレラ」及「ベスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ命令ノ規定ニ從ヒ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條ノ二 傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シ此ノ法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第三條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條 傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校病院、製造所又ハ

船舶、會社、各種事務所、貨倉、興行場其ノ他集合ノ場所

ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條 傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ

汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清

潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

前項ノ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘキ義務者ニ付テハ前條

第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條 清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病

患者ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘ

シ

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳

染病患者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑

アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其

ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

第八條ノ二 傳染病患者ハ業態上病毒傳播ノ虞アル業務ニ從

事スルコトヲ得ス

前項ノ業務ノ範圍ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 傳染病患者及其ノ死體ハ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非

サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條 傳染病ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員

リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ
市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス
豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町
村長之ヲ選任ス

第十六條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村内ノ清潔方

法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇

入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族、昆蟲等

ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十七條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病

舎、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舎、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方

法ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二 第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部

又ハ一部ニ對シ家用用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市

町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用用水ノ供給ヲ

爲スヘシ

第十八條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ

檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ

船舶汽車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ

ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗

滌スルコトヲ得ス

第十一條 傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル

消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經

テ二十四時間内ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署

ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ

非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ由リ必

要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ

限ニ在ラス

第十三條 死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ

傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ

他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ

事由ヲ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅、船舶

其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證據ヲ

示スヘシ

第十五條 傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地

船舶汽車電車ノ乗客乗組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必
要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車
電車中ニ乗込マシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立

ノ傳染病院又ハ隔離病舎ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑

アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町

村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲ニ

特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車

中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前

二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタ

ル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル

規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ

事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

二 市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔

離スルコト

三 祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ

制限シ若ハ禁止スルコト

- 四 古著、襪履、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト
- 五 傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ其ノ飲食物ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト
- 六 汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト
- 七 清潔方法消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厩圃ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又其ノ使用ヲ停止スルコト
- 八 一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト
- 九 鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

- 第二十條 諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ
- 第二十一條 左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス
 - 一 豫防委員ニ關スル諸費
 - 二 市町村ニ於テ施行スル清潔方法、消毒方法及種痘ニ關スル諸費
 - 三 豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員並豫防上必要ナル器具藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費
 - 四 傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費
 - 五 豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料
 - 六 第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七 市町村内ニ於テ發見セル傳染病貧民患者並死者ニ關スル諸費

八 市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九 十七條ノ二ニ依レル家用用水ノ供給ニ關スル諸費

十 第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一 第十八條ニ關スル諸費

二 手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三 第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費、交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離所ニ關スル諸費

四 前各號ノ此外ノ法律ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

其ノ他道府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條 地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔方法消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村内ノ衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條 第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條 國庫ハ勅令ノ規定ニ從ヒ第二十二條第二十四條ノ北海道地方費又ハ府縣ノ支出ニ對シ其ノ六分一乃至三分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限内ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定シ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徴スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ

國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ費用追徴ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限内ニ履行セサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以内ニ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ轉歸届ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第四條、第五條、第八條ノ二、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ届出ヲ爲サシメス若ハ其ノ届出ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十二條 此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行セサル地ニ關シ必要ナル事項

ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 海外諸港並朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

第三十六條 明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●傳染病豫防法施行規則

大正十一年九月三十日 內務省令第二十四號

沿革 大正一五年六月內務省令第一六號、昭和二年一月第二號、三年四月第一四號 改正

傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム

傳染病豫防法施行規則

第一章 傳染病發生ノ通報及届出

第一條 地方長官傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ內務大臣ニ報告シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ

第二條 地方長官ハ傳染病豫防法第一條第一項ニ掲クル十病ノ外同法ニ依リ豫防方法ヲ施行スルノ必要アリト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シ且傳染病豫防法中其ノ適用スヘキ規定及同法ヲ適用スヘキ地域ニ關スル意見ヲ付シ內務大臣ニ報告スヘシ

第三條 傳染病豫防法第三條及第四條ノ届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタル場合ニ於テ其ノ患者又ハ死體ニ關シ既ニ傳染病豫防法第三條ノ届出アリタルコトヲ知リタルトキハ同一事項ニ付更ニ同條ノ届出ヲ爲スコトヲ要セス其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第五條 警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第三條ノ届出ヲ受ケ又ハ傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル其實アルコトヲ知リタルトキハ互ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官署長ハ地方長官ニ報告スヘシ 警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第四條ノ届出ヲ受ケタルトキハ互ニ通知シ且直ニ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムヘシ

第二章 疑似症及病原體保有者

第六條 地方長官「コレラ」及「ベスト」以外ノ傳染病ノ疑似症

ニ對シ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ傳染病ニ對シ適用セララル傳染病豫防法ノ規定ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條 地方長官「コレラ」及「ベスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法第二條第二項及前條ニ依リ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用シタルトキハ內務大臣ニ報告スヘシ其ノ適用ヲ止メタルトキ亦同シ

第八條 傳染病ノ病原體保有者又ハ其ノ保護者ハ地方長官ニ對シ其ノ病原體ノ有無ニ關シ檢査ヲ請求スルコトヲ得

第九條 「コレラ」、「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ付細菌學的檢査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セサル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

前項ノ檢査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ尿、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ尿尿、「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎ニ付テハ鼻咽喉部ノ粘液トス

第十條 傳染病ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過セサル者及地方長官ニ於テ特別ノ必要アリト認ムル者ヲ除ク外「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シテハ

傳染病預防法第七條第八條第九條及第十八條ヲ適用セス但シ同法第九條中死體ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

一 赤痢

十四日

二 腸「チフス」、「バラチフス」

二十一日

三 「チフテリア」、流行性腦脊髄膜炎

七日

第十一條 赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ病原體保有者

ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 便所ハ成ルヘク之ヲ専用トシ上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト

二 便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ウルコト

三 便器ハ使用ノ都度之ヲ消毒スルコト

四 屎尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト

「チフテリア」及流行性腫脊髄膜炎ノ病原體保有者ニシテ前

條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 食器、手拭、衣類、寝具、涎掛、玩具等ハ之ヲ専用トシ衣類、寝具ハ時々日光ニ曝スコト

二 鼻汁、唾痰ノ附著シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾痰ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト

三 劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ立入ラサルコト

病原體保有者ノ保護者ハ病原體保有者ヲシテ前二項ノ事項ヲ遵守セシムヘシ

病原體保有者ノ保護者ハ病原體保有者ヲシテ前二項ノ事項ヲ遵守セシムヘシ

第十二條 「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者其ノ居住ノ場所ヲ他ニ移サムトスルトキハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ届出ヲ受ケタル吏員ハ病原體保有者ノ移轉スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ

第十三條 第八條第十一條第三項及前條ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治產者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人

二 教育、監護又ハ備便ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第三章 清潔方法消毒方法ノ施行

第十四條 市町村長及豫防委員傳染病患者、死者其ノ他傳染病ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ家ニ付清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムヘシ

第十五條 傳染病預防法第十一條第一項ノ消毒方法及同法第九條第七號又ハ第九號ニ依リ地方長官ノ命シタル傳染病預防上必要ナル事項ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行セシムヘシ

第十九條第七號又ハ第九號ニ依リ地方長官ノ命シタル傳染病預防上必要ナル事項ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行セシムヘシ

第十九條第七號又ハ第九號ニ依リ地方長官ノ命シタル傳染病預防上必要ナル事項ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行セシムヘシ

第十六條 傳染病預防法第二十六條第一項ニ依ル清潔方法及消毒方法ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第四章 清潔方法

第十七條 傳染病患者又ハ死者アリタル家其ノ他傳染病ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ

井戸側、井戸流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ就キ不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テ

ハ其ノ修理及井戸浚ヲ爲シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト

二 痘瘡、猩紅熱、「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎ニ付

テハ衣類、寝具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト

三 發疹「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寝具等

虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト

四 「ペスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寝具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト

五 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

前項ノ清潔方法ハ鼠族、昆蟲等驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スヘシ

第十八條 前條以外ノ場合ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一 宅地及家屋ノ内外ヲ掃除スルコト

二 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

三 疊、敷物等ヲ日光ニ曝スコト

四 床下ハ換氣ヲ充分ニシ濕潤著シキモノハ乾燥セル土砂ノ類ヲ撤布スルコト

五 汚水停留ノ場所又ハ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ充分ニスルコト

六 前各號ノ外特別ノ必要アルトキハ前條第一項第一號乃至第四號ニ準シ處置スルコト

第十九條 清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ濫ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ假製石灰末、普通石灰又ハ「クロー、ル」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浚濃スヘシ

第二十條 清潔方法ノ施行ニ因リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ焼却スヘシ

第五章 消毒方法

第二十一條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 焼却
- 二 蒸気消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒

第二十二條 蒸気消毒ニハ流通蒸気ヲ用キ成ルヘク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

- 一 消毒ニ因リ褪色ノ處アルモノハ蒸気消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ處アルモノハ他物ト混シ蒸気消毒ヲ行ハサルコト
- 二 衣類ハ豫メ袖又ハ衣囊ヲ檢索シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト

第二十三條 煮沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分間以上煮沸スヘシ

第二十四條 藥物消毒ニ用ウヘキ藥品竝ニ其ノ製法及用法左ノ如シ
一 石炭酸水 防疫用石炭酸三分水九十七分

石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ徐々ニ水ヲ注キ定量ニ至ラシムヘシ

- 二 「クレゾール」水「クレゾール」石鹼液 三分水九十七分
「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」石鹼液ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
- 三 「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ
昇汞水 昇汞一分、普通炭 一分、水十分

昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇汞錠（錠中昇汞〇・五）ヲ一錠ニ付水約五百グラムノ割合ニ溶解スヘシ
昇汞水ハ金屬製ニ非サル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇汞錠ヲ用キサルモノハ「スカレット」、「フクシンS」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ識別シ易カラシムルコトヲ要ス

煨製石灰 少量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ崩壊スルモノ
煨製石灰末 煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ
煨製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スヘシ

石灰乳 煨製石灰二分

石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ煨製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ

石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度之ヲ攪拌スヘシ

煨製石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り倍量ノ普通石灰ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 五 「クロール」石灰水 「クロール」石灰五分 分水九十五分
- 六 「フォルマリン」水「フォルマリン」水 分水三十四分
- 七 「フォルムアルデヒド」ニ定量ノ水ヲ加フヘシ

「フォルムアルデヒド」ハ「フォルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ装置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ
「フォルムアルデヒド」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 消毒室内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フォルマリン」四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フォルムアルデヒド」瓦斯十五「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以

テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ
二 物件ノ内部ニ至ル迄消毒スルノ必要アルモノハ真空装置ニ依ルニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
真空装置ニ依ル消毒時間ハ其ノ装置ニ依リ之ヲ定ムヘシ

三 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒室内又ハ土藏造、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
内務大臣ノ指定シタル藥品ニシテ傳染病研究所ノ檢定ニ合格シタルモノ又ハ之ヲ原料トシテ傳染病研究所ノ指示スル製法ニ從ヒ調製シタル藥品ハ傳染病研究所ノ指示スル所ニ從ヒ之ヲ前項各號ノ藥品ニ代用スルコトヲ得

第二十五條 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付

- 一 消毒法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ム左ノ如シ
- 二 尿尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ飲食物殘渣等

- 六 病室ノ疊、敷物等
- 七 便所、便池、手洗鉢等
- 八 臺所、臺所器具、井戸、水槽等
- 九 芥留、下水溝等
- 痘瘡及猩紅熱ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ム左ノ如シ
- 一 鼻汁、唾痰、膿汁、痂皮、落屑及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
- 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 發疹「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ム左ノ如シ
- 一 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

- 五 病室ノ疊、敷物等
- 「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ム左ノ如シ
- 一 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等
- 三 看護人及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 四 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等
- 五 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 「ペスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ム左ノ如シ
- 一 血液、鼻汁、唾痰、膿汁及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
- 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 七 鼠ノ棲息、交通スル場所

第二十六條 消毒方法ノ應用概ネ左ノ如シ

- 一 患者
- 患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケケス入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二號ニ依ル
- 二 死體
- 死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石炭酸ヲ填ツヘシ
- 三
- 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
- 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
- 昇汞水及「フォルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セス
- 病毒ニ接觸シタル者
- 看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ
- 手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水

- 一 患者
- 患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケケス入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二號ニ依ル
- 二 死體
- 死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石炭酸ヲ填ツヘシ
- 三
- 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
- 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
- 昇汞水及「フォルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セス
- 病毒ニ接觸シタル者
- 看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ
- 手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水

- 一 患者
- 患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケケス入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二號ニ依ル
- 二 死體
- 死體ヲ棺ニ歛ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石炭酸ヲ填ツヘシ
- 三
- 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
- 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ燻製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
- 昇汞水及「フォルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セス
- 病毒ニ接觸シタル者
- 看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ
- 手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水

スヘカラス

九 革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品、「セルロイド」製品、護謨製品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、蟹甲、角等

石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ

十 室内各部

石炭酸水、「クレゾール」水、昇水水若ハ「フォルマリ」ン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スルコトヲ得

十一 便所、芥溜、溝渠等

便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリ」ン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煨製石灰末、石灰乳又ハ「クロー」ル」石灰水ヲ注キ充分攪拌スヘシ但シ尿尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニ非サレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス
芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロー」ル」石灰水ヲ、溝渠ニハ煨製石灰末、石灰乳又ハ「クロー」ル」石灰水ヲ注キ

煨製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セス

十二 井戸、水槽、汚水等

井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煨製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五十分ノ一ノ「クロー」ル」石灰水ヲ投入シ充分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ蒸熱汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ
昇水水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス

十三 船舶、汽車、電車等

船室又ハ車室内部ノ消毒ハ第十號ニ準スヘシ
船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ煨製石灰末又ハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ「クロー」ル」石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後之ヲ汲出スヘシ
十四 動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ

第二十七條 衣類、寢具、器具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ第二十一條各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光ニ曝シ又ハ大氣中ニ乾燥セシムヘシ

第六章 患者、死體、物件ノ處置及交通遮斷、隔離

第二十八條 市町村長及豫防委員ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」又ハ「ベスト」ノ患者アリタル場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外之ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ其ノ他ノ傳染病患者アリタル場合ニ於テ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ亦同シ

第二十九條 警察官吏及檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ「コレラ」、發疹「チフス」又ハ「ベスト」ニ限り左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

一 患者アル間及患者ヲ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメタル後又ハ患者轉歸ノ後消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト

二 前號ノ外傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ交通ヲ遮斷スルコト

三 前二號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「コレラ」ニ付テハ五日以内、發疹「チフス」ニ付テハ十四日以内、「ベスト」ニ付テハ十日以内隔離所又ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ適當ノ場所ニ隔離スルコト

四 交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發生シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ更ニ本條ニ依リ處置スルコト

市町村長及豫防委員ハ警察官吏及檢疫委員ノ指示ヲ承ケ前項ノ交通遮斷又ハ隔離ニ關スル事務ニ從事スヘシ

傳染病豫防法第十九條第二號ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル交通遮斷又ハ隔離ハ前二項ニ準シ之ヲ行フヘシ

第三十條 市町村立ノ傳染病院、隔離病舎又ハ隔離所ニ於テハ食費、藥價ヲ徴收スルコトヲ得

第三十一條 傳染病豫防法第八條ノ二第二項ノ業務ノ範圍左ノ如シ

一 菓子、糖、煮染、豆腐、氷雪、肉、乳、魚介、蔬菜、果實其ノ他直ニ飲食ニ供シ得ヘキ物ノ製造、販賣、調製又ハ取扱ニ直接從事スル業務

二 旅店、下宿屋、寄宿舎、合宿所其ノ他多衆ノ宿泊スル場所及貸座敷、料理店、飲食店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者、看護婦、鍼術灸術按摩術營業者、藝妓、娼妓、酌婦其ノ他直接客ニ接スル業務

三 劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ於テ直接多衆ニ接スル業務
所轄警察署長ハ特別ノ事由ニ因リ傳染病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り條件ヲ附シ赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ノ患者ニ對シ前項第二號及第三號ノ業務、猩紅熱、

「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎ノ患者ニ對シ前項第一號ノ業務ニ從事スルコトヲ許可スルコトヲ得

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ノ認可ヲ受クヘシ

一 傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サムトスルトキ

二 傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗濯セムトスルトキ

三 傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セムトスルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ其ノ認可ヲ爲シタル吏員ハ患者又ハ死體ヲ移スヘキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スヘシ

第三十三條 傳染病豫防法第十三條ノ死體及家屋其ノ他ニ對シテハ市町村長又ハ豫防委員ニ於テ消毒其ノ他相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第七章 傳染病豫防吏員

第三十四條 警察官吏、衛生官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルヘタ日出後日没前ニ於テスヘシ

村長及豫防委員ニ指示シ其ノ事務ニ從事スヘシ

第八章 船舶、汽車、電車ノ檢疫

第三十九條 地方長官船舶、汽車、電車ノ檢疫ヲ施行セムトスルトキハ檢疫スヘキ傳染病、檢疫ノ目的地、檢疫ヲ施行スル場所及檢疫開始ノ期日ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官檢疫ヲ開始セムトスルトキハ前項ノ事項ヲ告示シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スヘシ其ノ廢止ノ場合亦同シ

地方長官前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ内務大臣ニ報告スヘシ

第二十項ノ通知ヲ受ケタル地方長官ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第四十條 檢疫ノ目的地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非サレハ他ニ進航シ、陸地又ハ他船ト交通シ、船客、乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 航行中又ハ埠ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶及停留中ノ船舶ハ前橋其ノ他見易キ場所ニ黃旗ヲ掲ケ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ下スコトヲ得ス

第四十二條 航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル船舶ニ對シテハ檢

其ノ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ示スヘキ證票左ノ如シ

凡三寸	傳染病豫防吏員之證
紙厚ハ又札木	面 裏
面 裏	官廳公署印

第三十五條 檢疫委員ハ廳府縣ノ官吏、醫師、藥劑師等ニ就キ地方長官之ヲ命ス

警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第三十六條 檢疫委員ノ職務章程ハ地方長官之ヲ定ム

第三十七條 地方長官ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一號ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其ノ他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十八條 第十四條第十五條第十六條第二十八條及第三十三條ノ場合ニ於テハ警察官吏、衛生官吏及檢疫委員ハ市町

疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ其ノ船舶ヲ適當ノ場所ニ停留シ船客、乗組員ヲ隔離所、船中其ノ他適當ノ場所ニ停留スルコトヲ得

第二十九條第一項第三號及第四號ノ隔離ニ關スル規定ハ前項ノ停留ニ之ヲ準用ス

檢疫係員ハ船舶ヲシテ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得

檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乗組員ヲシテ補助セシメ又ハ器具、藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第四十三條 停留中ノ船客、乗組員ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第四十四條 船舶檢疫ノ際發見シタル傳染病患者ハ檢疫係員ニ於テ市町村立ノ傳染病院、隔離病舎其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメ死體ハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スヘシ

第四十五條 第四十二條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ檢疫係員ハ船舶ヲシテ他ノ場所ニ回航セシムルコトヲ得

第四十六條 檢疫係員傳染病豫防法第十八條第二項ニ依リ無償ニテ船舶ニ乗込ム場合ニ於テハ船長又ハ其ノ代理者ニ左ノ證票ヲ示スヘシ

凡三寸
檢 疫 係 員 之 證
廳 府 縣 團

第四十七條 船舶ノ檢疫施行中檢疫ノ目的地以外ノ地ヨリ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ニ檢疫スヘキ傳染病ノ患者、死者其ノ他傳染病ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ前七條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條 第四十二條第四十三條第一項第四十四條第四十六條及第四十七條ハ汽車、電車ノ檢疫ニ之ヲ準用ス但シ第四十二條第一項中船舶ノ停留ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

第九章 手當金及補助
第四十九條 地方長官傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セムトスルトキハ建物及土地ノ所

有者又ハ管理者ニ通知スヘシ
前項ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スヘキ手當金額ハ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徴シ之ヲ決定シ市町村長ニ通知スヘシ

第五十條 市町村長地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市町村番地及手當金額ノ所有者及建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知シ且一月以上ノ期日公告スヘシ

前項ノ公告期間ヲ經過シタルトキハ市町村長ハ速ニ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ但シ其ノ期間内ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シ手當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五十一條 地方長官ハ左ノ各號ニ從ヒ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ交付スヘキ補助ニ關スル規則ヲ定ムヘシ

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スル歩合ハ「コレラ」及「ベスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ諸費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シ

タル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出中特ニ費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ、指定シタル

費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ヲシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ下ラシムルコトヲ得ス

三 支出ニ伴フ收入及寄附金ヲ控除シタル一會計年度ノ支出精算額五十圓未満ナルトキハ補助セサルコトヲ得

四 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ金額ニ換算スヘシ

五 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトヲ得

第十章 雜 則
第五十二條 傳染病豫防法第二條第十八條第十九條第十九條ノ二及本令第一條第二條第八條第十條第三十一條第三十九條ノ地方長官ノ職務並傳染病豫防法及本令ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ但シ傳染病豫防法第十八條第三項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第五條ノ地方長官ハ東京府ニ於テハ警視總監及東京府知事トス

第五十三條 本令中町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村又ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第五十四條 傳染病豫防法又ハ本令ノ規定ニシテ其ノ準用又ハ適用シ得ヘキモノヲ除クノ外北海道及沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

町村制ヲ施行セサル地ニ關シ傳染病豫防法中町村ニ關スル規定ヲ準用シ難キ場合及本令ノ規定ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則
明治三十年五月內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則、明治三十年五月拓殖務省令第四號、傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程、明治三十年五月內務省令第十三號、明治三十年五月拓殖務省令第六號、檢疫委員設置規則、明治三十年七月內務省令第十八號、汽車檢疫規則、船舶檢疫規則、明治三十年八月拓殖務省令第九號、明治三十一年三月內務省令第四號及傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス
本令ハ大正十一年法律第三十二號指定ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(大正十一年十月一日)

●傳染病豫防法ノ一部及種痘法ノ

一部ヲ樺太ニ施行スルノ件

大正十一年三月二十九日
勅令第六十三號

股傳染病豫防法ノ一部及種痘法ノ一部ヲ樺太ニ施行スルノ件
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
傳染病豫防法第二十二條、第二十四條及第二十五條ヲ除キ同
法中未タ樺太ニ施行セサル部分並種痘法中未タ樺太ニ施行セ
サル部分ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●傳染病豫防ニ關スル内務大臣指

示事項

昭和五年五月二十一日
内務大臣指示

(地方長官會議)

傳染病豫防ニ關スル件

海外ヨリ來ル傳染病ニ對スル防疫上ノ成績ハ近年較々見ルヘ
キモノアルモ國內ニ常在スル傳染病ニ就テハ未ダ格段ノ成績
ヲ擧ゲ得サルヲ遺憾トス就中消化器系傳染病ノ流行ハ其ノ産
業上ニ及ホス影響モ亦少カラサルヲ以テ極力之ヲ撲滅ヲ期セ
サルヘカラス特ニ赤痢患者ノ發生ハ近年漸次増加ノ傾向アリ

本病ノ豫防ニ關シテハ一般消化器系傳染病ニ對スルト略其ノ
軌ヲ一ニスルモ地方ニ依ル流行ノ發生ニ對シ臨機適切ノ豫防
措置ヲ講スルハ喫緊有效ノ手段ナリトス各位能ク部僚ヲ督勵
シテ所期ノ目的ヲ達セラレタシ

●傳染病豫防法施行規則實施ニ關
スル注意事項

大正十一年十月十日
内務省發給第一九五號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

今般傳染病豫防法中改正法律ノ施行ト共ニ同法施行規則モ改
正施行相成候處其ノ實施上注意スヘキ事項別記ノ通御了知相
成度

別記

一、第一條中交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト
認ムル者通知スヘシト規定シタルハ舊施行規則ニ規定セ
ル隣接若ハ船舶汽車交通ノ地ノ地方長官、最寄營兵及最
寄港灣ニ碇泊ノ軍艦ノ外學校工場等通知ヲ必要トスル向
アルヘキヲ以テ之ヲ地方長官ノ認定ニ委シタル義ニ有
之

一、第四條ノ規定ハ既ニ届出アリタル事項ニ付里裡シテ届出

ヲ爲スノ必要ナキニ基クモノナルヲ以テ他ノ醫師ヨリ届
出ナキ限リハ法ニ從テ届出ツルノ義務アル次第ニ付同條
ノ規定ニ關シ醫師ニ於テ誤解ナキ様取計ハレタキコト
一、第八條ハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ對シ検査ヲ請求
スルコトヲ得ルノ途ヲ開キタルニ止マルヲ以テ病原體保
有者ニ對スル検査ハ其ノ請求ノ有無ニ拘ラス之ヲ行ヒ病
原體ノ消失シタル者ヲシテ猶從業禁止其ノ他ノ制限ヲ受
ケシムルコトナキ様致度

一、第三十一條ニ掲クル業務ニ從事スル者ニシテ傳染病ニ罹
リ又ハ病原體ヲ保有スルニ至リタルトキハ法第八條ノ二
ノ規定ニ依リ當然其ノ業務ニ從事スルコトヲ得サル義ナ
ルモノ一應之ニ對シ其ノ從業ノ繼續スヘカラサル旨ヲ警告
スル様致度

一、舊施行規則第十三條第二項、第十四條ニ規定セル事項ハ
自明ノコトトシテ改正施行規則中ヨリ削除セラレタルモ
之ヲ不必要トシタルノ趣旨ニハ無之爲念

●傳染病豫防法第三條ノ届出方ニ
關スル件

明治四十一年十一月十日
衛發第七一六號

(各地方長官宛
衛生局長通牒)

防疫上ノ處置ハ可成迅速ヲ要スルハ勿論ノ儀ト存候處傳染病
豫防法第三條ノ届出ノ如キ一定ノ書式ニ依ルニ非サレハ之ヲ
處理セス又ハ之ヲ同條ノ届出ト認メス之ニ制裁ヲ加フル向往
々有之哉ニ相聞ヘ候處右ハ迅速ヲ尊フ法ノ精神ニ背戾シ且難
キヲ醫師ニ責ムルモノニ有之其結果徒ニ機ヲ失スルノ嫌アリ
ト被認候條便宜口頭ヲ以テ届出ルモ差支ナキ様時機ヲ以テ御
改正相成度此段及通牒候也

●傳染病豫防法第十一條埋葬ノ疑
義ニ關スル件

昭和四年一月十九日
衛防四六號

(内務省衛生局長ヨリ
廳府縣長官宛通牒)

傳染病豫防法第十一條埋葬ノ疑義ニ關スル件
標記ノ件ニ付別紙甲號寫ノ通福井縣知事照會ニ對シ乙號寫ノ
通回答候條參考迄ニ及通報候

(別紙)

(甲號)

衛第六六號
昭和四年一月十日
内務省衛生局長宛

福井縣知事

傳染病豫防法第十一條埋葬ノ疑義ニ關スル件

傳染病豫防法第十一條ニ所謂埋葬トハ土葬及火葬ヲ含ム儀ト存候得共墓地及埋葬取締規則第三條ニハ埋葬ト火葬トヲ明ニ區別セルヲ以テ聊カ疑義相生シ候ニ付貴局ノ御意見拜承致度此段及照會候也

(乙號)

衛防第四六號

昭和四年一月十七日

內務省衛生局長

福井縣知事宛

傳染病豫防法第十一條埋葬ノ疑義ニ關スル件

標記ノ件ニ付一月十日衛第六六號ヲ以テ照會相成候處傳染病豫防法第十一條ニ所謂埋葬トハ火葬ヲモ含ム儀ト存候條御了知相成度

●傳染病豫防法第二十一條ノ疑義

ニ關スル件

昭和五年三月四日
衛發第七〇號

(內務省衛生局長ヨリ
鹿府縣長官宛)

傳染病豫防法第二十一條ノ疑義ニ關スル件

標記ノ件ニ付別紙甲號島根縣知事照會ニ對シ乙號ノ通回答候

條御了知相成度

(別紙)

(甲號寫)

衛第五六二號

昭和五年二月七日

內務省衛生局長宛

島根縣知事照會

傳染病豫防法第二十一條ノ疑義ニ關スル件

傳染病豫防法第二十一條第一項第四號ニ傳染病院、隔離病舎、隔離所及消毒所ニ關スル諸費ハ市町村ノ負擔スヘキコトヲ規定セラルルモ傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ傳染病院、隔離病舎以外ノ適當ナル場所(例之傳染病豫防上相當設備アル病院、醫院ノ病室等)ニ傳染病患者ヲ入ラシメタルトキ其ノ費用ハ傳染病豫防法第二十一條第一項第四號ニ依リ市町村ニ於テ負擔スヘキモノニアラサルヤニ認メラレ候モ聊カ疑義相生候條貴局ノ御意見承知致度差懸リタルコト有之候條至急何分ノ御回報相煩度此段及照會候也

(乙號寫)

衛防第二二五號

昭和五年二月二十八日

內務省衛生局長回答

島根縣知事宛

標記ノ件ニ關シ二月七日衛第五六二號ヲ以テ照會相成候處

右八法第七條ノ規定ニ依リ當該吏員カ傳染病院隔離病舎ニ入ラシムルト同一趣旨ニ於テ傳染病院隔離病舎以外ノ適當ノ場所ニ入ラシメタル場合ハ法第二十一條第四號ノ規定ノ趣旨ニ依リ其ノ費用ハ市町村ニ於テ負擔スヘキモノト存シ候條御了知相成度

●傳染病ノ病原體保有者ノ取締ニ

關スル件

大正十二年五月三十一日
衛乙發第二〇號

(地方長官宛
衛生局長通牒)

傳染病豫防法上傳染病ノ病原體保有者ヲ徹底的ニ取締ル爲ニハ傳染病患者ノ治療シタル場合ニ於テモ尙病原體ヲ保有スルヤ否ヤ明カニ爲シ置クノ必要有之候條主要症狀消退後治療前且成ルヘク治療ニ近ケル時期ニ於テ豫メ細菌學的検査ノ勵行ニ付適當ノ方法ヲ講セラレ候條御取計相成度

●傳染病豫防法施行規則第十條ノ

疑義ノ件

大正十一年十二月二十七日
內務省同衛第一六四號

(各地方長官宛(岡山縣知事ヲ除ク)
衛生局長通牒)

一、規則第十條ヲ一讀スルニ傳染病ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ赤痢ニ在リテハ十四日腸チフス、バラチフスニ在リテハ二十一日チフテリア、流行性腦脊髄膜炎ニ在リテハ七日ヲ經過セサルモノヲ除クノ外法第七條第八條第九條第十條ヲ適用セスト解スルヲ妥當ノ様察セラレ候果シテ然リトセハ同上期間ヲ經過セサルモノニ對シテハ病原體保有者タルト否トヲ問ハス悉ク法第七條第八條第九條第十條ヲ適用シ患者同様ニ交通遮斷隔離其他最モ嚴重ナル取扱ヲ爲サ、ルヘカラサルコト、爲ルヘシ

十四日陽チフス、バラチフス病原體保有者ニ對シテハ二
十一日チフテリア、流行性腦脊髄膜炎菌保有者ニ對シテ
ハ七日間ヲ經過セサルモノニ對シテハ法第七條第八條第
九條第十八條ヲ適用スルコトヲ得同上各期間經過後ノモ
ノニ對シテハ病原體ヲ保存セル場合ハ之レカ保有者トシ
テ規則第十條ノ命スル取扱ヲ爲スヘキモノトモ被察候
衛生局長回答大正十一年十二月二十七日
內務省國衛第一六四號

標記ノ件ニ關シ客月十八日衛第一二四四七號ヲ以テ御照會相
成候處傳染病豫防法施行規則第十條ハ病原體保有者ニ關スル
規定ニシテ即チ傳染病ノ治療後ノ病原體保有者ニシテ主要症
狀消退ノ時ヨリ起算シ同條所定ノ期間ヲ經過セサル者ニ對シ
傳染病患者ト同様ニ取扱ヒ之ニ反シテ右ノ期間ヲ經過シタル
病原體保有者及所謂健康保菌者ニ對シテハ傳染病豫防法第七
條乃至第九條及第十八條ヲ適用セサルノ趣旨ニ有之候條御了
知相成度

●傳染病患者取扱方ニ關スル疑義
ノ件

大正十三年四月三十日 (各地方長官宛)
衛防第九六四號 (衛生局長通牒)
標記ノ件ニ關シ別紙甲號寫ノ通佐賀縣知事ヨリノ照會ニ對シ

乙號ノ通回答候條御了知相成度
佐賀縣知事照會大正十三年四月九日
衛第七一二號
傳染病患者ニシテ主要症狀消退後全治轉歸屆出前ニ病原體ノ
有無ヲ檢査シ病原體ヲ證明シタル場合ニ於テ病後菌排泄者ナ
ル字句ヲ用ヒ所謂傳染病豫防法上ノ病原體保有者トシテ取扱
差支無之モノニ候哉尙病後菌排泄者ニアラスト決定シタル場
合ニモ傳染病患者ナリトノ意味ハ消滅セサルモノト被存候得
共聊力疑義相生シ候條何分ノ御回示ニ預リ度
衛生局長回答大正十三年四月三十日
衛防第九六四號

●「アイゼル」ヲ石炭酸代用ノ消毒
藥トシテ使用スル可否ノ件

大正六年五月三十日
衛防第一三八號
總島縣知事照會大正六年五月十七日
衛防第三七七號
傳染病ニ對スル規定消毒藥ノ内石炭酸ハ今尙高價ナルヲ以テ
之カ代用品ニ關シ種々調査セシメ候處別紙成績書ノ通「アイ

ゼル」ハ消毒上相當效果アリ且價格モ比較的低廉ナルヲ以テ
將來該品ヲ石炭酸ノ代用品トシテ使用セシメ差支無之哉一度
貴官ノ御意見承知致度此段及問合候也
衛生局長回答大正六年五月三十日
衛防第一三八號

石炭酸代用トシテ「アイゼル」液使用ノ件ニ付本月十七日衛第
三七七二號ヲ以テ御照會相成候處「アイゼル」、「クレシン」等
ノ如キ藥品ニ關シテハ當局ニ於テモ既ニ充分之方調査ヲ爲シ
タルモ坊間販賣ノ此等藥品中ニハ其ノ含有成分一定セス消毒
力不定ナル等ノ爲消毒ノ十全ヲ期シ難キニ依リ昨年消毒方法
改正ノ際ニ於テモ之ヲ法定ノ消毒藥品ト爲スヲ得サリシ次第
ニ有之候ニ付之ヲ使用セシムルハ不可然儀ト存候御了知相成
度

●碇泊ノ船舶ニ對シ清潔、消毒除
鼠施行ノ件

明治三十二年十二月
內務省訓第一一八六號
其ノ管下港河ニ碇泊ノ船舶ニ對シ左ノ事項ヲ施行セシメラル
ヘシ
(一)碇泊中ノ船舶ニ對シテハ一般清潔方法ヲ施行セシムル
コト

(一)「ベスト」發生地及該地ト交通頻繁ノ地ニ於ケル船舶若
ハ「ベスト」發生地ト交通セル船舶ニ對シテハ特ニ消毒
方法ヲ施行セシムル事
(二)「アイゼル」驅除セシムルコト
右訓令ス

●碇泊ノ船舶ニ對シ清潔、消毒除
鼠施行ニ關スル取扱方ノ件

明治三十二年十二月 (各地方長官宛)
衛防第五四〇號 (衛生局長通牒)
船舶ニ對スル清潔方法、消毒方法施行ニ付テハ既ニ訓令相成
候處右ハ
(一)内地航海ノ船舶ハ勿論外國及臺灣航海ノ船舶ヲモ包含
スル事
(二)清潔方法ハ此際一般ニ清潔方法ヲ施行セシメ將來ニ於
テハ其清潔ヲ持續セシメ必要ト認ムル都度清潔方法ヲ
施行セシムル事
(三)消毒方法ハ有毒地方ト交通シタル船舶ニ對シ此際全部
消毒方法ヲ施行セシメ將來ニ於テハ必要ト認ムル都度
全部又ハ一部ノ消毒方法ヲ施行セシムル事
(四)清潔方法、施行方法ヲ施行シ了リタル船舶ニハ施行済
證書ヲ交付スル事

ト御承知相成度爲念及通牒候也

●傳染病ニ因ル交通遮斷區域ノ調査ニ關スル件

昭和五年五月七日

昭五五五九四號 (內務省衛生局長ヨリ
衛防第七九四號 陸府縣長官宛照會)

傳染病ニ因ル交通遮斷區域ノ調査方ニ關スル件照會
標記ノ件ニ付内閣統計局長ヨリ別紙寫ノ通中越有之候ニ就テ
ハ可然御取計相成度

別紙寫
局發第一二五號

昭和五年五月二日

内閣統計局長

內務省衛生局長宛

傳染病ニ因ル交通遮斷區域ノ調査方ニ關スル件

來ル十月一日ヲ以テ施行セラルベキ國勢調査ニ際シ傳染病
ノ爲交通遮斷區域アルトキハ其ノ區域内ノ世帯ニ對シテハ
見張警察官ノ仲介ニ依リ國勢調査員ト世帯主又ハ世帯員ト
ノ連絡ヲ計リ以テ調査ニ支障無之様致度候條右御承認ノ上
地方長官へ御示達方御取計相成度

●交通遮斷中ノ軍人又ハ兵役義務者ノ充員召集等ニ關スル件

明治三十四年十一月一日 (各地方長官宛
衛甲第六五號ノ内 衛生局長通牒)

傳染病豫防法ニ依リ交通遮斷中ノ軍人又ハ兵役義務者ニシテ
充員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ於ケル處置方ニ付今般鹿兒島
縣ノ照會ニ對シ左記ノ通り回答候條御參考迄此段及御通知候
也

左記

客月五日付號外ヲ以テ警部長ヨリ交通遮斷中ニ在ル軍人又
ハ兵役義務者ニシテ充員召集令狀ヲ受ケタル場合ニ對スル
處置方ニ付御照會ノ趣了承右ハ御見解ノ通り傳染病豫防法
ニ依リ一旦交通遮斷ヲ命シタル以上ハ其日時間ニ縱ヒ充員
召集令アルモ外出セシムヘキモノニアラスト存候條伺ノ上
此段及回答候也

●傳染病豫防法中隔離ニ關スル疑義ノ件

明治三十八年九月十三日 (各地方長官宛
衛甲第四六號 衛生局長通牒)

今般福岡縣知事ヨリ傳染病豫防中隔離ニ關スル疑義ニ付甲號ノ
通り問合有之乙號ノ通り回答候條御參考迄此段及通知候也

福岡縣知事照會明治三十八年八月一日
衛發第四七〇號

本年三月法律第五十六號ヲ以テ傳染病豫防法中改正アリ又同
六月内務省令第十四號ヲ以テ同施行規則ノ改正ヲ加ヘラレ交
通遮斷ト隔離トヲ全然區別シ其施行ノ場合ヲ異ニスル事ト相
成候處交通遮斷ニ對シテハ豫防法第三十一條中ニ其違反者ニ
制裁ヲ加フルノ規定有之候處執行上確實ヲ期スルヲ得ルモ隔
離ヲ犯シタルモノ則チ濫リニ他ヨリ隔離所又ハ隔離セラレタ
ル場所ニ立入り若クハ被隔離者ニシテ此等ノ場所ヲ立出テタ
ル者アル場合ニ於テ本法ノミナラス施行規則ニ於テモ之レヲ
制裁スルニ何等ノ規定無之ニ付其執行ノ確實ヲ期シ豫防ノ目
的ヲ達スル上ニ於テ稍遺憾ナキ能ハサル感有之當該ニ於テハ
以上ノ事實ニ對シ相當ノ規定ヲ設ケ度精神ニ有之候然ルニ右
隔離ノ執行ニ違反シタルモノニ對シ制裁ヲ加フルノ規定ヲ設
ケサリシハ單ニ當該吏員ノ取締ニ一任シ其際ニ乘シ他出シ又
ハ他ヨリ立入ルモノ、如キハ別段制裁ヲ加フルノ必要ナシト
認メラレタルモノナルヤ又ハ隔離違反者ニ對シ制裁ヲ加フル
ハ不穩當ナリトスルノ精神ナルヤ若クハ地方ノ規定ニ讓ルト
ノ御主旨ナルヤ將タ被隔離者ハ病毒感染ノ疑アルモノニ付隔
離所又隔離セラレタル場所ハ病毒汚染ノ疑アルモノトシテ隔
離ト共ニ交通遮斷ヲ施行スヘキモノナルヤ從來健康者隔離ニ

對シ別ニ制裁ヲ加フルノ規定ナカリシモ其執行ノ場合ハ殆
ト稀有ニシテ豫防上何等ノ影響ヲ見サリシモ今回改正ニ於
テハ隔離ノ執行ハ從來ノ交通遮斷ニ代ハルヘキモノニシテ執
行ノ確否ハ豫防上大關係ヲ有シ旁々疑義相生シ御意見承知致
度候條折返シ何分ノ御報相成度此段及御問合候也

乙號
衛生局長回答明治三十八年九月十三日
衛甲第四六號

右隔離ノ執行ニ當リテハ當然内外ノ交通ヲ禁止スルニアラサ
レハ其目的ヲ達シ難ク去リトテ隔離所等ヲ病毒汚染ノ疑アル
場所トシテ交通遮斷ヲ命スヘキモノニ無之ト被存候本來隔離
處分ハ可成特設ノ隔離所若ハ傳染病院内又ハ隔離病舎内ノ隔
離室ニ於テ之ヲ行フモノニシテ右ノ設備ナキ等已ムヲ得サル
場合ニハ適當ノ場所ノ假設隔離所ニ充テ又ハ消毒方法ノ施行
ヲ了リタル家ニ於テ隔離ヲ行ヒ得ル義ニ候ヘハ右隔離所ノ管
理方法ハ第十七條ニ依リ病院、病舎ノ管理方法同様地方長官
ニ於テ御規定相成可然又消毒方法ノ施行ヲ了リタル家ニ於ケ
ル隔離ノ取締ニ關シテモ必要ト御認メ相成候ハ、右ニ準シ相
當御規定相成り之ニ制裁ヲ付スルモ支障無之ト存候條御承知
相成度此段及回答候也

●傳染病豫防法ノ疑義ニ關スル件

大正十四年十一月一日 (總府縣長官宛) 衛生局長通規

標記ノ件ニ付別紙寫ノ通千葉縣知事ト照覆候條爲念及通牒候
千葉縣知事照會大正十四年九月三十日 衛第七一三一號

法文ノ疑義ニ關スル件

傳染病豫防法第二十一條第六號ノ解釋ニ關シ左ノ通聊カ疑義
相生シ候條御意見承知致度此段及照會候也

記

一、前記第六號ニ依ル交通遮斷隔離中ノ者ニシテ自活シ能ハ
サル者ノ生計費ハ市町村傳染病豫防費ヲ以テ支出シ得ヘ
キハ賒ナリト雖其ノ解除後ニ於テモ當分ノ間糞ニ交通遮
斷隔離ヲ受ケタルノ故ヲ以テ他人ニ嫌忌セラレ爲ニ一時
營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ニ對シテハ前記規定ニ依リ
同様に町村ニ於テ負擔シ得ヘク從テ縣ニ於テ之ニ基キ傳
染病豫防費補助ヲ支出シ得ヘキヤ

衛生局長回答大正十四年十月二十七日
豫防第二二〇四號

傳染病豫防法中疑義ニ關スル件

九月三十日衛第七一三一號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會相成候
處右傳染病豫防第二十一條第六號ノ一又ハ一時營業ヲ失ヒ自
活シ能ハサルモノノ生活費トハ漁撈其他河海水ノ使用停

止、物件ノ搬出入停止、又ハ興業禁止等ノ如キ現ニ法律ニ因
ル禁停止處分アル場合ニ限リ之ニ因リ一時營業ヲ失ヒ自活シ
能ハサル者ノ生活費ノ謂ニシテ自然御例示ノ如キ場合ノ生活
費ハ本項ニ該當セサル儀ト被存候條御了知相成度

●大津市經營ノ傳染病院ヲ日本赤
十字社滋賀支部ニ委託經營セシ
ムルノ件

大正十三年七月二十一日
衛防第一三六四號

滋賀縣知事照會大正十三年七月九日
衛防第一八二號

本縣大津市ノ經營セル傳染病院ハ設備不充ナル爲メ豫テ移
轉ノ計畫ナルモ適當ナル敷地ヲ得ルニ困難ナル爲メ遷延今日
ニ至リ候處此度赤十字社滋賀支部病院隔離病室増設ニ際シ市ノ
傳染病院ヲ同赤十字病院構内ニ建設シテ委託經營セシメント
スル計畫有之右ハ設備ノ點ニ於テモ又一般患者ノ信賴ノ程度
ニ於テモ傳染病豫防上適切ノ計畫ト認メラレ候得共豫防法第
十七條ノ解釋上疑義相生シ候條至急何分ノ御回答相成度及照
會候也

衛生局長照會大正十三年七月二十一日
衛防第一三六四號

本月九日衛發第一八二號ヲ以テ標記ノ件照會相成候處左記事

項一應承知致度

記

- 一、如何ナル事項ヲ委託スルモノナルカ
 - 二、入院患者ノ食費、藥價等ヲ徵收スル場合ニ於テ其ノ徵收
ハ市ノ名ニ於テ徵收スルカ、赤十字社滋賀支部ノ名ニ於
テ徵收スルカ
 - 三、傳染病院管理ニ關スル規定ハ市ニ於テ之ヲ制定スルモノ
ナルカ
 - 四、委託經營ヲ爲サシムル場合ニ於テ前記二ノ外契約ノ内容
トナルヘキ事項ノ概要
- 滋賀縣知事回答大正十三年十二月六日
衛發第一八二號
- 本年七月二十一日衛防第一三六四號ヲ以テ御照會ニ相成候件
左記ノ通りニ候
- 一、大津市ニ發生スル傳染病患者全部ノ收容治療
 - 二、入院患者ノ食費藥價ノ定額及其ノ減免ニ關スル規定ハ市
ニ於テ制定シ徵收ノ場合ハ市名ヲ以テ徵收ス
 - 三、管理規定ハ市ニ於テ制定ス
 - 四、委託經營ヲ爲サシムル場合ニ於テハ前記ノ外契約ノ内ト
爲サントスル事項ノ概要

●傳染病豫防中疑似症ノ意ニ關ス

- (イ) 病室ノ建築ニ要スル敷地ハ市ニ於テ之レヲ寄附シ
建築及病室内ノ設備ハ支部病院ノ負擔トス
 - (ロ) 建築後ニ於ケル病室内外ノ修繕等ハ支部病院ニ於
テ之ヲ經營ス
 - (ハ) 市ニ發生シタル傳染病患者ノ爲メニ使用スル病床
ハ四十床トシ平素ハ支部病院入院患者ニ使用スル
ヲ妨ケスト雖市ニ於テ入院セシムヘキ患者アルト
キハ何時ニテモ收容ニ差支ヘナカラシムルコト
 - (ニ) 市ニ於テ制定シタル管理規定中患者ノ取扱其他治
療消毒ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ支部病院ニ之
レヲ委託ス
 - (ホ) 市名ニ於テ徵收スル藥價食費其ノ他ノ費用ノ收納
等ハ之レヲ支部病院ニ委託シ患者轉歸ノ都度之ヲ
精算ス
- 衛生局長回答大正十三年十二月
衛防第一三六四號
- 本年七月九日衛發第一八二號ヲ以テ標記ノ件御照會相成候處
傳染病豫防法第十條ニ依リ設置スル傳染病院トシテ實際上
適當ナリトセハ御問合セノ如キ方法ニ依ルモ差支無シト存
候

ル件

大正十一年十二月二十七日
内務省視衛第八七二號

(各地方長官宛、東京府知事、
衛生局長通牒、警視總監、
ヲ除ク)

標記ノ件ニ關シ今般警視總監ヨリノ左記申照會ニ對シ乙號
ノ通回答候條爲念

警視總監照會 大正十一年十一月十四日
乙號第二三六一號ノ二

別紙寫ノ通東京醫師會長ヨリ疑似症ノ意義ニ關シ伺出有之候
處本件ハ當管内ニ限ラス一般ニ關スルコト、思料候條一應貴
局ノ御意見承知致度

東京府醫師會長伺 大正十一年十一月六日
東府醫進第二五號

拜啓傳染病豫防法ニ所謂疑似症ノ意義ニ付テハ一見明瞭ナル
カ如クシテ其ノ實必スシモ然ラス實際ノ取扱上種々ナル見解
行ハレ其ノ標準條件不定ナルカ爲ニ意外ノ紛議ヲ生シ延イテ
斯法ノ目的達成上遺憾ノ點可有之被存候ニ付此際貴廳ノ御意
見相伺度此段得貴意候也

衛生局長回答 大正十一年十二月二十七日
内務省視衛第八七二號

標記ノ件ニ關シ客月十四日乙衛第二三六一號ノ二ヲ以テ御照

會相成候處疑似症トハ本病ノ疑アルモ未タ本病ナリト診斷ス
ルニ至ラサルモノヲ云ヒ左ノ如キハ之カ判定ヲ爲スニ付參考
トナルヘキモノト被存候

記

一 本病ナリト診斷スルニ至ラサルモ本病ノ疑アル症狀ヲ具
フルカ又ハ細菌學的検査ノ結果本病ノ疑アルモノ

●旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇

人ニシテ傳染病ニ罹リ若ハ其旅
館内ニ傳染病患者ノ發生シタル
場合ニ於ケル處置方ノ件

明治三十四年五月二十七日 (各地方長官宛)
衛生局長通牒
衛甲第六號

旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ罹リ若クハ
其旅館内ニ傳染病患者ノ發生シタル場合ニ於ケル處置方ニ付
キ栃木縣ヨリ照會有之經伺之上別紙ノ通り回答致シ置キ候御
了知相成度爲念此段及通牒候也

栃木縣知事照會 明治三十三年十一月十四日
衛第七四三四號

外國公使又ハ其家族ニ對スル傳染病豫防法適用ニ付疑義相生
シ候條左ノ各項ニ對シ何分ノ御回報相煩シ度此段及御照會候
也

●町村ニ於ケル傳染病患者ノ取扱
ニ關スル件

大正十一年五月二十三日
衛防第八二〇號

和歌山縣知事照會 大正十一年五月十一日
衛第二四九二號

管内海草郡内海町内海紡績株式會社ハ過般同會社工場増築ニ
際シ敷地狹隘ノ爲メ同會社構内ナルモ寄宿舎ノミヲ隣接ノ日
方町領地ニ移轉セルヲ以テ同寄宿舎ニ於テ發生セル傳染病患
者ハ傳染病豫防法令ニ依リ當然日方町ニ於テ取扱ヲ爲スヘキ
モノナルモ内海町ニ主タル工場ヲ有シ而モ同一構内ナルヲ以
テ内海町ニ於テ取扱ヲ爲サシムル方便宜ナラント思料スルモ
聊カ疑義有之候條何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

衛生局長回答 大正十一年五月二十三日
衛防第八二〇號

標記ノ件ニ關シ五月十一日衛第二四九二號ヲ以テ御照會相成
候處御問合ノ如キ場合ニ於テハ日方町ニ於テ豫防上必要ナル
處置ヲ爲シ又患家ヨリ届出等ハ日方町ノ當該吏員ニ對シテ爲
スヘキモノト存候

●傳染病豫防ノ爲物件輸入禁止ニ
關スル件

- 一 旅行中ノ外國公使又ハ其家族雇人ニシテ傳染病ニ感染
シタル場合ニ於テ豫防上必要ト認ムルトキハ傳染病院
又ハ隔離病舎ニ收容スルコトヲ得ルヤ否ヤ
- 二 或場所ニ投宿中傳染病ニ罹リ又ハ同宿ノ旅客ニシテ該
病ニ感染シタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ豫防法
第八條ニ依リ外國公使又ハ其家族雇人ヲモ交通ヲ遮斷
シ差支ナキヤ否ヤ
- 三 第一項ノ場合ニ於テ收容スルコトヲ得ス第二項ノ場合
ニ於テ交通遮斷ヲ執行スルコト能ハストスルモ單ニ豫
防的消毒ノ如キハ其意ニ反シテモ之ヲ施行シ差支ナキ
ヤ否ヤ

衛生局長回答 明治三十四年五月二十七日
衛甲第六號

客年十一月十四日警第七四三四號以テ旅行中ノ外國公使又ハ
其家族雇人ニシテ傳染病ニ罹リ若クハ其旅館内ニ傳染病患者
ヲ發生シタル場合ニ於ケル處置方ニ付御照會ノ趣了承右ハ國
際公法上外國公使ト雖モ衛生及公安警察ノ爲メ設ケタル法令
ヲ遵守スヘキ等ノモノニハ有之候得共其身體上及執務上ノ完
全ナル自由ハ又最モ尊重ヲ要スル義ニ有之候間豫防方法ノ施
行上協議相調ヒ難キ場合ニハ一應本局ヘ内議ノ上措置相成候
様致度經伺ノ上此段及御回答候也

明治三十三年十一月十八日
勅令第四百三十四號

股傳染病豫防ノ爲物件輸入禁止ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
内務大臣ハ傳染病豫防ノ爲必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ物件ノ種類ヲ限リ輸入ヲ禁止スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●痘瘡豫防ノ爲輸入禁止ノ物件

昭和三年三月二十四日
内務省令第七號

痘瘡豫防ノ爲襪履、古綿、古著類、古敷物類ハ傳染病豫防法施行規則第二十二條乃至第二十四條ニ依ル消毒方法ニ據リ消毒ヲ施行シタルモノニシテ輸出地ニ於ケル帝國官憲ノ證明書ヲ有スルモノニ非ザレハ當分ノ内之ヲ支那ヨリ輸入スルコトヲ得ズ

本令ハ昭和三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●蓋樓、古綿、古著類等出入處分

ノ訓令廢止ニ關シ通牒ノ件

大正八年八月十四日
内務省發給第一七七號

(各地方長官宛)
(衛生局長通牒)

ルニ至ルヘク不幸各種傳染病ノ流行ヲ見ルコトアラシカ共ノ影響スル所極メテ深キモノ有之候ニ付テハ此際一層豫防警戒ヲ嚴ニセラレ度又軍隊ノ滞在若クハ其ノ通過沿道地方ノ如キニ於テハ一般衛生状態ニ關シテ特ニ周到注意ヲ加ヘラレ極要ノ地ニ於テハ別記注意事項ニ依リ遺算ナキヲ期セラレ度尙軍夫、御用船ノ船員其ノ他軍隊ニ從屬セントスルカ如キ者ニ對シテハ傳染病性疾患ノ有無ニ付キ相當注意ヲナスハ勿論此際臨時種痘ヲ施行セシムル様致度

一 法定傳染病及流行性腦脊髄膜炎、再歸熱患者又ハ其ノ疑似症患者ハ傳染病院若クハ隔離病舎ニ收容セシムルコト

二 發見患者危篤ニシテ動カスコト能ハサルカ若ハ己ヲ得サル事情ニ依リ自宅治療ヲ許可シタルトキハ當該吏員ヲシテ絶ヘス之ヲ監督セシムルコト

三 交通遮斷又ハ隔離ヲ施行セサル傳染病患者若クハ其ノ死者アリタル家ニ對シテハ當分ノ内日々家人ノ健康状態ニ注意スルコト

四 檢疫的戸口調査ヲ勵行シ下痢又ハ發熱ノ患者アル家ニ對シテハ特ニ日々健康状態ニ注意スルコト

五 傳染病院、隔離病舎ハ何時患者發生スルモ收容ニ差支ナキ様準備セシムルコト

本日訓第五三〇號ヲ以テ明治三十三年五月内務省訓第四九九號廢止相成候ニ付テハ傳染病豫防法第十九條第四號ニ依リ古著襪履古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止セブル、場合ニ於テハ關係廳府縣ト可相協議ヲ遂ケ御措置相成候様致度

(參照)

内務省訓第四九九號 明治三十三年五月
傳染病豫防法第十九條第四號ニ依ル襪履、古綿、古著類等物件ノ出入停止ハ訓令ヲ俟テ施行スヘシ

●傳染病豫防其他施設事項ニ關スル件

大正三年八月十七日
發給第一三一號

(各地方長官宛)
(衛生局長通牒)

昨年來發生セル「ペスト」並發疹「チフス」ハ未タ根絶ノ域ニ球ラス虎列刺ハ未タ之カ發生ヲ見スト雖モ南清油頭ニ於テハ日ニ流行ノ勢ヲ加ヒ何時何地ニ之カ病毒ヲ船舶スルヤモ難計又痘瘡ハ本年初發以來既ニ百有餘名ニ達シ腸胃私及赤痢亦漸次蔓延セントスルノ現狀ニ有之カ豫防撲滅ニ關シテハ各地方共固ヨリ相當施設相成居候義トハ存候得共這大時局ノ進展如何ニ依リテハ病毒媒介ノ機會ヲ與フルコト彌多キヲ加フ

六 傳染病院、隔離病舎其他患者收容所ニハ「何々患者收容」ト明示シ一ヶ月以内ニ患者アリタル家ニハ外方見易キ場所ニ「何々患者アリタリ」ト明示セシムルコト

七 現ニ傳染病患者發生ノ市町村ニ於テハ沿道ノ見易キ場所數ヶ所ニ病名患者數及發生ノ最終日ヲ明示セシムルコト

八 清潔方法ノ行否ヲ調査シ必要ト認ムル部分ニハ消毒方法ヲ施行セシムルコト

九 河川又ハ細流ノ沿岸若ハ上流ニ患者發生シタルトキハ當分ノ内其使用ヲ停止スルコト

一〇 井水々質試驗未済ノ地ニ在リテハ可成之ヲ決行シ良否ノ判決並ニ使用制限ヲ井戸若ハ見易キ場所ニ明示セシムルコト

一一 大部隊ノ通過スル沿道ニハ可成適當ノ場所ニ於テ湯茶ヲ供給セシムルコト

一二 飲食物ノ取締ヲ勵行シ露店若ハ店頭ニ羅列スル飲食物ニハ蓋ヲ設ケシムルコト

一三 滞在地ノ飲食店、旅人宿、湯屋等多人數集散スル家ニ對シテハ特ニ清潔ノ持續ニ努メシムルコト

一四 軍隊旅舎及其宿泊所ニ於テハ日々新製煮沸水ヲ備ヘシメ且ツ便所ノ消毒ニ注意セシムルコト

- 一五 水質不良ナル地ノ軍隊、旅舎及其ノ宿泊所ニ於テハ軍隊ノ使用ニ充ツヘキ飲食器具及煮沸水容器ハ使用前必ス熱湯ヲ以テ洗滌セシメ且ツ容器ニハ密閉スヘキ覆蓋ヲ設ケシムルコト
- 一六 滞在ニシテ水質不良ナル地ノ飲食店、旅人宿ニ於テハ飲用水ハ勿論使用水ト雖モ一旦煮沸シタルモノ若ハ適當ト認ムル裝置ヲ以テ濾過シタルモノヲ用キシムルコト
- 一七 滞在地域内ニ於テハ兵員ニ花柳病ノ傳播ヲ防止スル爲密賣淫ノ取締ヲ嚴行スルコト
- 一八 前各項ノ外可成左ノ各項ニ注意セラレタキコト
 - 一 軍隊宿泊豫定地ニ於テハ可成清潔ナル寢具ヲ供給スル準備ヲナシ豫メ二日以上日光ニ曬サシムルコト
 - 一 前項ノ寢具ハ一ヶ月以内ニ第一項ノ患者アリタル家ヨリ出サシメサルコト
 - 一 一ヶ月以内ニ第一項ノ患者アリタル家ハ軍隊ノ宿泊所ニ充テシメサルコト
 - 一 結核及癩患者アル民家又ハ其ノ所有ニ係ル寢具ハ軍隊ノ使用ニ供セシメサルコト

●地方衛生狀態等注意方及劇烈ナ

ル傳染病發生ノ場合通報方ノ件

大正六年二月二十三日 海衛第七號

大正六年二月十六日 官房第五〇三號

(内務次官宛) 海軍次官照會

地方衛生施設ニ關シテハ充分ナル注意ヲ拂ハル、コト、ハ存候ヘトモ尙左記事項御配慮相煩度右照會ス

左記

- 一、本年度ヨリ艦隊ノ作業根據地ヲ吳方面ニ變更セラレシ爲メ吳軍港、德山港、豐後水道方面ニハ多數艦船ノ碇泊スル機會多カルヘク從ツテ該方面ニ傳染病ノ流行ヲ見ルニ於テハ艦船ノ行動上支障ヲ來タス次第ニ付右地方衛生ニ對シテハ特ニ注意ヲ拂ハレタキコト
- 二、地方ノ如何ヲ問ハス虎列刺、ペスト等劇烈ナル傳染病若ハ流行病發生ノ場合ハ軍隊防疫上特ニ速ニ之ヲ知ルノ必要アルニ依リ迅速ニ地方官署ヨリ最寄鎮守府へ通報相成度尙右疾病ノ感染経路推定ノ場合ハ同様通報相成度コト

大正六年二月二十三日 海衛第七號

(廣島、山口、大分ノ三縣知事宛) 衛生局長通牒

本年度ヨリ艦隊ノ作業根據地ヲ吳方面ニ變更セラレシ爲吳軍港、德山港、豐後水道方面ニハ多數艦船ノ碇泊スル機會多カルヘク從ツテ該方面ニ傳染病ノ流行ヲ見ルニ於テハ艦船ノ行動上支障ヲ來ス次第ニ付右地方衛生ニ對シテハ特ニ注意ヲ拂ハレ度旨其ノ向ヨリ申越ノ次第モ有之候ニ付テハ可然御取計相成度

追テ虎列刺、ペスト等劇烈ナル傳染病若ハ流行病ノ發生及其ノ感染経路ハ其ノ都度最寄鎮守府へ速報相成度爲念

大正六年二月二十三日 海衛第七號

(各地方長官宛) 衛生局長通牒

虎列刺、ペスト等劇烈ナル傳染病若ハ流行病發生シタル場合及其ノ感染経路ハ其ノ都度最寄鎮守府へ速報相成度

●宮内傳染病豫防令

大正十五年十月五日 皇室令第四號

朕宮内傳染病豫防令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

宮内傳染病豫防令

第一條 本令ニ於テ傳染病ト稱スルハ左ニ掲クル三類ノ傳染病及其ノ疑似症ヲ謂ヒ有病地ト稱スルハ第一類ノ傳染病又ハ其ノ疑似症流行シ若ハ流行ノ兆アリテ宮内大臣ニ於テ有病地ト指定シタル土地ノ區域ヲ謂フ

第二類 防疫 第一章 傳染病 第一節 通規

第一類 「ペスト」、「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、流行性腦脊髄膜炎

第二類 赤痢(疫痢ヲ含ム)、腸「チフス」、「バラチフス」、「デフテリア」、流行性感胃、麻疹、百日咳、風疹、水痘、流行性耳下腺炎

第三類 肺喉頭其ノ他ノ器管ノ開放結核、癩、「トラホーム」其ノ他ノ傳染性眼炎及傳性皮膚病

前項ニ掲クル傳染病ノ外本令ニ依ル豫防方法ノ施行ヲ必要ト認メタル傳染病アルトキハ宮内大臣之ヲ指定ス

第二條 第一類及第二類ノ傳染病ノ病原體保有者ハ本令ノ適用ニ關シテハ之ヲ其ノ傳染病ノ患者ト看做ス

第三條 第一類及第二類ノ傳染病ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一定ノ期間宮城ニ參入スルコトヲ得ス但シ宮内大臣ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 傳染病ニ罹リタル者

二 患者ト同居シタル者

三 患者ニ接シ又ハ患者ト同一ノ場所ニ在リタル者

四 病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ニ接シタル者

五 患者ノ在ル室其ノ他病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ立寄りタル者

六 有病地ヲ發シ又ハ之ニ立寄りタル者

第四條 第一類及第二類ノ傳染病ニ付前條各號ノ一ニ該當スル者ハ宮城ニ參入スルコトヲ得ル場合ニ在リテモ仍一定ノ期間側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得ス但シ宮内大臣ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 第三類ノ傳染病ニ罹リタル者ハ全治ノ後ニ非サレハ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得ス

宮内大臣傳染病豫防上必要アリト認メタルトキハ第三類ノ傳染病ニ罹リタル者ノ宮城ノ參入ヲ停止スルコトヲ得

第六條 宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得サル期間及其ノ期間ノ計算ニ付テハ宮内大臣之ヲ定ム

第七條 第三條乃至第五條ノ規定ハ勅旨ニ由リ宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スル者ニ之ヲ適用セス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スル場合ニ於テハ宮内大臣ハ別ニ定ムル所ニ從ヒ豫メ消毒又ハ豫防ノ處置ヲ爲サシムヘシ

一 第六條ノ規定ニ依リ定メラレタル期間ヲ經過シタル者

二 傳染病ニ罹リ全治シタル者

三 前條ノ規定ノ適用ヲ受クル者

第九條 宮城内ニ於テ第一類若ハ第二類ノ傳染病ノ患者ヲ發見シ其ノ他病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アルコトヲ發見シタ

ルトキハ宮内大臣ハ其ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル場所及物件ノ消毒ヲ行ハシムヘシ

第十條 傳染病流行ノ狀況ニ依リ宮内大臣ハ宮城ノ場所ヲ限リ參入ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第十一條 有病地、傳染病流行地又ハ交通遮斷區域内ヲ發シ若ハ經過シタル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非サレハ之ヲ宮城ニ搬入スルコトヲ得ス

宮城ニ搬入シタル物件ニシテ有病地、傳染病流行地又ハ交通遮斷區域内ヲ發シ若ハ經過シタル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニ非サレハ之ヲ宮内大臣ハ之ヲ消毒セシムヘシ

前二項ノ規定ハ有病地、傳染病流行地又ハ交通遮斷區域内ヲ發シ若ハ經過シタル物件ト混同シタル物件ニ之ヲ準用ス

第十二條 宮内大臣傳染病豫防上必要アリト認メタルトキハ左ニ掲クル事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一 健康診斷ヲ行フコト

二 病毒傳播ノ虞アル物件ノ搬入ヲ制限若ハ停止シ又ハ既ニ搬入シタル物件ノ廢棄其ノ他ノ必要ナル處分ヲ爲スコト

三 病毒傳播ノ虞アル水ノ使用ヲ制限シ又ハ停止スルコト

四 清潔方法及消毒方法ヲ行フコト

五 病毒傳播ノ虞アル動物ノ驅除ヲ行フコト

第十三條 第一條ノ規定ニ依リ有病地若ハ傳染病ヲ指定シ又ハ其ノ解除ヲ爲ストキハ宮内大臣之ヲ告示ス

第十四條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル宮内大臣ノ命令ニ違反シタル者アルトキハ其ノ者ノ宮城ノ參入ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條 行幸行啓ノ場所及東宮御所ハ本令ノ適用ニ付之ヲ宮城ニ準ス

宮内大臣必要アリト認メタルトキハ禁苑、離宮、御用邸並皇族ノ殿邸及其ノ宿泊スル旅館ハ本令ノ全部又ハ一部ノ適用ニ付之ヲ宮城ニ準スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ宮内大臣之ヲ告示ス

第十六條 本令中百日咳、風疹、水痘、流行性耳下腺炎ニ關スル規定ハ宮内大臣必要アリト認メタル場所ニ限り之ヲ適用ス

前項ノ場所ハ宮内大臣之ヲ告示ス

第十七條 本令ノ施行ニ付必要アルトキハ宮内大臣ハ皇宮警察官ノ職務ノ全部又ハ一部ヲ地方警察官ニ委託シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附 則

本令ハ大正十五年十一月一日ヨリヲ施行ス

●宮内傳染病豫防令施行規則

大正十五年十月五日 宮内省令第六號

宮内傳染病豫防令施行規則

第一條 宮内傳染病豫防令第三條及第四條ノ規則ニ依リ宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得サル期間ハ別表ニ依ル

第二條 宮城ニ參入スルコトヲ得サル期間ハ別表第一號ニ該當スル者ニ在リテハ全治後消毒ヲ了シタル日ノ翌日ヨリ第二號ニ該當スル者ニ在リテハ同居セサルニ至リ又ハ患者ノ全治若ハ死亡シタル後全部ノ消毒ヲ了シタル日ノ翌日ヨリ第三號ニ該當スル者ニ在リテハ患者ニ接シ又ハ之ト同一場所ニ在リタル後第四號ニ該當スル者ニ在リテハ物件ニ接シタル後第五號ニ該當スル者ニ在リテハ患者ニ立寄りタル後第六號ニ該當スル者ニ在リテハ有病地ヲ發程シタル後各消毒ヲ了シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得サル期間ハ宮城ニ參入スルコトヲ得サル期間ノ定アルモノニ付テハ其ノ期間經過ノ日ヨリ之ヲ起算シ其ノ定ナキモノニ付テハ前項ノ規

定ヲ準用ス

第三條 左ノ疾患ノ全部トハ次ノ各號ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 痘瘡、水痘ニ付テハ完全ナル痂皮ノ脱落
- 二 猩紅熱、麻疹、風疹ニ付テハ完全ナル皮膚落屑
- 三 百日咳ニ付テハ特有ナル咳嗽ノ消失
- 四 流行性耳下腺炎ニ付テハ耳下腺ノ腫脹消失

第四條 現ニ患者ノ在ル室内ニ入りタル者ハ患者ニ接シタル者ト看做シ「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ患者ト住家ヲ異ニスルモ同居シタル者ト看做ス

第五條 別表第三號乃至第六號ニ該當スル者ニシテ既往ニ於テ「コレラ」、赤痢、「チフテリア」及流行性感胃以外ノ傳染病ニ罹リ又ハ既往五年以内ニ種痘善感シタルモノハ消毒ヲ了シタル後直ニ宮城ニ參入シ又ハ臨時進調スルコトヲ得

第六條 別表第三號乃至第六號ニ該當スル者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ宮内大臣ノ承認ヲ受ケ直ニ宮

城ニ參入シ又ハ臨時進調スルコトヲ得

第一 第三號ノ場合其ノ傳染病「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」ナルトキ患者ト同一ノ場所ニ在リタルモ飲食又ハ上圖ヲ爲サス且其ノ後ニ於テ消毒ヲ了シタルトキ

第二 第四號ノ場合該物件ニ手足其ノ他身體ノ一部分接觸シタルトキニ限り直ニ之カ消毒ヲ了シタルトキ

第三 第五號ノ場合患者ニ於テ室内ニ入ラス且飲食等ヲ爲サス單ニ立寄りタルニ過キサルトキ

第四 第六號ノ場合有病地域内ニ於テ起臥飲食等ヲ爲サス單ニ通過シタルモノナルトキ

第七條 宮内傳染病豫防令第三條各號ノ一ニ該當スル者ハ別表ニ期間ノ定ナキ場合ト雖消毒ヲ了シタル後ニ非サレハ宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得ス

第八條 痘瘡ニ付宮内傳染病豫防令第三條第二號乃至第六號ノ一ニ該當スル者ニシテ既往五年以内ニ種痘善感セザリシモノハ別表ノ期間滿了前種痘ヲ行フヘシ

第九條 宮内傳染病豫防令第九條ノ場合ニ於テハ皇宮警察部

長ハ當該係員ヲ指揮シテ速ニ消毒ヲ行フヘシ

第十條 宮内傳染病豫防令ニ依ル消毒方法及清潔方法ハ以下定ムル所ニ依ル

第十一條 消毒方法ハ左ノ五種トス

- 一 焼却
- 二 蒸汽消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 藥物消毒
- 五 日光消毒

第十二條 蒸汽消毒ニハ流通蒸汽ヲ用キ成ルヘク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

第十三條 者沸消毒ハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰

- 一 消毒ニ因リ褪色ノ虞アルモノハ蒸汽消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アルモノハ他物ト混シ蒸氣消毒ヲ行ハサルコト
- 二 衣類ハ豫メ袖又ハ衣囊ヲ檢索シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト

後三十分間以上煮沸スヘシ

第十四條 藥物消毒ニ用ウヘキ藥品其ノ製法及用法左ノ如シ

- 一 石炭酸水 防疫用石炭酸三分 水九十七分
- 二 「クレゾール」水 「クレゾール」石鹼液三分 水九十七分
- 三 「クレゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレゾール」石鹼ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
- 四 「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スヘシ
- 五 昇汞水 昇汞一分、普通食鹽一分 水十分
- 六 昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇汞錠（「グラム」ヲ含ム）ヲ一錠ニ付水約五百「グラム」ノ割合ニ溶解スヘシ
- 七 昇汞水ハ金屬製ニ非サル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇汞錠ヲ用キサルモノハ「スカレット」、「フクシン」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ識別シ易カラシムルコト

トヲ要ス

- 四 煨製石灰 少量ノ水ヲ注ケハ熱ヲ發シ崩壊スルモノ
煨製石灰末 煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末トナシタルモノ
煨製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スヘシ
石灰乳 煨製石灰三分
石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ煨製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スヘシ
石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度之ヲ攪拌スヘシ
煨製石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ限り倍量ノ普通石灰ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 五 「クロール」石灰水 「クロール」石灰五分
水九十五分
- 六 「クロール」石灰水ノ製法及用法ハ石灰乳ノ例ニ依ル
「フオルマリリン」水 水三十四分
「フオルマリリン」水ヲ製スルニハ用ニ臨ミ定量ノ「フオルマリリン」ニ定量ノ水ヲ加フヘシ
- 七 「フオルムアルデヒード」
「フオルムアルデヒード」ハ「フオルマリリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムヘシ

曝露スルコトヲ要ス物體ノ内部迄消毒ヲ要スル場合ハ日光消毒ヲ行フヘカラス

第十六條 「ベスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

- 一 血液、鼻汁、唾痰、膿汁及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
 - 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
 - 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
 - 七 鼠ノ棲息、交通スル場所
- 「コレラ」、赤痢、腸チフス」及「バラチフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ
- 一 屎尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
 - 二 死體
 - 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
 - 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

第十五條 日光消毒ハ物體ノ各面ニ付直射日光ニ一時間以上之ヲ曝露スヘシ濕潤ノ状態ニ在ルモノハ乾燥後前記ノ時間

- 一 消毒函内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フオルマリリン」四十グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フオルムアルデヒード」瓦斯十五グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上閉塞シ置クヘシ
- 二 物件ノ内部ニ至ル迄消毒スルノ必要アルモノニハ真空裝置ニ依ルニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
真空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 三 氣密ニ閉鎖シ得ヘキ消毒函内又ハ土藏迄、洋風建物、船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ヘキ室内ニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
「フオルムアルデヒード」ノ使用ニ付特殊ノ事情ニ依リ本號以外ノ方法ヲ必要トスルトキハ其ノ事由及試験成績等ヲ具シ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 四 瘧疾、猩紅熱、麻疹、風疹及水痘ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ
- 一 鼻汁、唾痰、膿汁、痂皮、落屑及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等
- 五 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等
- 六 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等
- 七 發疹「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ
- 一 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 死體
- 三 患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等
- 四 看護人其ノ他病者ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

ル衣類、寝具

五 病室ノ疊、敷物等

流行性腦脊髄膜炎、「チフテリア」、流行性感冒、百日咳、流行性耳下腺炎及第三種ノ傳染病ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概テ左ノ如シ

- 一 鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用キタル器具、布片、紙片等
- 二 患者ニ供シタル衣類、寝具等
- 三 看護人及其ノ使用シタル衣類、寝具等
- 四 患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等
- 五 病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

第十七條

消毒方法ノ應用概テ左ノ如シ

- 一 患者
 - 患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムヘシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ケス
 - 入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二號ニ依ル
- 二 死體
 - 死體ヲ棺ニ斂ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シテ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死

體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石灰ヲ増ツヘシ

- 三 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物
 - 屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ煨製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クローール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スヘシ
- 四 病室ニ接觸シタル者
 - 昇汞水及「フォルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セス
 - 看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體、排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病室ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スヘシ

五

手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水ヲ使用スヘシ

衣類、寝具、敷物、布片等

蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ

絹布、毛織物、綿、縮入蒲團、羽蒲團等ハ成ルヘク蒸汽消毒ヲ行ヒ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用

スヘシ

六

患者、死體、死體、病毒汚染物件ノ運搬器具

患者、死體又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ撒布スヘシ

七

「フォルムアルデヒド」ヲ使用スヘシ

八

硝子器、陶器、磁器、鍍製品、竹木製品等

石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フォルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ汽熱ニ堪フルモノニ付テハ蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ

九

革類、革製品、漆器其ノ他ノ塗物類、護謨製品、「セロイド」製品、護謨附品、糊附品、膠附品、紙製品、毛皮、象牙、鼈甲、角等

石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フォルムアルデヒ

十

「ド」ヲ使用スヘシ

蒸汽消毒及煮沸消毒ニ適セス

室内各部

石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スヘシ但シ密閉シ得ヘキ場合ニ於テハ「フォルムアルデヒド」ヲ使用スルコトヲ得

十一

便所、芥溜、溝渠等

便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煨製石灰末、石灰乳又ハ「クローール」石灰水ヲ注キ充分攪拌スヘシ但シ屎尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニ非サレハ肥料ニ供スルコトヲ得ス

芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クローール」石灰水ヲ、溝渠ニハ煨製石灰末、石灰乳又ハ「クローール」石灰水ヲ注キ塵芥ハ之ヲ燒却スヘシ

十二

井戸、水槽、汚水物

煨製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セス

井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煨製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五十分ノ一ノ「クローール」石灰水ヲ投入シ充分攪拌シタル後十二時

間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸汽ヲ通シ三十分間以上沸騰セシムヘシ

昇水水ハ飲料水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スヘカラス

清澄ナル水ノ消毒ニハ「クロール」石灰水ヲ其ノ消毒スヘキ水量ノ五千分ノ一ノ割合ニ投入シ充分攪拌シ三十分以上接觸セシムル方法ヲ以テ消毒ヲ行フコトヲ得

十三 船舶、汽車、電車等

船室又ハ車室内部ノ消毒ハ第十號ニ準スヘシ

船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ燬製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ加ヘ二

十四 動物ノ死體、消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スヘシ

第十八條 衣類、寢具、器具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ前述各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光消毒ヲ行フヘシ

第十九條 傳染病患者又ハ死者アリタル場所其ノ他傳染病源ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル場所ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一 「ベスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト

二 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「バラチフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ付不潔ナル場所ヲ掃除シ必要ナル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸流ヲ爲シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト

三 痘瘡、猩紅熱、流行性腦脊髄膜炎、「チフテリア」、流行性感冒、麻疹、百日咳、風疹、水痘、流行性耳下腺炎及第三類ノ傳染病ニ付テハ衣類、寢具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト

四 發疹、「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具等虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト

五 室ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

前項ノ清潔方法ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スヘシ

第二十條 前條以外ノ場合ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一 宅地及家屋ノ内外ヲ掃除スルコト

二 室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

三 疊、敷物等ヲ日光ニ曝スコト

四 床下ハ換氣ヲ充分ニシ濕潤著シキモノハ乾燥セル土砂ノ新ヲ撒布スルコト

五 汚水停留ノ場所又ハ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ充分ニスルコト

六 前各號ノ外特別ノ必要アルトキハ前條第一項第一號乃至第四號ニ準シ處置スルコト

第二十一條 特ニ清潔ヲ要スル場所及物件ニ付テハ熱加里石鹼液(加里石鹼三分水九十分)ヲ以テ洗滌シ又ハ消毒用「アルコール」(酒精七十分水二十三容)ヲ以テ拭淨スヘシ

第二十二條 清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ蓋ニ消毒藥ヲ撒布スヘカラス

傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ燬製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浚渫スヘシ

第二十三條 清潔方法ノ施行ニ因リ生シタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ燒却スヘシ

第二十四條 宮内傳染病豫防令第十條ノ規定ニ依リ宮城ノ場所ヲ限リ參入ヲ制限又ハ禁止スルトキハ其ノ場所ノ區域及制限又ハ禁止ノ範圍ハ之ヲ便宜ノ場所ニ揭示ス

第二十五條 宮内大臣ニ於テ宮内傳染病豫防令第十二條ノ規定ニ依リ病原體保有ノ有無ヲ検査スルノ必要アリト認め檢査材料ノ提出ヲ要求シタルトキハ速ニ皇宮警察部ニ之ヲ提出スヘシ

第二十六條 宮城參入者ノ健康診斷及宮城ニ搬入スル物件ノ消毒又ハ包裝ノ解除ハ特ニ設ケタル健康診斷所及消毒所ニ於テ之ヲ行フ

第二十七條 傳染病豫防法施行規則ニ依リ施行シタル消毒方法清潔方法ハ本令ニ依リ之ヲ施行シタルモノト看做スコトヲ得

第二十八條 第一類ノ傳染病流行ノ狀況ニ依リ必要アリト認めタルトキハ左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行ス

一 出入ノ廊門ヲ限定シ他ハ之ヲ閉鎖スルコト

二 物件受入ノ場所ヲ限定シ他ノ場所ニ於テ其ノ受入ヲ許ササルコト

三 宮城及其ノ附近ノ區域ヲ限リ特ニ嚴重ニ警戒ヲ行フコト

四 警戒區域内ノ用務ハ成ルヘク電話ヲ以テ處辨スルコト

五 天機御機機御禮等ノ受付所ハ之ヲ警戒區域外ニ假設スルコト

第二類 防疫 第一章 傳染病 第一節 通規

六 新ニ隔離合ヲ設クルコト
七 公務其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ出入スル者ヲ除クノ外一時門鑑ヲ引上クルコト

第二十九條 宮城參入者又ハ宮城常住者自ラ傳染病ニ罹リタル疑アルコトヲ覺知シタルトキハ便宜皇宮警察官ニ報告スヘシ傳染病ニ罹リタル疑アル者ヲ發見シタルトキ亦同シ皇宮警察官前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ當該關係當事者ト協議ノ上患者ニ應急ノ手當ヲ施シ且自宅、病院又ハ隔離舍等宮城以外ノ場所ニシテ傳染病豫防上適當ナル場所ニ送致ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ皇宮警察官ニ於テ傳染病ニ罹リタル疑アル者ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 前條第二項又ハ第三項ノ場合ニ於テ届出ヲ要スル傳染病ト確定シタルトキハ皇宮警察部長ハ其ノ旨ヲ地方警察官廳ニ通報スヘシ

第三十一條 宮内傳染病豫防令第十二條ノ規定ニ依リ病毒傳播ノ虞アル物件ノ搬入ヲ制限又ハ停止スルトキハ其ノ物件ノ種類ヲ定メ告示ス之カ解除ノ場合亦同シ

第三十二條 宮内傳染病豫防令第十二條ノ規定ニ依リ病毒傳播ノ虞アル水ノ使用ヲ制限又ハ停止スルトキハ其ノ制限又ハ停止ノ範圍ハ便宜ノ場所ニ之ヲ揭示ス

第三十三條 宮城ニ於テ捕鼠ヲ爲シ又ハ斃鼠ヲ發見シタルトキハ之ヲ皇宮警察官ニ引渡スヘシ但シ便宜之ヲ地方警察官ニ引渡スコトヲ妨ケス

第三十四條 左ニ掲クル事項其ノ他本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

- 一 宮城奥向奉仕者及宮城常住者ニ關スル取締方法及注意事項
 - 二 商工者職工車夫馬丁人足等ニ關スル取締方法及注意事項
 - 三 宮城ニ患者ヲ發生シタル場合ニ於ケル取締方法及注意事項
 - 四 飲食物及飲食器ニ關スル取締方法及注意事項
 - 五 車馬ニ關スル取締方法及注意事項
 - 六 物件受入ニ關スル取締方法及注意事項
 - 七 宮殿參入者昇降所ノ取締方法及注意事項
- 第三十五條 宮内傳染病豫防令第十五條第二項ノ規定ニ依リ同令ノ全部又ハ一部ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ施行ニ關シ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用ス
- 第三十六條 本令ハ傳染病豫防及消毒ニ從事スル職員ニハ之ヲ適用セサルコトヲ得

附 則

本令ハ正十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年宮内省令第七號ハ之ヲ廢止ス

別 表

傳染病ノ種類	期間ノ區別					
	第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
「ベ」	十日	十日	十日	十日	十日	十日
「コ」	五日	五日	五日	五日	五日	五日
「レ」	二日	二日	二日	二日	二日	二日
痘 瘡	二日	二日	二日	二日	二日	二日
發 疹「チ」	二日	二日	二日	二日	二日	二日
紅 熱	二日	二日	二日	二日	二日	二日

宮城ニ參入シ側近ニ奉仕シ又ハ臨時進調スルコトヲ得サル者ノ種類

第一號 傳染病ニ罹リタル者
第二號 患者ト同居シタル者
第三號 傳染病患者ニ接シ又ハ之ト同一ノ場所ニ在リタル者
第四號 病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ物件ニ接シタル者
第五號 患者ノ在ル家其ノ他病者ニ汚染シ又ハ汚染ノ物件ニ接シタル者
第六號 有病地ヲ發シ又ハ之ニ立寄リタル者

第二類 防疫 第一章 傳染病 第一節 通規

- 七 トキハ車釣瓶ニシテ繩ハ鐵鎖トナスコト
- 七 御料水、御料牛乳及御料食器ノ取扱人及其家人ニ對シテハ健康診斷ヲ施行シ當該地方ノ病況ニ依リ必要ト認ルトキハ細菌検査ヲ行フコト
- 八 宮廷列車内又ハ御小憩所等ニ於テ供奉諸員ニ賜ハルヘキ飲食品ノ調達方ヲ依テセラレタルトキハ調理人及其家人ノ健康状態ニ注意シ且原料品ノ精選、容器ノ清潔ニ注意セシムルコト
- 九 獻納豫定品ノ製作ニ從事スルモノニ就テハ豫メ其健康状態ニ注意シ又獻納品ノ消毒等ニ關シテハ主任宮内官ニ協議スルコト
- 十 供奉諸員ノ旅館ニ對シテハ豫メ其家人及使用人ニ健康状態ニ注意シ特ニ庖厨、浴室、便所等ノ清潔保持ニ注意セシムルコト
- 十一 供奉諸員ノ旅館ノ水質不良ナル家ニ對シテハ他ノ良水ヲ代用セシメ必要ト認ムルトキハ煮沸水ヲ使用セシムルコト
- 十二 行在所、御駐泊所、御小憩所ノ用務ニ從事スル職工人夫ノ類及供奉員用ノ車夫ニ付テハ豫メ健康状態ヲ検査シ傳染病其他ノ疾病ノ有無ニ注意スルコト
- 十三 行幸啓地ノ當該地方廳ニ於テハ少クモ東京御發一週

●陸軍傳染病豫防規則

大正十三年三月三十一日
陸軍省令第六號

陸軍傳染病豫防規則左ノ通定ム

- 第一章 通 則
- 第一條 本規則ハ陸軍部内ニ於ケル傳染病豫防ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス
- 第二條 本規則ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢(疫ヲ含)、腸「チフス」、「バラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「デフテリア」、流行性腦脊髄膜炎及「ペスト」ヲ謂フ
- 前項ニ掲グル十病ノ外本規則ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ陸軍大臣之ヲ指定ス
- 第三條 本規則ハ傳染病ノ疑似症、傳染病ノ病原體保有者又ハ「ペスト」病發生ノ場合ニ之ヲ適用ス
- 第四條 傳染病豫防上陸軍部外ニ關連スル事項ハ内地ニ在リ

- テハ傳染病豫防法及同施行規則、朝鮮、臺灣、樺太、關東並ニ海外ニ在リテハ之ニ該當スル法規ニ準據スヘシ
- 第五條 所管長官ハ本規則ノ施行ニ關シ必要ナル細部ノ規定ヲ定ムヘシ但シ其ノ陸軍部外ニ關連スル事項ニ就テハ豫メ地方長官ト協議スヘシ
- 第六條 陸軍所轄ノ船舶及其ノ搭載人馬物件ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第七條 本規則中下士兵卒ニ關スル規定ハ陸軍諸生徒ニ之ヲ適用ス
- 第二章 報告及通報
- 第八條 所管長官ハ第五條ニ依リ定メタル規定ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 第九條 部隊ニ於テ傳染病患者發生シタルトキハ部隊長ハ速ニ之ヲ所管長官ニ報告シ同時ニ關係地方官憲ニ通牒スヘシ
- 第十條 所管長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ所要ノ區域ヲ爲シ病性激烈又ハ蔓延ノ兆アルトキハ速ニ其ノ景況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 部隊ニ於テ傳染病患者發生シタルトキハ部隊附醫官ハ其ノ都度速ニ其ノ病症並ニ施行シタル豫防處置等ヲ軍醫部長ニ報告スヘシ
- 第十二條 軍醫部長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ其ノ病性及

- 發生ノ景況ヲ速ニ醫務局長ニ報告シ要スレハ關係部隊長及地方廳ニ通牒スヘシ
- 第十三條 部隊ニ於テ傳染病發熄シタルトキハ軍醫部長ハ其ノ流行ニ關シ所要ノ事項ヲ綜合シテ醫務局長ニ報告スヘシ
- 第十四條 軍醫部長ハ部隊ノ傳染病豫防上關係アル地域ニ「コレラ」、「ペスト」發生シ又ハ其ノ他ノ傳染病流行スルトキハ地方官憲ヨリ病名、員數、發病日時、發生場所等ニ關スル通牒ヲ受ケ要スレハ之ヲ醫務局長ニ報告シ且關係部隊長ニ通牒スヘシ
- 前項地方官憲ヨリノ通牒ハ師團司令部(臺灣、關東ニ在リ)所在地外ノ部隊ニ在リテハ當該部隊ニ於テ之ヲ受ケタルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ軍醫部長ニ通牒スヘシ
- 第十五條 部隊長ハ下士兵卒中傳染病ノ病原體保有者ニシテ除隊又ハ退營スル者アルトキハ其ノ日時、氏名、居所等ヲ歸郷スヘキ地ノ地方官憲ニ通牒スヘシ
- 第三章 豫防處置
- 第十六條 部隊長ハ部隊ニ於テ傳染病發生シ若ハ其ノ附近地方ニ傳染病流行ノ兆アルトキハ必要ニ應ジ左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行スヘシ
- 一 豫防委員ヲ編成シ豫防ニ關スル企劃及實施ノ業務ヲ專任セシムルコト

- 二 傳染病患者並ニ疑似者、傳染病ノ病原體保有者及病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルモノヲ隔離スルコト
- 三 消毒方法ヲ行フコト
- 四 健康診斷其ノ他所要ノ檢索ヲ行ヒ傳染源ノ早期發見ニ努ムルコト
- 五 下士以下ノ外出ヲ禁止シ又ハ外出區域ヲ制限シ要スレハ引卒者ヲ附スルコト
- 六 外來人又ハ病毒傳播ノ疑アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止スルコト
- 七 病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ部隊附醫官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗濯セシメサルコト
- 八 病毒ノ傳播ヲ媒介スル獸類、昆蟲類ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スコト
- 第十七條 傳染病豫防ノ爲必要アルトキハ種痘、豫防接種又ハ血清注射ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部隊長ハ豫メ軍醫部長ニ協議スヘシ
- 傳染病豫防ノ爲行フ豫防接種及血清ノ種類並ニ之ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 部隊ニ於テ「コレラ」又ハ「ベスト」等ノ激烈ナル傳染病發生シ又ハ其ノ他ノ傳染病流行スルコトハ部隊長

- ハ豫防上一時兵業ヲ廢スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ在リテハ之ヲ所管長官ニ報告スヘシ
- 第十九條 部隊又ハ地方ニ於テ傳染病ノ流行特ニ激烈ニシテ之カ爲健康兵ノ營外隔離、入隊時期ノ變更等特別ノ處置ヲ要スルトキハ部隊長ハ狀ヲ具シ所管長官ノ指示ヲ受ケ所管長官ハ要スレハ更ニ陸軍大臣ノ指示ヲ受ケヘシ
- 第二十條 衛戍病院長ニ於テ避病院ノ設置ヲ必要ト認ムルトキハ順序ヲ經テ所管長官ニ申請シ所管長官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ設置スヘシ
- 第二十一條 避病院ノ設ケアル地方ニ在リテハ所管長官ハ時宜ニ依リ地方官憲ニ協議ノ上該院ノ一部ヲ借用スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ豫メ費用ノ分擔方法ヲ協定スヘシ
- 第二十二條 行軍、演習等ノ計畫ニ當リテハ豫メ關係地域ニ於ケル傳染病ノ狀況ヲ調査シ適宜ノ豫防方法ヲ講シ要スレハ其ノ地域ヲ變更スヘシ
- 第二十三條 軍醫部長ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ所管內醫官ヲ會同シ豫防ニ關スル意見ヲ徵シ且所管ノ指示ヲ爲スコトヲ得但シ師團司令部所在地外ノ者ヲ召集スル必要アルトキハ師團所管ノ者ニ在リテハ師團長其ノ他ノ者ニ在リテハ當該長官ノ承認ヲ經ルモノトス

第二十四條

部隊長ハ部隊附醫官ヲシテ入隊スル者又ハ休暇、派遣、分遣等ヨリ歸隊スル者ニ就キ所要ノ調査ヲ爲サシメ傳染病ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル者ハ之ヲ隔離スヘシ

第二十五條

傳染病ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル者ノ隔離期間ハ病毒汚染ノ機會ヲ離レタル時ヨリ起算シ各種傳染病ノ潜伏期ト病性トヲ顧慮シ之ヲ定ムヘシ

第二十六條

傳染病ノ病原體保有者ハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キテ採取シタル檢査材料ニ付細菌學の檢査ヲ行ヒ引續キ三回以上病原體ノ存在ヲ證明セサルニ至リタル後ニ於テ隔離ヲ解除スヘシ

前項檢査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ在リテハ尿、腸「チフス」及「バラチフス」ニ在リテハ尿及尿、流行性腦脊髄膜炎ニ在リテハ鼻咽喉部ノ粘液トス

第二十七條

「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」、「チフテリア」及流行性腦脊髄膜炎患者ニ在リテハ其ノ主要症狀消退ノ後ニ於テ前條ノ規定ヲ適用スヘシ

第二十八條

部隊ニ於テ葬ルヘキ傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ

前項ノ火葬ハ地方ノ火葬場ニ於テシ其ノ設備ナキトキハ部隊長ハ地方官憲ト協議シ適宜取計フヘシ

第二十九條

營外居住ノ軍人軍屬ニシテ自己傳染病ニ罹リタルカ又ハ其ノ家族若ハ同居者中ニ傳染病患者アルトキハ部隊長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ出務スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ要スレハ檢査材料ニ付所要ノ檢索ヲ行フコトヲ得

第四章 消毒方法

第三十條 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 藥物消毒
- 二 蒸氣消毒
- 三 煮沸消毒
- 四 燒却

第三十一條

藥物消毒ニ使用スル藥物、其ノ製方及用法左ノ如シ

- 一 「クレゾール」水(約二・五%) 「クレゾール」石鹼液五十立方「センチメートル」ヲ取り之ニ水ヲ加ヘテ「リットル」ト爲シ混和ス
- 二 石炭酸水(約三%) 溶製石炭酸三十立方「センチメートル」ヲ取り之ニ水ヲ加ヘテ「リットル」ト爲シ混和ス

- 三 昇汞水(約十分の一%) 昇汞錠二箇又ハ昇汞「クロールカリウム」(昇汞鹽)二グラムヲ水一「リットル」ニ溶解ス
- 四 昇汞水ハ金屬面、排泄物、汚穢物等ノ消毒ニ適セス 石灰乳、假性石灰ヲ塊ノ儘大ナル器ニ取り之ヲ約半量ノ水ヲ注キテ粉末ト爲シ其ノ一容量ヲ取り攪拌シツツ之ニ水三容量ヲ徐々ニ加フ
- 五 石灰乳ハ用ニ臨ミ調製シ攪拌シテ使用スヘシ 石灰乳ハ「ベンキ」塗面ノ消毒ニ適セス 「クロール」石灰乳 「クロール」石灰一容量ヲ取り攪拌シツツ之ニ水五容量ヲ徐々ニ加フ
- 六 「フオルマリン」水(約一%) 「フオルマリン」三十立方「センチメートル」ヲ取り之ニ水ヲ加ヘテ一「リットル」ト爲シ混和ス
- 七 「フオルマリン」水ハ用ニ臨ミ調製スヘシ 「フオルマリン」水ハ排泄物、汚穢物等ノ消毒ニ適セス 「フオルムアルデヒド」 「フオルマリン」ヲ適當ナル裝置ニ入レ水ト共ニ蒸發若ハ噴霧セシム 「フオルムアルデヒド」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ

- 一 「フオルムアルデヒド」ハ密閉シ得ヘキ兩内又ハ室内ニ於テノミ使用シ得
- 二 兩内又ハ室内ノ氣容一立方「メートル」ニ對シ「フオルマリン」十五立方「センチメートル」ヲ水約三十五立方「センチメートル」ト共ニ蒸發若ハ噴霧セシメ七時間以上密閉シ置クヘシ但シ兩内又ハ室内ニテ特ニ多數物件ヲ消毒スル場合ハ其ノ露出面ノ廣サニ應ジ藥物及水ノ使用量ヲ更ニ増加スルヲ要ス又多量ノ水蒸氣ヲ送り兩内又ハ室内ノ溫度ヲ攝氏六十度ニ上昇シ且同溫度ヲ持續シ得ル場合ニ在リテハ消毒時間ヲ三十分ニ短縮スルコトヲ得
- 三 被消毒物件ハ成ルヘク其ノ露出面ヲ大ナラシムル如ク排列スルヲ要ス
- 四 前各號ノ外醫務局長ノ承認ヲ得タルモノ
- 五 第三十二條 蒸氣消毒ニハ流走蒸氣又ハ適度ノ緊張蒸氣(壓力三乃至七「ボンド」)ヲ用キ其ノ溫度ハ攝氏百度以上、消毒時間ハ流走蒸氣ニ在リテハ溫度攝氏百度ニ達シテヨリ一時間以上緊張蒸氣ニ在リテハ所定ノ壓力ニ達シテヨリ三十分以上ナルヲ要ス
- 六 蒸氣消毒裝置ハ備附ノ際及備附後毎年一回以上消毒力ニ關

- スル試驗ヲ施行シ其ノ成績ニ基キ使用法ヲ定メ之ヲ其ノ室ニ揭示スヘシ
- 一 過熱蒸氣ハ使用スヘカラス
- 二 革製品、護膜製品、紙製品、糊膠附品、塗物、毛皮、象牙、髓甲、角類等ハ蒸氣消毒ニ適セス
- 三 爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ豫メ之ヲ取出シ置ヘシ
- 四 第三十三條 煮沸消毒ヲ施スニハ消毒スヘキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後十五分以上煮沸スヘシ 煮沸水中ニハ約一%ノ割合ニ粗製炭酸「ナトリウム」(「ソ」ダ)ヲ加フルコトヲ得
- 五 第三十四條 燒却ハ燒却場其ノ他特定ノ場所ニ於テ爲スヘシ
- 六 第三十五條 消毒ノ實施ハ左ノ各號ニ依ル
- 一 患者及病原體保有者ノ隔離ヲ解除スルトキハ加溫昇汞水ヲ以テ全身ヲ擦拭シタル後石鹼ヲ用キテ全身浴若ハ溫濕布ノ擦拭ヲ行ヒ更衣セシムヘシ
- 二 患者ノ遺骸ハ昇汞水、「クレゾール」水若ハ石炭酸水ニ浸シタル布ヲ以テ全身ヲ包ミテ納棺シ棺底ニハ厚ク石灰、木灰、燻灰、鋸屑等ヲ敷クヘシ 獸畜ノ死體ハ昇汞水、「クレゾール」水若ハ石炭酸水ヲ

- 一 撒布シテ消毒シタル後之ヲ燒却スヘシ若シ燒却スルコト能ハサルトキハ深ク地中ニ入レ多量ノ石灰乳ヲ注キタル後埋ムヘシ
- 二 患者又ハ病畜ニ接觸シタル者ハ其ノ都度昇汞水又ハ「クレゾール」水ヲ以テ手指ヲ消毒シ更ニ石鹼ヲ甲子チテ洗滌スヘシ尙要スレハ入浴、更衣及被服ノ消毒ヲ行フヘシ
- 三 尿、屎、吐物、分泌物等ハ煮沸若ハ燒却シ又ハ之ニ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ其ノ容量ノ十分ノ一以上ノ「クロール」石灰乳ヲ加ヘ十分攪拌シタル後二時間以上放置スヘシ
- 四 前項ノ排泄物、其ノ他ノモノヲ入レタル容器ハ其ノ品質ニ應ジ消毒ヲ施スヘシ
- 五 汚水浴水等ハ之ニ蒸氣ヲ通シ攝氏八十度以上ノ溫度ニテ十分間以上加熱シ又ハ赤色試驗紙ヲ著明ニ且持續シテ青變スルニ至ル迄之ニ石灰乳ヲ混シ若ハ「クロール」臭ヲ放ツニ至ル迄「クロール」石灰乳ヲ混シ能ク攪拌シタル後二時間以上放置スヘシ
- 六 飲食器、藥盃等ハ内容物ノ殘餘ト共ニ煮沸又ハ蒸氣消毒ヲ施スヘシ

- 七 銃砲、銃劍、刀、携帶器具等ノ金屬製品ハ「クレゾール」水、石炭酸水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ擦拭スヘシ但シ木製部ニハ昇汞水ヲ用キルコトヲ得
- 八 被服、寢具中軍衣袴、外套、毛布等洗濯ニ適セサルモノハ蒸沸若ハ「フォルムアルデヒド」ヲ以テ消毒シ其ノ他洗濯ニ適スルモノハ蒸沸若ハ蒸沸消毒ヲ施シ又ハ「クレゾール」水若ハ石炭酸水ニ浸シ二時間以上ヲ經タル後洗濯スヘシ
- 九 革製品、毛皮製品、護膜製品等ハ「フォルムアルデヒド」ヲ以テ消毒シ又ハ昇汞水、「クレゾール」水、石炭酸水若ハ「フォルマリン」水ヲ用キテ反覆擦拭スヘシ但シ毛皮製品ノ有毛面ハ等ノ藥液ヲ浸シタル刷毛ニテ反覆擦拭シタル後乾燥スヘシ
- 十 寢臺、腰掛、椅子、机等ハ昇汞水、「クレゾール」水若ハ石炭酸水ヲ用キテ擦拭スヘシ其ノ天鵞絨ノ類ヲ張りタル部ハ石炭酸水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ濕シタル刷毛ニテ擦拭シタル後乾燥スヘシ但シ「フォルムアルデヒド」ヲ以テ消毒セル室内ニ在リタルモノハ此ノ消毒ヲ省略スルコトヲ得
- 十一 圖書、信書類中燒却スルコト能ハサルモノハ「フォルムアルデヒド」又ハ蒸沸ヲ以テ消毒スヘシ

- 貴重品ハ其ノ品質ニ應ジ「クレゾール」水、石炭酸水若ハ「フォルマリン」水ヲ以テ擦拭シ又ハ「フォルムアルデヒド」ヲ以テ消毒スヘシ
- 十二 薬布團及枕ノ内容物、襪、塵芥ノ類及燒却ニ依ルニ非サレハ完全ノ消毒ヲ期シ難キモノハ燒却スヘシ
- 十三 室ハ床、壁(少クトモ二「メートル」ノ高サニ至ル迄)戸及窓等ハ昇汞水、「クレゾール」水若ハ石炭酸水ヲ用キテ擦拭シ又ハ之ヲ撒布シテ消毒スヘシ但シ密閉シ得ヘキ室ハ成ルヘク「フォルムアルデヒド」ヲ以テ消毒スヘシ此ノ場合ニ於テハ室ノ窓戸、換氣口、板目等總テノ空隙ヲ目貼スヘシ
- 十四 便所ノ戸、内壁、床等ハ昇汞水、「クレゾール」水若ハ石炭酸水ヲ用キテ擦拭シ又ハ之ヲ撒布シテ消毒シ糞壺、尿池及汲取口ノ周圍ニハ厚ク石灰乳若ハ「クロール」石灰乳ヲ撒布スヘシ
- 十五 糞壺及尿池ニハ其ノ内容ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ十分ノ一以上ノ「クロール」石灰乳ヲ加ヘ十分攪拌シ二時間ヲ經ルニ非サレハ汲取ラシムヘカラス
- 中庭、道路等ノ汚染セラレタル場所亦之ニ準ス

- 十六 井水、水樽水ハ之ニ水蒸氣ヲ通シ攝氏八十度以上ニ十分間以上加熱シ又ハ水量ノ五十分ノ一以上ノ石灰乳若ハ二百分ノ一以上ノ「クロール」石灰乳ヲ之ニ加ヘ十分攪拌シ井壁又ハ槽壁ニハ石灰乳又ハ「クロール」石灰乳ヲ塗布シ十二時間以上經タル後洗滌シ且浸漬スヘシ
- 十七 患者、死體等ノ運搬具ハ使用後直ニ昇汞水「クレゾール」水若ハ石炭酸水ヲ用キテ擦拭シ又ハ之ヲ撒布スヘシ取外シ得ヘキモノニシテ汽熱ニ堪ユルモノハ成ルヘク蒸氣消毒ヲ施スヘシ
- 汽車、電車、自動車、船室ノ消毒ハ第九、第十、第十三、第十四及第十五號ニ準ス
- 第三十六條 消毒上必要アルトキハ醫務局長ノ承認ヲ經テ前條ニ依ラス適當ノ消毒方法ヲ施スルコトヲ得

附 則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年陸軍省令第十四號陸軍傳染病豫防規則ハ之ヲ廢止ス

●行軍宿營中傳染病者取扱ノ件

明治三十二年八月二十八日
陸軍省令第八十二號

第二類 防疫 第一章 傳染病 第一節 通規

行軍宿營中部隊ニ傳染病者ヲ生シタル場合其他傳染病者若クハ同疑似病者ヲ民舎ニ宿泊セシメタル場合ニ在リテハ其ノ消毒ヲ地方ニ散漫セシメサル様一層消毒法ニ注意スヘク且必要ト認ムル時ハ部隊長事實ヲ其所在地方吏員ニ告知シ消毒及豫防上遺漏ナキ様取計フヘシ

●海軍傳染病豫防規則

大正十四年十一月二十五日
海軍省令第五百一十一號

海軍傳染病豫防規則左ノ通定ム

目 次

- 第一章 通則(第一條乃至第六條)
- 第二章 報告及通報(第七條乃至第十七條)
- 第三章 豫防處置(第十八條乃至第三十二條)
- 第四章 消毒方法(第三十三條乃至第四十條)
- 附 錄 様式

第一章 通 則

第一條 本則ハ海軍部内ニ於ケル傳染病豫防ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 本則ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、赤痢(疫痢)

ヲ含ム「腸チフス」、「バラチフス」、痘瘡、發疹チフス、昇紅熱、「チフテリア」、流行性腦脊髄膜炎及「ペスト」ヲ謂フ前項ニ掲クル十病ノ外本則ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病アルトキハ海軍大臣之ヲ指定ス

第三條 本則ニ於テハ傳染病ノ疑似症及傳染病ノ病原體保有者ハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第四條 鎮守府司令長官ハ本則ノ施行ニ關シ必要ナル細部ノ規定ヲ定ムヘシ但シ海軍部外ニ關聯スル事項ニ付テハ豫メ地方長官ニ協議スヘシ

第五條 本則中鎮守府司令長官ニ關スル規定ハ其ノ他ノ長官ニ之ヲ準用ス

第六條 本則中鎮守府軍醫長ニ關スル規定ハ艦隊軍醫長、要港部軍醫長及艦隊ノ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル軍醫科士官ニ、久應ノ軍醫長ニ關スル規定ハ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル軍醫科士官ニ之ヲ準用ス

第二章 報告及通報

第七條 鎮守府司令長官ハ第四條ニ依リ規定ヲ定メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 鎮守府司令長官ハ其ノ所屬及在港各應又ハ軍港ノ傳染病豫防ニ關係アル地域ニ傳染病發生シ病性激烈ナルトキ又ハ流行ノ兆アルトキハ速ニ其ノ狀況ヲ海軍大臣ニ報告ス

ヘシ

第九條 廳長ハ其ノ廳ニ「コレラ」、「ペスト」發生シ又ハ其ノ他ノ傳染病流行スルトキハ速ニ之ヲ所屬鎮守府司令長官ニ報告スヘシ但シ軍港ニアルトキハ同時ニ所在鎮守府司令長官ニ報告スヘシ

第十條 人事部長ハ傳染病ノ病原體保有者ニシテ歸休ヲ命ゼラレ又ハ現役又ハ服役ヲ免セラレ或ハ待命、休職等ニ依リ現職ヲ退ク者アルトキハ其ノ日時、氏名、居所及病原體名等ヲ新居住地ノ地方官憲ニ通知スヘシ

第十一條 鎮守府軍醫長ハ鎮守府所屬及在港各應ニ傳染病發生シタルトキハ必要ニ應シ當該軍醫長ヨリ報告ヲ徵シ其ノ病性及發生ノ狀況等ヲ速ニ醫務局長ニ報告シ要スレハ他鎮守府軍醫長、關係廳長及地方廳ニ通知スヘシ

第十二條 鎮守府軍醫長ハ第十六條及第十八條第二項ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ醫務局長ニ報告シ要スレハ他鎮守府軍醫長及地方廳ニ通知スヘシ

第十三條 鎮守府軍醫長ハ鎮守府所屬及軍港ノ傳染病豫防ニ關係アル地域ニ流行シタル傳染病終熄シタルトキハ該流行ニ關シ所要ノ事項ヲ綜合シテ醫務局長ニ報告スヘシ

第十四條

鎮守府軍醫長ハ軍港ノ傳染病豫防ニ關係アル地域ニ「コレラ」、「ペスト」發生シ又ハ其ノ他ノ傳染病流行スルトキハ地方官憲ヨリ所要事項ニ關スル通報ヲ受ケ其ノ狀況ニ依リ醫務局長ニ報告シ且他鎮守府軍醫長及關係廳長ニ通知スヘシ

第十五條

各應ノ軍醫長ハ其ノ應ニ傳染病發生シタルトキハ速ニ所屬鎮守府軍醫長ニ報告スルト同時ニ傳染病發生報告第一式ヲ調製シ所屬鎮守府軍醫長ニ提出スヘシ軍港ニ在ルトキハ同時ニ所在鎮守府軍醫長ニ報告スヘシ

第十六條

各應ノ軍醫長ハ傳染病流行性疾病等ニ因リ一時ニ多數ノ患者ヲ發生シタルトキハ速ニ其ノ狀況ヲ所屬鎮守府軍醫長ニ報告シ軍港ニ在ルトキハ同時ニ所在鎮守府軍醫長ニ報告スヘシ

第十七條

各應ノ軍醫長ハ第二十條、第二十一條又ハ第二十二條ノ部隊又ハ艦船ノ離陸ノ地ニ行動中ナルトキハ同時ニ醫務局長ニ報告スヘシ

第三條 豫防處置

第十八條 鎮守府司令長官ハ其ノ所屬及在港ノ各應又ハ軍港ノ傳染病豫防ニ關係アル地域ニ傳染病或ハ傳染性流行性疾病蔓延ノ虞アルトキハ防遏ノ方法ヲ計畫スヘシ

第十九條 廳長ハ其ノ應ニ傳染病發生シタルトキ又ハ傳染病ニ汚染ノ事實若ハ其ノ疑アルコトヲ認メタルトキ又ハ附近ノ應ニ傳染病流行ノ兆アルトキハ必要ニ應シ左ノ各號ノ全部又ハ一部ヲ施行スヘシ

- 一 傳染病患者並疑似者傳染病ノ病原體保有者及病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル者ヲ送院又ハ隔離スルコト
- 二 消毒方法ヲ行フコト
- 三 健康診斷其ノ他所要ノ檢索ニ依リ傳染源ノ早期發見ニ努ムルコト
- 四 揭示又ハ講話等ニ依リ豫防法ヲ徹底セシムルコト
- 五 外部トノ交通ヲ制限又ハ禁止シ要スレハ下士官兵ノ上

- 陸ニ際シ引率者ヲ附スルコト又ハ監督者ヲ派出スルコト
- 六 病毒傳染ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ又ハ停止スルコト
- 七 病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒後ニ非サレハ供用又ハ遺棄セシメサルコト
- 八 鼠族、昆蟲類ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スコト
- 九 海水ノ使用游泳ヲ禁スルコト
- 第二十條 廳長ハ傳染病豫防ノ爲必要アルトキハ軍醫長ヲシテ種痘又ハ豫防接種ヲ行ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ所屬鎮守府軍醫長ニ協議スヘシ但シ軍港ニ在ルトキハ所在鎮守府軍醫長ニ協議スヘシ
- 第二十一條 海兵團長ハ兵員入籍後二週日以内ニ軍醫長ヲシテ種痘及三種混合豫防接種ヲ施行セシムヘシ
- 第二十二條 廳長ハ三種混合豫防接種後滿一箇年以トテ經過セル下士官兵ニ對シ軍醫長ヲシテ毎年一回同接種ヲ施行セシムヘシ
- 前項ノ接種ハ六月及十二月ニ施行スルヲ例トス
- 第二十三條 廳長ハ其ノ廳ニ「コレラ」、「ベスト」又ハ發疹「チフス」等激烈ナル傳染病發生シ又ハ其ノ他ノ傳染病流行スルトキハ豫防上一時作業ヲ廢止スルコトヲ得但シ此ノ場

- 合ニ在リテハ之ヲ所屬鎮守府司令長官ニ報告スヘシ
- 第二十四條 廳長ハ新ニ入應セル者又ハ出張、休暇等ヨリ歸廳セル者ニ就キ軍醫長ヲシテ所要ノ調査ヲ爲サシメ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル者ハ之ヲ隔離スヘシ
- 前項ノ隔離期間ハ病毒汚染ノ機會ヲ離レタル時ヨリ起算シ各種傳染病ノ潜伏期ト病性トヲ考慮シ之ヲ定ムヘシ
- 第二十五條 鎮守府軍醫長避病院ノ設置ヲ必要ト認ムルトキハ所屬鎮守府司令長官ニ申請シ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ設置スヘシ
- 第二十六條 避病院ノ設ケアル地方ニ在リテハ鎮守府司令長官ハ時宜ニ依リ地方官憲ト協議ノ上該院ノ一部ヲ借用スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ豫メ費用ノ分擔方法ヲ協議スヘシ
- 第二十七條 廳長ハ演習、行軍等ノ計畫ニ當リテハ豫メ關係地域ニ於ケル傳染病ノ狀況ヲ調査シ適宜ノ豫防法ヲ講シ要スレハ其ノ地域ヲ變更スヘシ
- 第二十八條 各廳ノ軍醫長ハ傳染病豫防ノ爲左ノ各號ヲ施行スヘシ
 - 一 傳染病ノ病原體保有者ノ存否ニ注意シ職務ノ性質上特ニ病毒傳播ノ虞大ナルモノニ付テハ時々病原體ノ檢索ヲ行フコト

- 二 鼠、蚤、蠅、南京蟲及「アブラ」蠅等ノ驅除ヲ勵行シ捕鼠及斃鼠ハ適當ノ器ニ入レ其ノ蚤ノ散逸セサル様注意シ且必要ニ應シ之カ細菌學の檢査ヲ行フコト
- 三 便所ノ清潔及消毒ニ注意ヲ要スレハ用便後消毒液ヲ以テ洗手セシメ又便所掃除用器具ハ使用ノ都度消毒シ定所ニ格納シ他ニ使用セシメサルコト
- 四 賄、飲、雜用水及排水ニ關係アル場所、汚水溜、芥溜等ノ清潔法ニ注意シ蠅ノ發生場所ノ掃除ヲ勵行スルコト
- 五 被服、寢具及敷物等ノ清潔法ニ注意スルコト
- 第二十九條 傳染病ノ病原體保有者ハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ就キ細菌學の檢査ヲ行ヒ引續キ三回以上病原體ノ存在ヲ證明セサルニ至リタル後ニ於テ隔離ヲ解除スヘシ
- 前項ノ檢査材料ハ赤痢ニ付テハ屎、腸「チフス」、「バラチフス」及「コレラ」ニ付テハ尿管、「チフテリア」及流行性、腦脊髄膜炎ニ付テハ鼻咽部ノ粘液トス
- 第三十條 「コレラ」、赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」、チフテリア及流行性腦脊髄膜炎患者ニ在リテハ其ノ主要症狀消退ノ後ニ於テ前條ノ規定ヲ適用スヘシ
- 前項以外ノ傳染病患者ニ在リテハ病毒傳染ノ虞ナシト認め

- タル後ニ於テ隔離ヲ解除スヘシ
- 第三十一條 傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ航海中ナルトキハ時宜ニ依リ水葬スルコトヲ得
- 第三十二條 廳外居住ノ軍人、軍屬等傳染病ニ罹ルトキ又ハ四居者中傳染病患者アルトキハ廳長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ出務スルコトヲ得ス
- 第四章 消毒方法
 - 第三十三條 消毒方法ハ左ノ四種トス
 - 一 藥物消毒
 - 二 蒸氣消毒
 - 三 煮沸消毒
 - 四 燒却
 - 第三十四條 藥物消毒ニ使用スル藥品其ノ製法及用法ハ左ノ如シ
 - 一 「クレゾール」水（約一・五％）「クレゾール」石鹼液三十立方「センチメートル」ニ水ヲ加ヘテ「リットル」ト爲シ混和ス
 - 二 石炭酸水（約三％）流動石炭酸三十立方「センチメートル」ニ水一「リットル」ヲ徐々ニ加ヘ攪拌混和ス
 - 三 昇汞水（約〇・一％）昇汞錠「グラム」〇・五「グラム」ニ含ム一「リットル」又ハ昇汞、食鹽各一「グラム」ヲ水一「リットル」ニ溶解ス